

江尻遺跡・蓑島遺跡発掘調査報告

— 能越自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告IV —

2003年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所



上 江戸遺跡 B地区 近世・近代面全景（西から）

下 江戸遺跡 B 1地区 457号井戸（西から）



上 江尻遺跡 B1地区 201号竪穴住居 弥生時代（北東から）
下 蓬島遺跡 打製石斧

江尻遺跡・蓑島遺跡発掘調査報告

—能越自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅳ—

2003年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能登と越中を結ぶ能越自動車道は、東海北陸自動車道が北陸自動道と交差する小矢部・砺波JCTからさらに北方へ延ばして、福岡町、高岡市、氷見市を通って石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道及び関連アクセス道の建設に伴い、富山県文化振興財団はその計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は平成7年度に調査を実施した、福岡町江尻遺跡・蓑島遺跡の発掘調査報告書です。

江尻遺跡では、縄文時代晩期の谷、弥生時代から古墳時代にかけての堅穴住居や遺物、さらに近世以降の屋敷などがみつかりました。とくに近世の屋敷では、楕円柱穴をもつ建物から土台建物への変遷の過程が明らかになりました。

蓑島遺跡では、縄文時代晩期中葉の特徴をもつ土器が出土しました。

この両遺跡の発掘調査の成果が、文献には表れない人々の生活をひとく一助となり、今後の研究に活用されれば幸いです。

本書をまとめにあたり、関係機関や団体また諸氏のご指導をいただき厚く感謝いたします。

平成15年3月

財団法人富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

所長 桃野真晃

例　言

- 1 本書は富山県西砺波郡福岡町江尻地内に所在する江尻遺跡と、西砺波郡福岡町蓑島地内に所在する蓑島遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は建設省北陸地方建設局（現 国土交通省北陸地方整備局）からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間	江尻遺跡 平成7（1995）年5月19日～平成7（1995）年12月18日
	蓑島遺跡 平成7（1995）年5月18日～平成7（1995）年8月11日
整理期間	平成11（1999）年4月1日～平成13（2001）年3月31日
- 4 本書の編集・執筆は、森 隆、島田美佐子、金三津道子、新宅 茜、中野由紀子が担当し、執筆分担は文末に記した。
- 5 遺物の写真撮影は、楠華堂（代表 内田真紀子）に委託した。
- 6 自然科学的な分析は、以下の諸機関に委託し、その成果について報文を得た。

木製品樹種同定	財団法人 元興寺文化財研究所
植物種子同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）
赤羽久忠、大橋康二、佐伯安一、神保孝造、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、福岡町教育委員会、藤澤良祐

凡　例

- 本書には本文、挿図及び表、自然科学的分析と写真図版を掲載する。
- 時期別に検出した主な遺構・出土遺物の内容については、文末に一覧で掲載している。
- 本書で示す方位は全て真北である。
- 挿図の縮尺は次の率を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。なお遺物写真図版の縮尺は統一していない。

遺構 建物：1/100, 溝：1/40・1/80, 井戸：1/40, 土坑：1/20・1/40

遺物 土器・陶磁器：1/3～1/6, 木製品：1/1～1/12, 石製品：2/3～1/8,
金属製品：1/1～1/6

- 遺構の略号は以下のとおりである。

S B : 建物, S D : 溝, S E : 井戸, S K : 土坑, S O : 落ち込み, S P : 柱穴, S X : その他

- 江尻遺跡の遺構番号は、調査時に地区毎に付した番号にある一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は遺構の種類に関わらず連番号とするが、近世の建物には新たに番号を付した。各地区的遺構番号に加算した数値は次の通りである。A : 加算せず, B 1 : 200, B 2 : 500, C : 600
- 遺物は遺跡毎に連番を付す。遺物番号は遺物観察表及び写真図版中の遺物番号と一致する。
- 施釉陶器等の釉が掛かる範囲は1点破線で示した。2種類以上の釉が掛かる場合や絵付けがされている場合はトレースの濃淡で示した。
- 遺物の煤付着部分及び漆器の赤色漆の部分等、遺構図中の地山及び炭化物層等はスクリーントーンで示す。以下に図示したもの以外については、それぞれの図・文を参照されたい。



煤



黒色漆



赤色漆



炭化物層



地山

- 遺跡の略号は、江尻遺跡「35E」-地区名-・蓑島遺跡「35MS」で、遺物の注記には略号を用いた。
- 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下のとおりとする。
掘立柱建物：用語は『平城宮発掘調査報告Ⅶ』を参考とした。
遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
 - 遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。
 - 法量はcm単位で示す。
 - 重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
 - 胎土・色調・釉調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修「新版標準土色帖」・財團法人日本規格協会「標準色票 光沢版」を使用し、釉調の和名は小学館「色の手帖」より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色が見られる場合は、最も多く使用されている色を記し、その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。
 - 特記事項：陶磁器については窯名・窯詰め技術・墨書・刻印・ヘラ記号等を、弥生土器については赤彩などを記す。木製品のうち漆器は漆の色を記す。

目 次

第Ⅰ章 調査経緯	1
1 調査に至る経緯	1
A 調査の契機	1
C 試掘調査	2
2 調査経過	4
A 調査方法	4
C 調査体制	5
E 整理の経過	5
F 整理体制	6
第Ⅱ章 立地と歴史的環境	7
1 立 地	7
2 歴史的環境	7
第Ⅲ章 江尻遺跡	12
1 調査の概要	12
A 概 要	12
B 基本層序	13
2 遺 構	13
A 縄文・弥生時代	13
(1) 縄文時代	13
(2) 弥生時代	15
B 中・近世	18
(1) 中 世	18
(2) 近 世	20
3 遺 物	109
A 縄文時代	109
B 弥生時代	109
C 中・近世	111
(1) 土器・陶磁器	111
(2) 木 製 品	124
(3) 金 属 製 品	129
(4) 石 製 品	130
第Ⅳ章 萩島遺跡	183
1 遺跡の概要	183
A 概 要	183
B 基本層序	183
2 遺構・遺物	185
A 縄文時代	185
B 弥生時代～古墳時代	188
C 近世以降	188
第Ⅴ章 総括	193
1 近世以前の遺構・遺物	193
2 近世の建物について	195
3 近世の出土遺物について	204
4 近代の屋敷跡について	208
自然科学的分析	
I 江尻遺跡樹種鑑定	215
II 江尻遺跡出土種子分析業務報告	222

卷首図版目次

- 卷首図版 1 江尻遺跡 B地区 近世・近代面全景
- 卷首図版 2 江尻遺跡 B 1 地区 457号井口
- 卷首図版 3 江尻遺跡 B 1 地区 201号堅穴住居
- 卷首図版 4 萩島遺跡 打製石斧

挿図目次

- 第1図 溝査位置図
- 第2図 周辺遺跡位置図
- 第3図 江尻遺跡 区割図
- 第4図 江尻遺跡 繩文・弥生時代・中世遺構全体図
- 第5図 江尻遺跡 A地区 繩文・弥生時代遺構全体図
- 第6図 江尻遺跡 B 1 地区 繩文・弥生時代遺構全体図
- 第7図 江尻遺跡 B 2 地区 繩文・弥生時代・中世遺構全体図
- 第8図 江尻遺跡 C地区 繩文・弥生時代遺構全体図
- 第9図 江尻遺跡 A～C地区 繩文時代遺構実測図 S D131 S D481 S D703
- 第10図 江尻遺跡 B 1 地区 弥生時代遺構実測図 S I 201 S P479 S D475 S D476
- 第11図 江尻遺跡 B 1 地区 弥生時代遺構実測図 S D477 S D472～S D474
- 第12図 江尻遺跡 B 2・C地区 弥生時代遺構実測図 S D554～S D559 S D602 S D603
S D605～S D607 S D613 S D623
S D624 S D626
- 第13図 江尻遺跡 B 2・C地区 弥生時代遺構実測図 S D555 S X618 S X627 S X638
S O563
- 第14図 江尻遺跡 C地区 弥生時代遺構実測図 S D605
- 第15図 江尻遺跡 B・C地区 中世遺構全体図
- 第16図 江尻遺跡 B・C地区 中世遺構実測図 S K551 S K553 S K621 S D470
S D608～S D610 S D513 S D516 S D616
S D617 S D620 S D631 S X646
- 第17図 江尻遺跡 近世・近代遺構全体図
- 第18図 江尻遺跡 A地区 近世遺構全体図
- 第19図 江尻遺跡 A地区 近世遺構全体図
- 第20図 江尻遺跡 A・B地区 近世屋敷地遺構平面図 S B 1～S B 3 S B 9 S B 10 S B 14
S B 15
- 第21図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図 S B 1～S B 3
- 第22図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図 S E21 S E30 S P14 S P29 S K13 S K16
S K18 S K20 S K34 S K35
- 第23図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図 S P51 S P55 S P105 S K40 S K48 S K63
S K68 S K75 S K83 S K93 S K98 S K142
- 第24図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図 S E102 S P91 S P125 S P126 S P128
S K90 S K114～S K116 S K120 S K129
S K130 S K139

第25図	江尻遺跡	A地区	近世遺構実測図	S P17	S P24	S P36	S P37	S P45	S P46
			S P49	S P54	S P64	S P67	S K11	S K12	S K15
			S K22	S K23	S K31	S K32	S K38	S K41	S K50
			S K53	S K57	S K58	S K60	S K62	S K65	S K70
			S K73	S K77					
第26図	江尻遺跡	A地区	近世遺構実測図	S P80	S P81	S P96	S P143	S K39	S K71
			S K74	S K79	S K82	S K87	S K89	S K94	S K95
			S K107	S K108	S K111	S K113	S K117	S K119	S K121
			S K123	S K138	S K140	S K144			
第27図	江尻遺跡	A地区	近世遺構実測図	S D 1 ~ S D 9					
第28図	江尻遺跡	A地区	近世遺構実測図	S D10	S D25 ~ S D28	S D43	S D44	S D56	
			S D84	S D85	S D101	S D104	S D110	S D118	S D122
第29図	江尻遺跡	B地区	近世・近代遺構全体図						
第30図	江尻遺跡	B 1 地区	近世屋敷地遺構全体図						
第31図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 4	S B 5				
第32図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 6 ~ S B 8	S B 11				
第33図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 9	S B 10				
第34図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 12	S B 13				
第35図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 14	S B 15				
第36図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S B 18	S B 19				
第37図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S P272	S K274	S K261	S K262	S X457	S X458
第38図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S P231	S P233	S K230	S K235	S K236	
				S K246	S K247				
第39図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S K251	S K254	S K258	S K259	S K263	
				S K269	S K281				
第40図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S P301	S P302	S P333	S P335	S P336	
			S P344	S P352	S P365	S K326	S K346	S K366	
第41図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S P319	S P375	S P387	S P390	S K318	
			S K367	S K381	S K384	S K388	S K392	S K395	
第42図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S E456	S P425	S P427	S K426		
第43図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S P271	S P267	S K234	S K245	S K250	
				S K253	S K268	S K270	S K275	S K276	
				S K278	S D474	S X460 ~ S X463			
第44図	江尻遺跡	B 1 地区	近世遺構実測図	S D222	S D257	S K282	S D286 ~ S D295		
				S D297 ~ S D299					
第45図	江尻遺跡	A + B 1 地区	近代屋敷地遺構全体図						
第46図	江尻遺跡	B地区	近代遺構全体図						
第47図	江尻遺跡	B 1 地区	近代遺構実測図	S K201	S K202	S K205	S K206	S K215	
				S X224					
第48図	江尻遺跡	B 1 地区	近代遺構実測図	S K203	S D218	S D222	S D223	S D286	
第49図	江尻遺跡	B 2 地区	近世遺構全体図						
第50図	江尻遺跡	B 2 地区	近世遺構実測図	S B16	S B17	S E501			
第51図	江尻遺跡	B 2 地区	近世遺構実測図	S P522	S P526	S P527	S P532		
			S P534 ~ S P536	S P538	S K503 ~ S K509	S K524	S K525		
			S K529	S K533	S K537	S K539 ~ S K542			

第52回	江尻遺跡	B 2 地区	近世遺構実測図	S K507	S D512～S D515	S D517	S D518
第53回	江尻遺跡	C地区	近世遺構全体図				
第54回	江尻遺跡	C地区	近世遺構実測図	S D601	S D604	S D610～S D612	S D614
				S D615			
第55回	江尻遺跡	C地区	近世遺構実測図	S D614	S D616	S D622	S D626
				S D634～S D637	S D639～S D645	S X638	
第56回	江尻遺跡	A～C地区	遺物実測図	S D43	S D131	S D605	包含層
第57回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	S D43	S D131	包含層	
第58回	江尻遺跡	A・B地区	遺物実測図	S P272	S K426	S K436	S D131 S D218
				S D223	S D299	S D472	S D473 S D477
				S D555～S D557	S X459	包含層	
第59回	江尻遺跡	B 1・C地区	遺物実測図	S P352	S D131	S D289	S D291 S D292
				S D298	S D473	S D477	S D605 S D613
				S D615	S X459	包含層	
第60回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	S E21	S E102	S D1	
第61回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	S D2	S D3	S D9	S D10 S D28 S D43
				S D56	S D118		
第62回	江尻遺跡	A・B 1地区	遺物実測図	S K18	S K35	S K75	S K98 S K114
				S K115	S K120	S D218	
第63回	江尻遺跡	B 1地区	遺物実測図	S K251	S D218		
第64回	江尻遺跡	B 1地区	遺物実測図	S K263	S D223	S D287～S D289	
第65回	江尻遺跡	B 1地区	遺物実測図	S E456	S K208	S K230	S K235 S D223
				S D291～S D293	S D295	S D298	S X224
第66回	江尻遺跡	B 1地区	遺物実測図	S P233	S P243	S K246	S K251 S K254
				S K258	S K263	S K281	S D467
第67回	江尻遺跡	B地区	遺物実測図	S E501	S P272	S P283	S P323 S P353 S P400
				S P406	S P409	S P427	S K315 S K321 S K328
				S K355	S K388	S K395	S K434 S K448 S K454
				S K510	S D131	S D513	S D514 S D562
第68回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	包含層			
第69回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	S D2	包含層		
第70回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	包含層			
第71回	江尻遺跡	B地区	遺物実測図	包含層			
第72回	江尻遺跡	B地区	遺物実測図	包含層			
第73回	江尻遺跡	C地区	遺物実測図	S D601	S D604	S D635	S D636 包含層
第74回	江尻遺跡	C地区	遺物実測図	S D601	S X629	包含層	
第75回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S E102	S K18	
第76回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S E102	S D27	S D28
第77回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S E102	S K116	S D 2
第78回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S P55	S P128	S K142
第79回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S P14	S P29	S P51 S P91 S K40
第80回	江尻遺跡	A地区	遺物実測図	木製品	S E21		
第81回	江尻遺跡	B地区	遺物実測図	木製品	S P428	S K235	S K236 S K251
					S K281	S K385	S K551 S D218
					S D223	S D517	包含層
第82回	江尻遺跡	B 1地区	遺物実測図	木製品	S K235	S D218	S X457

- 第 83 図 江尻遺跡 B 地区 遺物実測図 木製品 S E456 S K235 S K236 S K261
S D291 包含層
- 第 84 図 江尻遺跡 B 1 地区 遺物実測図 木製品 S E456 S K215 S K251 S K269
S D223 包含層
- 第 85 図 江尻遺跡 B 1 地区 遺物実測図 木製品 S P387 S P390 S P428 S K414
- 第 86 図 江尻遺跡 B 1 地区 遺物実測図 木製品 S P301 S P336 S P337 S P344
S K413
- 第 87 図 江尻遺跡 B 1 地区 遺物実測図 木製品 S P415 S P420 S P427 包含層
- 第 88 図 江尻遺跡 B 1 地区 遺物実測図 木製品 S P352 S P365 S K453 S X460
- 第 89 図 江尻遺跡 C 地区 遺物実測図 木製品 S D604 S D605 S D612 S X629 包含層
- 第 90 図 江尻遺跡 C 地区 遺物実測図 木製品 包含層
- 第 91 図 江尻遺跡 A～C 地区 遺物実測図 金属製品・石製品 S K235 S K254 S K281
S D1 S D10 S D28 S D56 S D298 S D471 S D604
S X224 包含層
- 第 92 図 江尻遺跡 A～C 地区 遺物実測図 石製品 S E30 S E102 S E501 S K258
S K281 S D43 包含層
- 第 93 図 萩島遺跡 区割図
- 第 94 図 萩島遺跡 遺構実測図 S D71 S D85 S K100
- 第 95 図 萩島遺跡 遺物実測図 包含層
- 第 96 図 萩島遺跡 遺物実測図 包含層
- 第 97 図 萩島遺跡 遺物実測図 包含層
- 第 98 図 萩島遺跡 遺物実測図 包含層
- 第 99 図 萩島遺跡 遺構実測図 S D2 S D23 S D24 S D35 S D51 S D55 S D58
- 第 100 図 萩島遺跡 遺物実測図 S D2 包含層
- 第 101 図 建物の変遷
- 第 102 図 県内の近世建物
- 第 103 図 用語例・富山県の民家例・福岡町の民家見取図・建物の間取推定復元図
- 第 104 図 江尻遺跡の近世・近代面陶磁器組成模式図・表
- 第 105 図 湘波民家の類例と屋敷地復元案

図版目次

- 図版 1 江尻遺跡 全景
- 図版 2 江尻遺跡 A～C 地区（縄文時代） S D131
- 図版 3 江尻遺跡 B 地区（弥生時代） B 1 地区全景 B 2 地区全景
- 図版 4 江尻遺跡 B・C 地区（縄文・弥生時代） C 地区全景 S D477 S D605
- 図版 5 江尻遺跡 A 地区（近世） 全景 S B1 S B2
- 図版 6 江尻遺跡 A 地区 井戸・土坑（近世） S E21 S E30 S E102 S K18
- 図版 7 江尻遺跡 A 地区 土坑（近世） S K40 S K48 S K63 S K69 S K142
- 図版 8 江尻遺跡 A 地区 柱穴・溝（近世） S P29 S P81 S P126 S P128
S D1～S D4
- 図版 9 江尻遺跡 B 地区（近世） 全景
- 図版 10 江尻遺跡 B 1 地区（近世） 全景
- 図版 11 江尻遺跡 B 1 地区（近世） 全景
- 図版 12 江尻遺跡 B 1 地区 建物（近世） 中央・東側建物群 西側建物群

- 図版13 江尻遺跡 B1地区 建物（近世） 中央建物群 束側建物群
- 図版14 江尻遺跡 B1地区 建物・土坑・溝（近世） S B12～S B15 S K230 S D223
S D291 S D294 S D298
- 図版15 江尻遺跡 B1地区 土坑（近世） S K235 S K281
- 図版16 江尻遺跡 B1地区 井戸・土坑（近世） S E456 S K259
- 図版17 江尻遺跡 B1地区 柱穴・土坑・溝（近世） S P301 S P344 S K262 S K269
S D291
- 図版18 江尻遺跡 B1地区 柱穴・土坑（近世） S P417 S P419 S P427 S P433
S K367 S K395 S K426
- 図版19 江尻遺跡 B1地区（近代） 屋敷地全景
- 図版20 江尻遺跡 B1地区（近代） 屋敷地中央部 屋敷地北半部 S K204 S K205 S K215
S D218 S X224
- 図版21 江尻遺跡 B2地区（近世） 全景
- 図版22 江尻遺跡 B2地区 建物・土坑・溝（近世） S B16 S B17 S K507 S D513
S D517
- 図版23 江尻遺跡 B2地区 建物・井戸・溝（近世） S B16 S E501 S D514
- 図版24 江尻遺跡 C地区（近世） 全景
- 図版25 江尻遺跡 出土遺物 土器（弥生時代） S D131 S D223 S D477 S D605 S D613
包含層
- 図版26 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器（弥生時代・中世） S D131 S D289 S D292
S D473 S D477 包含層
- 図版27 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（中世） 包含層
- 図版28 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（近世） S E456 S K230 S K355 S K454 S D1
S D223 包含層
- 図版29 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器（中・近世） S P427 S E102 S K281 S D1
S D9 包含層
- 図版30 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（近世以降） S D28 S D218 S D291 S D298 S D604
包含層
- 図版31 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（近世以降） S P409 S K235 S K258 S K281 S D28
S D118 S D218 包含層
- 図版32 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S D1～S D3
- 図版33 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S D10 S D28 S D43 S D56 S D118 S D131
S D218
- 図版34 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S K251 S D218
- 図版35 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（近世以降） S D218 S D223
- 図版36 江尻遺跡 出土遺物 陶磁器（近世以降） S K263 S D223 S D287～S D289
- 図版37 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器（近世以降） S D291～S D293 S D295 S D298
S D467
- 図版38 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S D513 S D514 S D555 S D562
S D601 S D604 S D605 S D615 S D635
S D636
- 図版39 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S P233 S P243 S K18 S K35 S K98
S K114 S K115 S K120 S K208 S K235
S K246 S K251 S K254 S K258 包含層
- 図版40 江尻遺跡 出土遺物 土器・陶磁器 S E21 S E501 S P272 S K263 S K281
S K510 S X459 S X629

図版41	江尻遺跡	出土遺物	土器・陶磁器 S P283 S P323 S P352 S P353 S P400 S P406 S K75 S K315 S K321 S K328 S K359 S K388 S K395 S K426 S K434 S K436 S K448 包含層
図版42	江尻遺跡	出土遺物	陶磁器（近世以降） 包含層
図版43	江尻遺跡	出土遺物	陶磁器（近世） 包含層
図版44	江尻遺跡	出土遺物	土器・陶磁器（近世以降） 包含層
図版45	江尻遺跡	出土遺物	陶磁器（近世） S D218 包含層
図版46	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S E102
図版47	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S E102 S K142
図版48	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S P387 S P420 S E21 S K235
図版49	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S P91 S P128 S K251 包含層
図版50	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S K235 S K269 S D218
図版51	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S E456 S K235 S K453 S D223
図版52	江尻遺跡	出土遺物	木製品 S K551 S D604 S D605 包含層
図版53	江尻遺跡	出土遺物	石製品 S E30 S D43 包含層
図版54	蓑島遺跡	全景	遺物出土状況
図版55	蓑島遺跡	全景	
図版56	蓑島遺跡	出土遺物	土器（縄文時代） 包含層
図版57	蓑島遺跡	出土遺物	磁器（近世） 包含層
図版58	蓑島遺跡	出土遺物	陶器（近世） S D2 包含層
図版59	蓑島遺跡	出土遺物	石器（縄文時代） 包含層
図版60	蓑島遺跡	出土遺物	石器（縄文時代） 包含層
図版61	蓑島遺跡	出土遺物	石器（縄文時代） 包含層
図版62	蓑島遺跡	出土遺物	石器（縄文時代） 包含層

表 目 次

- 第1表 調査結果一覧
 第2表 調査一覧
 第3表 遺跡地名一覧
 第4表 江尻遺跡 柱穴一覧
 第5表 江尻遺跡 井戸一覧
 第6表 江尻遺跡 土坑一覧
 第7表 江尻遺跡 溝一覧
 第8表 江尻遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧
 第9表 江尻遺跡 木製品一覧
 第10表 江尻遺跡 金属製品一覧
 第11表 江尻遺跡 石製品一覧
 第12表 蓑島遺跡 造構一覧
 第13表 蓑島遺跡 木製品一覧
 第14表 蓑島遺跡 石製品一覧
 第15表 蓑島遺跡 土器・陶磁器一覧
 第16表 近世建物一覧

第Ⅰ章 調査経緯

1 調査に至る経緯

A 調査の契機

能越自動車道は、高規格幹線道路網の一環として昭和62年に策定された。路線は小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡市および氷見市を通過し、石川県輪島市に至り、既存の北陸自動車道、東海北陸自動車道等と連結することにより、富山県北西部地域や能登地域と東京、名古屋、大阪との交流の活性化と、地域幹線道路の交通緩和および災害に強い道路網の形成を目的にしている。道路の総延長は約100kmで、富山県内は約45kmが計画されており、小矢部東・福岡・高岡・高岡北・氷見・灘浦の各IC（インターチェンジ）が設置される。

道路の建設計画は平成2年4月に建設省（現 国土交通省）から富山県教育委員会に示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省北陸建設局・富山県教育委員会・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成3年12月に小矢部市域と福岡町域、次いで平成5年3月に高岡市域の分布調査を富山県教育委員会（富山県埋蔵文化財センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施した。

B 分布調査

平成2年度の分布調査は、小矢部市域の本線敷地内（小矢部砺波JCT～福岡IC間）とアクセス道路敷地内（国道8号線芹川交差点～福岡IC間）を対象として、4月17・18日の2日間で実施し、両地内で新たに6ヶ所の埋蔵文化財包蔵地の存在を確認した。これらは便宜上、本線敷地内をNEJ-01・02・03・04、アクセス道路敷地内をNEJ-A-01・02と仮称した。

平成3年度の分布調査は、福岡町域の本線敷地内（福岡IC～福岡サービスエリア間）、用地買収が完了した小矢部市芹川地内と福岡町域のアクセス道路敷地内を対象として、12月3日に実施し、両地内で4ヶ所の埋蔵文化財包蔵地の存在を確認した。本線敷地内はNEJ-05・06・07、アクセス道路敷地内は前年度のNEJ-A-01が福岡町域で範囲を拡大したため、拡大域をNEJ-A-03、小矢部市芹川地内をNEJ-A-04と仮称した。

平成4年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市笠川地内（福岡サービスエリア～JR北陸本線間）を対象として、3月22日に実施し、平成3年度に実施した試掘調査で明らかになった下老子遺跡（NEJ-07）の高岡市域への拡大とみて、NEJ-08と仮称した。

平成5年度の分布調査は、本線敷地内の高岡市笠



第1図 調査位置図

1 調査に至る経緯

島・上渡地内（JR北陸本線～県道小野上渡線間）を対象として、3月30日に実施し、位置的状況から近世北陸街道との交錯推定地を確認した。

C 試掘調査

分布調査の結果報告から、遺跡推定地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結果、遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため、試掘調査を実施することとなった。試掘調査は建設省から委託を受け、平成2年度は小矢部市教育委員会が、平成4・6年度は富山県文化振興財団が実施した。

平成2年度の試掘調査は11月1日から12月22日まで実施した。その結果、NEJ-04・NEJ-A-01・NEJ-A-02の3ヶ所で遺構・遺物が確認され、五社遺跡、石名田遺跡、地崎遺跡と命名された。また、本調査の必要な面積は合計約54,000m²と確定した。試掘調査の結果は、平成3年2月26日に建設省・富山県道路公社・富山県教育委員会文化課・富山県埋蔵文化財センター・小矢部市教育委員会の協議で報告された。

平成4年度の試掘調査は6月1日から7月7日まで実施した。その結果、NEJ-05・NEJ-06・NEJ-07・NEJ-A-03の4ヶ所で遺構・遺物が確認され、NEJ-05は開辟大滝遺跡、NEJ-06は2地点に分かれて蓑島遺跡・江尻遺跡、NEJ-07は下老子遺跡、NEJ-A-03は石名田遺跡と同一遺跡で範囲が拡大したため石名田木舟遺跡と命名された。また、本調査の必要な面積は合計約130,900m²と確定した。試掘調査の結果は、9月17日に建設省・富山県教育委員会文化課・富山県埋蔵文化財センター・富山県文化振興財団の協議で報告された。

平成6年度の試掘調査は6月6日から7月4日まで実施した。その結果、NEJ-08は下老子遺跡と同一遺跡で範囲が拡大したため下老子笹川遺跡と命名された。また、本調査の必要な面積は67,050m²と確定した。試掘調査の結果は、9月17日に建設省・富山県埋蔵文化財センター・富山県文化振興財団の協議で報告された。

D 本調査

本調査については平成3年4月に、建設省・富山県教育委員会（富山県埋蔵文化財センター）・富山県文化振興財団の協議で、遺跡の範囲が確定している五社遺跡、石名田遺跡、地崎遺跡の本調査の要望が出された。その結果、富山県教育委員会及び富山県文化振興財団は、東海北陸自動車道関連の調査が終了する平成4年度から、同財團埋蔵文化財調査事務所が能越自動車道関連の本調査を受託することで合意し、調査体制の整備及び調査方法の検討を進めた。

平成4年度は最も南側に所在する五社遺跡を対象に、7月20日から12月27日まで調査を実施した。調査は一部用地買収の遅れと、新たな下層遺構の検出により平成5・6年度も継続して実施した。

平成5年度は平成7年度末の福岡IC供用開始に向け、開辟大滝遺跡、石名田木舟遺跡を中心に、五社遺跡、地崎遺跡の調査を4月19日から12月21日まで実施した。

平成6年度は石名田木舟遺跡を中心に、用地買収の遅れていた五社遺跡の調査を5月18日から平成7年1月19日まで実施した。

平成7年度は、福岡町域の能越自動車道に係り消滅する町道の代替道路用地内の石名田木舟遺跡の調査を5月17日から7月25日まで実施した。また、福岡IC～福岡サービスエリア間にある蓑島遺跡、江尻遺跡、下老子笹川遺跡の調査を5月18日から12月18日まで実施した。

調査名	所在地	面積(㎡)	調査期間	遺構	遺物	時代	面積(㎡)
N E J -01 (小矢部市水鳥)	小矢部市水鳥	5,600	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	271	H2.11.11~11.2	なし	瓦屑、陶器	中世、近世	
N E J -02 (小矢部市水鳥)	小矢部市水鳥	8,000	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	237	H2.11.1~11.2	なし	陶器等	近世	
N E J -03 (小矢部市道明寺)	小矢部市道明寺	16,800	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	1,184	H2.11.1~11.2	なし	陶器等	近世	
N E J -04 (五ヶ瀬跡)	小矢部市五ヶ瀬	67,000	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	2,977	H2.11.6~12.5	掘立柱建物・塀・土坑	上部泥、須恵器、鐵器 上層・中央土器群、珠 両・中国製陶器等	○平安時代後半 ○中世 近世	32,000
	本調査(延べ)	38,100	H4.7.20~12.27	掘立柱建物・塀・清 井戸・土坑・墓石	上部泥、須恵器、灰陶 陶器・綠釉陶器・製造 工具・中世土器群・珠 丼・中國製陶器等・木 製品・金属製品	○平安時代後半 ○中世 近世	
	本調査(延べ)	6,209	H5.4.19~12.8	堅穴住居・横・柱建 物・袋・鳥・馬糞	土器群・須恵器・灰陶 陶器・中世土器群・珠 丼・中國製陶器等・木 製品・金属製品	○平安時代中期 ○平安時代前期 ○中世	
	本調査(延べ)	6,990	H6.5.18~10.25	掘立柱建物・塀・清 土坑	土器群・須恵器・製造 工具・中世土器群・珠 丼・中國製陶器等・木 製品・金属製品	○平安時代後半 ○中世	
N E J -05 (開跡大瀬塚)	福岡町大瀬塚 火薬	28,400	H3.12.3				
	分布調査	4,660	H4.6.19~7.7	掘立柱建物・塀・井戸 ・土坑	小笠上山器・瓦陶・近 代土器群・木製品	○中世 近世	25,000
	本調査(延べ)	28,063	H5.5.19~12.21	掘立柱建物・塀・道路 ・清・鳥・井戸・土坑 ・石列	中世土器群・珠・瓶 ・剪・渦戸瓦陶・中國製 陶器等・近世陶器等・木 製品・石製品・金属製 品	○中世 近世	
N E J -06-b (美濃塚跡)	福岡町美濃	72,500	H3.12.3				
	分布調査	2,900	H4.6.17~6.29	溝・土坑	須文土器・近世陶器等	○鎌倉時代晚期 近世	3,400
N E J -06-a (川尻塚跡)	福岡町川尻		H3.12.3				
			H4.6.17~6.29	掘立柱建物・塀・溝・土坑	須文土器・中世土器群 ・珠・剪・渦戸瓦陶	○平安時代後期 中世 ○平安	12,100
N E J -07 (下老丁遺跡)	福岡町下老丁	74,800	H3.12.3				
	分布調査	4,900	H4.6.1~6.17	堅穴住居・掘立柱建 物・塀・土坑	外生土器・上山器・珠 ・袋・中世土器群・珠 ・剪・中國製陶器等・近 代土器群・石器・木製 品	○平安時代後期・末 古代 中世 ○平安	68,500
N E J -08 (下老丁塚跡)	高岡市塚川	76,800	H5.3.22				
	分布調査	3,800	H6.6.6~7.4	溝・土坑	梅文土器・外生土器・ 十字彫・須恵器・中世 土器群・珠・剪	○古墳・平安時代後期 飛鳥時代後期 白山・平安時代 中世	67,000
N E J -A-01 (右名川遺跡)	小矢部市右名川	25,300	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	1,162	H2.11.30~12.13	掘立柱建物・塀・土坑	上山器・須恵器・中世 土器群・珠・剪・中國製 陶器等・木製品	○平安・平安時代 ○中世	21,000
N E J -A-03 (吉田木舟舟塚跡)	福岡町木舟	32,800	H3.12.3				
	分布調査	2,100	H4.6.16~7.1	堅穴住居・横・柱建 物・塀・柱列・礎石建 物・假土礎建物・土坑 ・埋蔵柱・土坑	土器群・須恵器・中世 土器群・鸡翅・崩崩 ・都・良美・中國製陶器 等・近世陶器等・木製 品・金銀製品	○古代 ○中世 近世	21,600
	本調査(延べ)	14,403	H5.5.11~12.15	堅穴住居・掘立柱建 物・塀・清・品・井戸 ・土坑	上山器・須恵器・製造 工具・中世土器群・珠 ・剪・渦戸瓦陶・中國 製陶器等・越中瓦・ 近世陶器等・上製品・ 金属製品・石製品・木 製品	○古代 ○中世 近世	
	本調査(延べ)	40,781	H6.5.18~H7.1.19	古河・堅穴住居・掘立 柱建物・土坑建物・礎 石建物・塀・清・道路・渠 ・井・井戸・土坑	陶土器・外生土器・中世 土器群・須恵器・製造 工具・瓦・剪・崩崩 ・都・良美・中國製陶器 等・近世陶器等・上製品・ 金属製品・石製品・木 製品	古河 ○古代 ○中世 近世	
	本調査(延べ)	2,030	H7.5.17~7.25	掘立柱建物・塀・井戸 ・土坑	中世土器群・良美・珠 ・剪・崩崩・瓦・清・路 ・渠・井戸・中國製陶器 等・近世陶器等・上製品 ・金属製品・石製品	○平安 近世	
N E J -A-02 (地崎遺跡)	小矢部市地崎	19,800	H2.4.17~4.18				
	試掘調査	1,049	H2.11.30~12.21	掘立柱建物・穴	近世陶器等・木製品	○平安	1,000
	本調査	1,636	H3.5.11~7.27	掘立柱建物・塀・井戸 ・土坑	近世陶器等・木製品 ・石製品・金製品	○平安	
N E J -A-04	小矢部市芦川	19,400	H3.12.3				
	分布調査	900	H4.6.15~6.26	なし	近世陶器等		
	試掘調査	67,200	H6.3.30	なし	近世陶器等		

第1表 調査結果一覧

※○は主軸をしめる時代

2 調査経過

A 調査の方法

発掘調査の基準となるグリッドの設定に際しては国家座標を用い、遺跡毎に起点を設定した。江尻遺跡は+70.200~20.400、蓑島遺跡は+77.000~20.700をX 0 Y 0とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは2m方眼とし、各グリッド名は右上のX軸とY軸の座標とした。江尻遺跡の発掘範囲はX24~X129、Y61~Y164までであり、調査区は道路によってA、B1、B2、Cに分けている。また、蓑島遺跡の発掘範囲はX40~X77、Y41~Y87までである。

調査は表土・耕作土・無遺物層の除去、包含層の発掘、造構確認面の精査・造構の検出、造構の発掘、造構の記録、写真撮影、空中写真測量、補足作業の順で行った。

表土・耕作土・無遺物層の除去は、人力掘削による調査の事前準備として、調査員立ち会いのもと、試掘調査の結果をふまえ、基本層序を確認しながら、事業者側が重機により行った。場所によっては無遺物層の除去も行った。

包含層の発掘はスコップ等を用い、人力で掘削した。排土はベルトコンベヤーを使用し、路線敷内の調査区隣接地に棄置し、ダンプによる調査区外への搬出は事業者側が行った。

造構確認面の精査・造構の検出は、造構確認面に達するとジョレンやねじり鎌で精査し、検出した造構はマーキングを行い、造構概略図を作成した。検出した造構には造構番号を付すが、各地区毎に造構の種類に関わらず通し番号とした。概略図には造構上面の埋土色を記入し、検討の材料とした。

造構の発掘は柱穴・井戸・小さい土坑は長軸に沿って半截、大きい土坑は十字またはそれ以上に、溝は適宜に間隔をあけてセクションベルトを残し、移植ごとで発掘した。

造構の記録は断面図を20分の1で実測し、造構によっては10分の1の遺物出土状況図を作成した。各造構の断面は35mmカメラで、出土状況図や個別の完掘写真・ブロック写真はプローニー判もあわせて撮影した。調査区の全景写真は4×5インチ判カメラで2方向以上から撮影している。使用したフィルムは、35mmはカラーと白黒、プローニー判・4×5インチ判はカラースライドと白黒を使用した。造構の平面図作成には空中写真測量を利用し、撮影にはヘリコプターを使用した。

最後に空中写真測量のために残したセクションベルトなどをはずし、造構の完掘を確認した。

発 現 場	地 区	調 査 期 間	延べ日数	調査面積	発 見 部 位	検 出 造 構	出 土 遺 物
							調査担当者
江 尻	近代・近世面	平成7年5月18日～8月11日	43日間	3,476m ²	山崎義佳 山元祐人	土坑	縄文土器、上野器、中野上野器、珠鋼、鍍金、中国青磁器、越中南山、唐器、伊万里、近代陶器類、木製品、石製品、瓦製品、銅鏡
		平成7年5月19日～7月26日	35日間	3,855m ²	三島道子 大野淳也	溝、井戸、土坑	越中南山、海戸、伊万里、巴洋、肥前、丸貫土器、土製品、木製品、石製品、金属製品
		平成7年7月31日～11月7日	40日間	3,855m ²	三島道子 大野淳也	土坑、自然流路	縄文土器、赤牛土器、土器群、中世土器群、珠鋼、石器
	近代面	平成7年5月19日～6月29日	25日間	1,000m ²	東　隆 河西英洋子	溝、道路、土坑	越中南山、越中丸山、原戸、唐津、伊万里、肥前、近代船棺、石製品、木製品
		平成7年6月30日～9月13日	34日間	2,390m ²	森　隆 河西英洋子	擬立体建物、土台建物、柱穴、溝、井戸、土坑	越中南山、越中丸山、唐津、肥前、伊万里、肥前、木製品、石製品
		平成7年9月14日～11月17日	33日間	2,390m ²	森　隆	船底生垣、溝、土坑、自然流路	弥生土器、上南器、中世土器群、珠鋼、中国製青磁器、越中南山、伊万里、木製品
蓑 島	近代・近世面	平成7年7月10日～11月3日	39日間	4,357m ²	岡本洋一 堀口貴徳	溝、道路、土坑	弥生土器、中世土器群、珠鋼、越前、瀬戸美濃、中国製青磁器、越中南山、伊万里、木製品
	縄文面	平成7年11月6日～12月18日	18日間	4,357m ²	岡本洋一 堀口貴徳	自然流路	縄文土器、木製品

第2表 調査一覧

B 調査の経過

平成7年度の調査は、建設省との協議のうえ、石名山木舟遺跡、蓑島遺跡、江尻遺跡、下老子城川遺跡を対象に、調査員2名1班の体制で行った。江尻遺跡の遺構検出面はA地区で近代・近世面、弥生面の二面、B地区では近代面、近世面、中世・弥生・繩文面の三面、C地区では近代・近世・中世・弥生面、繩文面の二面に分かれており、調査総面積は22,204m²、調査期間は5月19日～12月18日である。蓑島遺跡の遺構検出面は近世面、古墳面、繩文面の三面に分かれており、調査総面積は3,476m²、調査期間は5月18日～8月11日である。

C 調査体制

平成7(1995)年度

総括 岸本雅敏 埋蔵文化財調査事務所所長心得

加藤善吾 埋蔵文化財調査事務所副所長

庶務 大房友明 埋蔵文化財調査事務所主任

岩崎証意 埋蔵文化財調査事務所主任

調査総括 狩野睦 埋蔵文化財調査事務所調査第二課長

調査員 森 隆 埋蔵文化財調査事務所主任

岡本淳一郎 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

島田美佐子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

三島道子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

山元祐人 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

武田健次郎 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

大野淳也 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

河西英津子 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

柴口真澄 埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

D 現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するために、年に1回、調査工程を検討しながら対象地区を選定して現地説明会を実施した。説明会は江尻遺跡にて行い、蓑島遺跡については展示等を行った。

平成7年10月27日 新聞各紙に掲載

11月3日 江尻遺跡を会場に約150名の見学者が訪れた。遺跡各所に調査員を配置し、質問等に対応した。また、出土遺物・写真パネル等の展示・解説コーナー、ビデオ上映を設置した。

E 整理の経過

出土遺物は各年度内に可能な限り洗浄・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品はメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。木製品は収納・管理の便宜を図るためにオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、仮保管している。調査概要については『埋蔵文化財年報』(7),『埋蔵文化財調査概要—平成7年度—』として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な整理は、平成11年4月に開始した。11年度は遺物実測・写真撮影、13年度は遺物実測・写真撮影・挿図と図版作成・原稿執筆・編集、14年度は印刷を行った。

遺物の実測は土器・陶磁器を調査員及び整理作業員が行った。木製品・石製品・金属製品については、業者委託による写真実測を行った。実測図は種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺構の実測図・写真・航空測量図は各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナ

ルコンピュータを使用してデータ入力した。挿図にある遺構・遺物のデータは、観察表として掲載した。データ入力は人材派遣会社に委託し、整理作業員が補足した。

遺物の写真撮影は業者委託し、4×5インチ判を基本に、白黒とカラースライドフィルムを使用した。写真図版には密着焼付または引き伸ばしたものを使用した。遺構写真・遺物写真のうち重要なものはプロフォトCD化して保存した。

自然科学的分析は平成12年度から平成14年度にかけて専門機関に委託し、結果報告を掲載した。

本製品のうち重要なものは、平成12年度から平成13年度にかけて元興寺文化財研究所に委託し、保存処理を行った。

F 整理体制

平成11（1999）年度

総 括	桃野 真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	谷井 保男	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野 章	埋蔵文化財調査事務所副所長
総 務	宮成 真幸	埋蔵文化財調査事務所主任
	江本 裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	狩野 瞳	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当	島田美佐子	埋蔵文化財調査事務所主任
	中川 道子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	深堀 茂	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成12（2000）年度

総 括	桃野 真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田 啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野 章	埋蔵文化財調査事務所副所長
総 務	竹中 慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
	江本 裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	狩野 瞳	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当	島田美佐子	埋蔵文化財調査事務所主任
	中川 道子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	深堀 茂	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成13（2001）年度

総 括	桃野 真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田 啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野 章	埋蔵文化財調査事務所副所長
総 務	竹中 慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課課長補佐
	江本 裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	酒井 重洋	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担当	中川 道子	埋蔵文化財調査事務所主任
	新宅 茂	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中野由紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(新宅 茂)

第Ⅱ章 立地と歴史的環境

1 立 地

富山県は本州のほぼ中央に位置しており、東を北アルプスに、西を両白山地及び西部丘陵に、南を飛騨高地に開まれ、北は富山湾に面している。飛騨高原山地から北側に接して連なる音川山地、興羽丘陵は県中央部に突出し、東部の複合扇状地平野（狹義の富山平野）と、西部の砺波平野に二分している。砺波平野北半の大部分は庄川新扇状地を形成し、面積約146 km²で日本の沖積扇状地の中でも最大級の面積を有している。扇状地上には庄川の変遷を示す河道跡が放射状に残っている。これに対して小矢部川流域の平野は、庄川新扇状地の発達に押されて狭い低地となっており、小矢部川は丘陵部を蛇行して北流する。

福岡町は富山県西端部に位置する。西側は丘陵地となり、北は高岡市・氷見市と、南は小矢部市と接している。総面積のうち約4分の1が平地、4分の3が丘陵地である。西部丘陵地は元取山を中心として北に二上山、南に稲葉山・砺波山を配し、宝達丘陵の主峰宝達山に連なっている。平地は庄川、小矢部川及び西部丘陵地からの小川等でつくった、複合的沖積平野である。なお東部には「散居村」地域として著名な砺波平野が広がっている。

江尻遺跡は福岡町江尻地内、蓑島遺跡は福岡町蓑島地内に所在し、小矢部川と岸渡川と荒又川に挟まれた平地に立地する。岸渡川と荒又川は庄川の小分流と自然湧水を集めめたもので、等高線10m内外の地帯を浸食していたといわれる。標高は18~20mを測り、庄川新扇状地の扇端部にあたる。遺跡が所在する一帯は、古くから沖積活動によって幾度となく流路を変えた庄川・小矢部川の氾濫による被害を受けてきたことが知られている。標高20~30mの扇端部一帯は湧水地帯としても知られ、また、標高10~15mの末端部では網目状流路をとる大小河川の浸食によって複雑な微地形が発達している。

2 歴史的環境

江尻遺跡・蓑島遺跡の周辺では縄文時代から近世まで各時代の遺跡が認められるが、ここでは時代を追って主要な遺跡について紹介していく。

縄文時代には小矢部川右岸では下老子笠川遺跡（7）、高田新茅道遺跡（17）、駒方遺跡（22）などがある。3遺跡とも、標高10~20mの庄川扇状地端部に位置する晩期の遺跡である。下老子笠川遺跡は1995年から4年にわたって調査が行われ、縄文時代晩期では堅穴住居11棟などが検出されている。小矢部川左岸では堂前遺跡（28）、岩坪岡田島遺跡（32）がある。堂前遺跡は溝の中や肩付近から後期前半を主体とする土器が出土した。住居等は検出されなかったが、遺物の量から付近に集落が存在した可能性が高い。岩坪岡田島遺跡は前期中頃から前期末頃にかけての土器が包含層や自然流路から出土した。明確な遺構はなかったが付近に集落が存在したことが考えられる。

弥生時代では小矢部川右岸に下老子笠川遺跡（7）、石塚遺跡（25）がある。下老子笠川遺跡では弥生時代後期から終末期にかけての堅穴系建物27棟が検出された。当該期の土器のほか、水準器である「水盛り」や農耕具などの木製品、製作工程の復元の可能な管玉未成品などが出土している。石塚遺跡は弥生時代中期の拠点的集落として著名である。

古墳時代は小矢部川左岸の丘陵部沿いの山腹斜面に、頭川城ヶ平横穴墓（30）、江道横穴墓群（38）、

加茂横穴墓群（53）などの横穴墓や、立山古墳群（36）、柴野春日古墳群（37）、麻生谷殿谷内古墳群（43）、馬場古墳群（49）などの古墳群が多く存在する。集落遺跡には間尽遺跡（29）、麻生谷遺跡（40）、麻生谷新生園遺跡（41）がある。また、古墳時代中期から近世までの複合遺跡である五社遺跡（4）があり、5世紀中頃のカマドを有する堅穴建物が確認されている。

古代では、間尽遺跡（29）、麻生谷遺跡（40）、麻生谷新生園遺跡（41）がある。麻生谷遺跡は古代北陸道「川人駅」に関係するとされる。麻生谷新生園遺跡は石敷きの道路が検出され、古代北陸道の一部と推定されている。小矢部市の五社遺跡では条里地割を示す溝が検出され、地割方向が時期によって変化することが確認された。また12世紀後半から15世紀にかけて、7群に区分できる掘立柱建物群が確認され、後白河天皇の皇女室町院の御領「糸岡庄」の所在の中心地と考えられている。古代から中世にかけての砺波平野では、莊園が増大していき、高岡市では東大寺領莊園図にみられる「須加村墨田地」の比定地が含まれる。

中世では丘陵上・台地上に山城・寺院が立地する。山城では笹八口砦跡（34）、麻生谷殿内城跡（44）、柴野城ヶ平城跡（45）、馬場城跡（48）、馬場束城跡（51）、鴨城跡（52）などがある。寺院では釈迦堂遺跡（33）、円通庵遺跡（39）などがある。一方、平野部では開辟大滝遺跡（3）の南西約870mに木舟城跡（9）がある。木舟城は寛永三年（1184）年に石黒氏が築城したものといわれ、砺波地方の北部地域を支配する中心的な勢力となった。戦国時代末期には上杉氏、佐々氏、前田氏の居城となり、天正十三（1585）年の白山大地震によって崩壊したと伝えられている。木舟城の城下町である開辟大滝遺跡では16世紀後半の町屋群が確認され、2本の道路跡と短冊形地割に整然と並ぶ建物や炉門連遺構などが検出されている。また、鍛冶・鉄物関連の遺物が出土しており、鍛物師や鍛冶師などの職人集団が住む城下集落と考えられている。「貴船城古今誌」に掲載されている位置図と比較すると、鉄砲町・鍛冶屋町付近に相当する。木舟城の崩壊後は城主前田氏が今石動城に遷ったため、城下の町人も石動や高岡などに移住し、農村地帯となっていました。

近世以降には砺波平野一帯は加賀藩の支配下に入り、灌漑用水の充実などの開拓政策によって開発が進み、米の生産量は加賀百万石を支える要因ともなった。小矢部川左岸の石動には町奉行が置かれ、北陸道の宿場町としても、年貢米の集散地としても重要な町となっていました。これに対し、小矢部川右岸の平野部では地崎遺跡（6）などで屋敷跡が確認されているが、農村の域を出ることはなかった。現在では豊かな水田地帯となっている。

（中野由紀子）



第2図 周辺遺跡位置図 (1:50,000)

番号	遺跡名	所在地	種類	時代	文献
1	尻浪跡	福岡町尻浪	集落	绳文、弥生、古墳、中世、近世	4, 6
2	奥島遺跡	福岡町奥島	集落、散布地	绳文、弥生、古墳、中世、近世	4, 8
3	龍跡大窓遺跡	福岡町龍跡	集落	中世、近世	2, 4, 5, 14
4	瓦付遺跡	小矢部市瓦付字村守	集落、莊園	古墳、古代、中世、近世	2, 3, 5, 6, 11
5	石名田木舟遺跡	小矢部市石名田・五社 福岡町木舟	散布地	豪生、奈良、古代、中世 46, 47, 49	2, 4, 5, 6, 8, 19, 46, 47, 49
6	地塗遺跡	小矢部市地塗	集落、莊園	江戸	2, 4, 5, 14
7	下老子笠山遺跡	福岡町下老子	集落	绳文、弥生、古墳、古代、中世、 近世	4, 7, 8, 9, 10, 12
8	近伊北熊道遺跡	高岡市近伊川	窓(街店)	近世	12
9	赤舟城跡	福岡町赤舟字西側	城壁	中世、近世	44
10	丘社条里遺跡	小矢部市丘社	集落	古代、中世	
11	水舟北窓跡	福岡町水舟	散布地	古代、中世	
12	人塚遺跡	福岡町人塚・表鳥	散布地	古墳、古代、中世、近世	
13	大塙半田遺跡	福岡町大塙	散布地	古代、中世、近世	
14	上曾中田遺跡	福岡町上曾・表鳥	散布地	古代、中世、近世	
15	F老子北遺跡	福岡町F老子	集落	小仲、近世	
16	池墨寺川遺跡	高岡市池墨川	散布地	古墳、古代	
17	芦出後生赤道跡	高岡市鶴見	散布地	古代、中世、近世	33
18	芦出横越北窓跡	高岡市赤城	散布地	古代、中世、近世	33
19	上開免塗跡	高岡市上開免	散布地	古代、中世	
20	今市遺跡	高岡市今市	散布地	弥生、古墳、古代、中世、近世	
21	高田新吉後塗跡	高岡市高田新吉字西後	散布地	绳文(或)、古代、中世	43
22	駒方港跡	高岡市駒方	散布地	绳文(或)、古代、中世	43
23	立野地形川遺跡	高岡市立野字池端田	散布地	绳文(或)、古代	
24	高田新吉北遺跡	高岡市高田新吉字北庭	散布地	绳文(或)	43
25	石屋遺跡	高岡市和州・石屋、上北島	集落	弥生(中)、古墳、古代(奈良、平安)、中世(鎌倉、室町)	21, 24, 25, 26, 28, 29, 30, 31, 34, 37
26	東木津遺跡	高岡市東木津・木津	集落	弥生、古代(奈良、平安)、中世	30, 31, 39, 42
27	下化野遺跡	高岡市下化野	集落		27, 28, 30, 36
28	堂前遺跡	高岡市堂前	集落	绳文、古代	17, 18
29	因尽遺跡	高岡市因尽(手次野)	集落	弥生、古墳、古墳(飛鳥・白鳳)、 古代(奈良、平安)、中世	40
30	御用城ヶ平塙穴島	高岡市御用	古墳(横穴)		22, 23, 41
31	丁坂野赤道塗跡	高岡市古田	集落		13, 15
32	谷坪岡田鳥塗跡	高岡市古田	集落	绳文、古代、中世、近世	13, 15, 16, 17
33	乳池生塗跡	高岡市乳八口	社寺(寺院)	中世(鎌倉、室町)	38
34	笠八口脇跡	高岡市笠八口	城壁(山城)	中世(鎌倉、室町)	
35	笠八口古墳跡	高岡市笠八口	古墳		
36	山古塙跡	高岡市山古塙	古墳		
37	柴野谷日古塙跡	高岡市柴野谷	古墳		
38	江邊塙穴臺跡	高岡市江邊高宮	古墳(横穴)		20, 35
39	円通塙跡	高岡市江通	社寺(寺院)	中世(鎌倉、室町)	38
40	麻生谷塙跡	高岡市麻生谷・右堀	集落	古墳、古墳(飛鳥・白鳳)、古代 (奈良、平安)、中世	32
41	麻生谷新牛間塙跡	高岡市麻生谷・右堀	集落	绳文、古墳、古代(奈良、平安)、 中世(鎌倉、室町)	32, 34
42	石造柏生古塙跡	高岡市右堀	古墳		
43	柏生谷麻谷内古塙跡	高岡市麻生谷	古墳		
44	麻生谷藏内塙跡	高岡市麻生谷	城壁(山城)	中世(鎌倉、室町)	
45	藏財塙ヶ平塙跡	高岡市柴野	城壁(山城)	中世(鎌倉、室町)	
46	赤丸塙井神社古塙	福岡町赤丸	古墳		
47	赤丸吉村遺跡	高岡市六日市	散布地	绳文?、古代(奈良、平安)、中 世(鎌倉、室町)、近世	
48	馬場城跡	福岡町馬場	城壁(山城)	中世	
49	馬場古塙跡	福岡町馬場	古墳		
50	加茂神社古塙跡	福岡町馬場	古坟	古墳	44
51	舞鹤古城跡	福岡町馬場	城壁(山城)	中世	
52	鶴城跡	福岡町加茂・高倉	城壁(山城)	中世	44
53	加茂横火塙跡	福岡町加茂・李大松亭	古墳(横穴)	古墳	44
54	土屋古塙跡	福岡町土屋	古墳	古墳	
55	下田古塙跡	福岡町下田	古墳	古墳	45
56	西明寺遺跡	福岡町里口	社寺(寺院?)	中世	44
57	上向田古塙跡	福岡町上向田	古墳	古墳	
58	上五位寺社古塙跡	福岡町上向田・上野	古墳	古墳	
59	平尻山内塙跡	福岡町上向田・上野	古墳	古墳	
60	上野古塙跡	福岡町上向田・上野	古墳	古墳	1, 44

第3表 遺跡地名一覧

文 獻

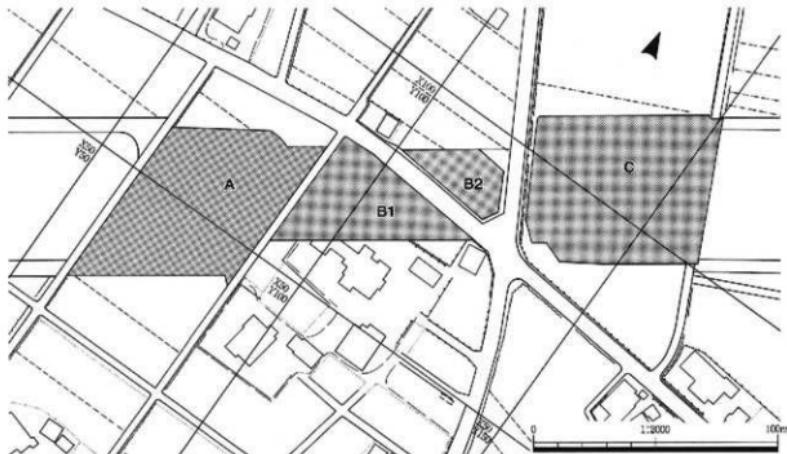
- 1 小矢都市 1971 『小矢都市史』(上巻)
- 2 小矢都市教育委員会 1991 『富山県小矢都市能越自動車道開通跡調査報告書』
- 3 財團法人富山県文化振興財團 1993 『埋蔵文化財年報』(4)
- 4 財團法人富山県文化振興財團 1993 『能越自動車道開通跡調査報告書』
- 5 財團法人富山県文化振興財團 1994 『埋蔵文化財年報』(5)
- 6 財團法人富山県文化振興財團 1995 『埋蔵文化財年報』(6)
- 7 財團法人富山県文化振興財團 1995 『能越自動車道開通跡調査報告書』
- 8 財團法人富山県文化振興財團 1996 『埋蔵文化財年報』(7) 平成7年度
- 9 財團法人富山県文化振興財團 1997 『埋蔵文化財年報』(8) 平成8年度
- 10 財團法人富山県文化振興財團 1998 『埋蔵文化財年報』(9) 平成9年度
- 11 財團法人富山県文化振興財團 1998 『五社遺跡発掘調査報告書』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第9集
- 12 財團法人富山県文化振興財團 1999 『埋蔵文化財年報』(10) 平成10年度
- 13 財團法人富山県文化振興財團 1999 『能越自動車道開通跡調査報告書』
- 14 財團法人富山県文化振興財團 2000 『間野大塚遺跡・石塚遺跡発掘調査報告書』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第11集
- 15 財團法人富山県文化振興財團 2000 『埋蔵文化財年報』(11) 平成11年度
- 16 財團法人富山県文化振興財團 2001 『埋蔵文化財年報』(12) 平成12年度
- 17 財團法人富山県文化振興財團 2002 『埋蔵文化財年報』(13) 平成13年度
- 18 財團法人富山県文化振興財團 2002 『能越自動車道開通跡調査報告書』
- 19 財團法人富山県文化振興財團 2002 『石名木舟遺跡発掘調査報告書』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第14集
- 20 高岡市教育委員会 1957 『高岡市江造横穴古墳群調査報告書』
- 21 高岡市教育委員会 1982 『昭和56年度高岡市埋蔵文化財調査報告書』石塚遺跡・荒見崎遺跡・利賀野遺跡
- 22 高岡市教育委員会 1983 『富山県高岡市源川城ヶ平横穴墓群 第1次緊急発掘調査報告書概要』
- 23 高岡市教育委員会 1984 『富山県高岡市源川城ヶ平横穴墓群 第2次発掘調査報告書』
- 24 高岡市教育委員会 1986 『富山県高岡市石塚遺跡調査概報』
- 25 高岡市教育委員会 1987 『石塚遺跡調査概報Ⅰ』
- 26 高岡市教育委員会 1988 『石塚遺跡調査概報Ⅱ』
- 27 高岡市教育委員会 1992 『高岡市埋蔵文化財調査報告第17号 下佐野遺跡調査概報Ⅰ』
- 28 高岡市教育委員会 1992 『高岡市埋蔵文化財調査報告第18号 市内遺跡調査概報Ⅰ』平成3年度石塚遺跡・下佐野遺跡の調査Ⅰ
- 29 高岡市教育委員会 1996 『市内遺跡調査概報Ⅳ』
- 30 高岡市教育委員会 1997 『市内遺跡調査概報Ⅴ』
- 31 高岡市教育委員会 1997 『市内遺跡調査概報Ⅵ』
- 32 高岡市教育委員会 1997 『麻生谷・麻生谷新生遺跡調査報告書』
- 33 高岡市教育委員会 1997 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅲ』平成8年度 戸出地区西部の遺跡分布調査
- 34 高岡市教育委員会 1998 『市内遺跡調査概報Ⅶ』
- 35 高岡市教育委員会 1998 『江造横穴古墳群調査報告書』
- 36 高岡市教育委員会 1999 『市内遺跡調査概報Ⅸ』
- 37 高岡市教育委員会 1999 『石塚遺跡調査概報V』
- 38 高岡市教育委員会 1999 『國吉・石堤地区的遺跡調査概報』
- 39 高岡市教育委員会 2000 『市内遺跡調査概報X』
- 40 高岡市教育委員会 2000 『間野遺跡調査報告書』
- 41 高岡市教育委員会 2001 『源川城ヶ平横穴墓群調査報告書Ⅲ』
- 42 高岡市教育委員会 2001 『市内遺跡調査概報XⅠ』
- 43 富山県立高岡工芸高校地理歴史クラブ・O.B会 1972 『富山県高岡市高田新・刷方遺跡調査報告書』
- 44 福岡町 1969 『福岡町史』
- 45 福岡町教育委員会 1985 『富山県福岡町下向田古墳群試掘調査概報』
- 46 福岡町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター 1995 『富山県福岡町石名木舟遺跡発掘調査報告書』
- 47 福岡町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター 1996 『富山県福岡町石名木舟遺跡第3次発掘調査報告書』
- 48 福岡町教育委員会 1997 『民間分譲住宅地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査概要』木舟北遺跡
- 49 福岡町教育委員会 1997 『富山県福岡町石名木舟遺跡発掘調査報告書』東指定史跡 木舟城跡隣接地における発掘調査

第Ⅲ章 江尻遺跡

1 遺跡の概要

A 概 要

江尻遺跡と蓑島遺跡は当初同一遺跡（NE J-06遺跡）と考えられていたが、試掘調査の結果二つの遺跡に分割された。このうち江尻遺跡は北東側に位置する。調査区は中央を主要地方道福光・福岡線に分断されており、さらに既存町道および農道で区画される。南西側からA地区、B地区（B1・B2地区）、県道を挟んで北東側をC地区とし、調査地区的設定をおこなった（第3図）。試掘時の知見では、A・Bの両地区で谷状の落ち込みを検出しており、この谷の上面から切り込む遺構を多数検出した。試掘時には谷からの出土遺物がなく帰属時期が判然としなかったが、その後の本調査で縄文時代の谷であることが明らかとなった。A・B両地区では梢円柱穴などの遺構とともに近世陶磁器が多く出土しており、この時期の建物群の存在が試掘時にも確認できた。またB地区東側の試掘トレーンでは弥生土器が比較的まとまって出土しており、該期の遺構の存在が予測された。本調査においても縄文時代の遺構（竪穴住居、溝など）はこの付近においてのみ検出されている。但し縄文時代の遺構の中心は調査区内ではなく、調査区はちょうど集落範囲の北西側縁辺にあたり、B1地区の南東側一帯に縄文時代集落の中心があるものと推定された。またC地区については、試掘時に中・近世陶磁器の出土がみられたものの、地形がやや低く一帯は広い谷部と推察された。以上の試掘時の知見をふまえて本格調査を実施した。その結果、縄文時代の谷跡、弥生時代の竪穴住居や溝、中世の溝群、近世から近代に至る屋敷地や道路、溝、土坑、柱穴などの多数の遺構を検出した。同時に遺物についても縄文土器・石器、弥生土器、中世から近世・近代に至る時期の土器・陶磁器が多数出土した。これの遺構・遺物が本報告書の記述の中核となる。



第3図 江尻遺跡 区割図

B 基本層序

調査区は高速道路の路線敷地内を細長くのびており、各地区の基本層序は旧地形の起伏や制約により少しづつ様相を異にしている。まずA地区の基本層序はI層：耕作土、IIa層：黄灰色砂質土、IIb層：黄灰色シルト、IIIb層：黒色シルト、IIIc層：灰色粘質土、IIIe層：黒色シルト、IV層：黄褐色シルトとなる。このうちIIa層が近世の遺物包含層である。IIb層は近世末～近代の整地盛土で、調査区のなかでも北東端付近にのみみられる。IIIb層は弥生時代の遺物包含層、IIIc～IIIe層は調査区の中央で検出された縄文谷の埋土、IV層が地山となる。遺構面はIIb層（整地盛土）上面が近代面、IIIb層上面が近世の遺構面となる。遺構面の標高は19～19.5mの範囲にある。B地区もA地区とほぼ同様の基本層序である。但しB地区、とくにB1地区については既存宅地であったため、広範囲に現代の擾乱がみられた。従って調査はまず宅地の基礎となっているコンクリートの除去から着手しなければならなかった。次いでA地区のIIb層に相当する近代の整地盛土が、調査区の南西側の一角に浅い高まりとして残存することが判明した。このIIb層を削除すると近世の遺構面となるが、B1地区の場合遺構面のベースとなる上層にはかなりの変化がみられる。これはB地区ではA地区から続く縄文谷が、調査地区的中央部分を大きく絶続していることによる。このためB1地区の北側半分は南側に比べやや低くなっている。この付近では縄文谷の埋土上面が近世の遺構面となる。反面B1地区の北端付近はやや高くなっている。耕作土を削除すると疊層基盤の地山が直接露出している。また弥生時代の遺構がみつかったB1地区の西端付近も、後世の削平の結果浅くなっている。近世・近代の遺構が弥生時代の遺構と混在して同一面で検出された。総じてB1地区は層位で遺構面を分離出来る状況ではなく、遺構の埋土と切り合いで数時期の遺構群に分離することとなった。またB2地区はB1地区の北側に町道を挟んで対置する小区画の調査地だが、こちらはA地区のIV層黄褐色シルトと同様の地山層であるが、遺構の方は溝が複雑に切り合う状況で、とくに近世以降の屋敷地の北端部を示す状況にあった。なおB地区の遺構面の標高はA地区と同様19～19.5mの範囲にある。最後にC地区であるが、C地区はA・B両地区とはやや様相を異にする。基本層序はI層：暗黄灰色シルト（耕作土）、II層：黒褐色土、IIIc層：黄灰色粘質土、IIId層：黄灰色シルト、IIIe層：黒色粘質土、IV層：黄灰色砂または礫層となり、IIId層が上層遺構面、IV層が下層遺構面（地山層）となる。C地区はA・B両地区に比べると約1m低く、下層遺構面の標高は、概ね18.5m前後を数える。

参考文献

財団法人富山県文化振興財団 1993 『能越自動車道関係埋蔵文化財付帯地調査報告－小矢部市～福岡町間－』

2 遺構

今回の調査のなかで最も深く検出された遺構は縄文時代のものである。ただし縄文時代については該期の埋没谷と、若干の土器・石器があるに過ぎない。次いで弥生時代の遺構としては堅穴住居がみつかっている。その後の古墳時代から古代にかけての遺構・遺物が欠落しており、その間の様相は判然としない。中世になると再び遺構・遺物がみられるようになるが、建物などは伴っておらず、近隣に中世集落の存在が示唆されるに留まる。近世、とくに16世紀末から17世紀以降になるとA・B地区を中心に屋敷地と建物群の形成が開始され、以後近代まで存続している。以下当調査地の検出遺構について、大きくA 縄文・弥生時代、B 中・近世（一部近代を含む）にわけて記述していきたい。

A 縄文・弥生時代

(1) 縄文時代

縄文時代の遺構では人為的構築の痕跡を示すものは検出されておらず、縄文時代に形成され、弥生時代には埋没したと考えられる谷（S D131）と若干の自然形成の溝が検出されているに過ぎない。

谷・溝

131号谷（S D131, 第9図, 図版2）

A地区の南壁付近に始まり、A地区の中央付近で円弧を描きながら方位を北東に転じ、さらに南西側に向かってのびる。B地区では調査区の中央を大きく継断し、北東側のC地区に向かっている。谷の規模は、A地区的断面aで幅18m、深さ0.53m、断面bで幅21m、深さ0.43m、B1地区中央付近で幅30m、深さ0.6mを数える。谷の埋土はA地区的断面aでは、上層は黄灰色から白灰色の粘質土を基調とするが、中層以下は黒褐色のシルト質土が厚く堆積する。B地区も同様である。出土遺物は少ないが、A地区出土の打製石斧（第56図11）、B地区出土の打製石斧（第56図12～14）がこれに該当する。この他では若干の縄文時代晚期の土器がA・B地区より出土している（第56図1・4・8・9）。次いで谷の埋没時期であるが、A地区的最上層から弥生土器が出土している他、B1地区では弥生時代の堅穴住居が谷の肩を一部切り込んでいる。従て弥生時代後期頃にはほぼ谷の埋没は終了していたものと考えられる。なお谷自体はA地区のさらに南側へのびている。B地区的北東側はC地区となるが、またC地区は調査地区自体がA・B地区より一段低い低湿地であり、この付近で谷が開析し肩が消失している可能性が高い。

481号溝（S D481, 第9図）

B1地区の南壁やや西側で検出された溝で、縄文谷S D131と切り合い関係はなく、これに合流する溝である。断面a付近での規模は幅12.4m、深さ0.18m、埋土は縄文谷S D131と同様の黒褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物はないもののやはり縄文時代の溝と考えておきたい。

701号溝（S D701, 第8図）

C地区では下層遺構はIV層の上面で検出している。この面の標高は18.2～18.8mで、あきらかにA・B両地区より一段低く、地表面からの湧水も激しい。検出されたのは3本の溝だけで、これらの溝はいずれも自然形成のものと考えられる。このうちS D701は最も西側に位置する溝。S D701はC地区南西辺から北東辺にむけて流下する溝で、幅22m、深さ0.2mの規模である。埋土は黒色粘質土。前述のように溝の西側はA・B地区からのびる縄文谷S D131と接合する可能性がある。C地区においても下層遺構面の調査では縄文時代晚期の土器が少量出土しており、埋土の特徴なども縄文谷S D131と共に通しており、S D701も縄文時代の帰属時期が想定できる。

702号溝（S D702, 第8図）

C地区的中央を横断するように流れる溝で、北端部はS D701と合流している。幅2～13m、深さ0.2～0.5mの規模で、北に行くほど広く深くなっている。埋土はS D701と同様の黒褐色粘質土である。帰属時期も同様に縄文時代晚期と考えられる。

703号溝（S D703, 第9図）

3本の溝中最も東側に位置する溝で、北端がS D701と合流。幅1.6m～1.8m、深さ0.1～0.3mの規模で、北に向かって深く広くなる。埋土は黒色粘質土。縄文時代晚期と考える。

(2) 弥生時代

①A地区

A地区では弥生土器以外は明確な遺物は検出されなかった。弥生土器は既述のように主に縄文谷S D131の最上層埋土に包含される。第57図36の小型鉢、53の壺などがこれに該当する。弥生土器はこの他にも谷の右岸側の包含層から多く出土した。なお下層検出面では縄文谷以外にも若干の土坑類を検出した（S K132～S K137・S K145）が、構築的とは考えられず、本書では記述を省略した。

②B地区

B地区でも縄文谷S D131の最上層から弥生土器（第58図72・94・第59図109・111～113・125・129）が出土している。同時に主に縄文谷S D131の右岸側で弥生時代の遺構が検出されている。このうちB1地区では、調査区の北西端付近で竪穴住居が1棟、これに伴う溝群が若干みつかっている。但し付近は近世以降の遺構が濃密に重複し、かなり搅乱・削平されており、遺構自体の残りはよくなかった。B2地区では小規模な溝群が若干検出されただけで、竪穴住居などの遺構はみつかっていない。

竪穴住居

201号竪穴住居（S I 201、第10図）

B1地区では竪穴住居が1棟検出された。後世の擾乱・削平のため遺存状態がよくないが、平面プランは隅丸の長方形を呈する。長辺7.32m、短辺6.38m、残存深は最大で0.14mである。住居床面の西半側に周溝状の溝がみられ、この溝は住居の北西端から住居の外側へのびている。住居の北西側は縄文谷S D131に相当する。この頃には縄文谷はほぼ埋没していたと考えられるが、谷の最上層部分は窪地として当時も痕跡を残していたと考えられる。住居から窪地側にのびるこの溝は排水溝であろう。住居の床面には大小の孔がみられる。一部に主柱穴らしきものもみられるが、柱列が揃っておらず、明確に主柱穴と断定できなかった。炉跡の類についても検出できなかった。床面自体が後世の削平を受けている結果と推断される。埋土は黒褐色砂粘質土である。縄文谷S D131の埋土と類似しており、その後の中世以降の遺構埋土とは明らかに異なる。遺物は住居関連の溝中より多く出土している（後述の溝の項で記述）。

溝

弥生時代と考えられる溝群は、B1地区の竪穴住居周辺、B2地区で検出されている。このうち竪穴住居周辺の溝群は自然形成のものとは思われず、構築的意図が取れ、竪穴住居の内部施設（S D475・S D476）と、竪穴住居の外部周溝（S D473・S D474・S D477）と考えられる。B2地区的溝の性格は不明だが、集落地から低地側（縄文谷S D131）へのびており、湿気抜きの溝等の機能を有したのであろう。

472号溝（S D472、第11図）

竪穴住居の西側20mほど離れて南北流する小溝で、竪穴住居と直接的な関わりはない。幅0.79m、深さ0.14m。埋土は黒褐色砂粘質土。第58図75・79の壺が出土。

473号溝（S D473、第11図）

竪穴住居の北東側1.2mほど離れて並走する短い溝。本来は竪穴住居の周囲を巡る溝と考えられる。最大幅1.3m、最大長5.3m、最大深0.16mの規模。埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物は第58図97の壺、第59図122の高杯などがある。

474号溝（S D474、第11図）

S D473の南側に位置し、西側を後世の溝に切られている。幅1.06m、残存長2.58m、残存深0.06m。

埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。

475号溝（S D475, 第10図）

堅穴住居の床面の南西側を「L」字状に巡る溝。本来は堅穴住居の壁溝であった可能性が高い。最大幅1.55m, 最大深0.17m。埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。

476号溝（S D476, 第10図）

S D475を起点に繩文谷 S D131に向かって短くのびる溝で、堅穴住居からの排水溝と考えられる。幅0.33m, 長さ0.17m, 深さ0.12m。埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。

477号溝（S D477, 第11図, 図版4）

堅穴住居の北西側約3m程離れて堅穴の長辺に沿ってのびる溝。所々浅く消失している部分がある。幅1.3m, 残存する長さ約7m, 最大深0.17mの規模。埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。このS D477からの出土遺物が最も多く、とくに壺（第58図83）は体部下半を欠失するものの、上半2分の1が溝の中央に据えられたような状態で出土した（第11図の出土状況図参照）。この他にも第58図85・86・96・第59図103・119・120などの遺物が出土している。

554～558号溝（S D554～558, 第12図）

B2地区の小溝群である。それぞれ個別に記述せず一括した。概ね南北方向にのびるものが多いが、いずれも先端は浅く消失している。B1地区の弥生時代の溝や堅穴住居と同様に黒褐色砂粘質土を埋土の基調とするものが多い。出土遺物は多くないが、第58図82がS D555から、第58図81がS D556から、第58図89がS D557からそれぞれ出土している。

落ち込み

563号落ち込み（S O563, 第13図）

B2地区の小溝群と重複しこれに切り込まれるが、平面形態も不整形で浅く、構築的な造構とは思われない。単なる微地形的な窪みと考えられる。

③C地区

C地区はA・B両地区より一段低く低湿である。このためかC地区で検出された弥生時代の造構は溝、不整形土坑が主体で、集落跡はみつかっていない。また水田などの耕作地についても検出できなかったが、S D605では水利関連の造構が検出された。遺物では木製農具（鍬）も出土しており、近隣に水田跡が存在する可能性が高いものと推断する。

溝

602号溝（S D602, 第12図）

調査区西壁中央からS D5へ流れ込んでいる。規模は幅0.4m, 深さ0.1m, 約20m分の長さが検出されている。埋土は黒褐色シルト質土を基調とし、有機物を多く含む。

603号溝（S D603, 第12図）

S D602から分歧して西側に短くのびる溝。延長線上にあるS D607と本来は同じ溝であった可能性がある。幅0.4m, 深さ0.1m。埋土は黒褐色粘質土を基調とする。

605号溝（S D605, 第12・14図, 図版4）

調査区の南壁西側から北壁にむけて調査区を横断する溝で、やや蛇行するものの概ね南北の方位を有する。C地区検出の溝の中でもっとも規模が大きく肩部の輪郭が明瞭である。60m弱の長さが確認できる。最大幅2.95m, 深さ0.47mの規模。溝内の埋土は、下流側は概ね黒褐色有機質土を基調とするが、上流側では下層が暗灰黄色シルト質土となるようである。またこの溝の下流側において、水利

施設と考えられる遺構が検出されている（第14図）。この遺構は、溝の西肩部に沿って平行に何本か杭を打ち、これに板をとめたもの。後に出土などで壊されている可能性もあり、どのような機能・構造を有していたかは不明。しかし S D605自体は農業用の水路と考えられることから、この遺構についても水利関連遺構と捉えておく。S D605からは弥生土器（第59図132・137・139）や加工板（第89図708）、加工棒（第89図709）が出土している。

606号溝（S D606、第12図）

S D605と602との合流点から南側約4mほど上流側に位置し、やはり S D605から分岐する小溝。分岐した後すぐには直角に屈曲し、その後は S D605の西肩に約12mほど並走し、その後先端が消失している。幅0.5m、深さ0.05m。埋土は灰色シルト質土を基調とする。

607号溝（S D607、第12図）

調査区の西角から東側に短くのびる溝で、約2m程で先端が浅くなり消失する。S D603とその延長上で接合する可能性がある。幅0.26m、深さ0.08m。埋土は黒褐色砂を有す。

613号溝（S D613、第12図）

調査区の北壁中央で強く屈曲して円弧を描く溝。横断面は台形で幅3.20m、深さ0.48mと広く深い溝である。埋土は上層が黒褐色有機質土、下層が黄灰色砂ないしは粘質土を基調とする。このような強い屈曲を有する溝が用水とは考え難いが、遺構の大半が調査区外となるため、遺構の性格自体は判然としない。この溝からは弥生土器甕（第59図135）が出土している。

615号溝（S D615、第54図）

南壁中央付近から西に向かって短くのびる溝で、肩の輪郭は不整形である。最大幅1.75m、深さ0.21mの規模。溝内には暗灰黄色シルト質土の堆積がみられる。

623号溝（S D623、第12図）

調査区南東辺の中央付近、S X618を基準に、ここから西に短く延びる小溝。幅0.98m、深さ0.08m。埋土は黒褐色シルト質土を基調とする。

624号溝（S D624、第12図）

調査区南東壁の東側にあり、S X627から南側へ短く延びている。先端が浅く消失している。幅0.5m、深さ0.08m。埋土は暗灰黄色シルト質土である。

626号溝（S D626、第12図）

S X638とS X627を繋ぐように延びる溝で、南側はS D624に接合する可能性が高い。幅1.2m、深さ0.17m。埋土は黒褐色シルト質土である。

631号溝（S D631、第16図）

S D639と重複しこれを切り込む溝だが、短く屈曲して検出され、両端は消失している。幅0.7m、深さ0.03mを測る。埋土は黒褐色シルト質土。出土遺物なし。

不整形土坑

618号不整形土坑（S X618、第13図）

調査区の南壁中央付近に接して位置する。径5~6m、深さ0.1m前後の浅い皿形の形態である。埋土は黒褐色シルト質土を基調とする。

627号不整形土坑（S X627、第13図）

S X618の北東側約10m程離れた位置にある。平面形は不整形円形で径6~7.5m、深さ0.13mの規模である。埋土は暗灰黄色シルトを基調とする。

638号不整形土坑（S X638, 第13・55図）

S X627の北側12m程離れて位置する。平面形態はひしゃげた三角形を呈する。一辺3m前後、深さ0.1mの規模。埋土は黒褐色シルト質土を基調とする。

B 中・近世

(1) 中世

今回の調査では、中世に該当する遺構・遺物はそれほど多くない。中世の遺物自体はA～Cの各地区で出土するが、中世の遺構が検出されているのはB2地区からC地区にかけてだけである。またこれらの遺構も溝を中心であり、掘立柱建物など集落に伴うような性格の遺構は検出されなかった。

①B地区

土坑

551号土坑（S K551, 第7・16図）

中世下層の土坑のひとつ。B2地区の中央付近に位置する。平面形は瓢箪形。横断面は袋状で、東半部の三方の下端が上端より内側へオーバーハングして抉りこんでいる。幅0.5m、長さ1.43m、深さ0.43m。土坑内の埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。とくに下層は有機質腐植土を多く含み、底面には小疊が散乱している。疊以外の出土遺物はみられない。

552号土坑（S K552, 第7・16図）

中世下層の上坑のひとつ。S K551の南側に接し、S K553の東肩と部分的に重複する不整形土坑。幅0.93m、長さ1.75m、深さ0.11mの規模。埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。図化はできないが、珠洲や弥生土器の小片が出土している。

553号土坑（S K553, 第7・16図）

中世下層の土坑で、S K552に重複し西側に隣接する。平面形態は隅丸方形を呈す。一辺1.1～1.2m、深さ0.26m。埋土は上層が黄灰色砂粘質土、下層が褐灰色砂粘質土である。S K551と同様に、土坑の底面には小疊が散乱して検出された。他の出土遺物はなし。

溝

470号溝（S D470, 第16図）

B1地区東端で検出された溝で、南北方向にのび、北側はB2地区S D513と合流している可能性が高い。幅0.35m、深さ0.18m、長さ9m。埋土は褐灰色砂粘質土を有す。

513号溝（S D513, 第16図、図版22）

B2地区の近世遺構と重複して検出された溝。削平のため残存状況はよくないが、一応B2地区的中央を東西に継ぎ、ちょうど中央付近で南側のB1地区に向かう溝が直角に分岐している。この溝は先述のようにB1地区S D470と同一の溝の可能性が高い。残りのよい部分で幅3.31m、深さ0.2m、B1地区に向かう溝の南壁断面では幅1.6m、深さ0.2mを測る。埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物には中世土器・陶器の他に近世陶磁や弥生土器が混入する。

560号溝（S D560, 第7図）

B2地区下層の弥生時代遺構の検出時に、同時にみつかった溝。以下このような遺構を中世下層遺構と呼んでおく。遺構面を新たに設定するほどの内容ではなく、弥生時代の遺構平面図に併せて掲載する。このうちS D560は、B2地区の小溝群を横切るように短く円弧を描いてのびる溝。両端が浅く消失している。最大幅1.53m、深さ0.09m。黒褐色砂粘質土の埋土を有する。

561号溝（S D561, 第7図）

中世下層で検出された溝のひとつ。S D560付近から北側にのびる溝で、長さは短く北端が浅く消失する。最大幅2.1m、深さ0.26m、長さ5.7m。埋土は黒褐色砂粘質土。

562号溝（S D562, 第7図）

中世下層の溝で、一端はS D513に、他端は3.5m程で浅く消失する。最大幅0.7m、深さ0.07m。埋土は黒褐色砂粘質土。13世紀代の珠洲擂鉢（第67図331）が出土。

②C地区

土坑

621号土坑（S K621, 第16図）

S D620の南端に重複し、これを切り込む。平面形態は梢円形で、長径0.97m、短径0.84m、深さ0.15mの規模。埋土は黒色シルト質土である。出土遺物なし。

不整形土坑

646号不整形土坑（S X646, 第15・16図）

S D617の北東端付近に位置する土坑状の遺構。やや不整形だが、概ね長方形を呈している。幅1.74m、長さ2.56m、深さ0.11mの規模。埋土は黒褐色シルト質土を基調とする。

溝

608号溝（S D608, 第16図）

西壁近くで南北方向にのびる小溝で、長さ13m程で両端が浅く消失し、中央も一カ所途切れている。最大幅0.36m、深さ0.07m。埋土は黒褐色砂質土。出土遺物なし。

609号溝（S D609, 第16図）

S D608・S D620の南側に位置し、これとは直交する東西方向に延びる溝。東端は長さ20m程で浅く消失。最大幅0.46m、深さ0.05m。埋土は黒褐色砂質土。出土遺物なし。

610号溝（S D610, 第16・54図）

S D609の南側に位置する小溝。S D609と同じ東西方向にのびるが、東端は浅くなり消失。幅0.6m、深さ0.1m。溝内の埋土は黒褐色シルト質土。出土遺物なし。

616号溝（S D616, 第15・16・55図）

S D617と対となって道路の側溝を構成する2条の溝のひとつ。S D616はこのうち南側に位置する溝。緩やかに円弧を描きながら約45m程のび、両端は浅くなり消失している。幅1.7m、深さ0.2mの規模。埋土は暗灰黄色シルト質土を基調とする。溝内から珠洲の小片が出土している。

617号溝（S D617, 第15・16図）

S D616と対となる溝で、北側に位置する。やはり緩やかに円弧を描きながらのびるが、S D616よりやや短い40m弱で両端が浅く消失している。幅2.05m、深さ0.1mの規模。埋土は黒褐色シルト質土を基調とする。溝内から珠洲の小片が出土している。以上のS D616とS D617は互いに一定の間隔を保ちながら並走しており、両溝は道路遺構の側溝と考えられる。この道路は両溝の心々距離で約3~3.3m、内側路肩間で約2.4mの幅員を有している。但し東西両端が消失しているため、B2地区の溝S D513などと接合するかどうかは不明である。

620号溝（S D620, 第16図）

S D608の北側に接して位置する小溝で、方位も同じくする。長さ約10mほどで両端が浅く消失する。南端についてはS K621と重複し、これに切り込まれている。最大幅0.49m、深さ0.09mを測る。

埋土は暗灰黄色シルト質土。出土遺物なし。

(森 隆)

(2) 近世

近世の遺構はA～Cの全地区で検出されており、今回の調査のなかで遺構数も多く、出土遺物も他の時代のものと比べ卓越している。以下にこれらの遺構について、各調査区ごとに概述する。

① A地区

調査区は遺跡の西端に位置しており、北東4分の1ほどに集中して掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑、溝があり、「L」字状に曲がる溝SD2の内側で検出された。北東隅の一部で、近世以降(近代)の整地盛土層が検出されており、基本的にはこの盛土層下の面で検出される遺構を近世面の遺構としているが、盛土上面で検出された遺構のうち、北側の盛土が薄い部分で検出された近世に属すると考えられる遺構についてはここで扱っている。

建物

1号建物 (SB1, 第20・21図, 図版5)

A地区北東隅に位置し、調査区北側へ伸びる2間×2間以上の掘立柱建物である。桁行長6m以上、梁行長8.4m、平面積50.4m²以上を測り、主軸方位はN-6°-Wでやや西に振れる南北棟の建物である。柱間は不規則で、間仕切り等の柱穴も含むものと思われる。柱穴は直径44cm～76cmの平面円形を呈するものと、長軸75cm～113cmを測る平面楕円形^{±1}の2種があり、混在している。SP126・SP128では柱根が残っており、SP81でも断面観察から柱痕が確認できた。建物に付属する井戸、土坑等の施設については不明である。出土遺物は柱根のみであるが、小矢部市地崎遺跡の例などから17世紀後半代の建物と想定している^{±2}。

2号建物 (SB2, 第20・21図, 図版5)

A地区北東隅に位置する掘立柱建物で、調査区北側に伸びる4間×4間以上の南北棟である。桁行長11m以上、梁行長11.6mを測り、平面積127.6m²以上である。SB2は4間×4間以上の規模を持つ建物であるが、SP51・SP54・SP125・SP64・SP143の柱列までの4間×3間以上を基本として南側に1間分拡張したような構造をとる。主軸方位はN-20°-Wを測る。柱穴の平面形はいずれも梢円形を呈し、柱穴の長軸方向がそれぞれ桁行・梁行の両方向と一致する傾向がみられる。柱穴の長軸は60cmから164cmまであるが、100cmを越える比較的大型のものが半数を占めており、SB1に比べて相対的に大型になる。SP14・SP51・SP55・SP91では柱根が残っている。またSB2に付属する施設としては、井戸SE102と土坑SK142があり、いずれも建物西側に位置している。SB2はSB1と重複しており、ほぼ同位置での建て替えと考えられ、建物の時期は18世紀代と考えられる。

3号建物 (SB3, 第20・21図)

A地区的東端に位置し、調査区東側に伸びる3間×1間以上の東西棟の建物。桁行長2.6m以上、梁行長6.2m、平面積16.12m²以上である。主軸方位はN-16°-Wを測る。柱穴の平面形はいずれも梢円形を呈す。柱穴の長軸は77cm～107cmを測り、梁行方向と一致している。SP29では柱根が残る。

SB3は農道を挟んで東隣のB地区へ伸びる土台建物の可能性が考えられる。区画溝SD2と並行する東西棟で、A地区SP37～SP29の柱列からB地区SK46・SK47を開む範囲を1棟の建物と想定しており、この場合桁行長13mを測り、平面積80.6m²となる。また、図示している柱列の西側にSK38・SK40・SK31のラインまで1間分が庇あるいは、拡張部分とすると建物規模はさらに大きくなり、桁行長15.8m、平面積97.96m²となる。付属する施設としては、井戸SE30とB地区土坑SK46・SK47がある。建物の時期は18世紀後半以降と推定している。

井戸

21号井戸 (S E21, 第22図, 図版6)

調査区東端のSB3北西隅付近に位置する。平面形は120cm×95cmの南北方向に長い楕円形を呈する石組井戸で、深さは石組上端から156cmを測る。石組は上段5~6段は二重に組まれているが、6段目以下は一重となり井戸側または水溜として、上段に割り抜きの丸太、中段・下段に底を抜いた木臼の3段(第80図632~634)が用いられている。石組は井戸側の中段までは組まれているが、下段になると拳大の礫が乱雜にあるのみとなり、人為的には組まれていない。井戸側内部の埋土は中段までは、黄褐色砂混じりの黒褐色砂質シルトで、中段には竹・枝状・葉・豆などの植物遺体と径5cm~20cmの礫が詰め込まれているが、下段は黄褐色砂のみとなる。これらのことから、下段の木臼は井戸側というよりは、水溜としての用途で用いられていたものと考えられる。出土遺物には越中瀬戸の皿(第60図160~162)がある。SE21は盛土の上面から確認できた遺構で、時期は18世紀後半以降、19世紀代と思われる。

30号井戸 (S E30, 第22図, 図版6)

調査区東端のSB3の南西隅に位置し、SB3に伴う井戸と考えられる。145cm×132cmのやや歪んだ円形を呈し、深さ86cmを測る素掘りの井戸である。埋土は黒褐色粘質土がブロック状に混じる黄灰色シルトで、木片が混じる。底面から15cm~20cmの礫と石臼(上臼、第92図911)が出土している。時期は18世紀後半代と考えられる。

102号井戸 (S E102, 第24図, 図版6)

調査区北辺に位置し、SD56を切っている。SB2の西側にあり、SB2に伴う井戸と考えられる。一部調査区排水溝に切られているが、平面形は径150cmの円形を呈する。桶積み上げ井戸で、深さ130cmを測る。上段桶(第77図620)は側板長約45cm、径64cmを測るもので、上段桶のタガで締められた部分の内側に下段桶の上端がくるように積み上げられている。下段桶(第76図615)は径60cm、側板長92cmを測る大型のもので、側板内面には樹皮が残る箇所がみられ、3段のタガで締めたものである。掘り方埋土は灰褐色砂質土がブロック状に混じる褐灰色砂質シルトで、桶内部の埋土は上段・下段ともに黒褐色砂質シルトで枝状またはワラ状の植物遺体が多量に混じる。最下部には15cm~20cmほどの礫が投げ込まれたような状態で入っている。出土遺物は下段桶の埋土を中心に、漆椀・下駄・箸・栓・蓋・小型の桶・加工板・竹などの木製品(第76図610・612・614・616・617・第77図619)や伊万里(第60図163)などの陶磁器、石臼の破片と思われる加工石(第92図918)などがある。時期は18世紀代と思われる。

土坑

11号土坑 (S K11, 第25図)

SB2の南側に位置する径約40cmの凸形の土坑で、深さは17cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。盛土の上面で確認できた遺構で、19世紀代のものと思われる。

12号土坑 (S K12, 第25図)

SB2の南西隅付近に位置する平面楕円形の土坑。長軸147cm、短軸48cm、深さ74cmを測る。埋土は浅黄色砂質土・黒色シルトがブロック状に混じる灰黄褐色砂質土である。盛土上面で確認でき、19世紀代と思われる。

13号土坑 (S K13, 第22図)

S K12の東側に位置する長軸107cm、短軸62cm、深さ63cmを測る楕円形の土坑である。埋土は浅黄

色砂質土・黒色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルトである。S B 2 の柱穴 S P 14 と、S K 15, S D 8 を切っており、盛土の上面で確認された遺構であるので、19世紀代のものと考える。

15号土坑（S K 15, 第25図）

S B 2 の南側柱列付近に位置する。68cm×58cm以上 の平面円形を呈する深さ14cmの土坑。S P 14・S K 13 に切られる。埋土は黒色粘質土がブロック状に混じる黄灰色シルト。18世紀代と考える。

16号土坑（S K 16, 第22図）

S B 2 の南側柱列付近に位置する。長軸125cm, 短軸87cm, 深さ55cmを測る楕円形の土坑である。埋土は浅黄色砂質土・黒色シルトがブロック状に混じる灰黄褐色シルト。S B 2 の柱穴 S P 17 と S D 8 を切っている。盛土の上面で確認された遺構で、19世紀代のものと思われる。

18号土坑（S K 18, 第22図, 図版6）

S D 8 と S D 44 に挟まれた所に位置する。平面隅丸方形を呈し、長辺142cm, 短辺112cm, 深さ25cmを測る上坑である。埋土は浅黄色砂・黒色シルトが混じる灰黄褐色シルトで、10cm~20cmの隙間が埋土中位から底にかけて乱雑に入るが、人為的に組まれたような痕跡はない。隙間に混じって越中瀬戸・唐津などの陶器、土鉢（第62図J91）、下駄などの遺物が出土している。他の遺構からやや離れて位置しており、性格は不明である。盛土上面で検出されており、19世紀代のものと考えられる。

19号土坑（S K 19, 第25図）

S K 18 の東側に位置している。平面隅丸方形で、長辺130cm, 短辺83cmを測る。深さ8cmの浅い皿状の土坑である。埋土は黒褐色シルト・暗灰黄色粘質土がレンズ状に堆積している。盛土上面で検出された遺構で、19世紀代と考える。

20号土坑（S K 20, 第22図）

S B 3 の北側に位置する、径86cmの円形上坑。深さは9cmと浅く、埋土は灰黄褐色シルトの単層。伊万里が出土している。S D 44 を切っている。盛土上面で検出されており、19世紀代と考えられる。

22号土坑（S K 22, 第25図）

S B 3 の北側柱列付近に位置するやや歪んだ楕円形の土坑である。長軸104cm, 短軸68cm, 深さ50cmを測る。埋土はにぶい黄色砂質土・黒色粘質土が混じる暗灰黄色砂質シルトの単層である。S D 43 を切っており、盛土上面で検出された。時期は19世紀代と思われる。

23号土坑（S K 23, 第25図）

S B 3 の北西隅付近に位置する。長軸90cm, 短軸78cmを測り、深さ12cmの浅い皿状の土坑で、平面楕円形を呈している。埋土は黒色シルト混じりの黄灰色シルトの単層である。S B 3 の柱穴 S P 36 を切っており、盛土上面で検出されている。19世紀代のものと思われる。

31号土坑（S K 31, 第25図）

S B 3 の南西隅に位置する。S D 2 に切られており、平面形・規模については不明であるが、残存部長85cm、深さ29cmを測る。埋土は暗灰黄色シルト、灰色粘質土の2層である。S B 3 の西側柱列の1間分西に位置し、S K 38・S K 40と列が通ることからS B 3 の庇あるいは拡張部分となり、S B 3 の柱穴である可能性が考えられる。S B 3 との関係から時期は18世紀後半以降と思われる。

32号土坑（S K 32, 第25図）

S B 3 の南西隅付近に位置する楕円形の土坑。長軸37cm, 短軸30cm, 深さ28cmを測る小型の土坑で、埋土は灰白色土混じりの黄灰色シルトである。時期は18世紀~19世紀と思われる。

34号土坑（SK34、第22図）

S B 3 の西側柱列付近に位置する。長軸76cm以上、短軸68cm、深さ20cmを測る楕円形の土坑で、埋土は黒色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルトである。S B 3 の柱穴S P24に切られている。箱状の石製品が出土している。時期は18世紀代と考えられる。

35号土坑（SK35、第22図）

S B 3 の西側柱列付近に位置している。長軸57cm、短軸48cm、深さ15cmを測る小型の楕円形土坑である。埋土は灰白色シルト・黒色シルトが混じる暗灰黄色シルトの単層である。埋土からは唐津・越中丸山（第62図192）が出土している。時期は18世紀～19世紀と思われる。

36号土坑（SK38、第25図）

S B 3 の北西隅に位置する。長軸78cm、短軸46cm、深さ13cmを測る楕円形土坑である。埋土は浅黄色砂・黒色シルト混じりの灰黄色シルトの単層である。SK31と同様にS B 3 の底あるいは、1間拡張部分となり、S B 3 の柱穴である可能性が考えられる。S B 3 の柱穴であった場合、土坑の長軸方向は建物の梁行方向と一致する。時期は18世紀後半以降と思われる。

39号土坑（SK39、第26図）

S B 3 の西側に位置する。長軸150cm、短軸67cm、深さ65cmを測る大型の楕円形土坑である。埋土は浅黄色シルト・黒色シルト・灰白色シルトがブロック状に混じる褐灰色シルトの単層である。SK40を切っており、時期は18世紀～19世紀と思われる。

40号土坑（SK40、第23図、図版7）

S B 3 の西側に位置する楕円形の土坑である。長軸72cm、短軸35cm、深さ35cmを測る。埋土は黒色シルトがブロック状に混じる灰黄色シルト、黒色粘質土の2層である。SK39に切られている。SK31・SK38と同様にS B 3 の底あるいは1間拡張部分にあたり、S B 3 の柱穴である可能性が考えられる。SK40は柱根が残っており、土坑の長軸方向が建物の梁行方向と一致していることからも、柱穴の可能性は高いといえる。時期は18世紀後半以降と考えられる。

41号土坑（SK41、第25図）

S B 3 の西側に位置している。長軸45cm、短軸27cm、深さ19cmを測る小型の楕円形土坑。埋土は灰黄色シルト、黄灰色粘質シルトの2層である。時期は18世紀～19世紀と思われる。

48号土坑（SK48、第23図、図版7）

S B 2 の東側柱列付近に位置する。径約80cmの円形土坑で、深さは6cmと浅い。埋土はオリーブ褐色砂質土で、拳大以下の小礫が乱雜に詰まっている。S B 2 の東側柱列に位置しており、小礫を礎石または根石とした柱穴である可能性が考えられる。⁵³時期は18世紀代と考えられる。

50号土坑（SK50、第25図）

S B 2 の東側柱列付近に位置している。平面楕円形を呈し、長軸50cm、短軸24cm、深さは西側で32cmと一段深くなる小型の土坑である。埋土は黒褐色粘質土混じりの暗灰黄色シルトの単層である。壁土上面で検出しており、19世紀代のものと思われる。

52号土坑（SK52、第25図）

S B 1 の南東隅に位置する、長軸54cm、短軸26cm、深さ23cmを測る楕円形土坑である。埋土はオリーブ黄色砂質シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルトの単層。18世紀～19世紀と思われる。

53号土坑（SK53、第25図）

S B 1 の南東隅付近に位置する。長軸52cm、短軸29cm、深さ35cmの楕円形土坑。埋土は黒褐色粘質

土がブロック状に混じる暗灰黄色シルトである。時期は18世紀～19世紀と思われる。

57号土坑（S K57, 第25図）

S B 1の南側の土坑群に位置する。径64cmの円形土坑で、深さ40cmを測る。埋土は暗灰黄色シルト、にぶい黄色砂質シルトの2層である。盛土上面で検出しており、時期は19世紀代と考えられる。

58号土坑（S K58, 第25図）

S B 2の南側柱列付近に位置する。平面不整形で、S D 8に切られており残存部で長辺145cm、短辺118cm以上、深さ10cmを測る。埋土は暗灰黄色シルトがブロック状に混じる黒褐色粘質土の単層で、浅い皿状に堆積している。時期は18世紀～19世紀と思われる。

60号土坑（S K60, 第25図）

S B 1の南側の土坑群に位置している。長軸178cm、短軸57cm、深さ40cmを測る楕円形土坑である。埋土はにぶい黄色砂質シルト・黒褐色粘質土がブロック状に混じる暗灰黄色シルトの単層。底面の中央や東よりに柱痕が認められ、柱穴となる可能性がある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

62号土坑（S K62, 第25図）

S B 1の南側の土坑群に位置している。試掘トレーナにより半分が削られているが、残存部で長軸95cm、短軸36cm、深さ10cmを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色粘質土がブロック状に混じる暗灰黄色シルトである。18世紀～19世紀のものと思われる。

63号土坑（S K63, 第23図、図版7）

S B 1の南側の土坑群に位置する。平面楕円形を呈し、長軸145cm、短軸58cm、深さ58cmを測る。埋土は淡黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色砂質シルトで、北西隅に柱根が残っている。このことから、柱穴となる可能性が考えられる。時期は18世紀～19世紀と思われる。

65号土坑（S K65, 第25図）

S B 1の南西隅付近に位置している。長軸50cm、短軸25cm、深さ26cmを測る小型の楕円形土坑である。埋土は灰黄褐色シルトの単層。時期は18世紀～19世紀と思われる。

68号土坑（S K68, 第23図）

S B 2の東側柱列付近に位置する。長軸90cm、短軸55cm、深さ53cmを測る楕円形土坑である。埋土は暗灰黄色シルト、浅黄色砂質土、暗灰黄色シルトの3層で、上面に拳大の礫が円状に集積されている。S B 2の東側柱列上に位置しており、S K48と同様に集積された礫が礫石または柱の根石となる柱穴の可能性が考えられる。しかしながら、S B 2の柱穴 S P 105を切っており、盛土上面で検出されていることからS B 2に伴う柱穴であるのかについては不明である。出土遺物には近世陶器片がある。時期は19世紀代かと思われる。

69号土坑（S K69, 第25図、図版7）

S B 1の東側柱列付近に位置する。長軸90cm、短軸60cm、深さ30cmを測る楕円形土坑。埋土は浅黄色シルト・黒色シルトが混じる暗灰黄色シルトの単層で、柱痕がみられ、柱穴となる可能性がある。時期は18世紀～19世紀と考えられる。

70号土坑（S K70, 第25図）

調査区北辺に位置し排水溝に切られるが、径40cmの円形を呈すると思われる。深さは46cmを測り、埋土は浅黄色砂・黒色シルトが混じる暗灰黄色シルトの単層。時期は18世紀～19世紀と思われる。

71号土坑（S K71, 第26図）

S B 1の南西隅付近に位置する。長軸132cm、短軸67cm、深さ60cmを測る楕円形土坑である。埋土

は黒色シルト混じりの灰黄褐色シルトの単層で、南側が一段深くなる。盛土上面で検出しており、時期は19世紀代と考えられる。

73号土坑（S K73, 第25図）

S B 1 の南西隅付近に位置する。S K74・S K99に切られているが、残存部で長軸62cm、短軸50cm、深さ34cmを測る楕円形土坑である。底面に20cm代の礫が2つ入っている。埋土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。時期は18世紀～19世紀と思われる。

74号土坑（S K74, 第26図）

S B 1 の南西隅付近に位置している。長軸123cm、短軸80cm、深さ54cmを測る楕円形土坑である。埋土は浅黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルトの単層。S K73・S K76を切っている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

75号土坑（S K75, 第23図）

S B 1 の南西隅付近に位置する。径36cmほどの円形土坑で、深さは18cmを測る。埋土は暗灰黄色シルトの単層。底面に10cm～15cmの礫が詰め込まれたような状態で入り、柱の根石等になり、柱穴となる可能性がある。越中瀬戸の皿（第62図188）が出上している。時期は18世紀～19世紀と考える。

77号土坑（S K77, 第25図）

S B 1 の南西隅付近に位置する。長辺76cm、短辺54cm、深さ40cmを測る平面不整形の土坑である。埋土は浅黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる灰黄褐色シルト。北側に柱根が残り、柱穴になる可能性がある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

79号土坑（S K79, 第26図）

S B 1 の南側柱列付近に位置する。長軸70cm、短軸45cm、深さ39cmを測る楕円形土坑である。埋土は黒色シルト混じりの黄灰色シルトの単層。盛土上面で検出しており、19世紀代と考えられる。

82号土坑（S K82, 第26図）

S B 1 の西側柱列付近に位置している。長軸117cm、短軸69cm、深さ72cmを測り、平面楕円形を呈する。埋土は浅黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルト、黄灰色粘質土の2層で、南側が一段深くなる。S D84に切られている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

83号土坑（S K83, 第23図）

S B 1 の西側柱列付近に位置する。長軸140cm、短軸72cm、深さ48cmを測る楕円形土坑である。埋土は淡黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる灰黄褐色シルトの単層で、北側が一段深くなる。埋土から伊万里が出土している。S D85に切られている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

87号土坑（S K87, 第26図）

S B 1 の西側柱列付近に位置する。長軸70cm、短軸53cm、深さ75cmを測る楕円形土坑である。埋土は淡黄色シルト・黒色シルトがブロック状に混じる灰黄褐色シルトの単層。S D85に切られている。時期は18世紀～19世紀と考えられる。

89号土坑（S K89, 第26図）

S B 2 の西側柱列付近に位置する。長軸80cm、短軸36cm、深さ25cmを測り、楕円形を呈する。埋土は黒色シルト混じりの暗灰黄色シルト、褐灰色砂質土の2層。時期は18世紀～19世紀と考える。

90号土坑（S K90, 第24図）

S B 2 の西側柱列に位置し、135cm×115cm、深さ60cmを測る平面不整形の土坑。S B 2 の柱穴S P91に切られる。埋土は褐灰色シルト、浅黄色砂質土、浅黄色砂質土・黒褐色シルト混じりの褐灰色シ

ルト、オリーブ黄色砂質土上、黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。時期は18世紀代と考える。

93号土坑（S K93, 第23図）

S B 2の西側に位置する。長辺260cm、短辺182cm、深さ30cmを測る平面不整形の土坑である。埋土は浅黄色シルトがブロック状に混じる暗灰黄色シルトの単層で、底面は平坦である。S D56を切っている。埋土から伊万里・唐津・瀬戸・近世陶磁器の他、ガラス片などが出土しており、19世紀以降のゴミ捨て穴の可能性がある。

94号土坑（S K94, 第26図）

S B 2の西側に位置する。S D56に切られており残存部で長辺55cm、短辺26cm、深さ25cmを測る。埋土は浅黄色シルト・黒色シルト混じりの暗灰黄色シルトの単層。18世紀～19世紀と思われる。

95号土坑（S K95, 第26図）

S B 2の西側に位置し、S K94と並ぶ。S D56に切られており残存部で長辺33cm、短辺28cm、深さ31cmを測る。埋土はオリーブ褐色シルト。時期は18世紀～19世紀と思われる。

97号土坑（S K97, 第26図）

S B 2の西側柱列付近に位置する。長辺75cm、短辺53cm、深さ28cmを測る平面不整形の土坑である。埋土は黒色シルト混じりの暗灰黄色シルトの単層。S B 2の柱穴S P96、S E102に切られている。時期は18世紀代と思われる。

98号土坑（S K98, 第23図）

S B 2の西側に位置する。長軸67cm、短軸53cm、深さ22cmを測る楕円形土坑である。埋土は暗灰黄色シルト、黒褐色シルトの2層で、埋土上面に径3cmほどの小礫が乗る。埋土から瓦質土器（第62図190）が出土している。S D56・S D101を切っており、時期は19世紀代と思われる。

107号土坑（S K107, 第26図）

S D 2の南側に位置する。長軸65cm、短軸43cm、深さ31cmを測る楕円形土坑。埋土は黒色シルトがブロック状に混じる灰黄色砂質シルトの単層である。盛土の範囲外であるが、他の遺構よりも若干高い位置から掘り込まれており、19世紀代と思われる。

108号土坑（S K108, 第26図）

S D 2の南側に位置する楕円形土坑。長軸88cm、短軸42cm、深さ30cmを測る。埋土は灰オリーブ色砂質シルトの単層。S K107と同様に掘り込み面がやや上にあり、時期は19世紀代と思われる。

111号土坑（S K111, 第26図）

S D 2の南側に位置し、排水溝に切られており残存部は長辺81cm、短辺47cm、深さ44cm。埋土は灰オリーブ色シルトの単層。S K107と同様に掘り込み面がやや上にあり、19世紀代と考える。

113号土坑（S K113, 第26図）

S D 2の南側に位置する。長軸100cm、短軸37cm、深さ30cmを測る楕円形土坑。埋土はオリーブ黄色シルト、黒褐色粘質土の2層で、東側が一段深くなる。S D110を切っている。S K107と同様に掘り込み面が上にあり、19世紀代のものと思われる。

114号土坑（S K114, 第24図）

S B 2の西側、溝群の中に位置する。92cm×85cmのやや歪んだ円形土坑で、深さは44cmを測る。埋土はオリーブ褐色シルト、オリーブ黄色砂質土の2層。埋土からは近世磁器（第62図189）が出土している。S D 3を切っており、18世紀～19世紀のものと思われる。

115号土坑（SK115、第24図）

S B 2 の西側、溝群の中に位置している。長軸153cm、短軸85cm、深さ28cmを測る楕円形土坑。埋土は暗灰黄色シルトの単層で、炭化物が混じる。底面からは拳大以上の礫が投げ込まれたような状態で出土し、やや西側に偏って検出した。また、碟に混じって伊万里・唐津・瀬戸・近世磁器（第62図183-185）が出土している。S D 3・S D 104を切っており、時期は18世紀～19世紀と考えられる。

116号土坑（SK116、第24図）

S B 2 の西側、溝群中に位置する。長軸85cm、短軸60cm、深さ45cmを測る楕円形土坑。埋土は暗灰黄色シルト、浅黄色砂がブロック状に混じる黄灰色砂質シルト、灰黄褐色粘質土がレンズ状に堆積し、1層と2層の間に5cm～8cmの厚さで炭化物層が入る。焼土等は検出されておらず性格は不明である。出土遺物は底板（円形板、第77図618）がある。S D 3を切っており、18世紀～19世紀と思われる。

117号土坑（SK117、第26図）

X 55Y 85付近に位置する。長軸107cm、短軸64cm、深さ10cmの楕円形土坑である。埋土は黒色シルトがブロック状に混じる灰黄色砂質シルトの単層。時期は19世紀代と思われる。

119号土坑（SK119、第26図）

S B 2 の西側、溝群中に位置する。62cm×53cmの平んだ円形土坑で、深さ14cmを測る。埋土にはぶい黄色砂質土混じりの黒褐色シルト。S D 28を切っており、時期は18世紀～19世紀と考える。

120号土坑（SK120、第24図）

S B 2 の西側、溝群中に位置する。362cm×195cm、深さ30cmを測る平面不整形の土坑である。埋土は径3cm～5cmほどの小礫混じりの暗灰黄色砂質シルトの単層で、炭化物粒が混じる。出土遺物には伊万里・唐津・瀬戸・珠洲（第62図186・187）がある。S D 28を切っており、時期は18世紀～19世紀と思われる。

121号土坑（SK121、第26図）

X 45Y 67付近に位置する。長辺327cm、短辺105cm、深さ14cmを測る平面不整形の土坑。埋土にはぶい黄褐色シルトの単層で、炭化物粒を含む。1基だけ離れて位置し、時期・性格は不明である。

123号土坑（SK123、第26図）

X 41Y 80付近に位置する。径40cmの円形土坑で、深さは6cmを測る。埋土は灰白色シルト混じりのぶい黄色シルト。1基のみ離れて位置し、時期・性格は不明である。

129号土坑（SK129、第24図）

S B 1 の南側土坑群に位置している。長軸145cm、短軸63cm、深さ43cmを測る楕円形土坑。埋土は浅黄色シルト・黒褐色シルトがブロック状に混じる黄灰色砂質シルトの単層。柱痕が残り、柱穴になる可能性がある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

130号土坑（SK130、第24図）

S B 2 の東側柱列付近に位置し、排水溝に切られる。残存部で長軸82cm、短軸20cm、深さ18cmを測る楕円形土坑。埋土は浅黄色砂質土・黒褐色シルト混じりの黄褐色シルト、灰オーリーブ色シルトの2層で、埋土上面に径15cm位の礫が160cm×40cmの範囲で集積される。時期は18世紀～19世紀か。

138号土坑（SK138、第26図）

X 62Y 73付近に位置する。長軸150cm、短軸97cm、深さ28cmを測る楕円形土坑。埋土は黒褐色砂質土の単層。時期・性格ともに不明である。

139号土坑（S K139、第24図）

S B 2 の西側柱列付近に位置する。長軸97cm、短軸52cm、深さ65cmの梢円形土坑である。埋土は浅黄色砂質土・黒褐色シルト混じりの褐灰色シルトの単層。S B 2 の柱穴 S P91を切っており、18世紀～19世紀のものと思われる。

140号土坑（S K140、第26図）

S B 2 の西側柱列付近に位置する。80cm×75cmの平面不整形土坑で、深さ26cmを測る。埋土は浅黄色砂質土・黒褐色シルトが混じる褐灰色シルトの単層。時期は18世紀～19世紀と思われる。

142号土坑（S K142、第23図、図版7）

S B 2 の南西隅に位置する。長軸155cm、短軸104cm、深さ61cmを測る梢円形土坑。南端に底を抜いた桶が埋め込まれており、桶外側の埋土は浅黄色砂質土・黒褐色粘質土がブロック状に混じる褐灰色シルト、オリーブ灰色砂質土で、内側は褐灰色シルト、にぶい黄色砂質土、灰オリーブ色粘質土、黒褐色粘質土となる。これは、穴を掘った後、桶を据えて北側半分を埋め戻したためと思われる。S B 2 の柱穴 S P55を切っているが、S B 2 に伴う遺構と考えられ、底を抜いた桶（第78図624）が使用されていることなどから便所跡ではないかと想定している。時期は18世紀代と考える。

144号土坑（S K144、第26図）

S D 2 の東側に位置する。長辺140cm、短辺120cm、深さ17cmを測る方形土坑。埋土は褐灰色シルトの単層。底面が波打つ浅い土坑で、風倒木痕の可能性もあり時期・性格は不明である。

溝

1号溝（S D 1、第27図、図版8）

調査区の東西を横断する幅3.8mの溝で、埋土は灰黄褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルト・暗オリーブ褐色砂質シルトである。出土遺物は伊万里・唐津・瀬戸・越中瀬戸・近世陶磁器、釘、加工板（第60図145～159）などがある。S D 2 が埋まつた後に重複して流れしており、ほ場整備以前の昭和20年代の地籍図¹¹⁾に記された水路の位置と一致することなどから、19世紀以降現代まで続く水路の可能性が考えられる。

2号溝（S D 2、第27図、図版8）

調査区北東隅の遺構群を囲むように「L」字状に曲がる幅2.4mの溝で、東西方向に曲がった部分からはS D 1 に切られている。遺構の大半はS D 2 に囲まれた内側で検出されており、近世の屋敷地を区画する区画溝と考えられる。出土遺物には伊万里・唐津・瀬戸・越中瀬戸・珠洲、木箱・加工板（第61図164～166）などがある。時期は18世紀～19世紀と考えられる。

3号溝（S D 3、第27図、図版8）

S B 2 の西側溝群のはば中央に位置し、「L」字状に曲がる幅1.6mの溝である。2本の溝が合流したように底部が2つに分かれしており、ある程度埋まつた後に再び一定量の水量があり、その後埋まつたと考えられる。埋土には枝状の植物遺体が多く含まれ一部でレンズ状に堆積する。唐津・越中瀬戸・瓦質土器など（第61図167～169）が出土している。S D 2 ・S D 4 ・S D 5 などに切られており、溝群の中では古手のものと思われる。S B 1 ・S B 2 に伴う区画溝と考えられ、17世紀～18世紀代の時期を想定している。

4号溝（S D 4、第27図、図版8）

溝群の東端に位置する南北方向の最大幅1.8mを測る溝で、S D 1 に切られている。北から南に向かって広くなり、南側を中心に、底面に木皮が敷かれたような状態で検出された。編み物など人の手

が加わった痕跡は認められず、木の皮をそのまま剥いだものである。出土遺物には伊万里・唐津・瀬戸がある。盛土上面で検出されており、19世紀代のものと考えられる。

5号溝 (SD 5, 第27図)

溝群の南端付近を東西に横切る幅60cmの溝。SD 4に切られているが、SD 3・SD 6・SD 28・SD 118を切っており、溝群の中では新しい時期のものである。近世陶器が出土している。時期は18世紀～19世紀と思われる。

6号溝 (SD 6, 第27図)

溝群の南西隅付近に位置し、幅80cm、深さ7cmを測る南北溝。時期は18世紀～19世紀と考える。

7号溝 (SD 7, 第27図)

溝群の南端付近に位置する幅40cmの南北溝で、SD 2・SD 4に切られており、SD 3を切っている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

8号溝 (SD 8, 第27図)

S B 2の南側に位置する幅60cmの東西溝。SK 13・SK 16・SP 17に切られており、SK 58を切っている。時期は18世紀～19世紀と考えられる。

9号溝 (SD 9, 第27図)

溝群の東端付近に位置する幅1.3mの南北溝。SD 4・SD 27・SD 101に切られている。SD 4に切られる付近でゆるく東に曲がっており、「L」字状に曲がってSD 43と一続きの溝になる可能性がある。出土遺物には瀬戸（第61図170）がある。時期は17世紀～18世紀代と思われる。

10号溝 (SD 10, 第28図)

溝群の西端付近に位置する幅1mの南北溝で、SD 2・SD 118を切ってゆるく西へカーブしている。出土遺物には伊万里・唐津・珠洲、加工板、砥石（第61図171・第91図909）がある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

25号溝 (SD 25, 第28図)

溝群の東端付近に位置する幅35cmの南北溝。SD 9に切られている。時期は18世紀～19世紀。

26号溝 (SD 26, 第28図)

溝群の中央付近に位置する幅40cm、深さ8cmを測る小規模な南北溝。時期は18世紀～19世紀。

27号溝 (SD 27, 第28図)

溝群の中央付近の幅93cmを測る東西溝。SD 3・SD 4に切られており、SD 9を切る。出土遺物に漆器椀（第76図613）がある。時期は17世紀～18世紀代と思われる。

28号溝 (SD 28, 第28図)

溝群の中央付近に位置する幅1.3mの南北溝。SD 5・SD 118・SK 106・SK 119・SK 120に切られている。埋土は暗灰黄色シルト、黒褐色粘質土の2層で、ある程度埋まった後に、再び水が流れその後一気に埋まったと考えられる。出土遺物は多く伊万里・唐津・瀬戸・越中瀬戸・珠洲、漆器椀・箸・加工板、硯（第61図172～177・第76図611・第91図903）などがある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

43号溝 (SD 43, 第28図)

S B 3の北側に位置する幅60cmの東西溝。SD 4・SK 22に切られている。SD 9と一続きの溝になる可能性がある。唐津、打製石斧（第56図10・第61図178・179）が出土している。打製石斧は、SD 43が下層の包含層を掘り込んでいるため、下層の遺物が混ざり込んだと思われる。時期は17世紀

～18世紀代と思われる。

44号溝（S D44, 第28図）

S B 3 の北側に位置する幅1.2mの東西溝で、S D 4・S K20に切られている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

56号溝（S D56, 第28図）

S B 2 の西側に位置する幅1.2mの南北溝。S K93・S K98・S D101・S E102に切られており、S K94・S K95を切っている。出土遺物には伊万里・唐津・越中瀬戸・近世陶磁器、釘状の金属製品などがある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

84号溝（S D84, 第28図）

S B 1 の南西隅付近に位置する幅32cmの東西溝。S K82を切る。時期は18世紀～19世紀か。

85号溝（S D85, 第28図）

S B 1 の西側に位置する南北溝。幅22cm、深さ6cmの深い溝で、S K83・S K87・S D100を切る。時期は19世紀代と思われる。

101号溝（S D101, 第28図）

S B 2 の西側に位置する幅44cmの東西溝。S K98に切られており、S D 4・S D 9・S D56を切っている。時期は19世紀代と思われる。

104号溝（S D104, 第28図）

溝群の中央付近に位置する幅40cmの南北溝。S K115に切られている。南側は広く浅くなっている。S D 3 に流れ込んでおり S D 3 を切っている。時期は18世紀～19世紀と思われる。

110号溝（S D110, 第28図）

S D 1 の南側に位置する幅40cmの南北溝。S D 1・S K113に切られている。盛土の範囲外であるが、遺構が若干高い面より掘り込まれており、時期は19世紀代と思われる。

118号溝（S D118, 第28図）

溝群の西端付近に位置する幅2.6mの南北溝。S D 2・S D 5・S D10に切られており、S D28を切っている。埋土は底面付近に枝状の植物遺体を多く含んでいる。出土遺物には伊万里・唐津・越中瀬戸などがある。時期は18世紀～19世紀と思われる。

122号溝（S D122, 第28図）

X48の南側に位置する幅47cmの東西溝。他の遺構から離れて位置しており、時期は不明であるが、昭和20年代の地籍図に記された水路または水田境と一致することから現代の水路等の可能性がある。

(今三津道子)

注1 河西健二 1994 「第IV章 まとめ 3 中世末から近世の建物」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』 財團法人富山県文化振興財團

注2 越前慎子 2000 「第V章考察 4 地崎遺跡における若干の考察」『開辟大堤遺跡・地崎遺跡発掘調査報告』 財團法人富山県文化振興財團

注3 近世掘立柱建物の柱穴に根固め、礎石と思われる朱石を持つ柱穴・土坑の例がみられる。

財團法人富山県文化振興財團 1996 『梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・山尻遺跡発掘調査報告』
2000 『開辟大堤遺跡・地崎遺跡発掘調査報告』

注4 福岡町 1969 『福岡町史』

江尻周辺のは場整備は昭和26年に開始され、昭和44年にはほぼ完了している。地籍図はは場整備以前のもので、昭和20年代前半頃のもの。

②B地区

B地区での検出遺構としては近世の建物跡18棟（うち1棟はA地区と同一のもの）、石組井戸、土坑、溝などがある。建物跡には楕円柱穴を有する掘立柱建物と、これに時期的に後出する土台建物がある。またA地区的北東部でみられた近世以降の整地盛土層がB1地区にも続いており、大溝で区画された北東側に広がりをみせる。この上面において建物跡の基礎と思われる遺構が検出されており、近代の屋敷地跡と考えられる。この整地盛土層を掘削・除去すると近世の遺構面となる。過半の遺構が縄文谷S D131の黒褐色砂粘質土の上面で検出されるが、谷の右岸側付近では淡黄褐色砂質土が地山となり、さらに南端の一部では礫層が露出する部分もみられる。これらの部分では弥生時代以降の遺構が一面で重複して検出される。また後世の宅地によって擾乱されている部分も多く、遺構面自体はやや荒れた状況にある。B2地区はほぼ縄文谷S D131の範囲におさまる、主に溝状遺構が多く検出されている。B地区の記述では一応B1地区とB2地区に分けて行うこととする。

B1地区

建物

4号建物（SB4、第30・31図）

北壁中央付近に位置する掘立柱建物で、建物自体はさらに北側にのびる。現状で1間×3間以上が検出されている。桁行5.2m以上、梁行8.4m、床面積43.7m²以上の規模。建物の主軸方位はN-13°-Wで、やや西に振れる建物方位を有す。…応南北棟建物と考えておく。柱穴形態は円形と楕円形が混在する。柱穴の大きさは、楕円形の大きなもの（SP339）で長径0.9m、短径0.5m、深さ0.23m。円形の小さなものの（SP376）で径0.55m、深さ0.26m程度の規模。柱根痕跡は認められない。遺物の出土も稀少で、SP340から唐津の小片が出土している程度である。柱穴形態や建物方位から、最先行期の建物のひとつと捉えている。

5号建物（SB5、第30・31図）

SB4の東側に隣接して位置する掘立柱建物で、SB4と同様建物自体は調査区のさらに北側にのびている。SB4との重複もなく、同時期併存の建物と考えられる。現状で1間×3間以上が検出される。桁行7.6m以上、梁行8m、床面積60.7m²以上。建物の主軸方位はN-16°-Wで、ほとんどSB4の建物方位と同じである。柱列が確認できるのは梁行だけで、柱穴形態は楕円形と円形の混在型である。桁行方向には柱穴を確認することができず、掘立柱式以外の柱列構造が予測される。柱穴は大型楕円形のSP429が長径0.94m、短径0.55m、深さ0.04m、小型円形のSP415が長径0.79m、短径0.65m、深さ0.37mの規模である。柱穴内からの出土遺物は認められないが、柱穴形態、建物方位からSB4と同様最先行期の建物のひとつと考えている。

6号建物（SB6、第30・32図）

SB5の南側に重複はないものの接して位置する建物。1間×1間の小規模な掘立柱建物である。桁行3.2m、梁行2.4m、床面積7.7m²の規模。建物の主軸方位はSB5と同じN-16°-Wである。柱穴規模はSP267で長径1.19m、短径0.72m、深さ0.48m。出土遺物はないが、時期はSB4・SB5と同時期と考えられる。単独所在の住居棟建物ではなく、納屋などの補助的小屋、ないしはSB5に付設された小屋などの機能が想定される。

7号建物（SB7、第30・32図）

SB5・SB6の南側数m離れて位置する2棟の建物のひとつ。建物自体はさらに南側へとのびる。現状で3間×2間以上が検出される。桁行6.4m以上、梁行5.2m、床面積33.3m²以上の規模を有す。

建物の主軸方位N-8°-Wの南北棟の建物である。柱穴形態は楕円形、円形の混在型と考えられる。柱穴は概ね長径0.7m、短径0.4m、深さ0.2m～0.3mの規模。S P 369から唐津の小片が出土している。またS P 387からは、側面に納穴を有する柱（第85図682）が出土している。建物方位はS B 4～S B 6とやや異なるものの、最先行期の建物群に含めて考えておく。

8号建物（S B 8、第30・32図）

S B 7と一部柱列が重複して検出された掘立柱建物。建物自体はさらに南側の調査地区外へとのびている。現状で2間×3間以上が検出される。桁行6m以上、梁行6.8m、床面積40.8m²以上の規模を有す。建物の主軸方位はN-8°-Wで南北棟の建物。主軸方位はS B 7と同じである。柱穴形態は楕円形、円形の混在型。柱穴は大型楕円形のS P 386で長径0.75m、短径0.64m、深さ0.4m、小型円形のS P 486で径0.6m、深さ0.14mの規模である。柱根痕跡のみられるものはないが、S P 386から伊万里の小片が出土している。先後関係は明確ではないものの、S B 7とS B 8はどちらかが一方の建て替えと考えられよう。時刻はやはり最先行期と考えておく。

9号建物（S B 9、第30・33図）

調査区中央やや西よりで、S B 10と重複しこれに直交する方向で検出された掘立柱建物。これまでの建物が南北棟基調だったのに対し、この建物は東西棟の建物方位を有する。桁行3間（10m）×梁行2間（7.2m）、床面積72m²の規模。建物の主軸方位はN-86°-W。柱穴は一応楕円形・円形混在型であるが、楕円柱穴の形態がかなり明確に整ってきている。この建物の楕円柱穴は、例えば梁行中央に位置するS P 487のようなものでも、梁行方向に直交し、桁行方向に向いた長軸方位を有している。柱穴規模は、例えばS P 330では長径1.34m、短径0.77m、深さ0.39m、S P 441では長径1.03m、短径0.67m、深さ0.22mの規模を有する。S P 441から柱が出土した。またS P 233から唐津の陶胎染付の椀の破片（第66図290）が、S P 400から蛇の目凹高台を有する伊万里の磁器染付の鉢（第67図322）が出土した。S B 4～S B 8の建物群より後出する時期が想定される。

10号建物（S B 10、第30・33図）

S B 9と位置的に重複し、これと直交する棟方向を有する掘立柱建物。こちらの建物は南北棟の棟方向を有す。西側の桁行に沿って補助屋と考えられる張り出しが1間分付設される。母屋部分は、桁行2間（10.7m）×梁行1間（7.2m）、床面積77.8m²の規模である。補助屋部分は8.4m×2m、床面積16.8m²の規模。両者を合わせた建物占有面積は94.6m²である。建物の主軸方位はN-7°-Eで、ほぼ真北方位の棟方向である。柱穴形態では、まず母屋部分の柱穴は明確に楕円柱穴のみで構成されている。これに対し補助屋部分は楕円柱穴と円形柱穴が混在する。補助屋部分は柱穴の配置にバラツキがあり、何回か増改築された可能性が高い。母屋部分での柱穴規模はS P 333で長軸1.32m、短軸0.62m、深さ0.34m、S P 490で長軸1.67m、短軸0.84m、深さ0.18m。補助屋部分の柱穴では、例えば楕円柱穴のS P 307では長軸1.02m、短軸0.61m、深さ0.44m、円形柱穴のS P 465では径0.5m、深さ0.45mの規模を有す。柱穴からの出土遺物では、S P 301から柱（第86図688）が、S P 231からは瀬戸の小片が、S P 465からは越中瀬戸の小片が出土している。詳細時期の検討は第V章総括にゆずるが、S B 10については、一応S B 9に後出し、これを建て替えた建物と考えておく。

11号建物（S B 11、第30・32図）

調査地区的東端付近に位置する掘立柱建物。S B 5～S B 7と位置的に重複し、これに後出する時期の建物。一応南北棟の建物と考えるが、ほぼ方形の平面プランである。梁行南側の柱列に1間分の張り出しがみられ、S B 10と同様の補助屋と考えられる。母屋部分は桁行2間（6.8m）×梁行2間

(6.4m), 床面積43.5m²の規模。補助屋部分は3.2m×1.2m, 3.8m²の規模。合計で47.3m²の建物占有面積となる。建物の主軸方位はN-8°-Eの方位をとる。柱穴形態は基本的に楕円柱穴と考えられる。柱穴規模は、例えば梁行南側中央のS P 264では長径1.64m, 短径0.8m, 深さ0.24mの楕円柱穴、桁行西柱列中央のS P 428では長径2.04m, 短径0.7m, 深さ0.34mの楕円柱穴である。補助屋部分では例えばS P 332では径0.8m, 深さ0.62mの円形形態となる。これらの柱穴に柱根痕跡がみられるものはない。S P 272からは2点の越中瀬戸（第67図307・308）が出土している。また建物の東側に接して位置するS X 461・S X 463もS B 11の付帯施設であった可能性がある。これはこのS B 11の建て替えと考えられる土台建物S B 18にも同じ様な土坑状施設が伴っており、内部に備の底板が残存することから、この部分にS B 18のトイレ施設が想定されることに起因する。とくにS X 463の一段落ち窪んだ円形の部分は、次の土台建物期のトイレ遺構と考えられるS K 269出土の桶の底板の大きさと一致している。なおS B 11の時期については掘立柱建物のなかで最後出する時期に比定できる。本遺跡ではこれが掘立柱建物の最後の段階であり、次段階の建物構造は土台建物に変化するものと考える。

12号建物（S B 12, 第30・34図, 図版14)

S B 11の西側5m程離れて位置する南北棟の大型建物で、S B 11とS B 12の梁行北側柱列が一直線に揃う他、棟方向も同一であり、両者は接して所在する同時期併存の建物と考えている。S B 12はさらに、後述のように桁行西側柱列の南西側に接して小規模な納屋的建物1棟（S B 13）を伴う。またS B 12の北側に近接して位置する石組井戸S E 456も、この建物に伴う井戸と考えている。建物の柱列配置は変形した総柱風の不均等配置のもの。桁行・梁行とも内部を間仕切る柱列がみられる。また梁行北柱列にも庇状の1間分の張り出しがみられる。一応桁行4間（14.4m）×梁行2間（7.2m）、床面積103.7m²の建物規模と考えておく。建物の棟方向はN-6°-Eの主軸方位をとる。柱穴は楕円形・円形混在型である。柱穴規模は、例えば楕円柱穴S P 338では長径1.03m, 短径0.31m, 深さ0.27m、楕円柱穴S P 344では長径1.03m, 短径0.48m, 深さ0.6m、楕円柱穴S P 390では長径1.01m, 短径0.72m, 深さ0.25mの規模である。この建物の柱穴には比較的多くの柱根が残存している。柱根はS P 337（第86図685）、S P 344（第86図689）、S P 352（第88図696）、S P 365（第88図695）、S P 390（第85図681）から出土している。柱根以外ではS P 273から磁器染付の小片が、S P 344から唐津の小片が、S P 353から越中瀬戸の小皿（第67図311）が、S P 374から瀬戸の小片が出土する。建物の時期はS B 11と同様、掘立柱建物の最後出段階の建物と考える。

13号建物（S B 13, 第30・34図, 図版14)

S B 12の桁行西柱列の南西側に接して位置する小規模な南北棟の掘立柱建物。納屋などS B 12の付属屋と考えられる。同様の事例は、後述のS B 14・S B 15でもみられる。桁行2間（4.8m）、梁行1間（3.2m）、建物の床面積15.4m²の規模。建物の棟方向は、N-6°-W。柱穴は大小のバラツキはあるが、基本的に楕円柱穴で構成される。柱穴規模は、楕円形態のS P 335で長径0.88m, 短径0.45m, 深さ0.22m、同じく楕円形態のS P 335で長径1.07m, 短径0.55m, 深さ0.35mを測る。柱根はS P 336から出土している（第86図686）。その他の出土遺物はなし。

14号建物（S B 14, 第30・35図, 図版14)

S B 12・S B 13の西側に隣接する2棟の建物のうちの人型建物。南北棟の棟方向を有す。建物の柱列配置はS B 12に類似し、建物の主軸に沿って内部を二つに間仕切るような柱列がみられ、一見総柱風の柱穴配置となる。但しS B 12北梁行のような1間分の張り出しあり、建物に直接付設される補助屋はみられない。建物の主軸方位はN-4°-W。桁行4間（14.4m）×梁行2間（10.4m）、床面積149.8m²

の規模を有す。柱穴は楕円柱穴・円形柱穴混在型で、柱穴規模にも大小のバラツキがある。柱穴規模は例えば楕円柱穴 S P 302では長径1.45m, 短径0.62m, 深さ0.35m, 同じく楕円柱穴 S P 409では長径1.58m, 短径0.53m, 深さ0.05mを測る。後世の擾乱が激しいため、柱穴の残りが絶じてよくない。柱根の出土する柱穴もみられない。陶磁器類では S P 237から伊万里や瀬戸の磁器焼付が、S P 409から越中丸山の施釉陶器（第67図315）が出土している。建物配置からみて S B 13・S B 14と同時期併存と考える。最終段階の掘立柱建物と考えている。

15号建物（S B 15, 第30・35図, 図版14）

S B 14の桁行西柱列に接する小規模な南北棟の掘立柱建物。S B 12・S B 13の組み合わせに例えればS B 13に相当する。建物の主軸方位はN-5°-W。桁行2間（5.6m）×梁行1間（3.2m）、床面積17.9m²の規模である。柱穴は楕円柱穴のみで構成される。柱穴規模は、例えば隅丸円形柱穴のS P 322では径0.6~0.8m, 深さ0.17m, 楕円柱穴 S P 313では長径0.94m, 短径0.72m, 深さ0.15mを測る。柱穴内からの柱根の出土はみられない。土器・陶磁器類では S P 243から越中瀬戸の指鉢（第66図291）が出土している。建物時期は S B 12~S B 14と同時期と考える。

18号建物（S B 18, 第36図）

本建物は掘立柱式ではなく土台建物の形式と考えている。建物規模や構造は遺構の痕跡に乏しく不明な点が多いが、整地盛土の痕跡範囲や区画溝、土坑などの広がり、先行する掘立柱建物の配置や規模などを手掛かりとして、土台建物を推定復元した。このうちS B 18は調査地区の東端付近にあり、S B 11にはば重複する位置にある建物で、S B 11の建て替えと考えられる。S B 18の場合、S K 269を建物の東辺、S D 293・S D 295で区画される範囲を北・西辺、東西に細長いS K 268を南辺に、これに囲まれた部分に建物の本体を想定した。建物の規模は一応桁行8m、梁行7.6m、床面積60.8m²と考えておく。棟方向は南北棟とし、建物の主軸方位はN-5°-Wをとる。建物の中央部分に不整形な土坑状の落ち込みが浅く広がっており、この部分の上層が大きく反転されていた。この土層を削削・除去してはじめて掘立柱建物 S B 11の柱穴が確認できたこともあり、S B 11廃絶後、S B 18の建築時に土層の入れ替えと整地作業を行っているものと判断できる。なおS B 18に隣接してS K 269が所在する。S K 269の底面からは桶の底板（第84図678）が出土しており、S B 18に付設されたトイレ遺構の可能性が考えられる。このことからもS B 11とS B 18は、建物の形式が掘立柱式、土台式と異なりながらも、建物配置や規模、付設されるトイレ遺構の位置など、きわめて相似した様相を呈していることになる。S B 18をS B 11の建て替えと考える所以でもある。

19号建物（S B 19, 第36図）

本建物もS B 18と同様に土台建物と考えられる。このため柱穴などが直接確認できないが、「L」字状に屈曲するS D 289と、東西方向にのびる小溝S D 290およびS K 261・S K 262で囲まれる部分を建物範囲と考えた。この建物範囲の内部にはS K 259・S K 261・S K 262などがあり、土台建物の何らかの付帯施設の可能性もある。S B 19は先行するS B 12の建て替えと考えられるが、建物の棟方向は90°直交しており、東西棟となっている。建物の主軸方位はN-84°-Eをとる。建物規模は一応桁行12m、梁行8.4m、床面積60.8m²と考えておく。S B 18のようにトイレ遺構などの外部施設は伴っていないが、S D 288・S D 297・S D 291によって東・北・西の三方が区画され、概ね東西40数m、南北50数mが屋敷地の範囲として認識される。

柱穴**231号柱穴 (S P231, 第38図)**

S B10の西梁行中央やや北側に位置する柱穴。大型の楕円土坑の中心に小柱穴がみられる。母屋建物の柱穴ではなく、補助屋の柱穴である。長径3.07m、短径2.17m、深さ0.2mの規模。小柱穴は径0.4mの円形。埋土は褐灰色砂粘質土である。瀬戸の小片が出土。

233号柱穴 (S P233, 第38図)

S B9の北西角の柱穴で、S B10のS P231と一部重複し、これに切り込まれる。このことからS B9がS B10に先行する時期の建物であることがわかる。柱穴形態は楕円形で、長径2.27m、短径1.29m、深さ0.2m。埋土は灰白色砂粘質土である。唐津の小片が出土。

267号柱穴 (S P267, 第43図)

小型建物S B6の南西角の柱穴。平面形態は楕円形で、長径1.28m、短径0.57m、深さ0.48m。埋土は黄灰色土・褐灰色土・黒褐色土がブロックで混在する。柱穴を埋める際に混ぜられたのである。本遺跡の柱穴や土坑では、このようなブロック土の混在がしばしば観察される。出土遺物なし。

271号柱穴 (S P271, 第43図)

S B11北東角の柱穴で、東西に長いやや不整形な楕円形を呈す。長径0.8m、短径0.38m、深さ0.17mの規模。埋土は褐灰色土に黄褐色土・黒褐色土が霜降状に混じる。出土遺物なし。

301号柱穴 (S P301, 第40図, 図版17)

S B10のS P231の西側に対置する柱穴で、S P231と同様の補助屋の柱穴と考えられる。柱穴の形態は楕円形で、長径1.07m、短径0.44m、深さ0.23mの規模。埋土は黒褐色砂粘質土を基調とする。柱穴内の西隅から柱が据え置かれた状態で検出された。

302号柱穴 (S P302, 第40図)

S B10の補助屋の西柱列、ないしはS B14の梁行西柱穴のひとつと考えられる。南北に長い楕円形の形態。長径1.45m、短径0.62m、深さ0.35m。埋土は褐灰色土に黒褐色土がブロック状に混じる。北側の一端落ち窪んだ場所で、柱根がやや南側に傾いた状態で検出された。

319号柱穴 (S P319, 第41図)

S B14の中央を間仕切るように並ぶ桁行方向の柱穴。長径0.76m、短径0.5mの楕円形で、深さは0.3m。埋土は黄褐色土と黒褐色土がブロックで混在する。柱根が据え置かれた状態で検出された。

333号柱穴 (S P333, 第40図)

S B10の北東角の柱穴。南北方向に長い楕円柱穴の形態。長径1.32m、短径0.62m、深さ0.34mの規模。埋土は褐灰色土に黒褐色土がブロック状に混じる。出土遺物なし。

335号柱穴 (S P335, 第40図)

S B13桁行東側中央の柱穴。南北に長い楕円形の形態。長径1.07m、短径0.55m、深さ0.35mの規模。埋土は黄灰色砂質土に若干の黒褐色土が混じる。出土遺物なし。

336号柱穴 (S P336, 第40図)

S B13北東角の柱穴で、平面形態は南北に長い楕円形である。長径1.17m、短径0.47m、深さ0.21mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土に黒褐色土がわずかにブロック状に混じる。中央底面で柱根が検出されるが、残存状況はあまり良好ではなかった。

344号柱穴 (S P344, 第40図, 図版17)

S B12の北梁行中央やや西よりの柱穴。平面形態は東西に長い楕円形。長径1.03m、短径0.48m、

深さ0.6mの規模を測る。埋土は黄褐色から黄橙色の砂粘質土に黒褐色土がブロック状に混じる。柱穴中央の底面に据え置かれたように柱根（第86図689）が出土した。

352号柱穴（S P 352, 第40図, 図版41）

S B 12の東桁行柱列の南から3番目の柱穴。平面形態はやや不整な楕円形で、長径1.02m, 短径0.68m, 深さ0.23mの規模である。埋土は黄灰色砂粘質土。柱穴の底面には小礫がまかれ、その中央に柱根が残存するが、残りは悪い。出土遺物は弥生土器（第59図110）、柱（第88図696）がある。

365号柱穴（S P 365, 第40図）

S B 12の西側桁行柱列の中央に位置する柱穴。東西に長い楕円形の形態で、長径0.93m, 短径0.45m, 深さ0.23mの規模である。埋土は灰黄褐色砂粘質土に若干の黒褐色土がブロック状に混じる。柱穴底面の中央でやや東に傾いた状態で柱根（第88図695）を検出した。

375号柱穴（S P 375, 第41図）

S B 12東桁行柱列の中央やや北側に位置する柱穴。南北に長い楕円形の平面形態である。長径1.04m, 短径0.48m, 深さ0.3mの規模。埋土は上層に若干のブロック土がみられるものの、黄灰色から褐灰色の砂粘質土を基調とする。土坑底面で小礫の散乱が検出されたが、柱根は出土しなかった。

387号柱穴（S P 387, 第41図5）

S B 7の西桁行柱列の南側に位置する柱穴。南北に長い楕円形を呈する。長径0.78m, 短径0.35m, 深さ0.31mの規模。埋土は黄灰色粘質土の単層構成である。柱穴底面の北側で垂直に据え置かれたように柱根（第85図682）が出土した。

390号柱穴（S P 390, 第41図）

S B 12の東側桁行柱列の南から2番目の柱穴。南北に長い楕円形の平面形態。長径1.04m, 短径0.72m, 深さ0.25mの規模を測る。埋土は暗灰黄色砂質シルトの単層構成である。柱穴中央の底面に垂直に据え置かれた状態で柱根（第85図681）を検出した。

425号柱穴（S P 425, 第42図）

S B 11の北角付近で検出された柱穴。平面形態はやや不整形な楕円形を呈する。長径1.5m, 短径0.67m, 深さ0.57mの規模を測る。埋土は5~6層に分層されるが、概ね黄灰色から浅黄色の砂粘質土を基調とする。また西隅の上面で柱の残欠が検出された。

427号柱穴（S P 427, 第42図, 図版18）

S P 425の南側に隣接する柱穴。平面形態は長楕円形。長径2.03m, 短径0.93m, 深さ0.64mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土である。上層から中層にかけての埋土から小礫が多く検出された。また越中瀬戸1点（第67図314）も上面から出土した。この他にも上面から打ち込まれた杭を何本か検出している。さらに下層まで掘り下げるときょうど中央に据え付けられたように柱（第87図694）が出土した。S B 11に帰属する掘立柱建物の柱と考えられる。

井戸

456号井戸（S E 456, 第42図, 図版16）

B 1地区では石組井戸1基が検出されている。北側の掘り方と石組部の一部が近代の溝によって破壊されているが、下半および基底部は良好に残存する。井戸の掘り方は円形で、桶鉢状の形態である。石組はこの掘り方の中央に設置される。構築方法は、まず掘り方の底面に天井部を穿孔した木臼（上臼, 第84図680）を倒立させて据え置く。ついで木臼の上面がほとんど見えなくなるまで掘り方を埋め戻し、周辺を平坦にならす。そこから小礫を一段ずつ輪積みし、掘り方の埋め戻しを一段ごとに繰

り返し行う。井戸の規模は、掘り方上面の径約1.6m、石組の上面の内径0.75m、検出部から井戸底面までの深さ約0.5mを測る。井戸は廃絶後底面から木臼の上面あたりまで小礫を詰め、その上に越中瀬戸2点（第65図276・277）を供獻する。從って井戸の廃絶時期は18世紀代と考えられる。S E456は、SB11～SB13に伴う井戸と考えられる。

土坑

201号土坑（SK201、第47図）

A地区から続くSD218が北へ方向を転じる屈曲部の北西側で検出された土坑。平面形態は梢円形で、長径1.27m、短径0.82m、深さ0.09mの規模。埋土は黄灰色シルト質土。瓦片の出土がみられる。近代の屋敷地の整地土縁辺に位置し、この時期の遺構と考えられる。

202号土坑（SK202、第47図）

SD218を挟んでSK201と反対の南側に位置する土坑。平面形態は不整梢円形を呈する。長径2.1m、短径0.93m、深さ0.19mの規模。埋土は暗灰黄色シルト質土を基調とする。唐津の小片が出土している。埋土の特徴からSK201と同様の、近代の時期と考えている。

203号土坑（SK203、第48図）

調査地西壁南側に位置し、土坑の北半を近代溝SD218に切り込まれている。平面形態はやや不整な方形で、幅1.81m（残存部のみ）、長さ2.73m、深さ0.22mの規模を測る。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。出土遺物なし。近代溝に切り込まれこれに先行することから、一応近世の時期に比定しておく。

205号土坑（SK205、第47図、図版20）

B1地区西壁中央やや北寄りに位置する石組の長方形土坑。掘り方の規模は幅約1.5m、長さ2m弱、石組の壁の内側の規模は幅0.65m、長さ1.1m、深さ0.45mを測る。石組は最上面一段のみにみられ、土坑側面は全面石壁とはなっていない。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。この土坑は近代の屋敷地の整地盛土層の上面から切り込み、構築されていることから、近代屋敷の建物に付随する何らかの施設のひとつと考えられる。

206号土坑（SK206、第47図）

SK205の南西側約4m程離れて位置する土坑。小礫が長方形状に散乱しており、SK205のように石組土坑が破壊された状況と考えられる。掘り方はあまり明確でない。一応幅0.75m、長さ0.95mの平面規模と考えておく。土坑内からの出土遺物は認められないが、近代の整地盛土層の上面から切り込んでおり、同時期の所産と考えられる。

215号土坑（SK215、第47図、図版20）

近代屋敷地の整地盛土層の北側に位置する土坑。平面形態は円形で、径0.9m弱、深さ0.34mが残存する。横断面は円筒状で、壁に接して桶の底板（第84図679）と側板が残存していた。埋土は黒褐色混じりの黄灰色粘質土で、出土遺物にはゴムなど工業製品が混じる。位置的にみて、近代屋敷地の建物跡に付随するトイレ遺構の可能性が高い。

230号土坑（SK230、第38図、図版14）

建物跡SB14の北側に位置する土坑。平面形態は三角形で、幅2.56m、長さ4.37m、深さ0.15mの規模を測る。埋土は黄灰色砂質土を基調とする。出土遺物には越中瀬戸（第65図281・282）がある。近世の土坑と考えられる。

234号土坑（S K234、第43図）

S K230の東側に重複し、これに切り込まれている土坑である。平面形態は不明。残存部での規模は幅1.38m、長さ2.47m、深さ0.26m。埋土は上層が暗灰黄色シルト質土、下層が黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物なし。

235号土坑（S K235、第38図、図版15）

S B15の北側、調査区の北西角付近に位置する2基の土坑のうちの一つ。平面形態は隅丸の長方形を呈する。幅1.76m、長さ3.43m、深さ0.33mの規模を測る。埋土は3層程度に分層できるが、概ね黄灰色から暗黄灰色の粘質土が基調となる。土坑内の全体から主に陶磁器、木製品からなる遺物が大量に出土した。破棄土坑としての性格が考えられる。出土遺物の内訳では、陶磁器類として中国青磁（第65図284）、越中瀬戸（第65図285）、唐津・伊万里の小片などが、木製品では加工板（第82図656・657・662・第83図669）、部材（第82図658～661・665・第83図667・670）、漆器（第81図635）、筒形容器（第81図642）、石製品では砥石（第91図907）などがある。次に述べるS K281と組み合わせとなる破棄土坑と捉えておく。この2基の土坑は、掘立柱建物S B14・S B15ないしは土台建物S B3との共伴関係が想定される。時期については、概ね近世後期（18世紀）以降と考えておく。

236号土坑（S K236、第38図）

S K250の北側に接して位置する。平面形態は楕円形で、幅1.48m、長さ1.95m、深さ0.65mの規模を測る。土坑内の埋土は黄褐色から褐灰色の砂粘質土を基調とする。出土遺物には唐津の小片の他、柱（第83図671）、ヘラ形木製品（第81図646）などがある。

245号土坑（S K245、第43図）

S B14の南側に位置し、平面形態は不整形。幅2.03m、長さ2.79m、深さ0.06mの規模である。埋土は白灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

246号土坑（S K246、第38図）

S K203の北側、S K245の西側に近接して位置する。ほぼ長方形プランの平面形態。幅2.54m、長さ3.56m、深さ0.14mを測る。埋土は灰黄色砂粘質土を基調とする。17世紀末～18世紀前後の唐津陶胎染付（第66図292）が出土している。

247号土坑（S K247、第38図）

S K246の北西側に近接して位置する不整形土坑。西半部が調査地区外となる。このため正確な規模は不詳だが、現状で最大幅2.79m、長さ2m以上、深さ0.3mを測る。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

250号土坑（S K250、第43図）

S B14の西桁行柱列の中央付近に位置する。平面形態は楕円形。長径40.8m、短径1.37m、深さ0.48mを測る。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物は認められないが、中央をS B14の柱穴が切り込み、これに先行する時期の土坑であることがわかる。

251号土坑（S K251、第39図）

近世屋敷地の洗い場と考えられる方形土坑の北西隅で検出された土坑である。長径4.33m、短径3.06m、深さ0.38mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土。出土遺物には伊万里・唐津・瀬戸などがある。

253号土坑（S K253、第43図）

調査区の北東隅に位置する土坑で、過半が調査地区外となる。現状で最大幅2.43m、長さ0.2m以上、深さ0.14mを測る。埋土は褐灰色砂粘質土。出土遺物なし。

254号土坑（SK254、第39図）

土台建物SB19の区画溝SD289のちょうど屈曲部の外側に隣接する土坑。平面形態は楕円形を呈する。長径3.75m、短径2.17m、深さ0.27mの規模を測る。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。溝底面に有機質腐植土の堆積がみられ、この土坑がある一定期間開削されたままオープンな状態にあったことがわかる。SD289との切り合い関係は判然としないが、あるいは同時期併存し、土台建物の雨落ちをためていた土坑の可能性もある。出土遺物には越中瀬戸（第66図293）、瀬戸などの陶磁器がある他、楕形壺（第91図814）も出土している。

258号土坑（SK258、第39図）

SK258はSB12の西側、SB13の北側に近接するが、土台建物SB19とは重複する位置関係にある。平面形態は隅丸長方形で、幅1.26m、長さ1.51m、深さ0.33mの規模を測る。埋土は3層程度に分層されるが、概ね黄灰色砂粘質土を基調とする。遺構掘削時の上層面で、小礫が散乱して検出される状況がみられた。出土遺物には唐津の三島手の輪（第66図294）・擂鉢（第66図296）・越中瀬戸の切り高台の皿（第66図295）・伊万里の小片などの他に、加工石（第92図921）の出土などもみられる。出土遺物は概ね18世紀代の様相を示す。前述のSB14・SB15に対するSK235の関係のように、SB12・SB13に伴う破棄土坑の一種と考えておく。

259号土坑（SK259、第39図、図版16）

SK258の東側に隣接する大型土坑。平面形態は不整楕円形。長径2.84m、短径1.78m、深さ0.54mの規模。埋土は概ね黄灰色砂粘質土を基調とする。土坑堀没時に南側から流れ込んだ状態で小礫が大量に出土している。出土遺物には越中瀬戸・唐津・珠洲などがあるが、いずれも小片である。SK258などと同様に近世後期以降の時期と考えておく。

261号土坑（SK261、第37図）

SK259とSD292の間に位置する土坑。SK262と重複しこれを切り込む。瓢箪形に近い不整形な平面形態。幅1.36m、長さ4.14m、深さ0.35mの規模。埋土は上層が褐灰色砂粘質土、下層が黒褐色粘質土となる。上層と下層の境界には炭化物が薄くレンズ状に堆積していた。出土遺物には唐津・越中瀬戸の小片、建築部材と考えられる木製品（第83図672）がある。

262号土坑（SK262、第37図、図版17）

SK261とほぼ同位置で重複しこれに切り込まれる土坑。平面形態や本來の規模は不明。径2.3~2.4mの円形プランの可能性が高い。検出面からの深さは0.28mを測る。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。瓦・越中瀬戸などの小片が出土している。

263号土坑（SK263、第39図）

SD292の南半部に接してこれに切り込まれる土坑で、本来の形態や規模は窺い知れない。現況で幅2.11m、残存長1.16m、深さ0.59mの規模。埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物には越中瀬戸（第66図297~301）・唐津などがある。

268号土坑（SK268、第43図）

調査区の西端側、SB11と重複する位置にある小土坑。平面形態は隅丸方形。幅0.68m、長さ0.85m、深さ0.06mの規模を測る。埋土は黄灰色砂質土。出土遺物なし。

269号土坑（SK269、第39図、図版17）

土台建物SB18の東側に接して位置し、建物の一部を構成すると考えられる土坑である。平面形態は隅丸長方形で、幅1.11m、長さ1.86m、深さ0.24mの規模を測る。土坑の北側の壁に接して桶の底

板（第84図678）が据え付けられたような状態で出土した他、反対側の南隅では建築部材と考えられる材木片が散乱している。埋土は中層の黒褐色砂粘質土を挟んで上層が褐灰色砂粘質土、下層が黄褐色砂粘質土となる。木製品以外の遺物では伊万里の小片が出土している程度である。本土坑については、土台建物 S B18のトイレ遺構の可能性を想定している。

270号土坑（S K270、第43図）

S X461の南側に接してこれに切り込まれる土坑で、現状で幅1.92m、残存長1.22m、深さ0.12mの規模。埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

275号土坑（S K275、第43図）

S K269の南側に接して所在する土坑。平面形態は長楕円形。幅0.57m、長さ1.5m、深さ0.24mの規模を測る。埋土は黄褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

276号土坑（S K276、第43図）

S D288の屈曲部の西側に位置し、これを切り込む。平面形態は方形で、一辺2m前後、深さ0.33mの規模。埋土は暗灰黄色シルト質土の単層。出土遺物なし。

278号土坑（S K278、第43図）

土台建物 S B18に位置的に重複する小土坑。平面形態は円形で、径1.1~1.2m、深さ0.37mの規模。埋土は黄褐色砂粘質土を基調に黒褐色・灰色・赤褐色のブロック土が混じる。出土遺物なし。

281号土坑（S K281、第39図、図版15）

調査区の北西隅近く、S K235の南側に接して位置する土坑。平面形態は隅丸方形。一辺2~2.3m、深さ0.36mの規模を測る。土坑内の埋土は黄褐色から褐灰色の砂粘質土を基調とする。また東西方向の断面の西側において1・2層に切り込まれるように黒褐色砂礫（3層）の堆積がみられる。出土遺物の範囲もこの付近で途切れることから、別の土坑がS K281に切り込まれている可能性もある。この土坑内の東側3分の2の範囲内で、建築部材や漆器などの木製品（第81図639・643）や石製品（第92図913・919・920）、金属製品（第91図806）、陶磁器片などが散乱して検出された。出土した陶磁器には伊万里（第66図302~304）・越中瀬戸（第66図305・306）・唐津などがある。18世紀代を主体とする遺物相である。このような遺物の出土状況はS K235と共に通じており、少なくとも本遺構の最終的な機能は破棄土坑であったと考えられる。

282号土坑（S K282、第44図）

S B 9・S B10の東側、S K281の南側に接して位置する土坑。平面形態は不整長方形である。幅0.43m、長さ1.32m、深さ0.04mの規模。埋土は黄褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

326号土坑（S K326、第40図）

S B10の南側に接して位置する小土坑。平面形態は楕円形で、土坑の南側底面に2個の小蝶が配石される。長径0.87m、短径0.63m、深さ0.32m。埋土は褐灰色砂粘質土。出土遺物なし。

346号土坑（S K346、第40図）

S B12と重複し、S K259の南側に接する小土坑。平面形態はやや不整な楕円形。長径0.82m、短径0.45m、深さ0.25mの規模。埋土は黄褐色砂粘質土を基調とする。

366号土坑（S K366、第40図）

S B12に重複し、S D292の南側に位置する小土坑。平面形態は円形で、径0.55m、深さ0.26mの規模。埋土は黄褐色砂粘質土を基調とする。土坑内の底面に小石を軽く敷き詰め、中央に柱を据えている。但し柱の残りはよくない。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

367号土坑（SK367、第41図）

S K366の東側に隣接する小土坑。平面形態は不整円形。幅0.57m、長さ0.62m、深さ0.22mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。土坑内の底面には小石が散乱する状態で検出された。

381号土坑（SK381、第41図）

南北に長い梢円形の平面形態の土坑。長径1.43m、短径0.58m、深さ0.45mの規模。埋土は褐色・黄灰色の砂粘質土に黒褐色土がブロック状に混じる。土坑のちょうど中央に小砾の配石がみられ、その中央に柱根の痕跡が検出された。

384号土坑（SK384、第41図）

S E456の東側に隣接する小土坑。平面形態は梢円形。長径0.93m、短径0.54m、深さ0.28mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土。土坑内には小砾・小石が僅かに散乱し、中央に柱の残欠が確認できた。その他の出土遺物はなし。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

388号土坑（SK388、第41図）

S B 7・S B 8の柱穴に一部重複する位置にある。平面形態は梢円形を呈する。長径1.06m、短径0.53m、深さ0.38mの規模。埋土は黄褐色土・灰褐色土・黒褐色土がブロック状に混在する。中央底面から柱の残欠が出土した。掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。出土遺物はこの他に土製品（第67図316）・漆器（第81図638）・唐津の小片などがある。

392号土坑（SK392、第41図）

S B 11の北西角付近の土坑で、東西に長い梢円形の平面形態である。長径0.92m、短径0.25m、深さ0.14mの規模を測る。埋土はオリーブ色系のシルト質土である。底面に小砾が散乱し、西端付近で残りの悪い柱根の痕跡を検出した。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

395号土坑（SK395、第41図、図版18）

S B 12の南側に隣接する大型土坑。平面形態は梢円形で長径1.28m、短径0.72m、深さ0.5mの規模を測る。埋土は暗灰黄色砂質シルトに黒褐色やオリーブ灰色の砂質土がブロック状に顕著に混じる。土坑の中央には柱根が直立した状態で残存していた。掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。出土遺物はこの他に唐津（第67図320）がある。

426号土坑（SK426、第42図）

S E456の南側に隣接して位置し、中央をS D291に切り込まれている大型土坑。平面形態は円形に近い梢円形を呈す。長径1.89m、短径1.67m、深さ0.46mの規模を測る。埋土は黄褐色・黒褐色・褐色の粘質土がブロック状に堆積するものとなっている。このような埋土のあり方は近世でも古手の時期の土坑や柱穴に多く観察される様相である。土坑のほぼ中央の中層からやや東側に傾いた状態で柱が検出されるが、底面に据えられていた様子ではなく、本土坑に直接帰属する柱かは定かではない。出土遺物はこの他に唐津の小片がみられる。

溝

218号溝（SD218、第48図、図版20）

S D218は、遺構番号は異なるがA地区 S D 2の東側延長部にあたる同一の溝である。この溝はB1地区に入ると約12~13mで向きを北側に転じ10数mのびた後、さらにクランク状に東・北に短く屈曲し、その後直線的にのびてB1地区の調査地外へと走っている。溝の規模はA地区の延長部位にある南側が大きく横断面も逆台形を呈する。付近での溝の規模は幅1.5m~2.5m、深さ最大0.7mほどを測る。溝内の埋土は概ね上層が黄灰色シルト質土、下層が黒褐色砂質シルトとなるところが多い。こ

の南側付近から屈曲部にかけての溝底面から丸太や厚い板材などの建築材が多く出土した。一方北に転じた後の S D218はやや溝幅を減じており、浅くなっている。この溝については後述の土台建物期以降近代の屋敷地の区画溝として継続して使用されていったものと考えられる。出土遺物には伊万里・瀬戸・関西の磁器染付・明治以降の瀬戸銅版プリントの染付・越中瀬戸・越中丸山・瓦質土器(第62図193~204)などがある。総じて近世末期のものが多いが、一部に近代のものが混じる点に特徴がみられる。日常的な食器にも磁器染付や施釉陶器が使われるようになつた結果、食器の耐用性が高まり、容易に損壊しなくなつたのであろう。溝の廃絶時期を示す明治期の遺物が少ないのも、このような事情が反映しているためと考えられる。

222号溝 (S D222, 第44・48図)

調査区の北西角付近で検出された小溝で、S D286を切り込みこれに後出する。幅0.38m、深さ0.15mの規模。褐灰色砂粘質土の埋土である。出土遺物なし。

223号溝 (S D223, 第48図, 図版14)

S D290の北側に並走する溝だが、規模がより大きく構築的である。試掘トレンチによって中央部分を大きく破壊されるが、概ね現町道に沿った方向で東から西側にのび、S D218に切り込まれた後北側に方向を転じ、調査地区外へと伸びる。最大幅1.73m、深さ0.46mの規模。横断面の形状は肩がほほ垂直に落ちる長方形に近いもの。埋土は、上層が黄灰色から褐灰色の砂粘質土、下層が黒褐色シルト質土である。この溝からは陶磁器や木製品が多く出土している。陶磁器類では越中瀬戸が多く、次いで伊万里・瀬戸などの製品、関西系の鉄釉擂鉢などもみられる(第64図229~250)。磁器染付の中には明治以降の銅版プリントのものもみられる。木製品では栓・底板・「戸長役場」と記された木札などが出土している(第81図644・645・84図674)。

257号溝 (S D257, 第44図)

調査区南壁中央付近で検出された小溝で、「L」字状に屈曲し両端は消失する。最大幅0.44m、深さ0.2m。埋土は褐灰色砂質土を主体とする。近代の溝と考えている。

286号溝 (S D286, 第44・48図)

調査区の北西角付近で検出された小溝で、S D222と重複し切り込まれている。幅1.4m、深さ0.06mの規模。埋土は黄灰色砂質土を基調とする。伊万里の小片が出土。

287号溝 (S D287, 第44図)

近代溝 S D218で区画された西側の整地盛土層の上面で検出された溝。幅0.9m、深さ0.1mの規模。溝内の埋土は暗灰黄色砂質土が主体となる。出土遺物には伊万里・越中瀬戸・唐津福鉢などがみられる(第64図252~256)。出土遺物は近世が主体だが、近代の屋敷地に伴う整地盛土層の上から切り込む溝のため、屋敷と同時期の明治以降の溝と判断できる。

288号溝 (S D288, 第44図)

土台建物 S B19の西側の境界を区画する溝。北端は直角に屈曲して東側にのびる。途中一部途切れるものの本来は S D297と同一の溝と考えられる。幅0.8m、深さ0.2mの規模。埋土は上層が暗灰黄色砂質土、下層が褐灰色砂粘質土となる。出土遺物には越中瀬戸(第64図257・258)の他に伊万里・唐津・越中丸山などの磁器染付や施釉陶器類がある。

289号溝 (S D289, 第44図)

土台建物 S B19の外郭線を区画する溝。南と西側に沿って「L」字状に屈曲する。幅1.8m、深さ0.1m。埋土は黄灰色砂粘質土を主体とする。出土遺物には越中瀬戸(第64図259・260)がある。

290号溝（S D290、第44図）

S D223の南側に並走する小溝。幅0.38m、深さ0.15mの規模。灰黄褐色砂粘質土の埋土。出土遺物はないが、S D223とともに道路遺構の側溝であると考えている。時期は近代以降と捉えられる。

291号溝（S D291、第44図、図版14・17）

土台建物 S B19の東側を区画する南北方向の溝で、同じく土台建物 S B18の西側区画溝 S D293と併走し、両者の間が土台建物間を抜ける小路となっている。幅0.8m、深さ0.12m、長さは約16mが検出される。北端部は S E456と重複しこれを切り込む。南端部は南壁の手前で浅く消失している。埋土は黄灰色砂粘質土が主体をなす。出土遺物には越中瀬戸・越中丸山・関西系施釉陶器（第65図261～263）の他、唐津・伊万里・瀬戸などの磁器染付や施釉陶器も出土している。また木製品では板（第83図666）が出土している。

292号溝（S D292、第44図）

土台建物 S B19の東梁行に隣接して平行にのびる土坑状の溝。土台建物 S B19や掘立柱建物 S B12に連続する施設の可能性もある。幅2.9m、深さ0.48m、長さ約9m程で、両端の肩が持ち上がっていいる。埋土は褐灰色砂粘質土が基調となる。出土遺物には越中瀬戸（第65図264～267）の他に、越中丸山・伊万里・唐津・瀬戸・関西など各地の磁器・施釉陶器がある。

293号溝（S D293、第44図）

土台建物 S B18の西側を区画する溝で、S D291と向い合せに南北方向に並走する。長さ約13m程が検出され、北端は浅く消失し、南端は調査地区外へとのびている。幅0.75m、深さ0.07mを測る。黄灰色から褐灰色の砂粘質土が埋土の主体となる。出土遺物には越中瀬戸・唐津の陶胎染付（第65図268～270）などがみられる。

294号溝（S D294、第44図、図版14）

S D293に位置的に重複しこれに切り込まれる溝で、このため幅・長さとも不明。深さは0.07m。埋土は黒褐色砂粘質土の單層構成である。出土遺物なし。

295号溝（S D295、第44図）

調査区東端から西に向かってのびる溝で、土台建物 S B18の北側を区画する溝である。同時にこの土台建物に時期的に先行する掘立柱建物 S B11の柱列や、この建物の付属施設と考えられる S X461やS X463と重複し、これを切り込む。幅0.4m、深さ0.06mを測る。埋土は褐灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物には伊万里花瓶の底部破片（第65図271）などがある。

297号溝（S D297、第44図）

S D288の東端の延長にある溝で、本来両者は同一の溝と考えられる。この溝は同時に土台建物 S B19の北側の区画溝でもある。肩の一部を試掘トレンチによって大きく搅乱されるが、幅0.7m、深さ0.06mの規模である。埋土は黄灰色砂粘質土。出土遺物には越中瀬戸・唐津・珠洲がある。

298号溝（S D298、第44図、図版14）

S D290の東側延長上にあり、中途が消失するものの同一の溝である可能性が高い。また土台建物 S B18の区画溝 S D295と位置的に重複し、これを切り込む。S D223と対置する道路の側溝と考えられる。幅0.62m、深さ0.1mの規模。埋土は黄灰色砂粘質土である。出土遺物には伊万里（第65図272～275）・唐津・越中瀬戸などの陶磁器類の他に、釘（第91図804）・砥石（第91図906）などが出土。遺物は近世主体だが、近代の溝と考えている。

299号溝（S D299, 第44図）

調査地の東端を南北に横切っている溝で、わずか3mほどが検出されたに過ぎない。幅0.69m、深さ0.14mを測る。埋土は褐灰色砂粘質土。出土遺物には弥生土器の小片がある。

その他の造構

224号建物関連造構（S X224, 第47図, 図版20）

調査地西側の近代の屋敷地に伴う整地盛土層の上面で検出された造構。この造構は地中に掘り込まれたものではなく、整地土上面に構築された建物構造の一部が建物取り壊し後も残存したものと考えられる。造構の範囲は幅1m、長さ1.5mで、平面は長方形を呈する。この部分にまず整地土上面に小砾を敷ききつめ、次いで施釉された平瓦を数枚積み重ねながら二列に東西方向に並べている。ただしきれいに並べられた状態で遺存しておらず、半壊状態である。この二列の置き瓦の中央、中軸線に沿って両者を間仕切るように材木を横向けに据えている。間仕切りの両側部分において、3点の磁器（第65図278～280）と石臼が検出された。これらはほぼ東西に一列に並んで配置されていた。一番西側の磁器碗（280）は正立、二番目の磁器染付碗（278）は倒立、三番日の磁器猪口（279）は倒立で、いずれも完形で出土した。最後に一番東側に表面が非常に摩滅した石臼が据え置かれていた。これらの遺物はこの造構が半壊状態になってから掘え置かれたもので、造構焼絶時の祭祀・供獻遺物の一種と考えられる。なお出土した磁器類はいずれも明治以降の製品で、近世に潮流するものはみられない。

460号不整形土坑（S X460, 第43図）

調査区の東端付近で検出された不整形土坑のひとつ。幅1.46m、長さ1.82m、深さ0.19mの規模を測る。埋土は褐灰色・黄灰色・黒褐色の砂粘質土がそれぞれブロック状に混在する。出土遺物なし。

461号不整形土坑（S X461, 第43図）

掘立柱建物 S B11の東側に隣接して位置し、その一部外部施設を構成していた可能性のある造構である。幅3.1m、長さ4.85m、深さ0.27mの規模を測る。埋土は概ね黄灰色砂粘質土を基調とする。出土遺物には唐津・越中瀬戸などがある。

462号不整形土坑（S X462, 第43図）

S X460の南東側に隣接する不整形土坑で、S X461に切り込まれる。幅1.25m、長さ1.43m、深さ0.15mの規模。埋土は上層が褐灰色砂粘質土、下層が黄灰色砂粘質土である。出土遺物なし。

463号不整形土坑（S X463, 第43図）

S X461の中央近くに位置し、S X461の一部造構であった可能性が高い。径1.2m、深さ0.2m。埋土は黄灰色砂粘質土を基調とする。とくに土台建物 S B18とそのトイレ造構 S K269の関係において、S K269の内部から桶の底板が据え置かれた状態で出土したが、この桶の直径が本造構の規模とはほぼ同じである。土台建物 S B18は、同位置で先行する掘立柱建物 S B11の建て替えと考えられることから、S X461・S X463もその配置関係から S B11に付属するトイレ造構である可能性が高い。

B 2 地区

建物

16号建物（S B16, 第50図, 図版22・23）

B 2 地区南壁中央付近で検出された南北棟の掘立柱建物で、過半が調査地区外となる。現状で3間×1間以上が検出される。桁行3.6m以上、梁行6.8m、建物の床面積24.5m²以上の規模となる。建物の主軸方位はN-5°-W。柱穴形態は楕円形。柱穴規模は、例えばS P538では長径1.34m、短径0.77m、深さ0.35mの規模、S P535では長径1.05m、短径0.53m、深さ0.46mの規模を測る。柱根の残る

柱穴は認められない。柱穴からの出土遺物では、S P 538で伊万里と越中瀬戸の小片がある程度。周辺遺構との組合せでは、石組井戸 S E 501が本建物に付随するものと考えられる。さらにB 1地区の建物群との関係では、本建物が掘立柱式であること、建物の棟方位がS B 11～S B 15と一致することなどから、これらの建物群と同時期併存の建物と考えておきたい。

17号建物 (S B 17, 第50図, 図版22)

S B 16の西側に近接して位置する小型の掘立柱建物。2間×2間の東西棟建物。建物の規模は桁行3.2m、梁行2.8m、床面積9 m²を測る。建物の主軸方位はN-10°Wをとる。柱穴形態は楕円形と円形の混在型である。柱穴規模は、例えば楕円柱穴 S P 527では長径0.72m、短径0.36m、深さ0.25m、円形柱穴 S P 528では径0.4m、深さ0.13mを測る。柱根や遺物の出土は認められない。建物の主軸方位がS B 16とやや異なるが、同時期併存の建物と考えておく。

柱穴

522号柱穴 (S P 522, 第51図)

S B 17南西角の柱穴。平面形態は楕円形を呈す。長径0.59m、短径0.37m、深さ0.12mを測る。埋土は灰黄褐色と黒褐色の砂粘質土が混在する。出土遺物なし。

526号柱穴 (S P 526, 第51図)

S B 17桁行南側柱列の中央に位置する円形の柱穴。径0.3m、深さ0.07mの規模。埋土は灰黄褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

527号柱穴 (S P 527, 第51図)

S B 17南東角の柱穴。平面形態は楕円形を呈する。長径0.72m、短径0.36m、深さ0.25mの規模。埋土は灰黄褐色・褐灰色・黒褐色の砂粘質土が混在する。出土遺物なし。

532号柱穴 (S P 532, 第51図)

S B 17北西角の柱穴。平面形態は楕円形。長径0.53m、短径0.33m、深さ0.14m。埋土は灰黄褐色砂粘質土に暗灰色土がブロック状に混じる。出土遺物なし。

534号柱穴 (S P 534, 第51図)

S B 17桁行北側柱列の中央に位置する楕円形の柱穴。長径0.4m、短径0.32m、深さ0.1mの規模。埋土は黄灰褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

535号柱穴 (S P 535, 第51図)

S B 16梁行北側柱列の楕円形柱穴。長軸が東西方向を向く。長径1.05m、短径0.53m、深さ0.46m。埋土は灰黄褐色土に黑色土・灰色土がブロック状に混じる。出土遺物なし。

536号柱穴 (S P 536, 第51図)

S B 16の柱穴の一つで、S P 535の東側に位置する。楕円形で長軸は南北方向。長径0.82m、短径0.41m、深さ0.24m。埋土は灰黄褐色砂粘質土に黑色土・灰色土が霜降状に混入。出土遺物なし。

538号柱穴 (S P 538, 第51図)

S B 16北西角の柱穴。平面形態は楕円形を呈し、長軸は南北方向を向く。長径1.34m、短径0.77m、深さ0.35mの規模を測る。埋土は黄灰色・灰黄褐色・灰白色の砂粘質土などが混在してみられる。柱穴内からは、越中瀬戸・伊万里などの小片が出土している。

井戸

501号井戸 (S E 501, 第50図, 図版23)

S B 16の北側に隣接して位置する石組井戸である。検出当初において、井戸の本体部分一面に疊が

充填されていた。これをさらに半裁し断面を観察したところ、井戸の底面までびっしりと標を充填していることが確認されると共に、最上層には小標を多く配していることが明らかとなった。いずれにせよ井戸廃絶時において丁寧に標詰めして埋めもどしていることがわかる。井戸の掘り方自体は円形で、擂鉢状の横断面の形態である。B1地区の石組井戸S E456のように、下層に木臼を転用するような構造ではなく、井戸上面から底面まで石組だけされる。石組はこの掘り方の南側に片寄せて、掘り方の肩を利用して設置している。石組は明らかな螺旋積みはみられず、基本的に輪積みと考えられる。井戸の規模は、掘り方上面の径1.9~2.1m、石組の上面の内径0.5m、検出部から井戸底面までの深さ約0.96mを測る。石組の裏込め土の中から越中瀬戸の鉄袖擂鉢の破片が2点（第67図328・329）出土している。また井戸本体内からは充填標とともに石臼の破片（第92図912）が出土している。本井戸は、掘立柱建物SB16に伴う井戸と考えられる。

土坑

503号土坑（SK503、第51図）

S D541の北岸に接して位置する土坑。平面形態は隅丸長方形で、長径1.1m、短径0.6m、深さ0.15mの規模。埋土は褐灰色と黒褐色の砂粘質土が混在する。出土遺物なし。

504号土坑（SK504、第51図）

S B16の北東角に隣接する稍凹形の土坑。長径1.05m、短径0.58m、深さ0.52m。埋土は黄灰色土・黒褐色土が縞状に混在。出土遺物なし。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

505号土坑（SK505、第51図）

S D514の北岸に位置する土坑で、平面形態は不整楕円形。幅0.76m、長さ2.2m、深さ0.18m。埋土は上層が褐灰色砂粘質土、下層が黄灰色砂粘質土となる。出土遺物なし。

506号土坑（SK506、第51図）

S B16の東側に隣接して位置する大型の長方形土坑。幅1.85m、長さ3.52m、深さ0.22mの規模を測る。埋土は褐灰色砂粘質土に黒褐色土がブロックで縞状に多量に混入する。珠洲や瀬戸の小片が出士しているが、埋土の特徴などから近世の土坑と考える。

507号土坑（SK507、第51図、岡版22）

S K506の北側に隣接する不整形土坑で、SD513を切り込み、SD517に切られる。幅1.5m、長さ5.73m、深さ0.4m。埋土は灰黄色砂粘質土に黒褐色土がブロック状に混じる。出土遺物なし。

508号土坑（SK508、第51図）

S D514の屈曲部東側に接して位置する楕円形土坑。長径2.05m、短径0.93m、深さ0.07mを測る。埋土は灰黄色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。

509号土坑（SK509、第51図）

S D514の北岸に接して位置する不整円形の土坑。径0.8m、深さ0.08mを測る。埋土は上層が灰黄色砂粘質土、下層が褐灰色砂粘質土となる。出土遺物なし。

524号土坑（SK524、第51図）

S B17の南側に接して位置する楕円形の土坑。長径0.63m、短径0.37m、深さ0.2mの規模を測る。埋土は灰黄褐色と黒褐色の砂粘質土がブロックで混入する。出土遺物なし。

525号土坑（SK525、第51図）

S E501の西側に接して位置する楕円形の土坑。長径1.09m、短径0.82m、深さ0.07mを測る。埋土は暗灰褐色砂粘質土の單層構成である。出土遺物なし。

529号土坑（S K529, 第51図）

S B17の中央に位置する楕円形の土坑。長径0.66m, 短径0.53m, 深さ0.25mを測る。埋土は灰黄褐色砂粘質土を基調とする。出土遺物なし。S B17の柱穴の可能性がある。

533号土坑（S K533, 第51図）

S D515に北接しこれに切り込まれる土坑で、半裁された楕円形を呈する。長径0.32m以上、短径0.3m、深さ0.11m。埋土は灰黄褐色砂粘質土。出土遺物なし。

537号土坑（S K537, 第51図）

S B16と重複する位置にある楕円形の土坑。長径1.09m、短径0.59m、深さ0.32mの規模を測る。埋土は灰黄褐色と褐灰色の砂粘質土が混在する。出土遺物なし。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

539号土坑（S K539, 第51図）

S D514に北接する楕円形の土坑。長径0.81m、短径0.28m、深さ0.11mを測る。埋土は上層が黄灰色砂粘質土、下層が黒褐色砂粘質土となる。出土遺物なし。

540号土坑（S K540, 第51図）

S D514に北接してこれに切り込まれる土坑。半裁された楕円形を呈する。長径0.76m、短径0.3m以上、深さ0.11m。埋土は黄灰色砂粘質土に黒褐色土がブロック状に混じる。出土遺物なし。

541号土坑（S K541, 第51図）

S K506の南側に近接し、南半が調査区外となる。幅0.79m、長さ0.23m以上、深さ0.2m。埋土は灰黄褐色砂粘質土に黒褐色土がブロックで縞状に混入する。出土遺物なし。

542号土坑（S K542, 第51図）

S B16の北側に接する楕円形の土坑。長径0.63m、短径0.59m、深さ0.35mを測る。埋土は灰黄色砂粘質土に黒褐色土がブロックで縞状に混入する。出土遺物なし。

溝

512号溝（S D512, 第52図）

S B17の西側に位置する小溝で、調査区の南壁から南北に6m程の長さが検出される。北端は西向きに直角に屈曲し、調査地区外へと伸びている。ちょうど屈曲部付近をS D517に切り込まれているが、同時にS D513を横断しこれを切り込んでもいる。切り合い関係を整理するならば、(新) S D517→S D512→S D513(古)となる。溝の最大幅0.4m、深さ0.08mを測る。埋土は、灰黄褐色砂粘質土の单層構成である。出土遺物なし。

513号溝（S D513, 第16・52図、図版22）

S D513は、西壁付近からでて東西方向に調査区を縱断した後、中央付近で直角に屈曲し南側へさらに調査地区外へと伸びている。またこれとは別に東側へのびる溝も一連の続きと考えられるが、きれいな「T」字状の輪郭は描いておらず、むしろ「L」字の溝を二つ背中合せで接合したような様相を呈する。既述のように、S D512・S D517との切り合い関係では、最も先行する時期の溝である。溝の規模は場所により変化するが、最大幅で3.31m、検出面からの深さ0.2mを測る。溝内には灰黄色砂粘質土ないしは褐灰色砂粘質土の堆積がみられる。溝内からは弥生土器・中世土師器・珠洲などが混在して出土する。越中瀬戸（第67図325・326）が溝本米の帰属時期のものであろうが、溝の開削自体は中世まで遡り得る可能性もある。

514号溝（S D514, 第52図、図版23）

S D517の北側に接して東西方向に併走し、調査区の中央付近でS D517とは反対に北東側に屈曲し

て調査地区外へとのびている。S D512・S D513・S D517とは重複する部分がなく、新旧の切り合ひ関係は確認できない。配置からは、いずれの溝とも共伴の可能性がある。最大幅3.35m、検出面からの深さ0.33mを測る。溝内は上層に黄灰色砂粘質土が、下層に褐灰色砂粘質土がみられ、中層は両者の土がブロック状に混在する様相である。溝内からは越中瀬戸（第67図327）以外にも弥生土器・珠洲、銅鏡（寛永通宝）、銅版プリントの磁器染付などが混在して出土している。溝の開削は近世に溯源るものと考えてよいが、廃絶は近代に入りてのことと推定される。

515号溝（S D515、第52図）

S B17の桁行北側柱列に沿って短くのび、これらの柱列を切り込む小溝。両端とも5m前後で浅く消失する。幅0.6m、深さ0.06m。溝内は灰褐色砂粘質土のみの単層である。出土遺物なし。

516号溝（S D516、第16図）

B 2地区北側の壁に沿って東西にのびる浅い小溝で、中央および東側が浅く途切れています。最大幅幅0.55m、深さ0.07mを測る。黄灰色砂粘質土や灰白色砂粘質土の堆積がみられる。遺物は施釉陶器の小片が出土している。他の遺構との切り合い関係で最も後出する時期の溝で、近代以降の時期と考えている。後述のS D518とともに、道路遺構の側溝となる可能性が高い。

517号溝（S D517、第52図、図版22）

S D513と514のちょうど中間に位置し、S D513・S D512を切り込むが、S D514とは併走しており両者に切り合い関係はみられない。溝の西端は浅くなるものの調査地外へとのびている。これに対し西端は輪郭がはっきりせず、中途で浅くなつて消失するが、下層のS D513のように「T」字状に東と南に分岐していた可能性が高い。最大幅約2.5m、深さ0.34mを測る。埋土は、上層が暗灰黄色砂粘質土、中層が灰黄褐色砂粘質土、下層が褐灰色砂粘質土となる。遺物は少なく、若干の近代磁器が出土している程度である。このため詳細時期を決め得ないが、開削は近世のなかでも新しい時期とし、廃絶はS D514と同様に近代以降と考えておく。

518号溝（S D518、第52図）

調査地の東壁側から西に向かって短くのびる溝で、中央が消失し、再び東側で約4mほどが検出され、調査地区外へのびている。最大幅0.65m、深さ0.09mを測る。黄橙色砂質土の堆積がみられる。中世土師器の細片が出土するが、混入であろう。北側のS D516とともに、近代道路遺構の側溝を構成するものと考えられる。

③C 地区

溝

601号溝（S D601、第54図）

調査地の南西角にある落ち込み状の溝。溝の方位はやや斜行した東西方向で、西側に接する小溝群S D611と同一の方位を有する。南側の肩は調査地区外となる。北側は中央付近でS D611と接合している。現状で幅7m、深さ0.25mを測る。溝内の埋土は黒褐色と黄灰色のシルト質土が混在する。出土遺物には唐津（第73図513）・中世土師器（第74図526）などがある。

604号溝（S D604、第54図）

調査地の北西角付近から東壁南側にかけて大きく弓なりにのびる溝。両端はさらに調査地区外へとのびている。幅約3m、深さ0.3mを測る。埋土は褐灰色・黒褐色・暗灰黄色の砂質土が混在する。出土遺物には、陶磁器類では越中瀬戸・伊万里（第73図496・503）などが、木製品では漆器・加工棒（第89図701・707）が、金属製品では鉛玉（第91図810）がある。

611号溝（S D611, 第54図）

S D601の北側に位置する小溝。方位も同一のもの。幅3.15m, 深さ0.21mを測る。東端がS D601と接合・合流している。埋土は黒褐色・黄灰色のシルト質土が混在する。出土遺物なし。

612号溝（S D612, 第54図）

北壁中央付近から東に向かってのびる溝で、東端はS D604と重複しこれに切り込まれている。最大幅2m, 深さ0.25mの規模を測る。埋土は黒褐色砂質土が主体となる。出土遺物には漆器（第89図699）、越中瀬戸の小片などがある。

614号溝（S D614, 第54・55図）

S D611の東側延長上に位置する溝。南壁中央付近から20数mほどのびた後、西端はS D611の手前で浅くなり消失する。幅1.22m, 深さ0.06m。暗灰黄色砂質土の埋土。出土遺物なし。

622号溝（S D622, 第55図）

S D604の中央付近の北側に接して位置しこれと並走するが、長さ約15m程で両端が浅く消失している。最大幅0.46m, 深さ0.15m。黒褐色砂質土の埋土。出土遺物なし。

634号溝（S D634, 第55図）

S D604の東端付近で短く検出されている小溝で、S D604・S D635にそれぞれ切り込まれ、これに先行する。幅0.7m, 深さ0.09m。暗灰黄色シルト質土の埋土。出土遺物なし。

635号溝（S D635, 第55図）

調査区の東壁に沿って検出された溝で、東側の肩は概ね調査地外となる。S D604に切り込まれこれに先行し、S D634を切り込みこれに後出す。現状で最大幅2m, 深さ0.58mを測る。溝内の埋土は暗灰黄色シルト質土が主体となる。出土遺物には唐津の内野山（第73図498）がある。

636号溝（S D636, 第55図）

S D604とS D644を結ぶように南北方向に直線的にのびる小溝。両端はそれぞれS D604・S D644と合流する。幅0.44m, 深さ0.13mの規模を測る。上層は黒褐色砂質土、下層は暗灰黄色砂質土の堆積がみられる。出土遺物には越中瀬戸（第73図493）がある。

637号溝（S D637, 第55図）

S D636と同様S D604と南端で合流する溝。S D636の東側に位置する。幅1.6m, 深さ0.23mの規模を測る。黒褐色砂質土の埋土がみられる。出土遺物には珠洲・越中瀬戸・伊万里などがある。

640号溝（S D640, 第55図）

調査地の北東角付近で西方向にのびる小溝で、S D636と直交しこれを切り込んでいる。幅0.24m, 深さ0.15mを測る。黒褐色砂質土の埋土。出土遺物なし。

641号溝（S D641, 第55図）

S D637の中途から東側に向かってのびる3つの短い小溝群のひとつで、一番北側に位置する。幅0.38m, 深さ0.12mの規模。黒褐色砂質土の埋土。出土遺物には越中瀬戸の小片がある。

642号溝（S D642, 第55図）

前述の小溝群のひとつで、中央に位置する。幅0.57m, 深さ0.17mの規模。黒褐色砂質土の埋土。出土遺物なし。

643号溝（S D643, 第55図）

前述の小溝群のひとつで、南側に位置する。幅0.34m, 深さ0.08mの規模。黒褐色砂質土の埋土。出土遺物なし。

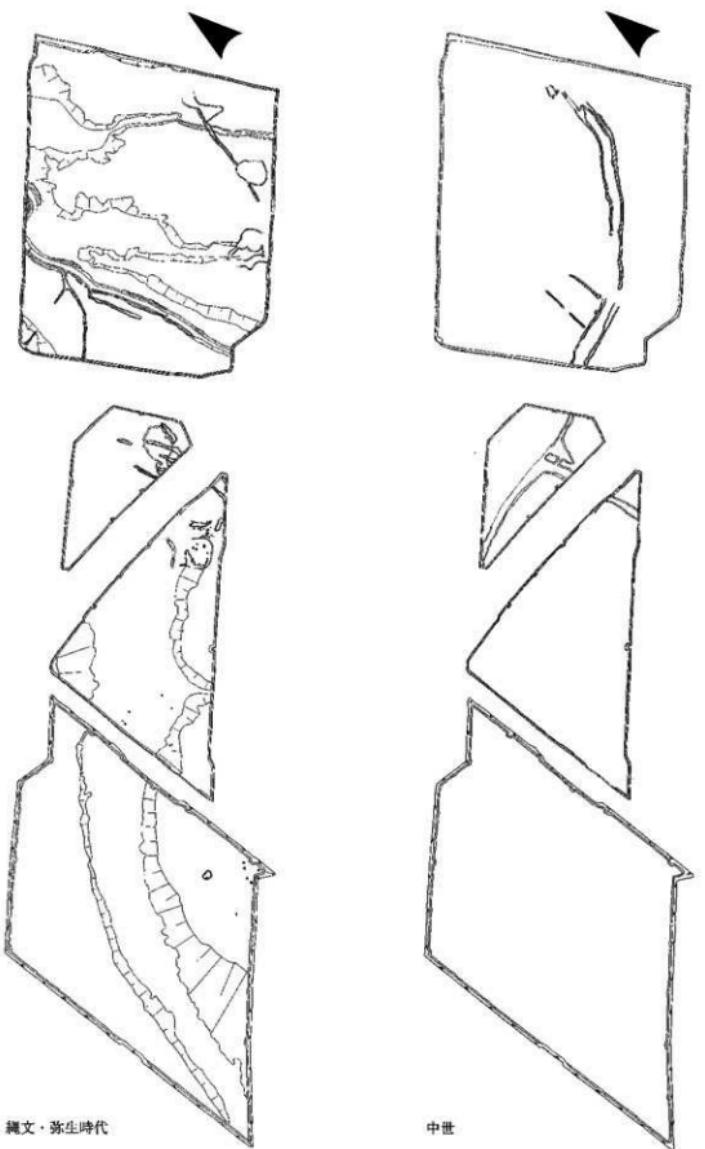
644号溝（S D644, 第55図）

S D640の北側に位置し並走する溝であるが、S D636を切り込むため、これに後出する時期となる。最大幅1.12m、深さ0.09mの規模。黒褐色砂粘質土の埋土。出土遺物なし。

645号溝（S D645, 第55図）

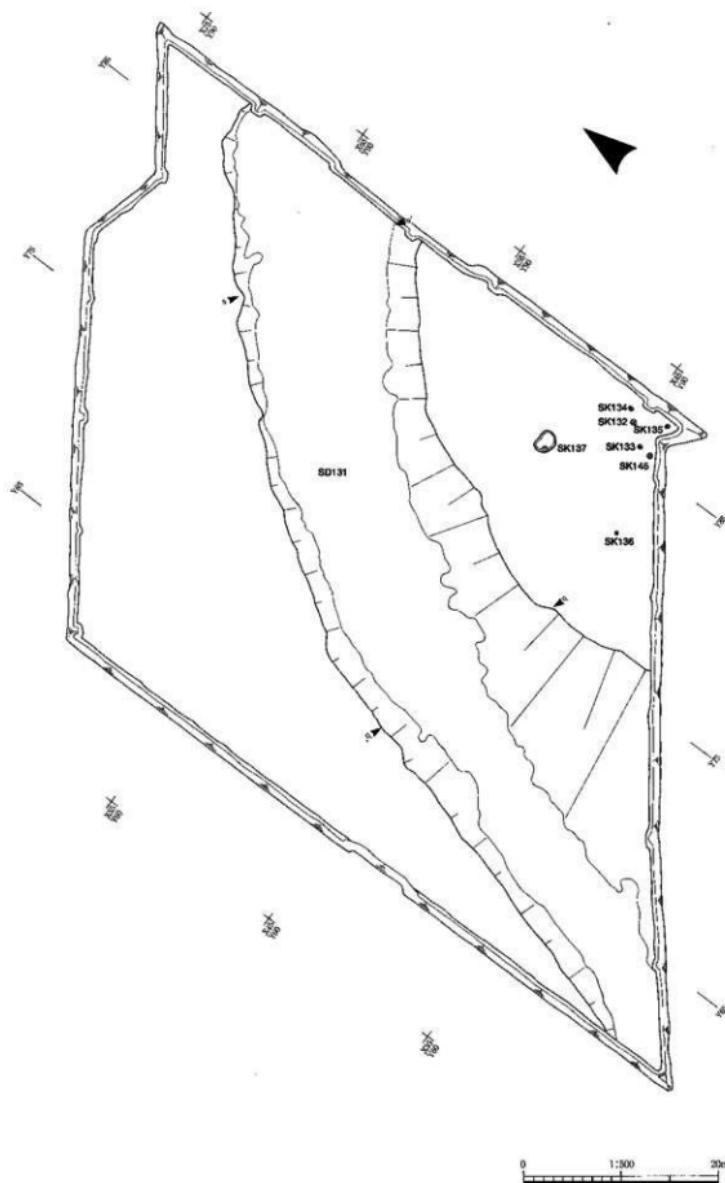
S D644から分岐し北側にのびる溝。幅0.8m、深さ0.06mの規模。黒褐色砂質土を基調とする埋土。出土遺物なし。

(森 隆)

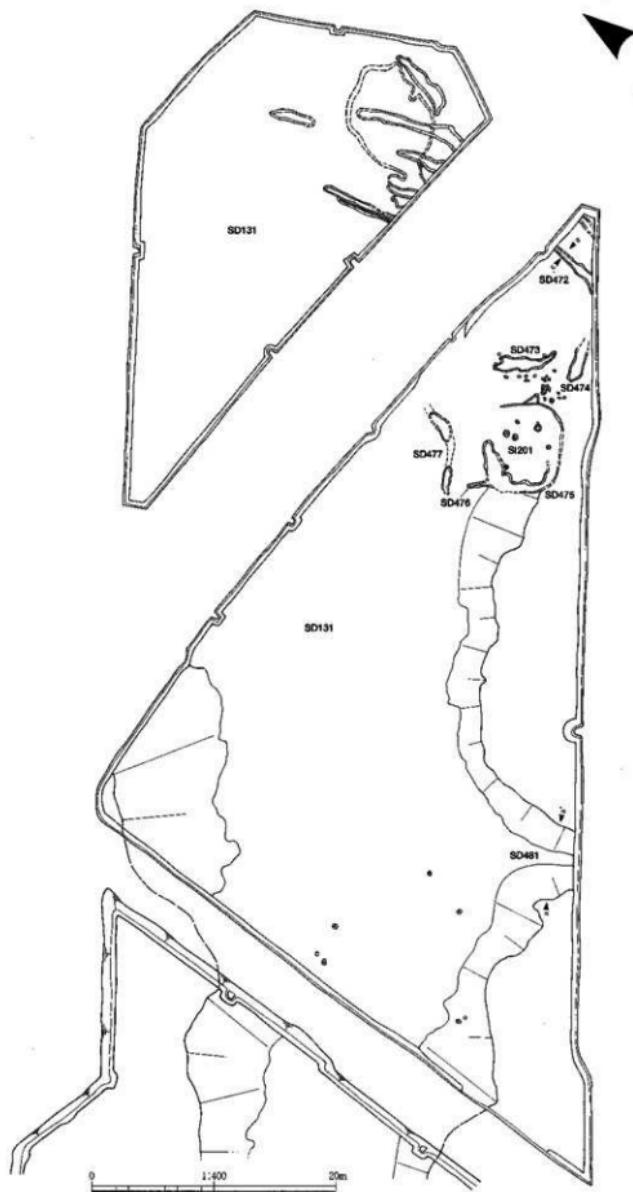


第4図 江尻遺跡 繩文・弥生時代・中世造構全体図 (1:1200)

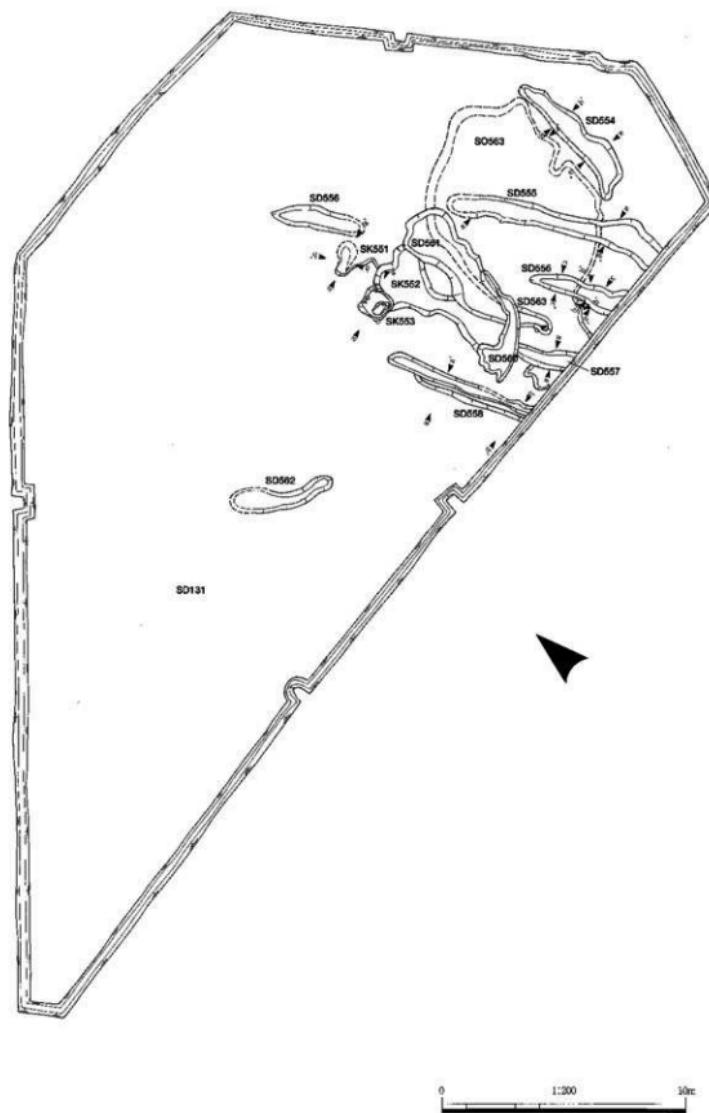
0 1:1200 60m



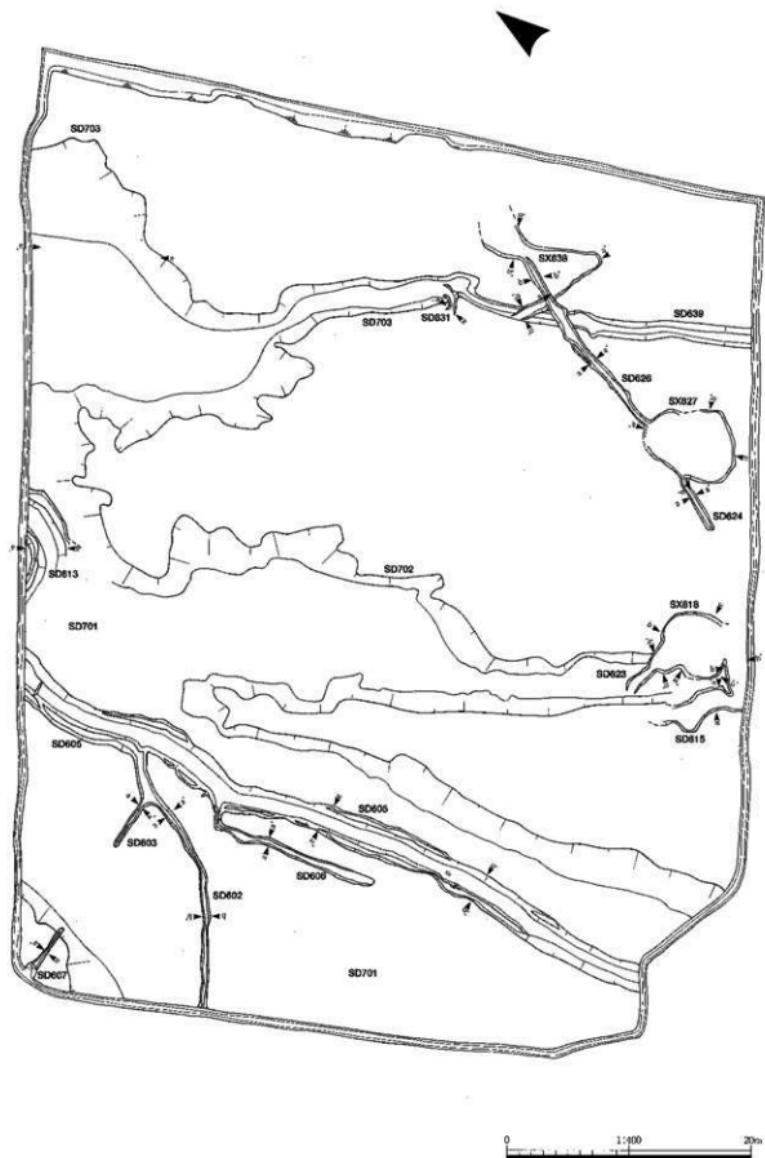
第5図 江戸遺跡 A地区 繩文・弥生時代遺構全体図 (1:500)



第6図 江尻遺跡 B1地区 繩文・弥生時代遺構全体図 (1:400)

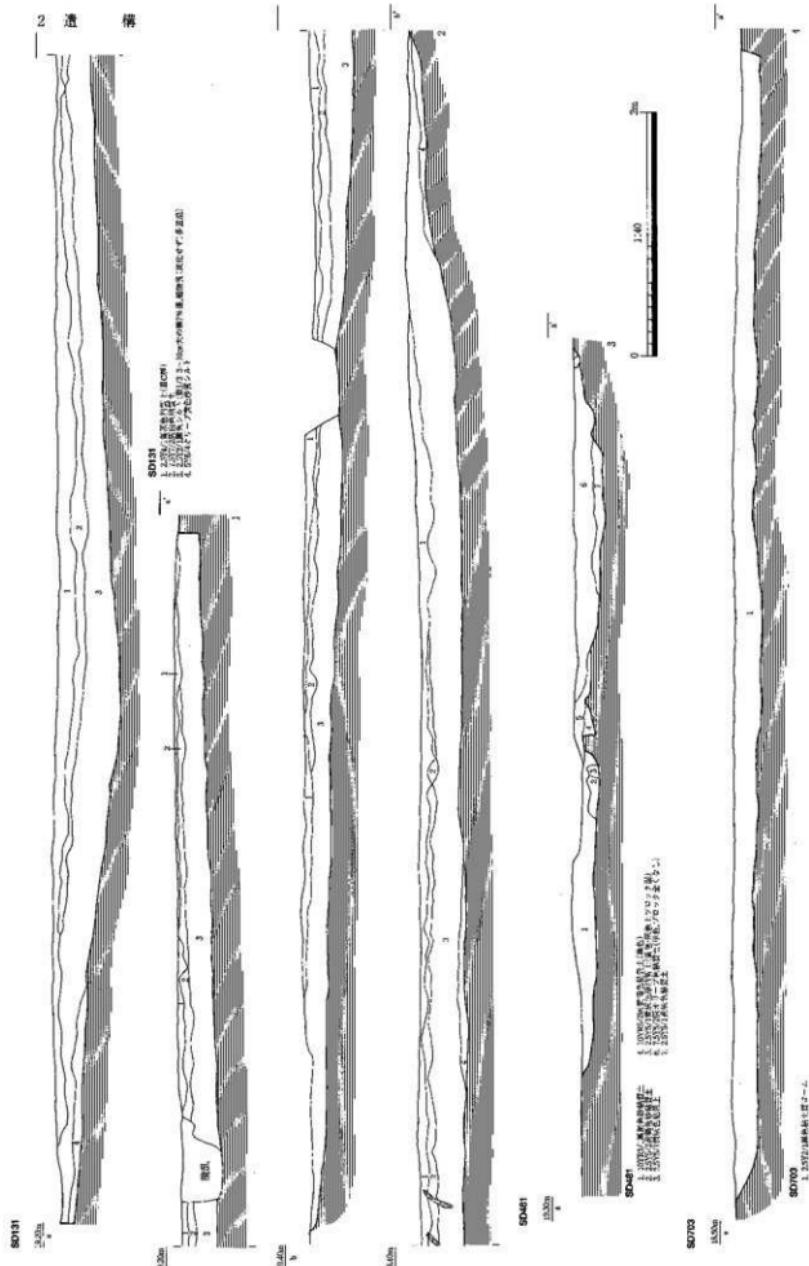


第7図 江戸遺跡 B2地区 繩文・弥生時代・中世遺構全体図 (1:200)



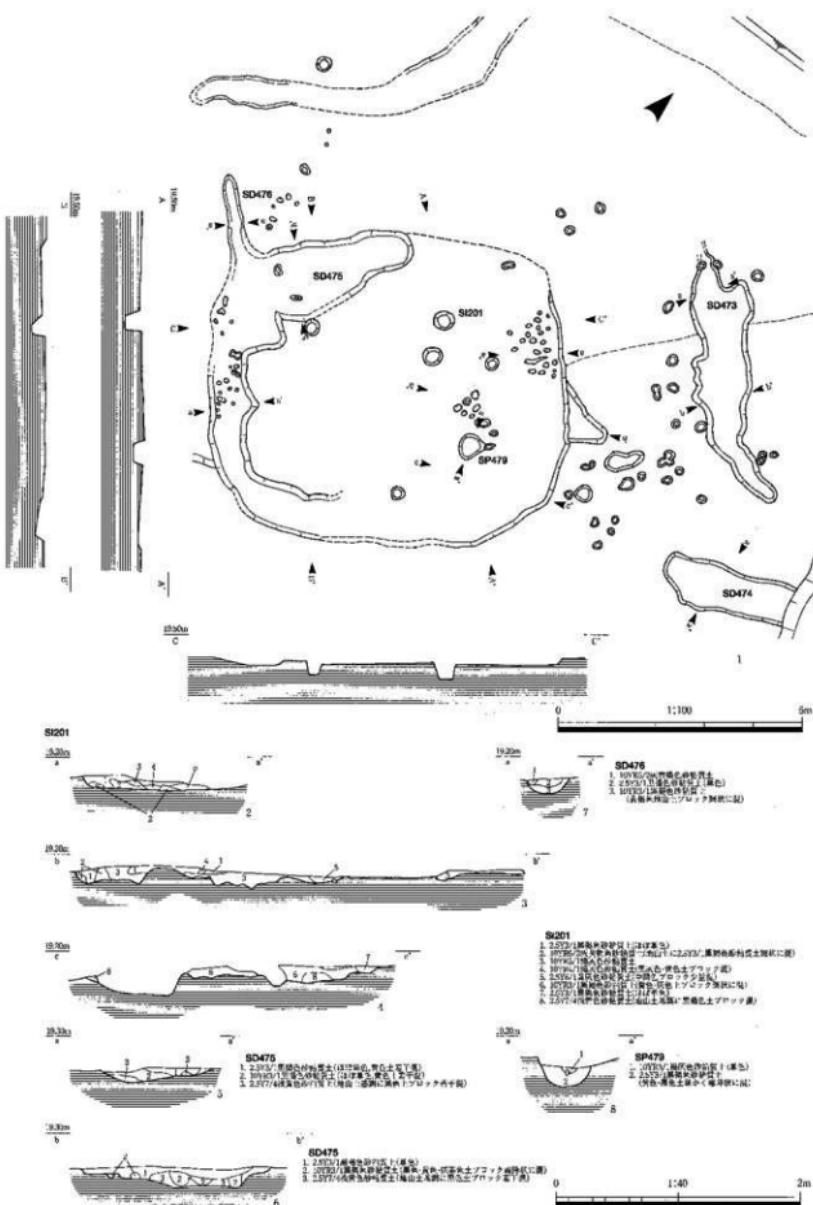
第8図 江戸遺跡 C地区 繩文・弥生時代遺構全体図 (1:400)

2 造 構



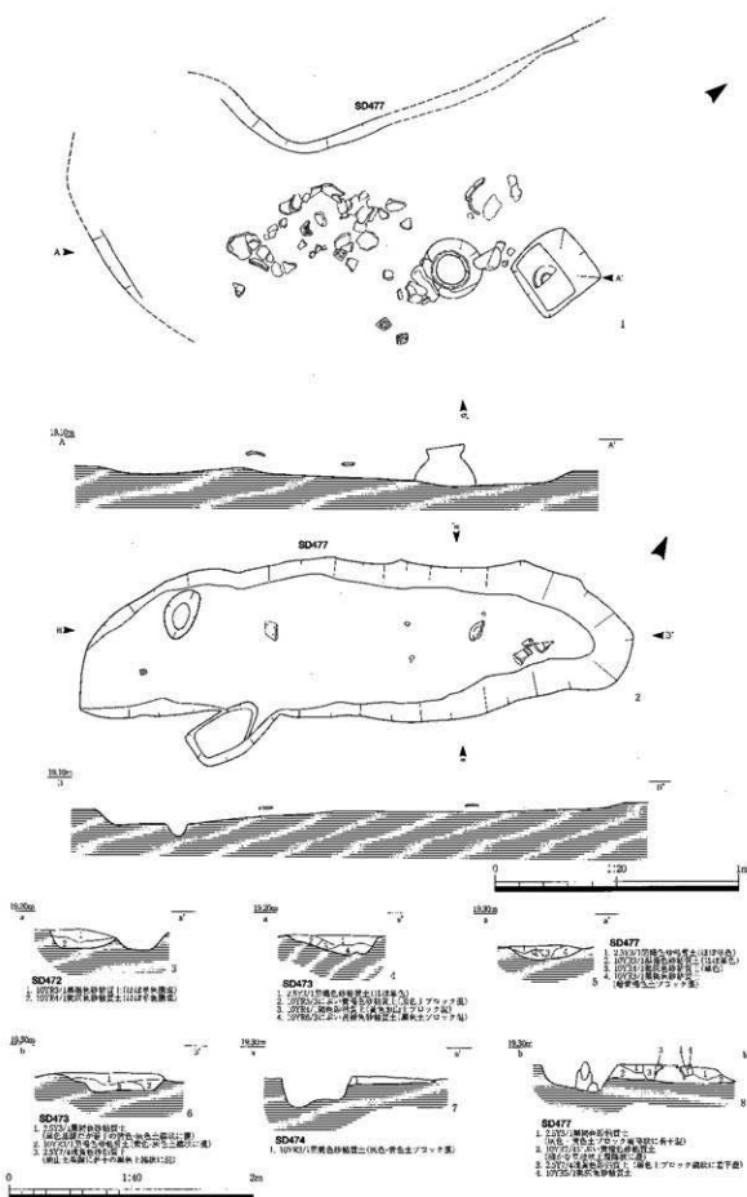
第9図 江尻遺跡 A～C地区 繩文時代造構実測図 (1:40)

1・2. SD131 3. SD481 4. SD703



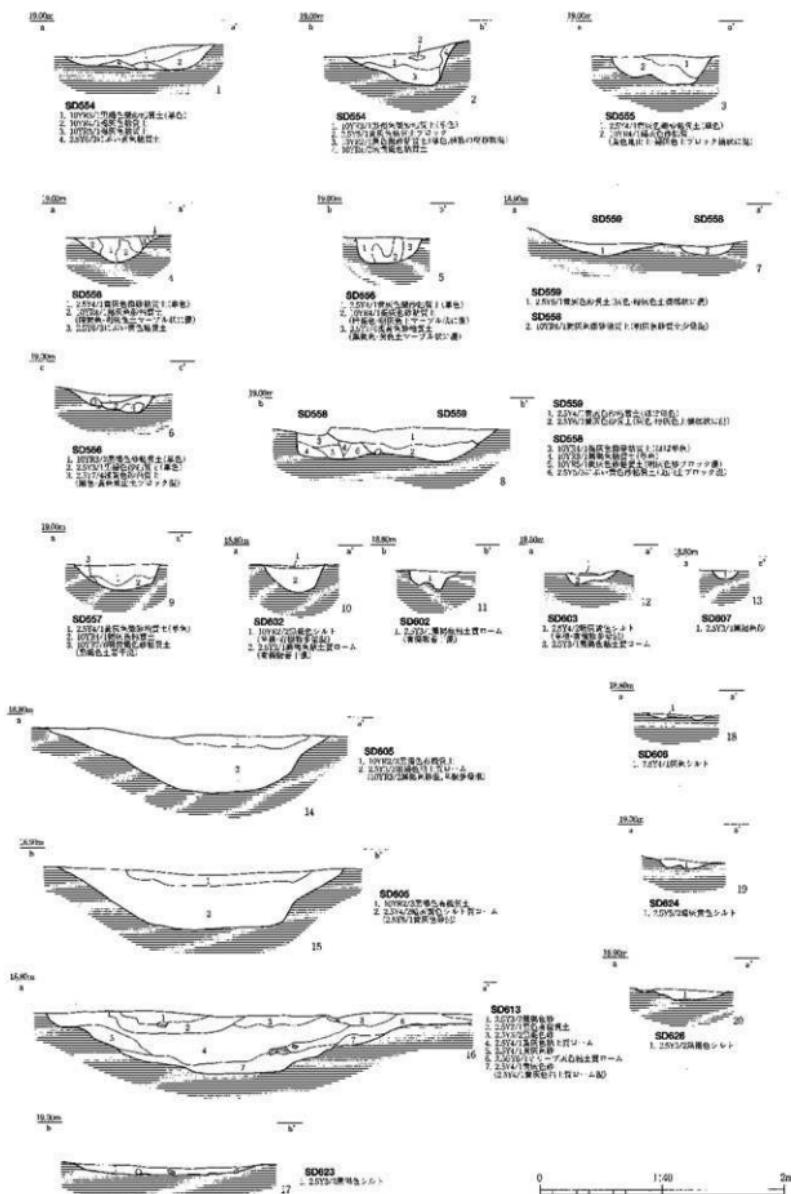
第10図 江尻遺跡 B1地区 弥生時代造構実測図 (1:100), 2~8(1:40)

1~4. SI201 5~6. SD475 7. SD476 8. SP479



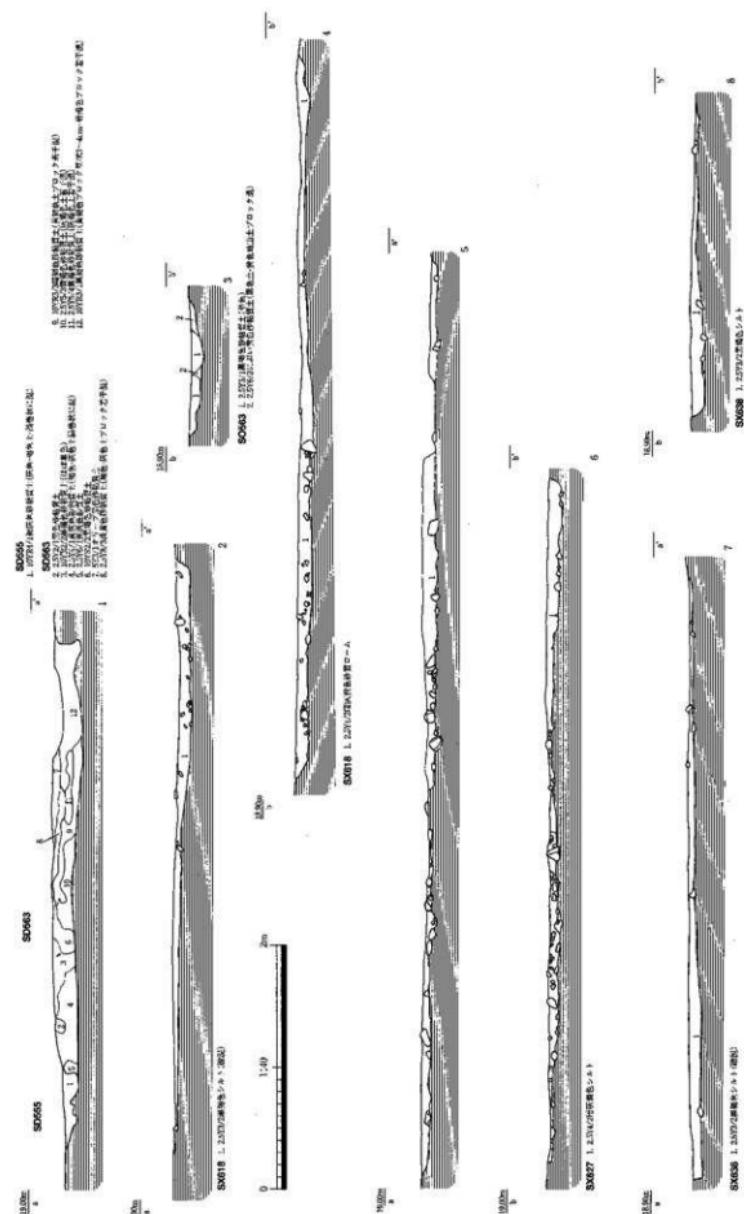
第11図 江尻遺跡 B1地区 弥生時代遺構実測図 (1-2(1:20), 3~8(1:40))

1. 2. 5. 8. SD477 3. SD472 4. 6. SD473 7. SD474

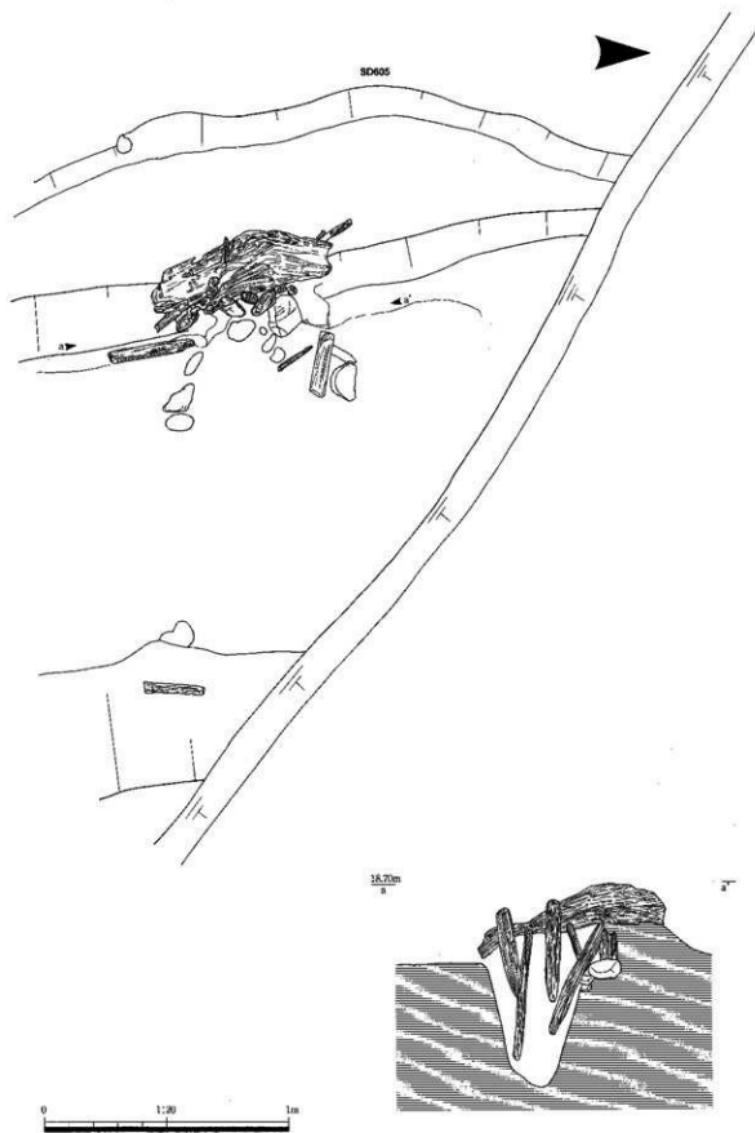


第12図 江戸遺跡 B2・C地区 弥生時代遺構竪測図 (1/40)

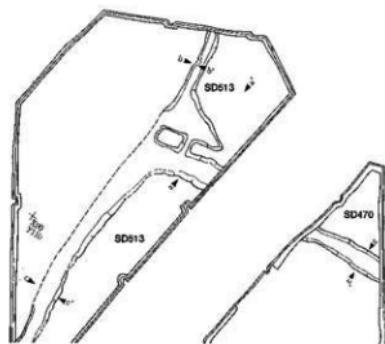
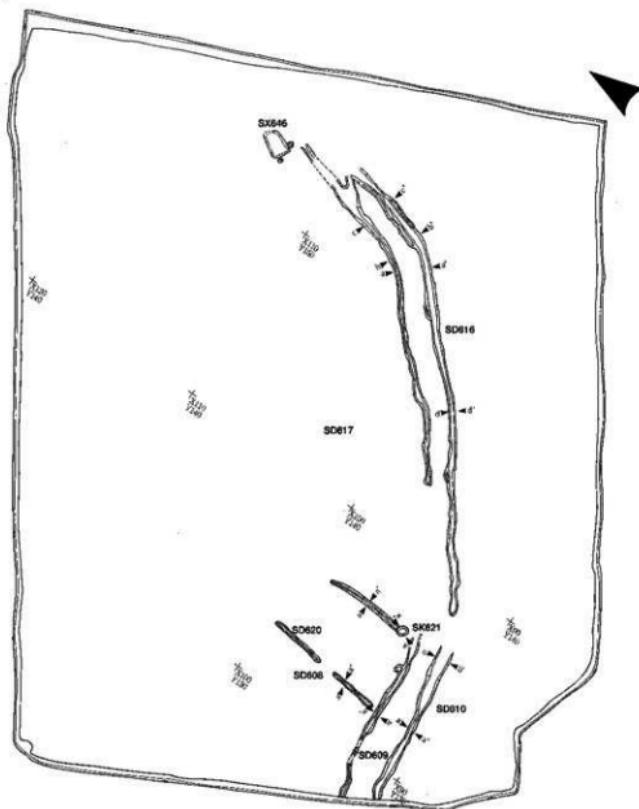
1. 2. SD554 3. SD555 4~6. SD556 7~8. SD558·SD559 9. SD557 10·11. SD602 12. SD603
13. SD607 14·15. SD605 16. SD613 17. SD623 18. SD606 19. SD624 20. SD625



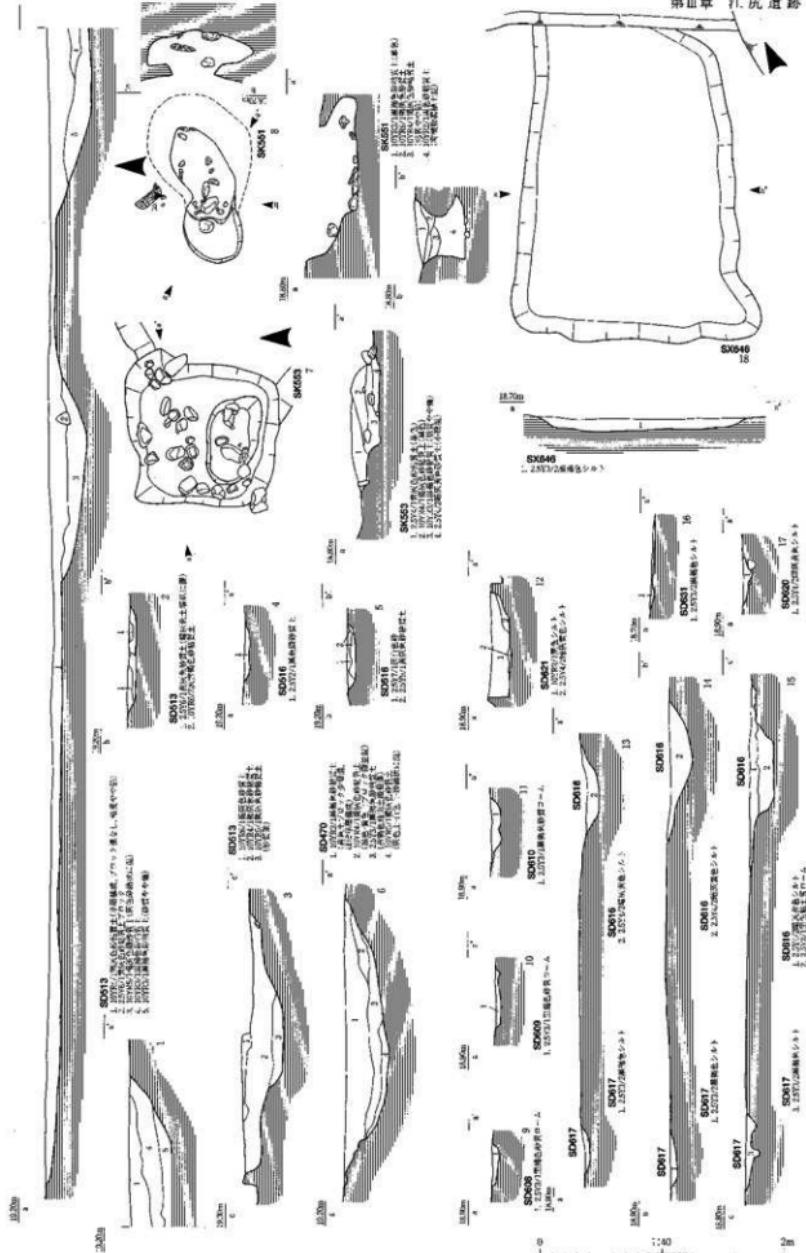
第13図 江戸遺跡 B2・C地区 弥生時代遺構実測図 (1:40)
1. SD555-SO663 2・4. SX618 3. SO663 5・6. SX627 7・8. SX638



第14図 江戻遺跡 C地区 弥生時代遺構実測図 (1:20)
SD605

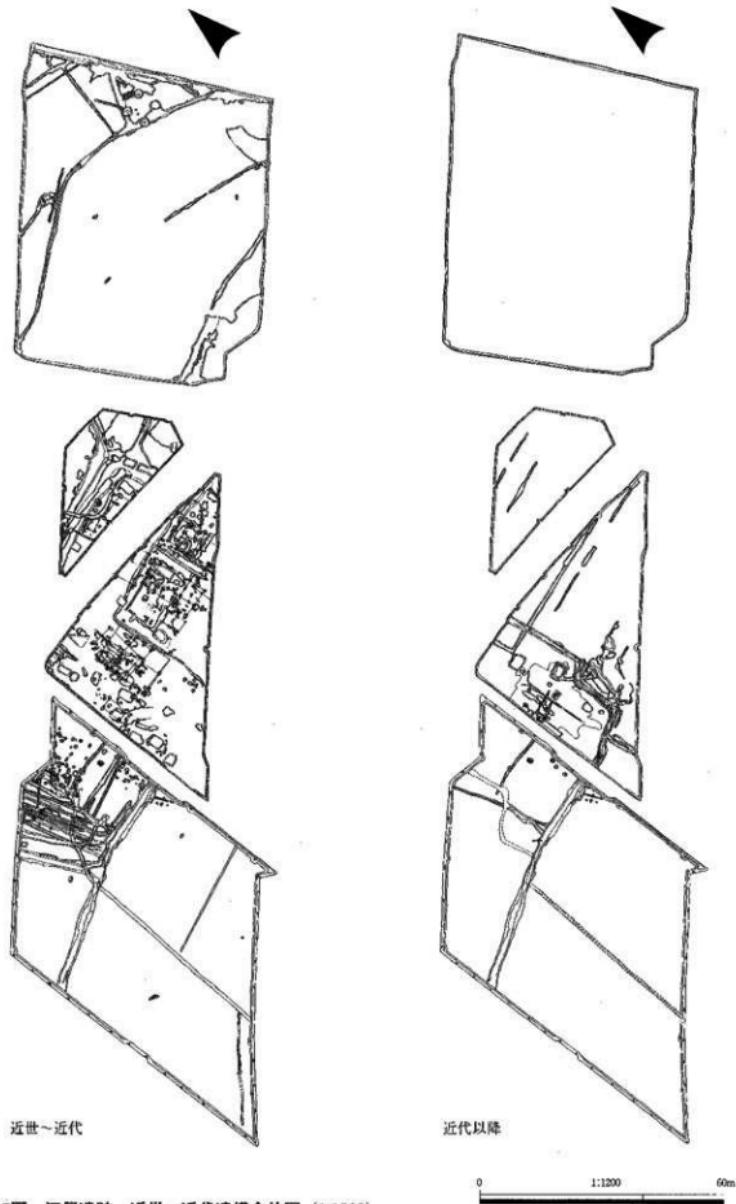


第15図 江尻遺跡 B・C地区 中世遺構全体図 (1:500)

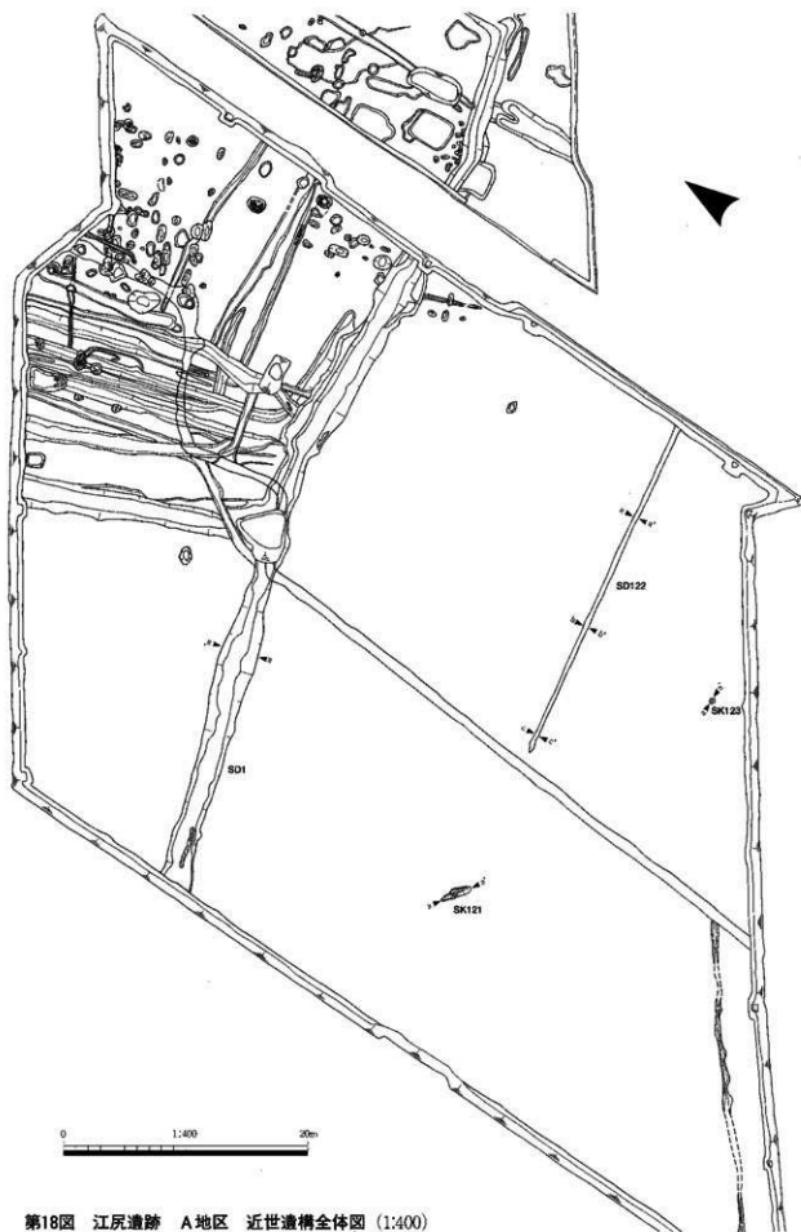


第16図 江尻遺跡 B・C地区 中世遺構実測図 (1:40)

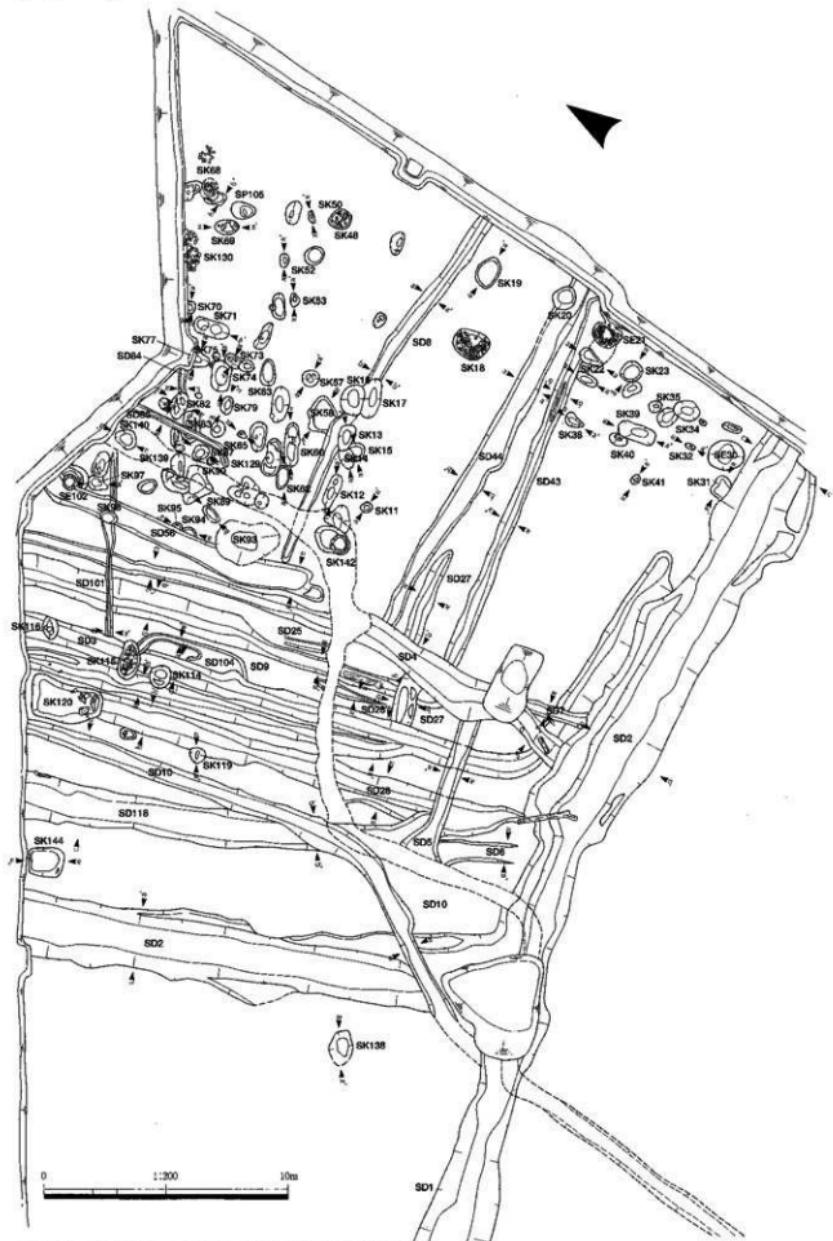
1~3. SD513 4~5. SD516 6. SD470 7. SK553 8. SK551 9. SD608 10. SD609 11. SD610
 12. SK621 13~15. SD616 · SD617 16. SD631 17. SD620 18. SX648



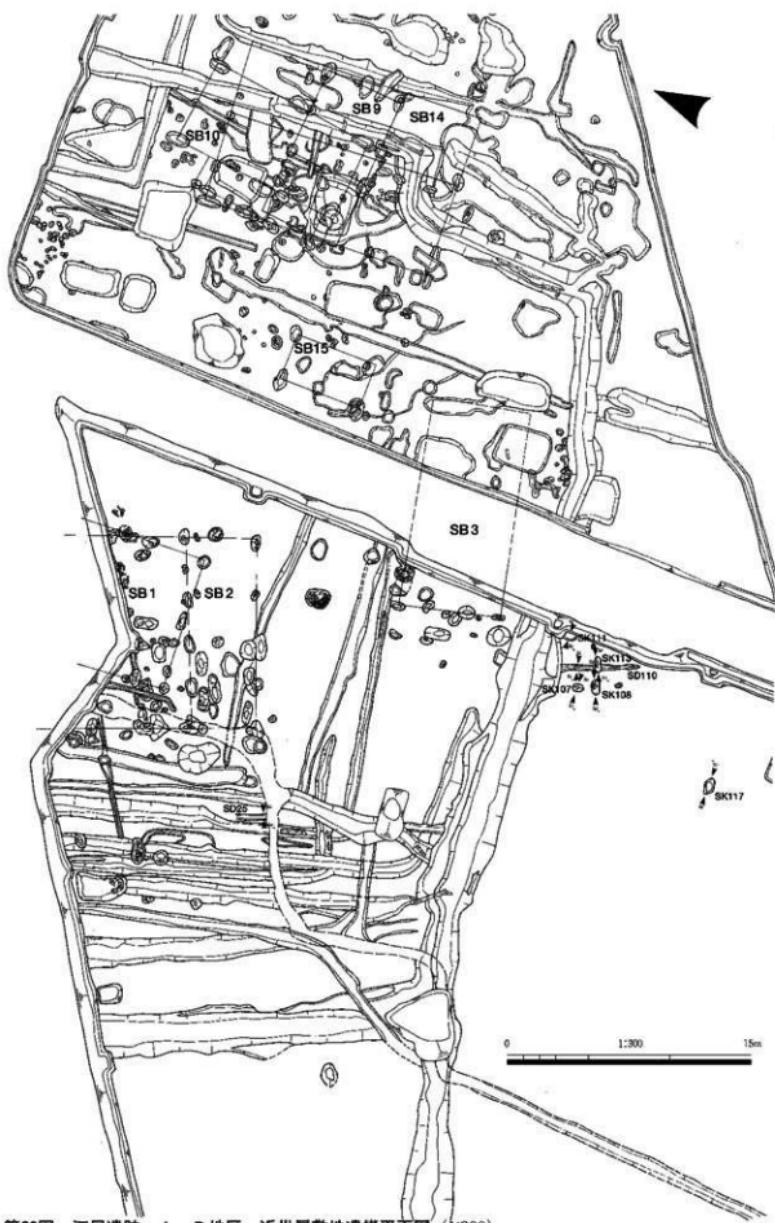
第17図 江戸遺跡 近世・近代遺構全体図 (1:1200)



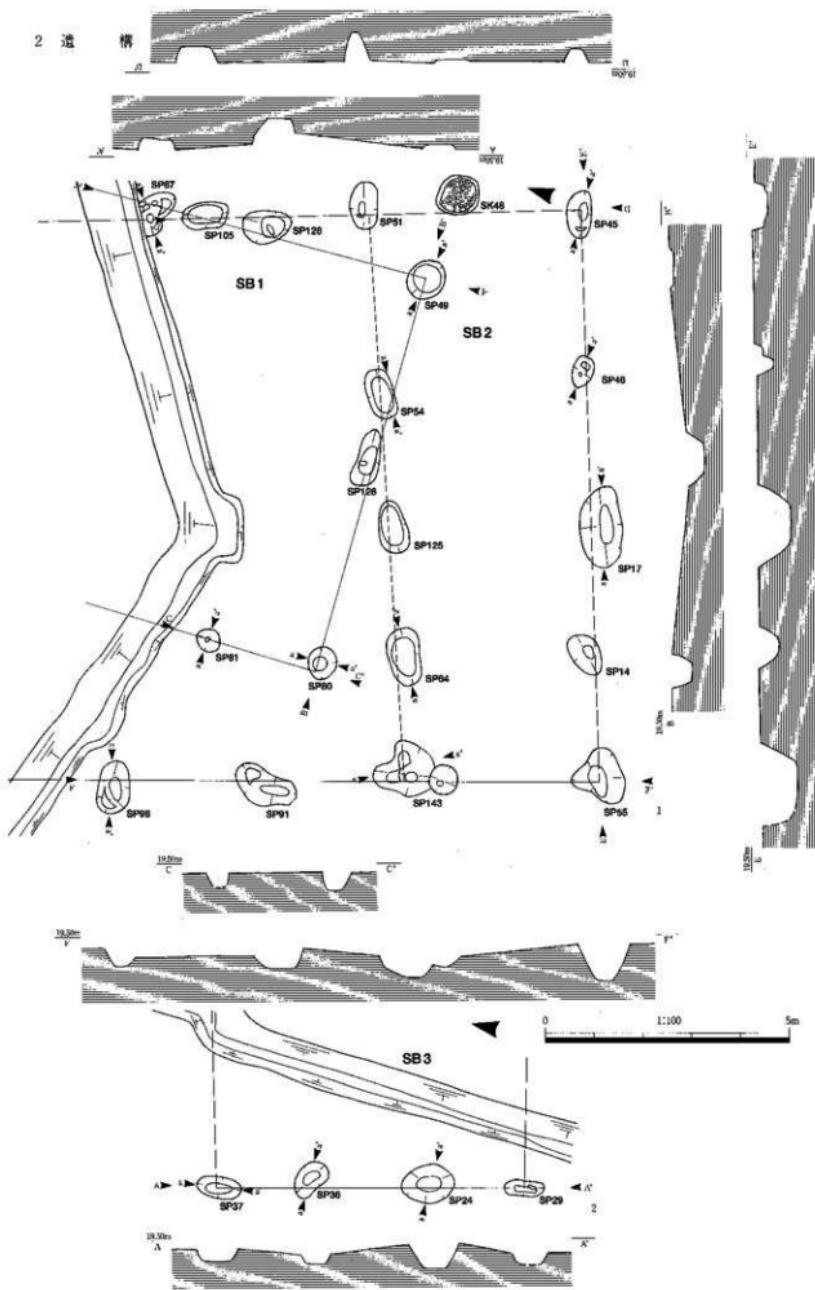
第18図 江尻遺跡 A地区 近世遺構全体図 (1:400)



第19図 江戸遺跡 A地区 近世遺構全体図 (1:200)

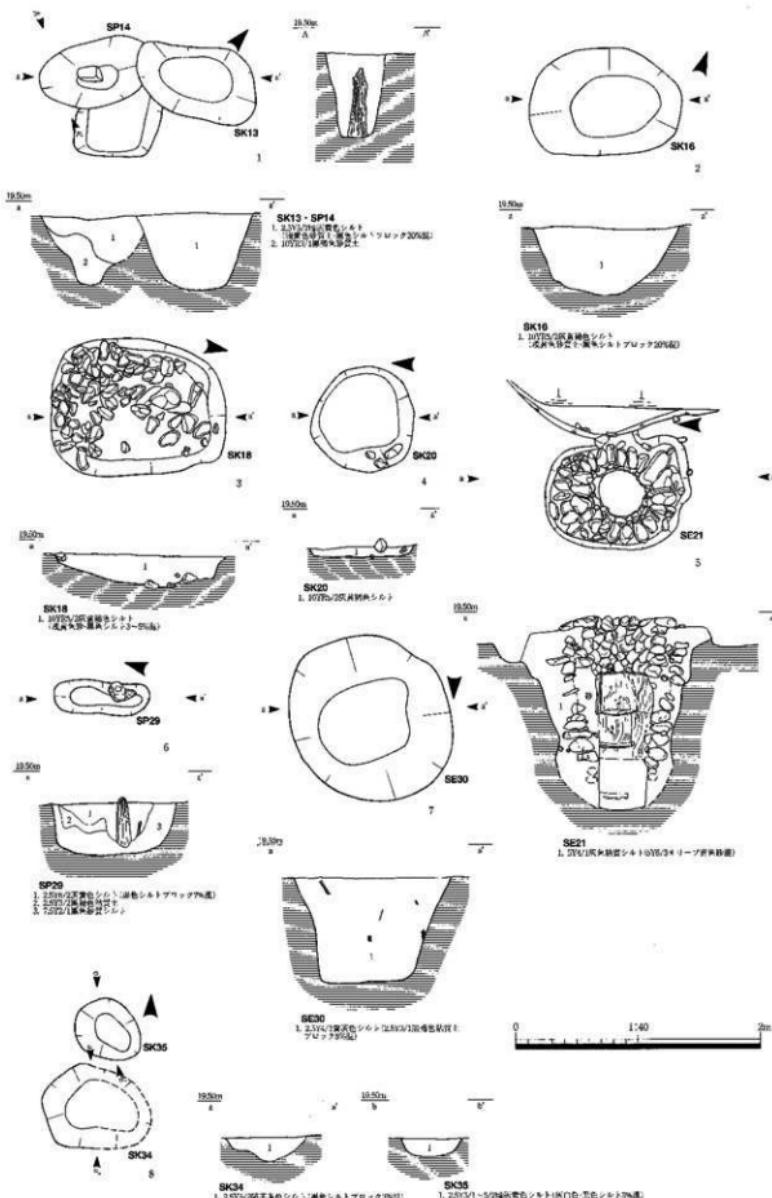


第20図 江尻遺跡 A・B地区 近世屋敷地遺構平面図 (1:300)
SB1・SB2・SB3・SB9・SB10・SB14・SB15



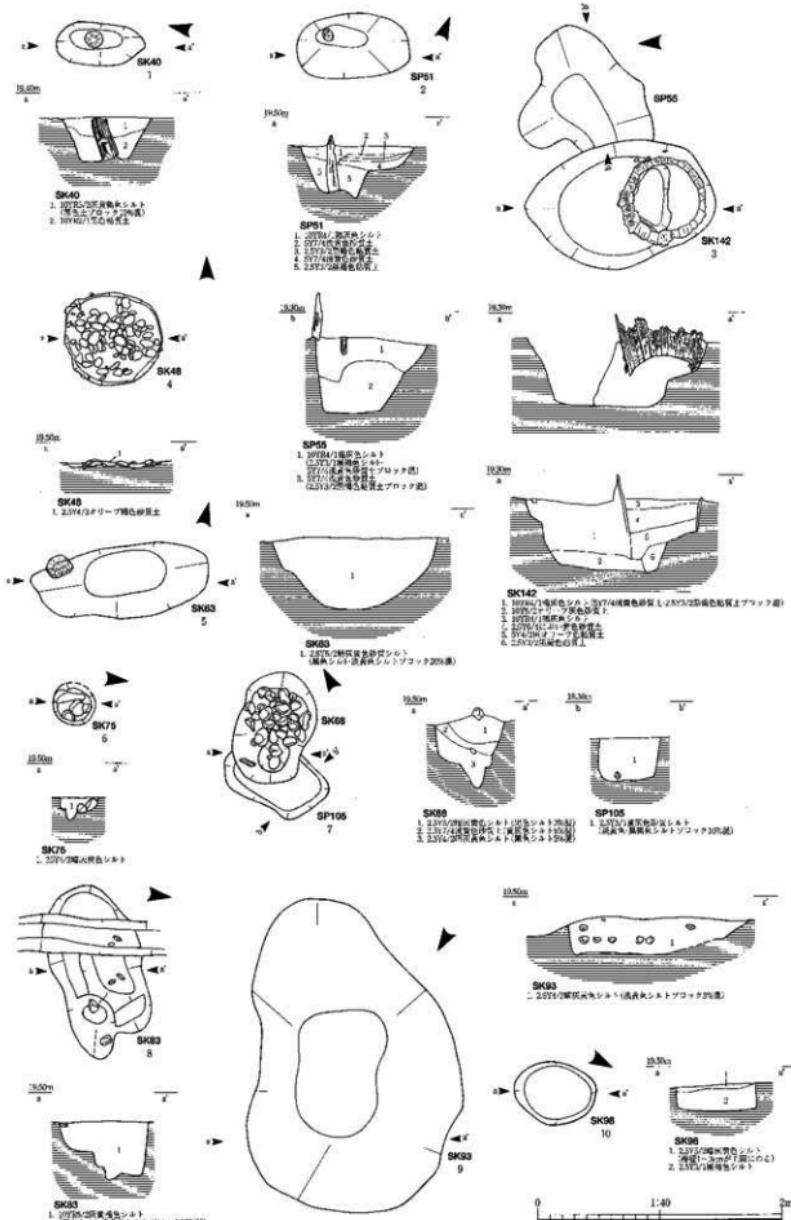
第21図 江戻遺跡 A地区 近世造構実測図 (1:100)

1. SB1・SB2 2. SB3



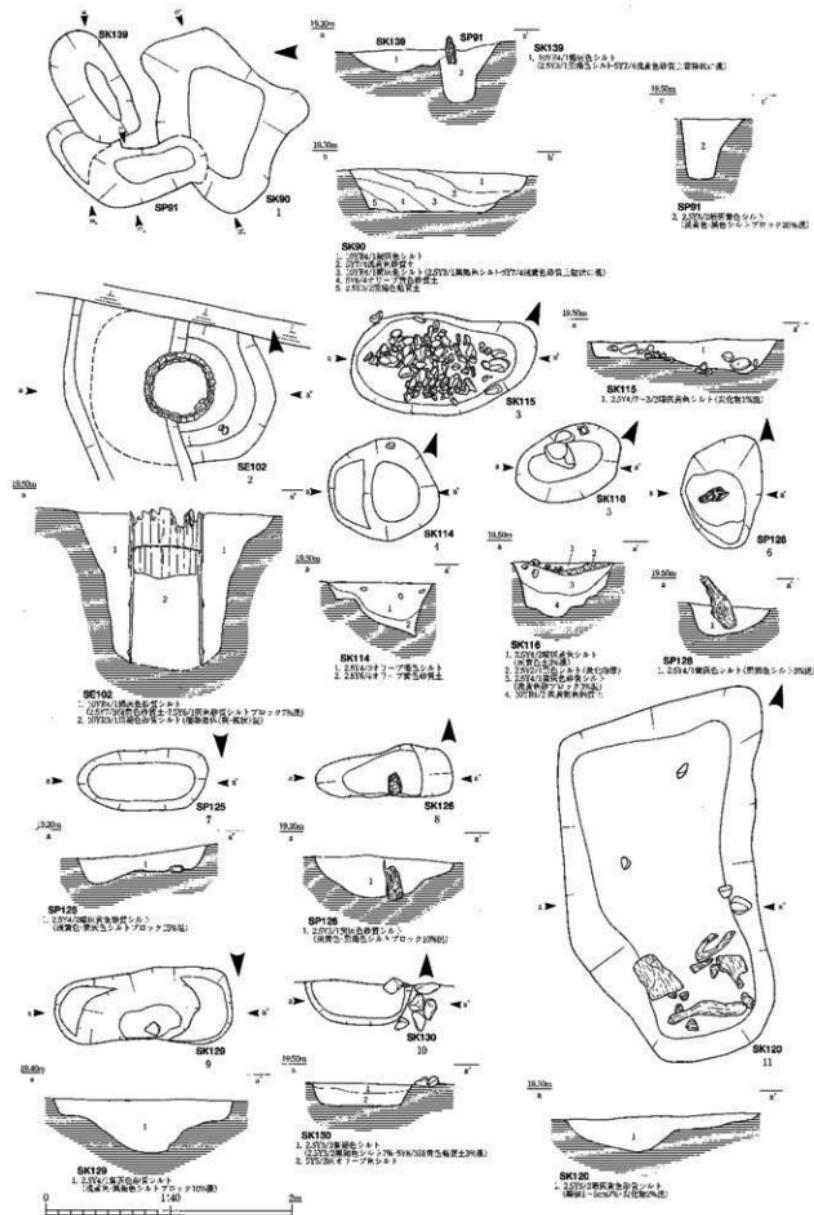
第22図 江戻遺跡 A地区 近世造構実測図 (1:40)

1. SK13・SP14 2. SK16 3. SK18 4. SK20 5. SE21 6. SP29 7. SE30 8. SK34・SK35



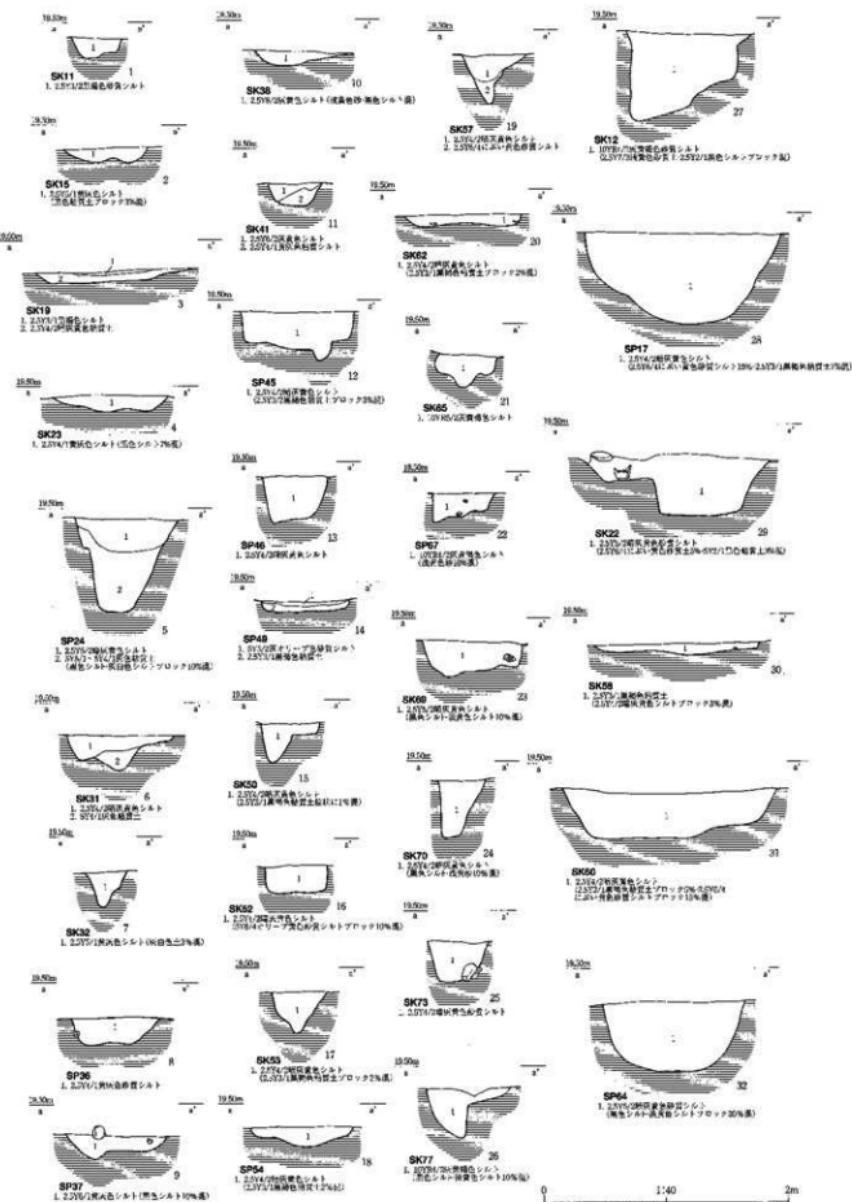
第23図 江戻遺跡 A地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SK40
2. SP51
3. SP55
4. SK48
5. SK63
6. SK75
7. SK68・SP105
8. SK83
9. SK93
10. SK96



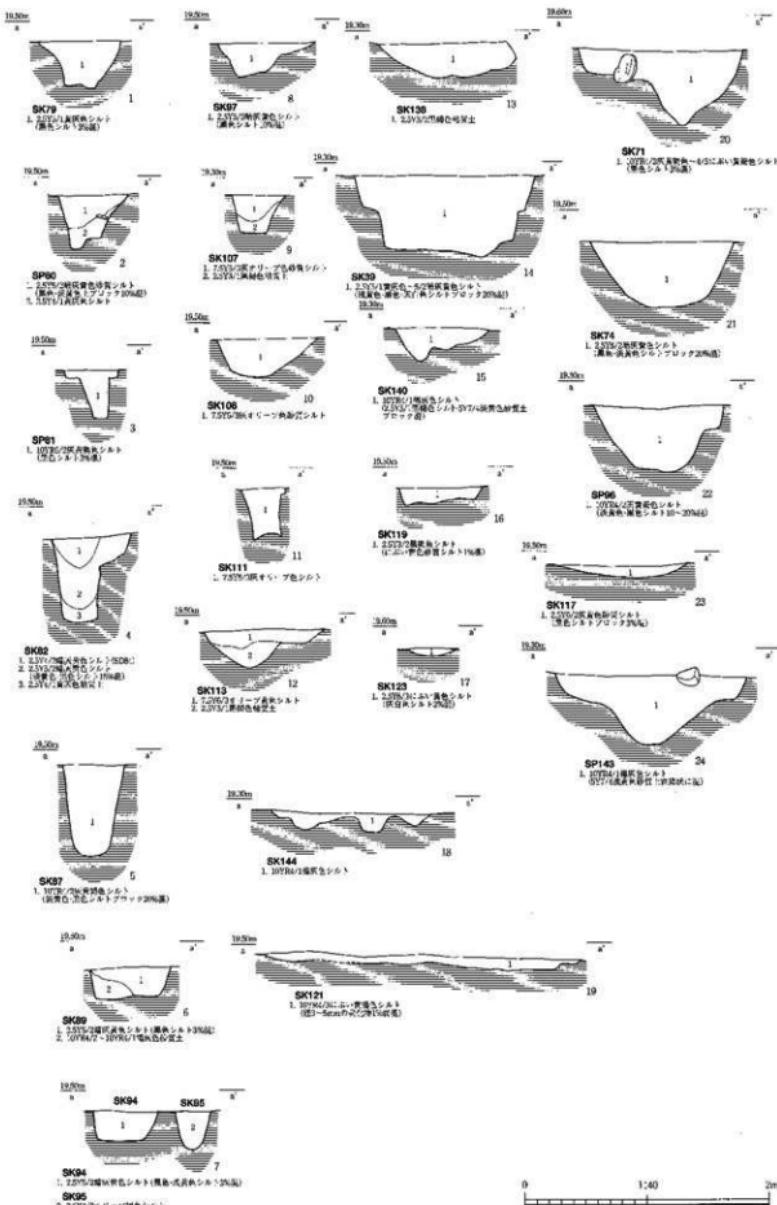
第24図 江戻遺跡 A地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SK90・SP91・SK139
2. SE102
3. SK114
4. SK115
5. SK116
6. SP128
7. SP125
8. SP126
9. SK129
10. SK130
11. SK120



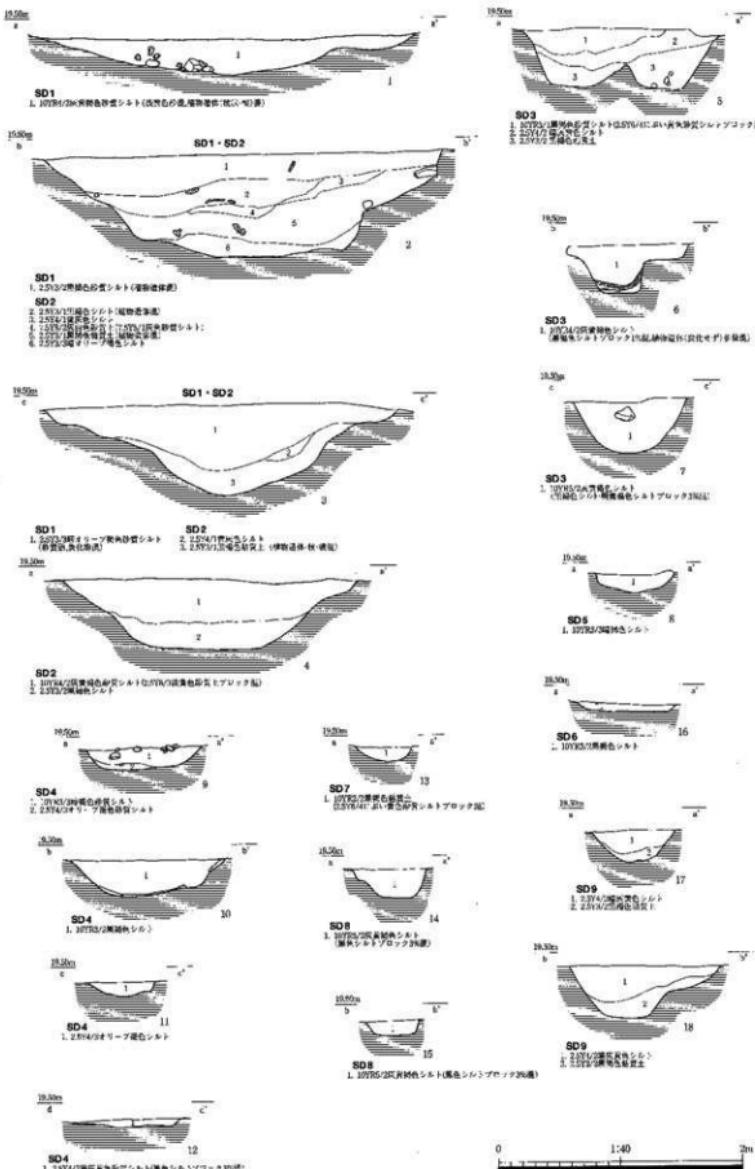
第25図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図(1:40)

1. SK11 2. SK12 3. SK13 4. SK14 5. SK15 6. SK16 7. SK17 8. SK18 9. SK19 10. SK20 11. SK21 12. SK22 13. SK23 14. SK24 15. SK25 16. SK26 17. SK27 18. SK28 19. SK29 20. SK30 21. SK31 22. SK32 23. SK33 24. SK34 25. SK35 26. SK36 27. SK37 28. SK38 29. SK39 30. SK40 31. SK41 32. SK42 33. SK43 34. SK44 35. SK45 36. SK46 37. SK47 38. SK48 39. SK49 40. SK50 41. SK51 42. SK52 43. SK53 44. SK54 45. SK55 46. SK56 47. SK57 48. SK58 49. SP17 50. SP45 51. SP46 52. SP48 53. SP54 54. SP55 55. SP56 56. SP57 57. SP58 58. SP64 59. SP77



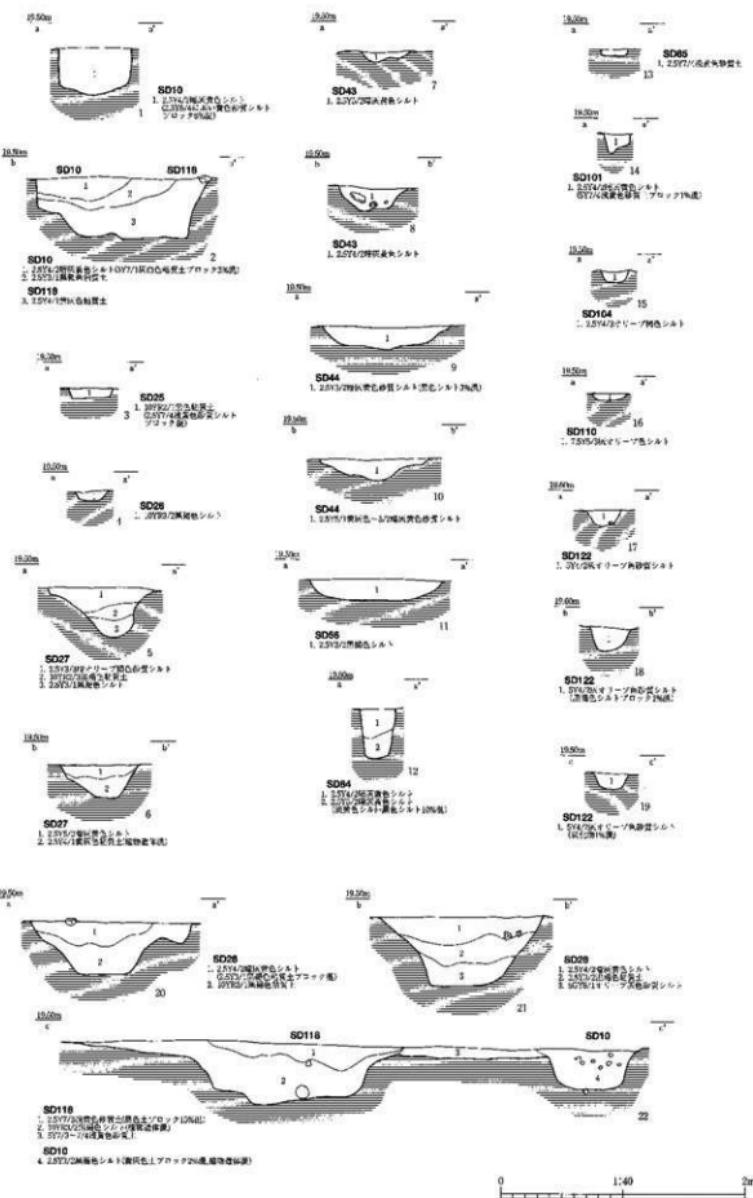
第26図 江戻遺跡 A地区 近世遺構実測図 (1:40)

- SK79
- SP80
- SP81
- SK87
- SK88
- SK89
- SK90
- SK91
- SK92
- SK93
- SK94
- SK95
- SK96
- SK97
- SK98
- SK99
- SK100
- SK101
- SK102
- SK103
- SK104
- SK105
- SK106
- SK107
- SK108
- SK109
- SK110
- SK111
- SK112
- SK113
- SK114
- SK115
- SK116
- SK117
- SK118
- SK119
- SK120
- SK121
- SK122
- SK123
- SK124
- SK125
- SK126
- SK127
- SK128
- SK129
- SK130
- SK131
- SK132
- SK133
- SK134
- SK135
- SK136
- SK137
- SK138
- SK139
- SK140
- SK141
- SK142
- SK143



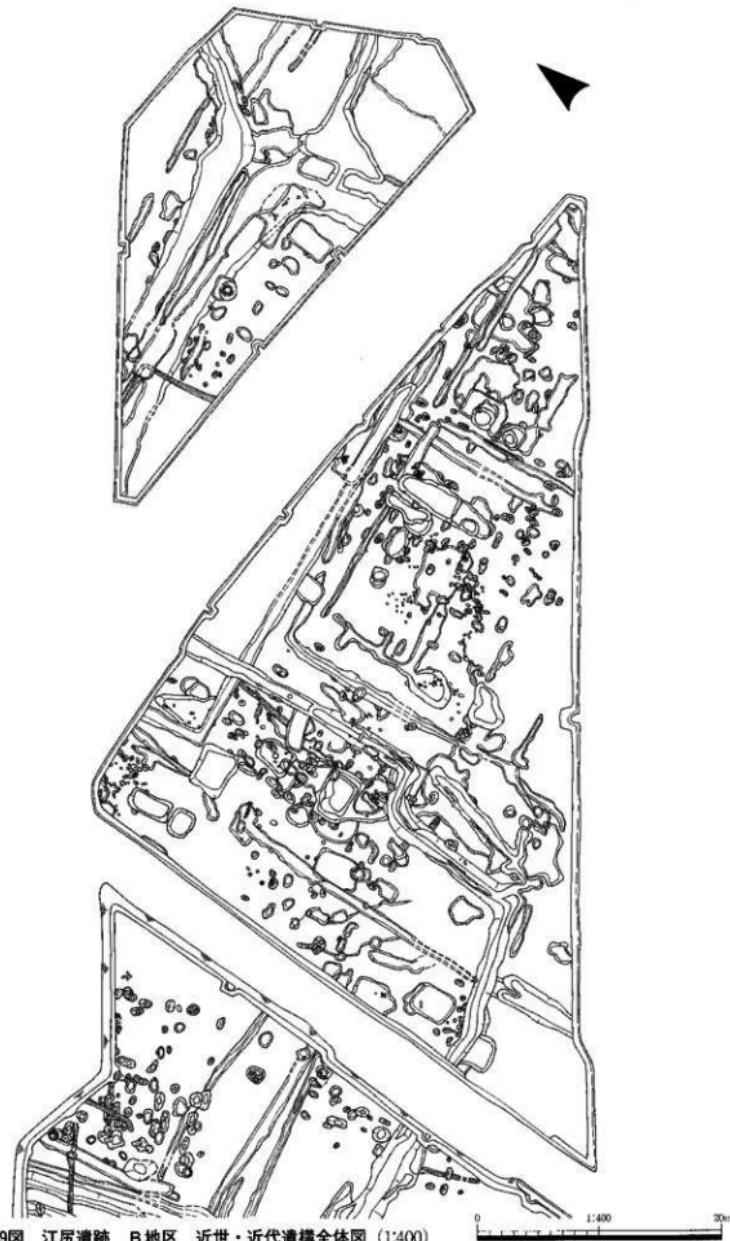
第27図 江尻遺跡 A地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SD 1 2 - 3. SD 1 · SD 2 4. SD 2 5 ~ 7. SD 3 8. SD 5 9 - 12. SD 4 13. SD 7 14 · 15. SD 8
16. SD 6 17 · 18. SD 9

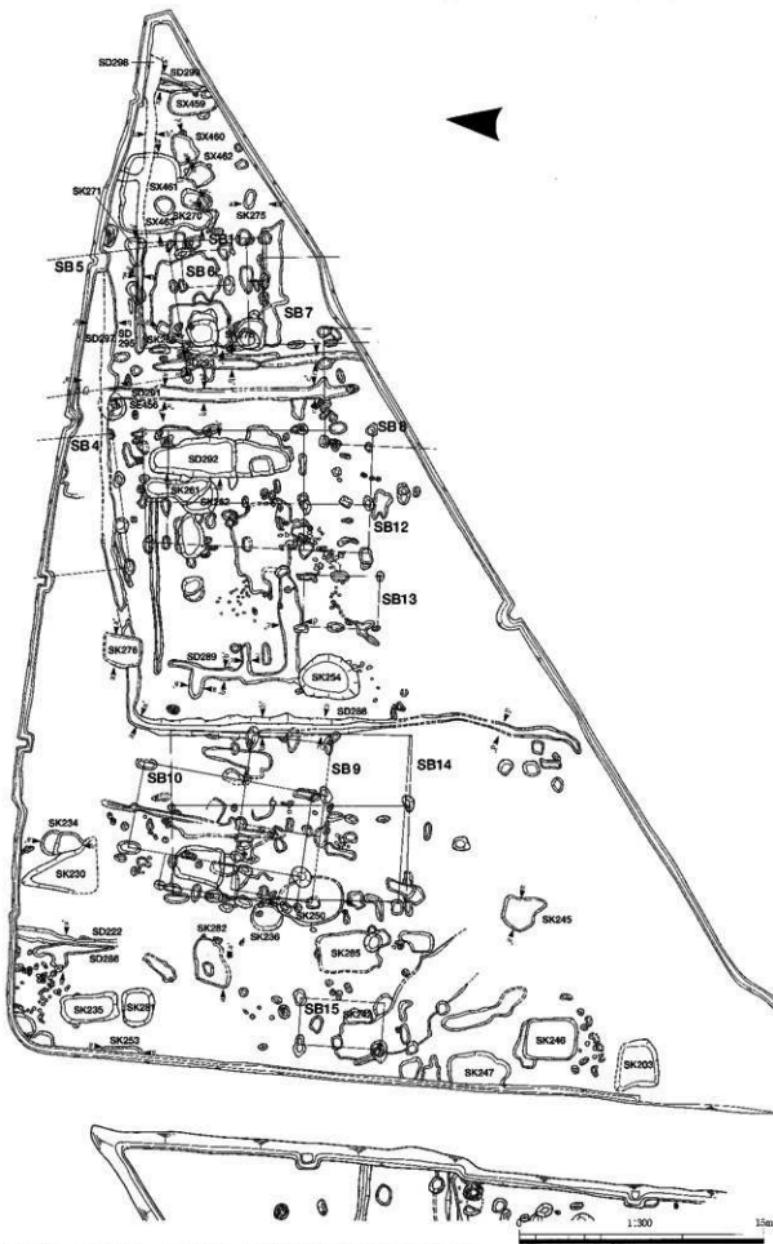


第28図 江戻遺跡 A地区 近世遺構竪断測図 (1:40)

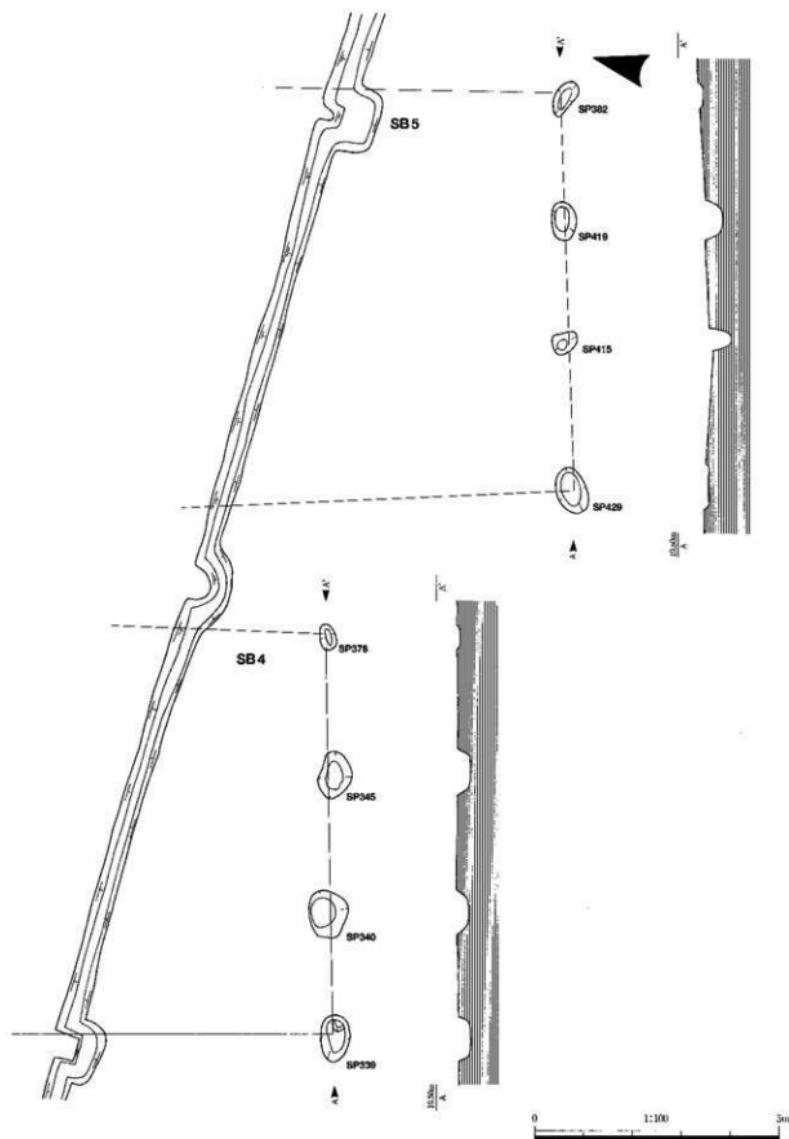
1. SD10 2. SD10 · SD118 3. SD25 4. SD26 5. SD27 6. SD28 7. SD43 8. SD44 9. SD56
12. SD84 13. SD85 14. SD101 15. SD104 16. SD110 17. SD122 18. SD21 19. SD28



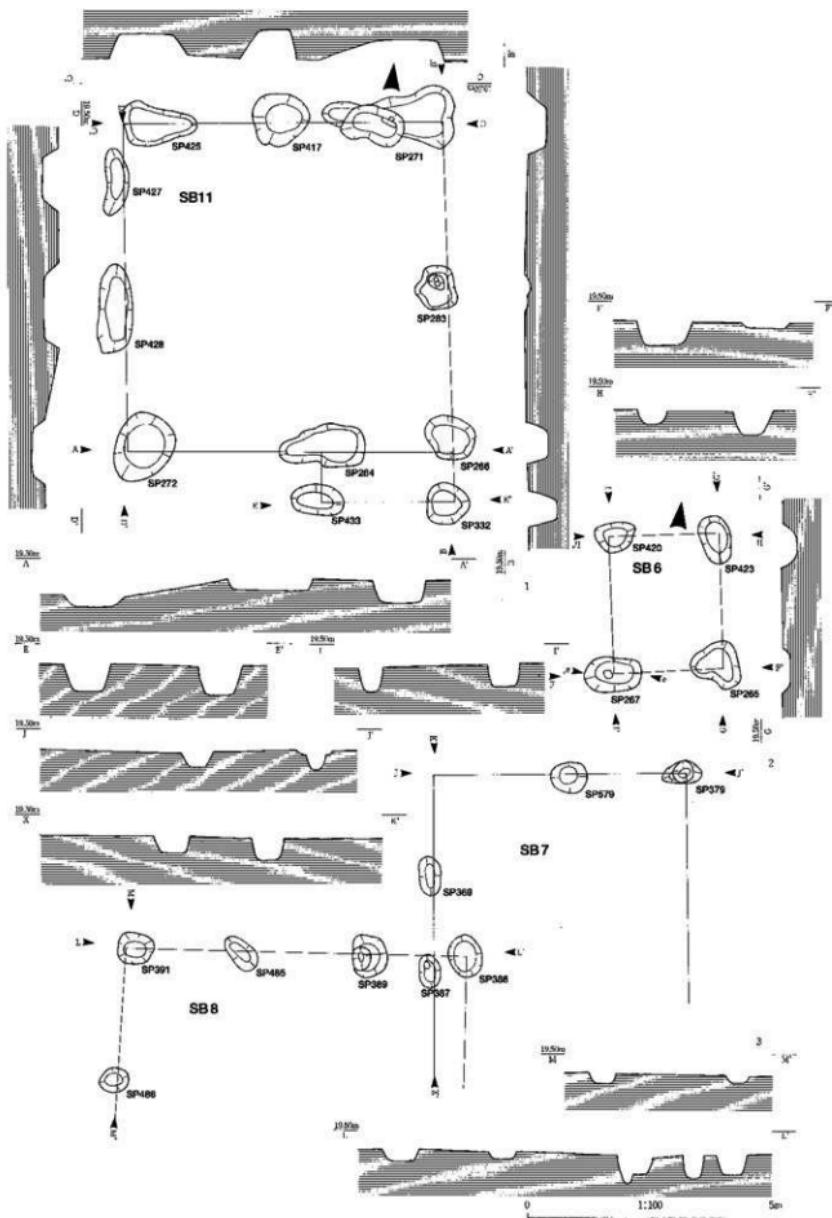
第29図 江戻遺跡 B地区 近世・近代遺構全体図 (1:400)



第30図 江尻遺跡 B1地区 近世屋敷地遺構全体図 (1:300)

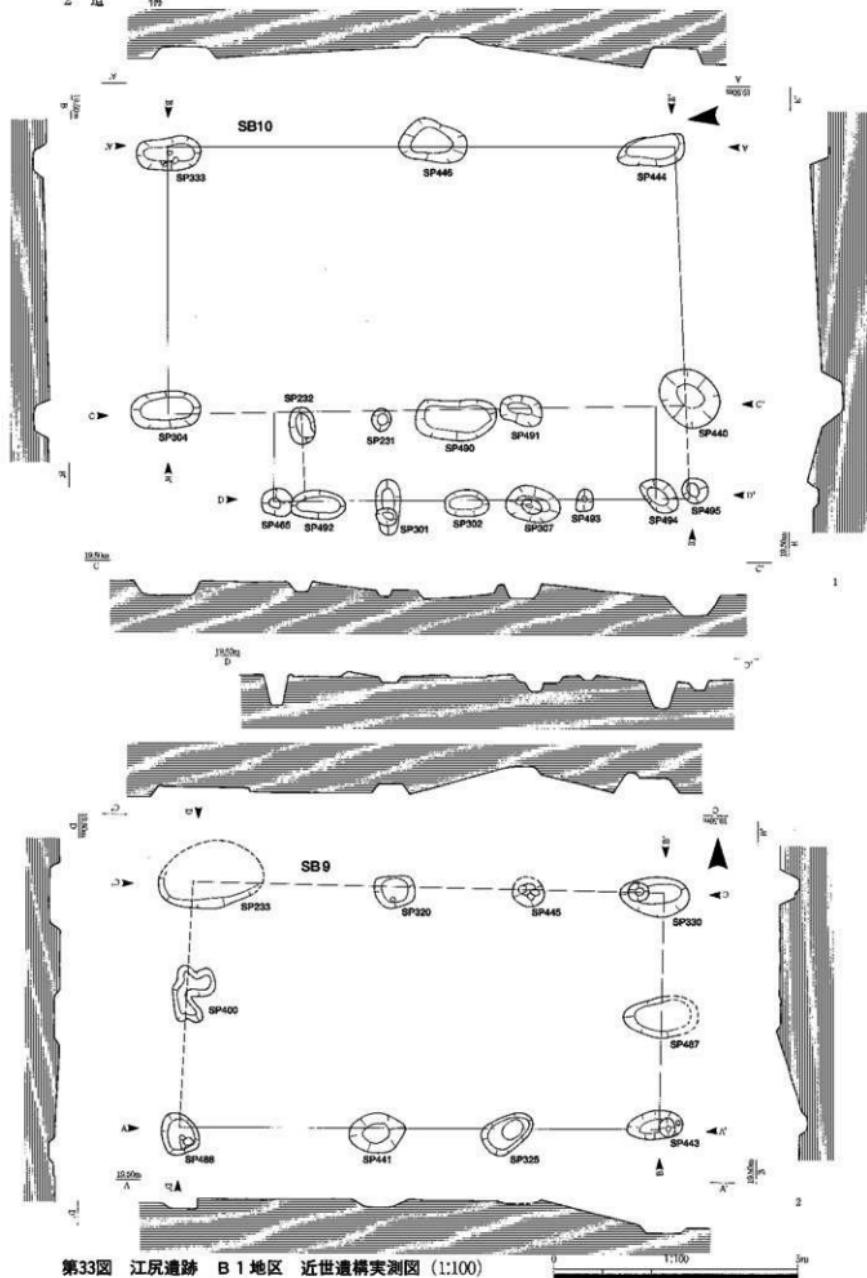


第31図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:100)
SB4・SB5



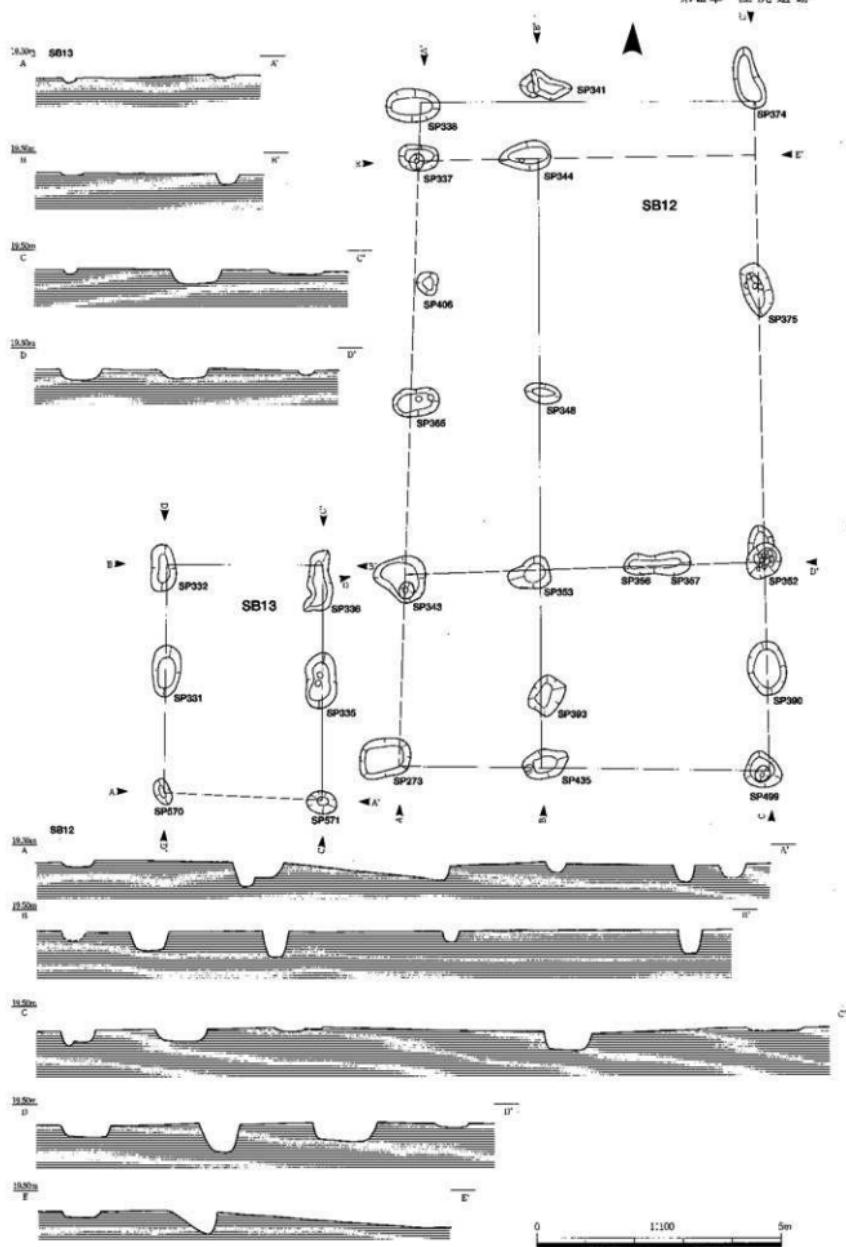
第32図 江戻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:100)

1. SB11 2. SB6 3. SB7・SB8

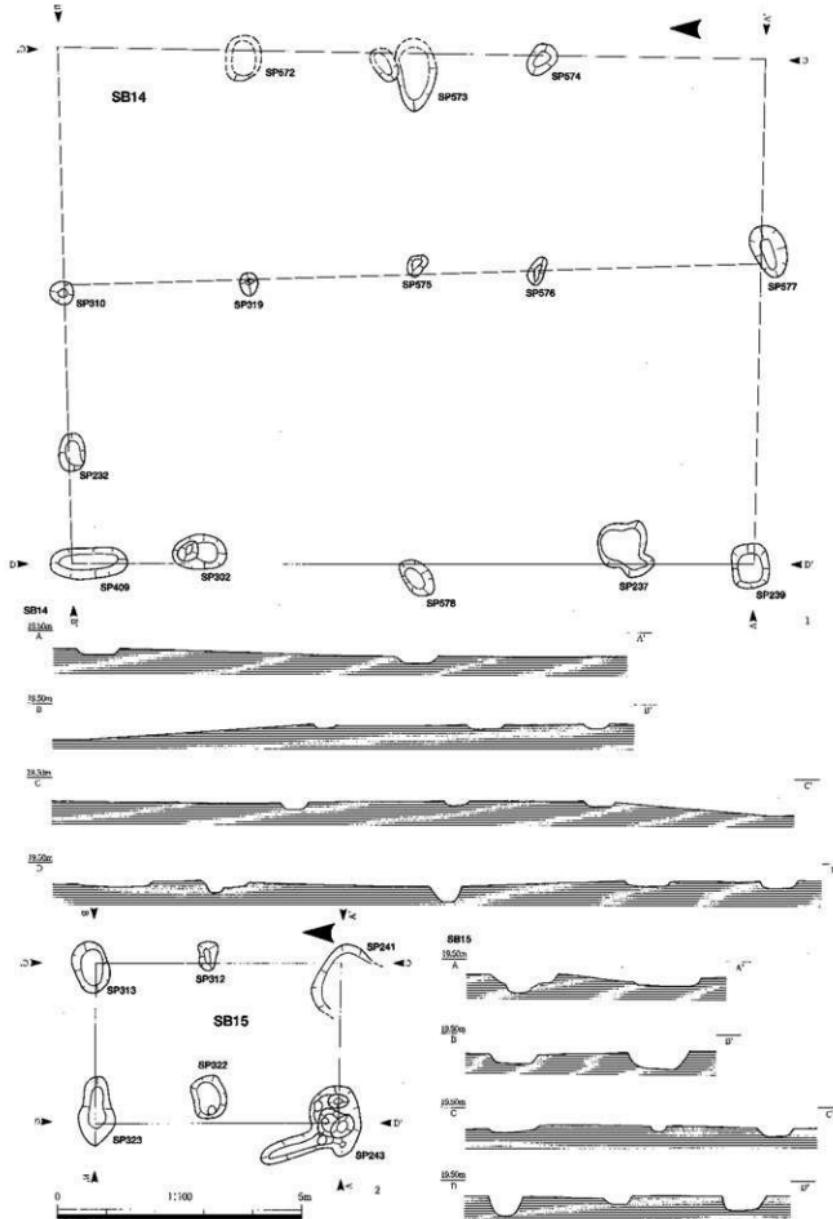


第33図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:100)

1. SB10 2. SB9

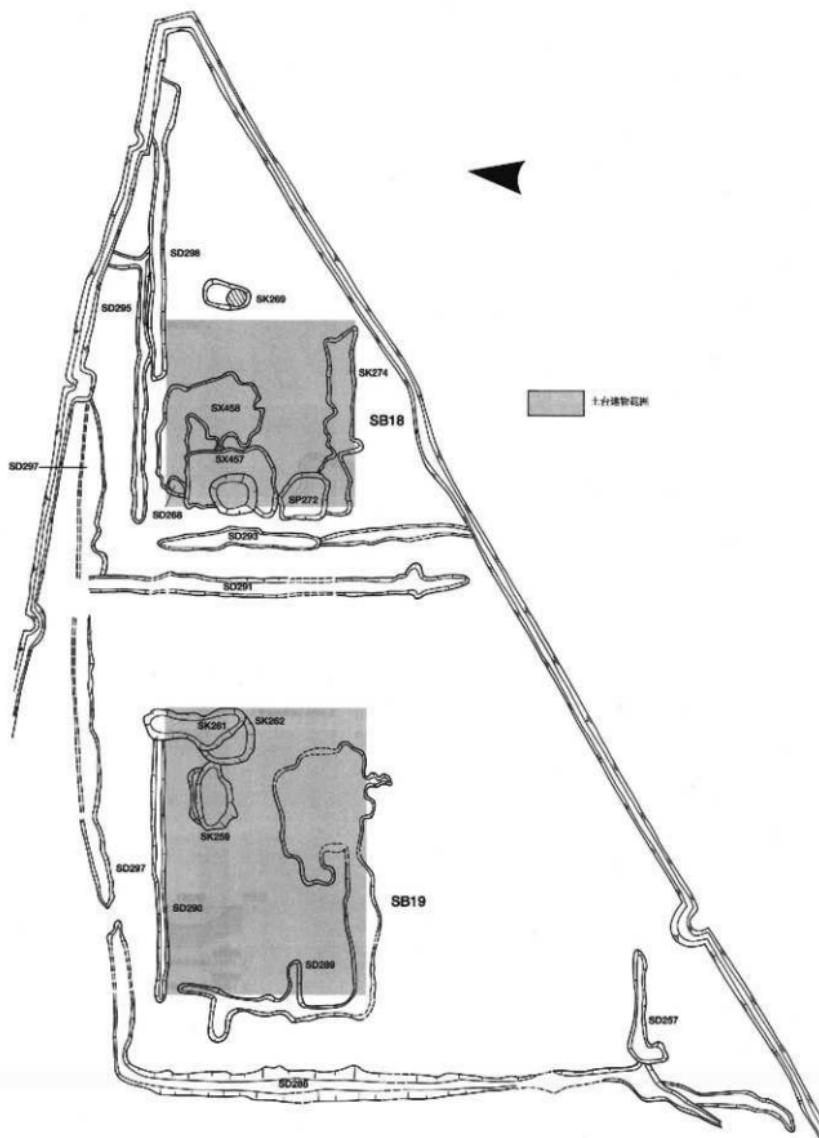


第34図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:100)
SB12・SB13



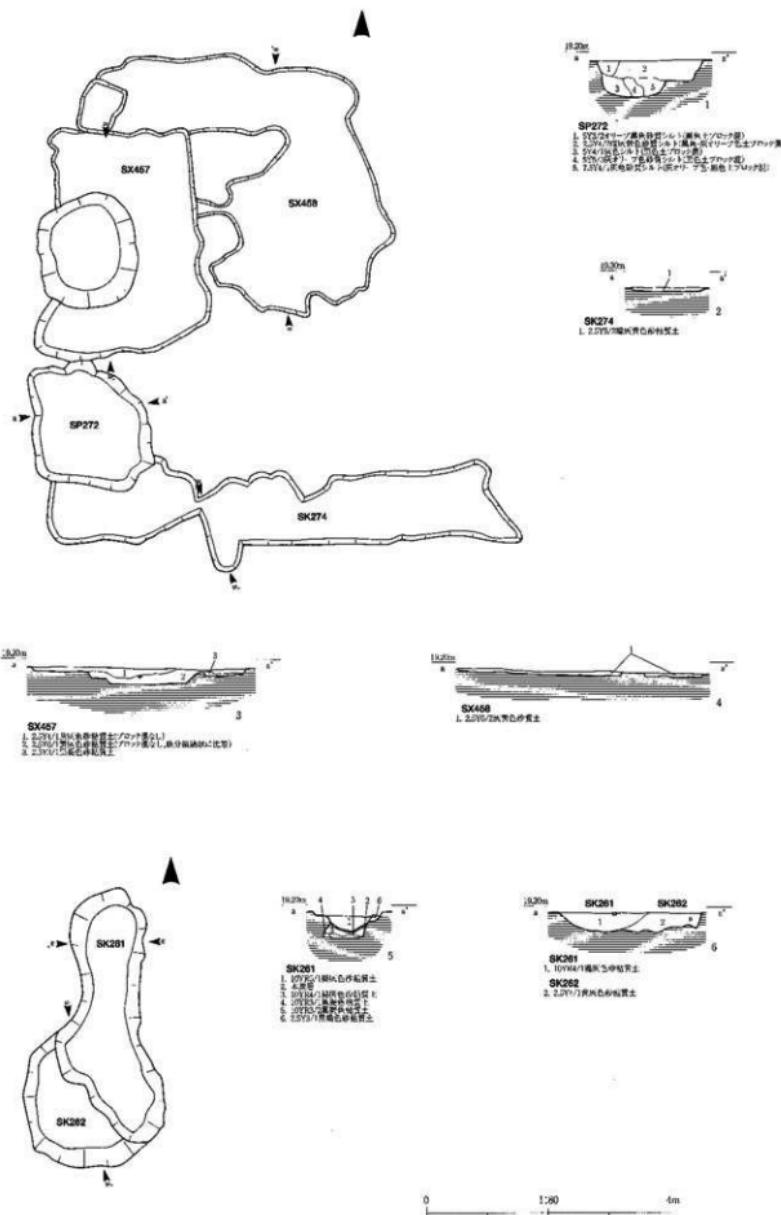
第35図 江尻遺跡 B1地区 近世造構実測図 (1:100)

1. SB14 2. SB15



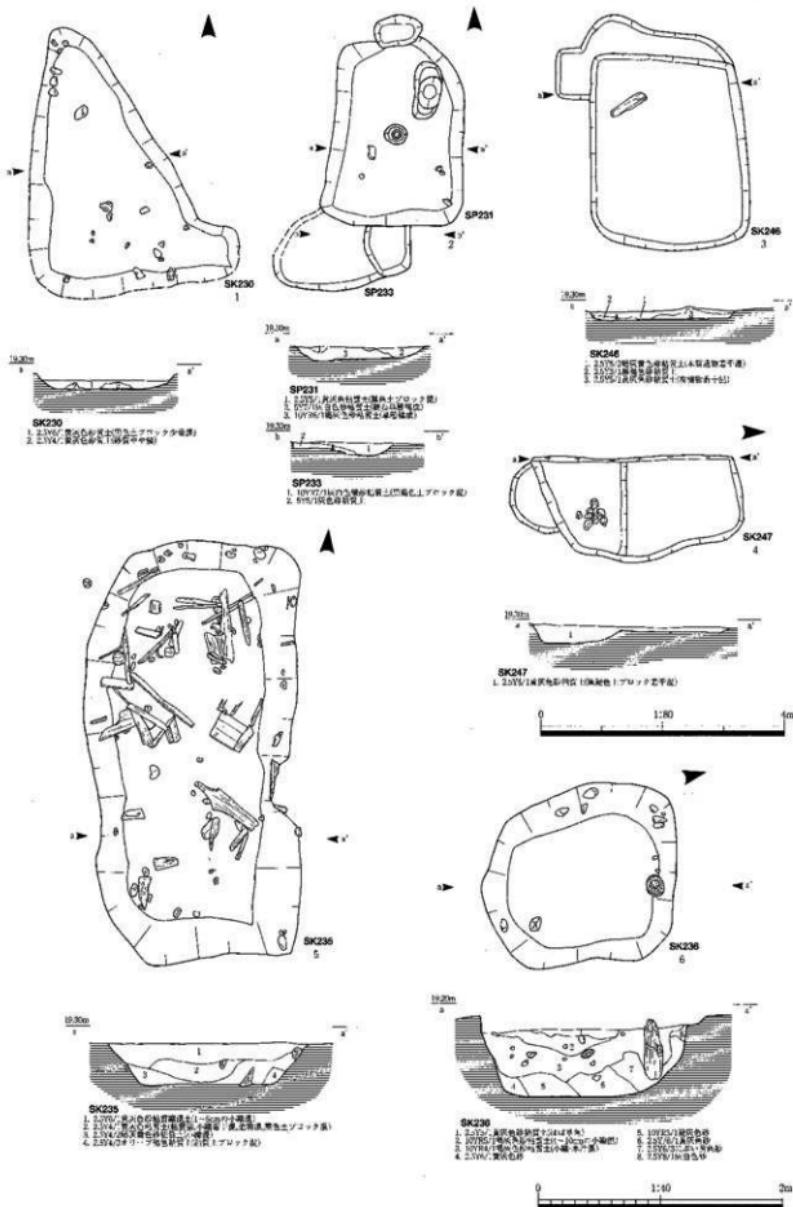
第36図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:200)
SB18・SB19

0 1:200 10m



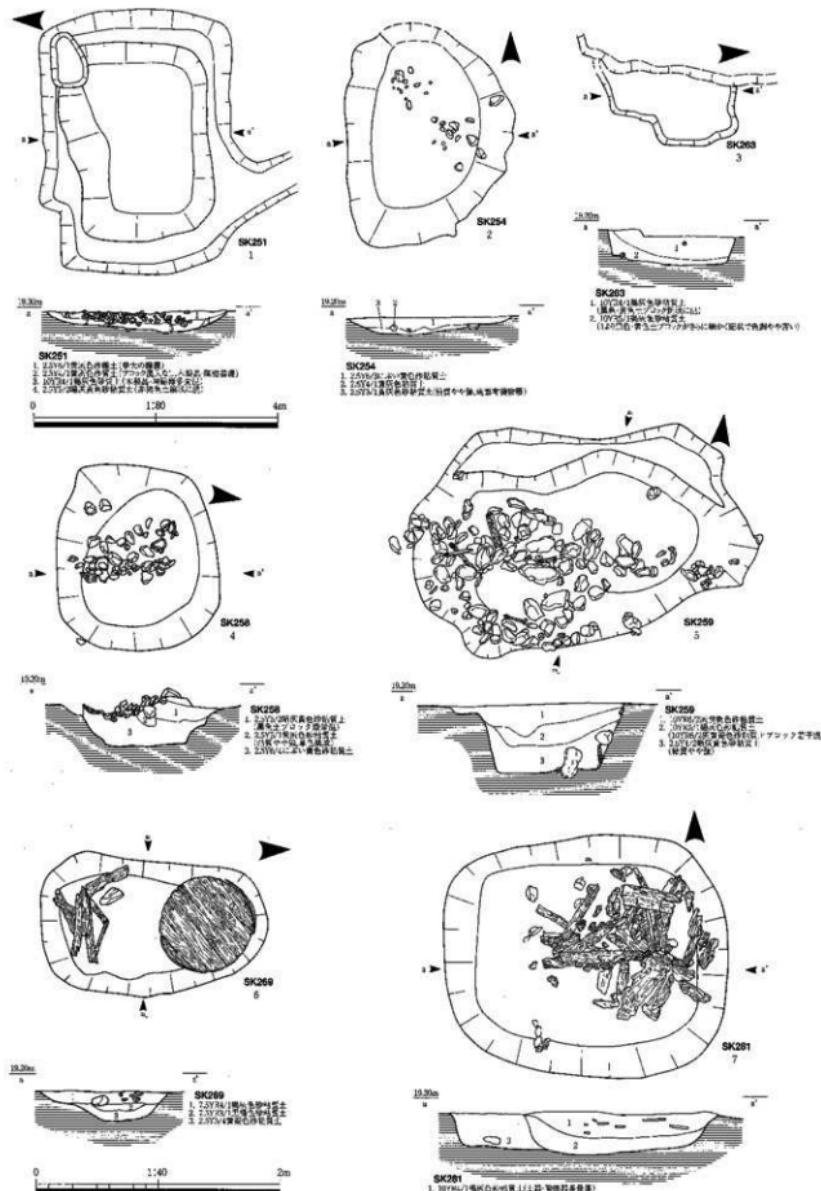
第37図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構測定図 (1:80)

1. SP272 2. SK274 3. SX457 4. SX458 5. SK261 6. SK261・SK262



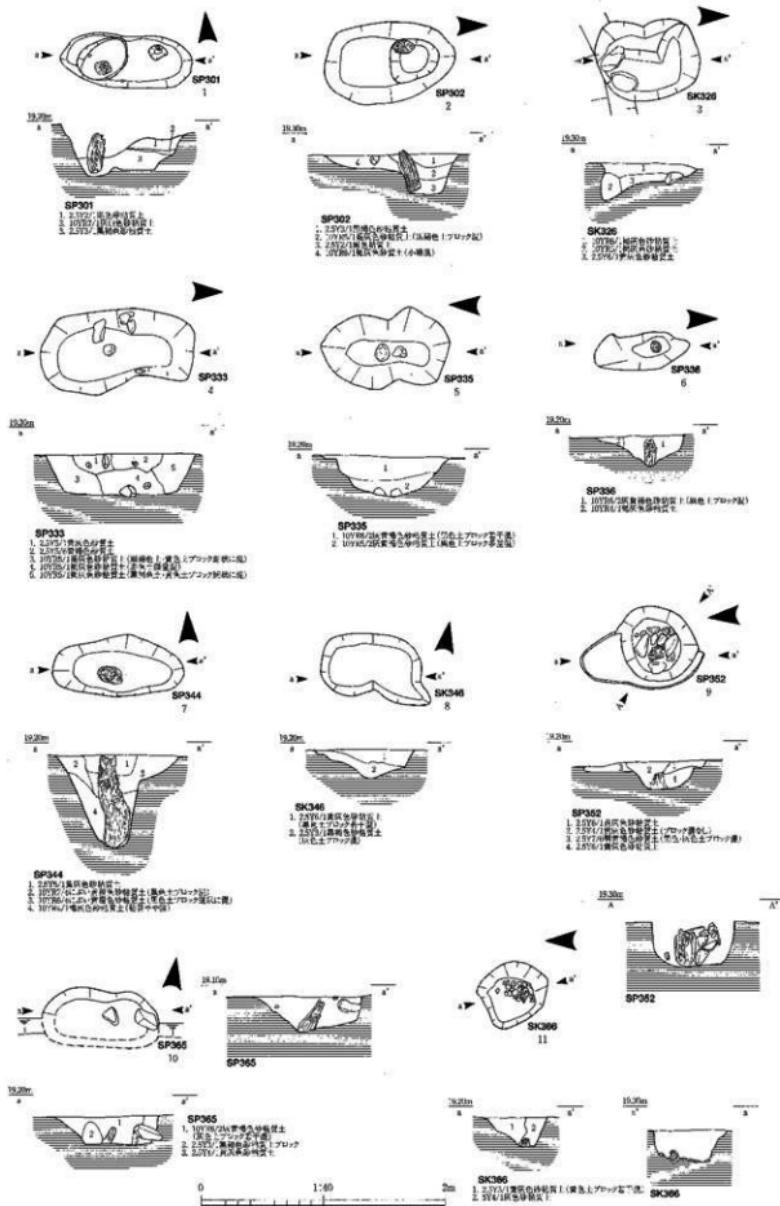
第38図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1~4(1:80), 5·6(1:40))

1. SK230 2. SP231·SP233 3. SK246 4. SK247 5. SK235 6. SK236



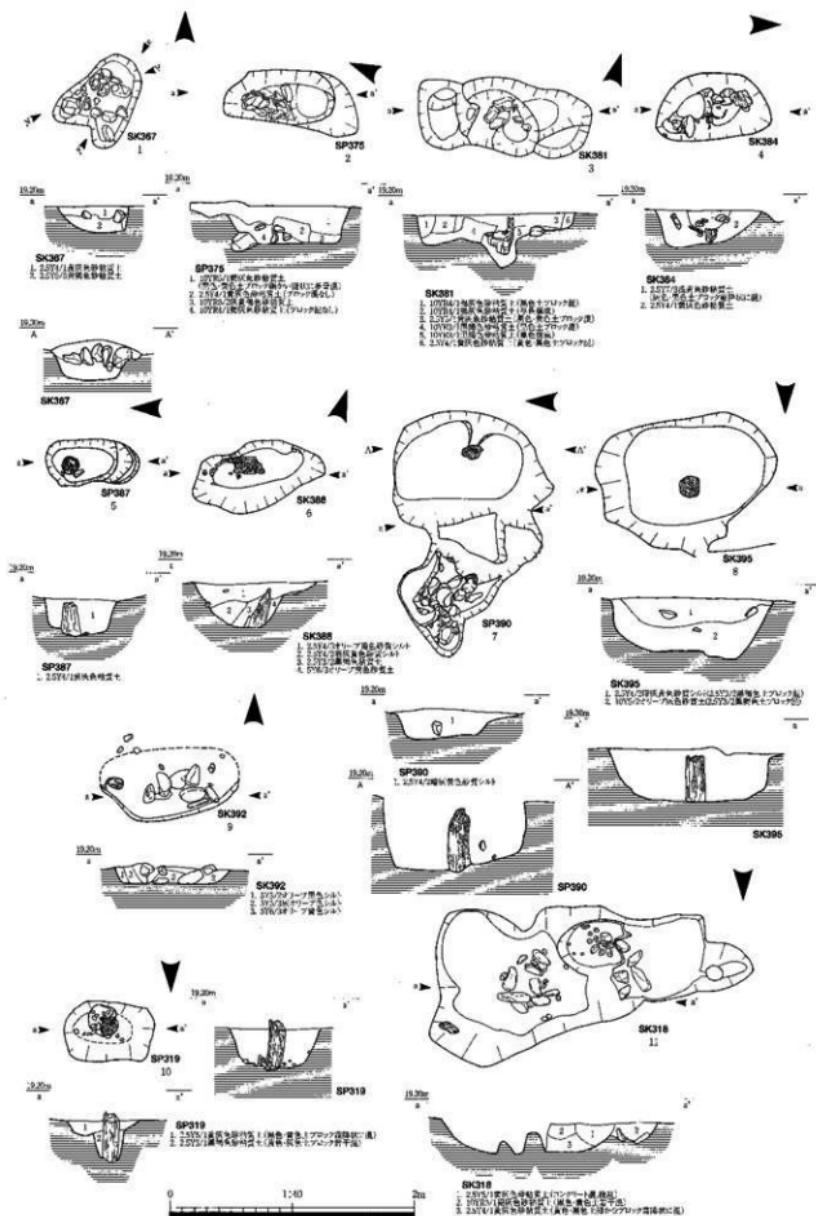
第39図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1~5・7(1:80), 6(1:40))

1. SK251 2. SK254 3. SK263 4. SK258 5. SK259 6. SK269 7. SK281



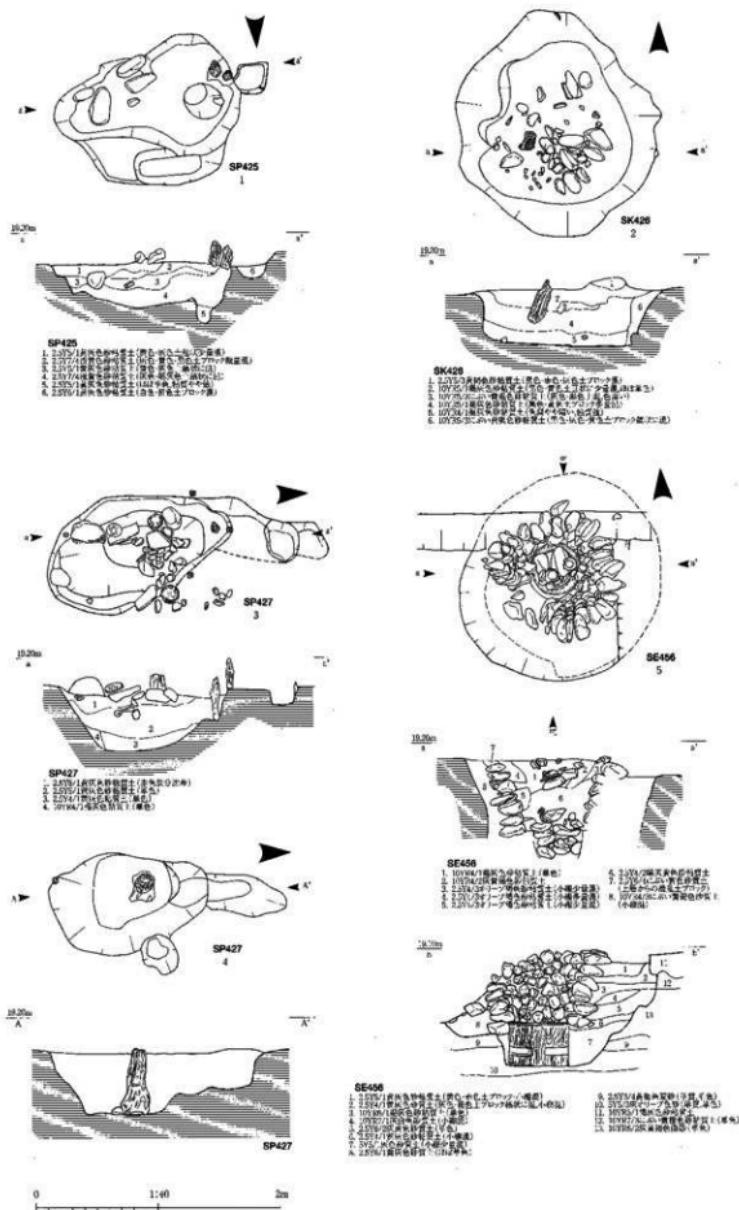
第40図 江戻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SP301 2. SP302 3. SK326 4. SP333 5. SP335 6. SP336 7. SP344 8. SK346 9. SP352 10. SP365
11. SK366



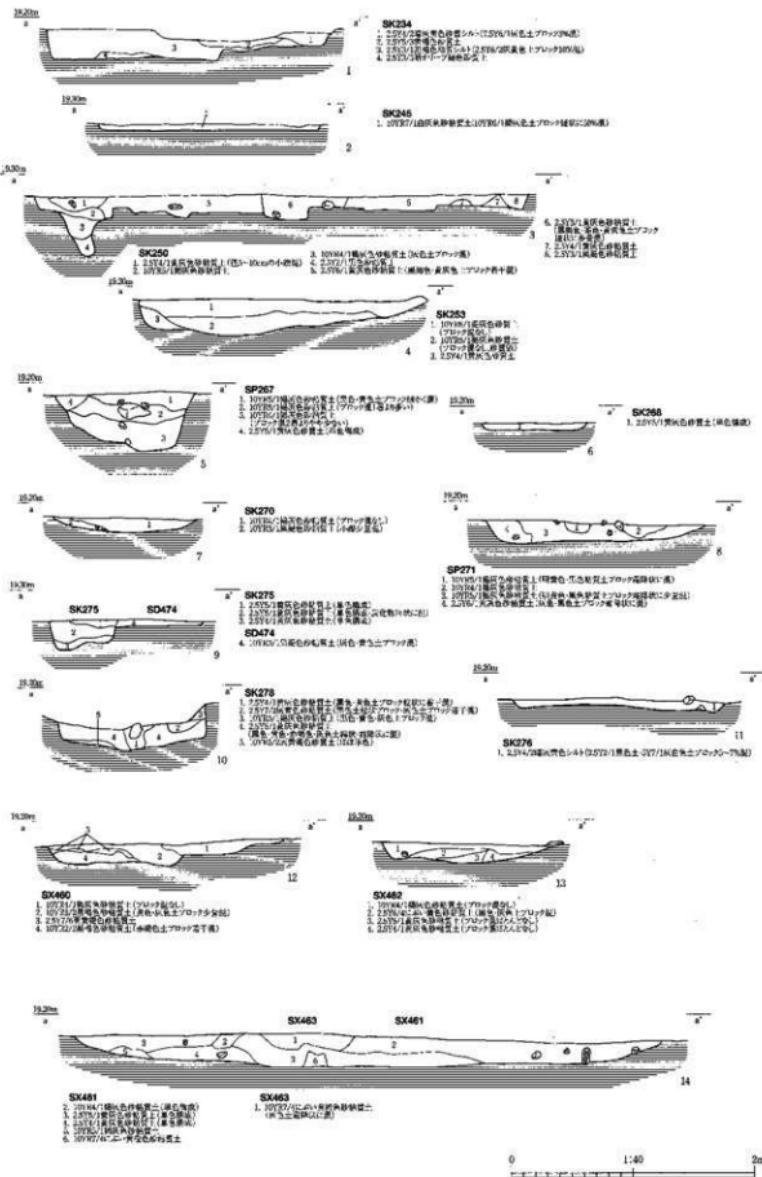
第41図 江尻遺跡 B1地区 近世造構実測図 (1:40)

1. SK367 2. SP375 3. SK381 4. SK384 5. SP387 6. SK388 7. SP390 8. SK395 9. SK392
10. SP319 11. SK318



第42図 江尻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:40)

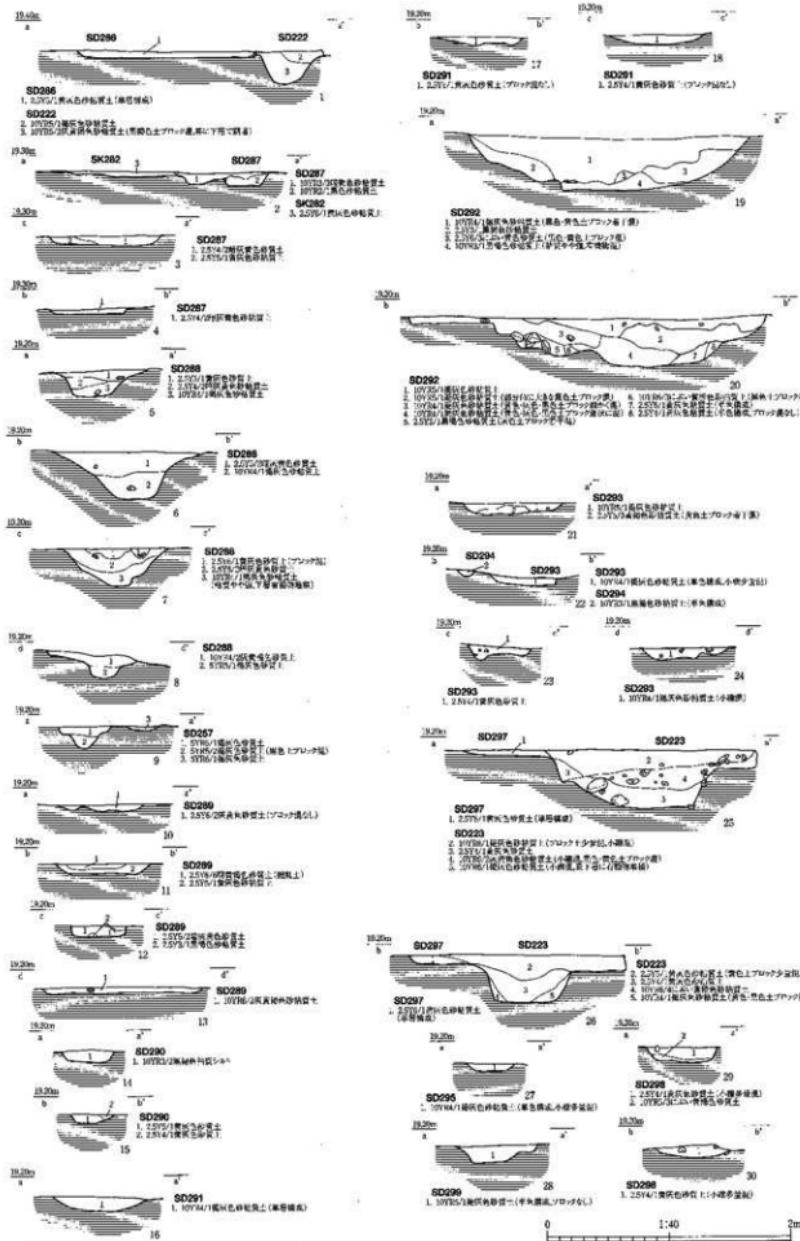
1. SP425 2. SK426 3・4. SP427 5. SE456



第43図 江尻遺跡 B1地区 近世造構実測図 (1:40)

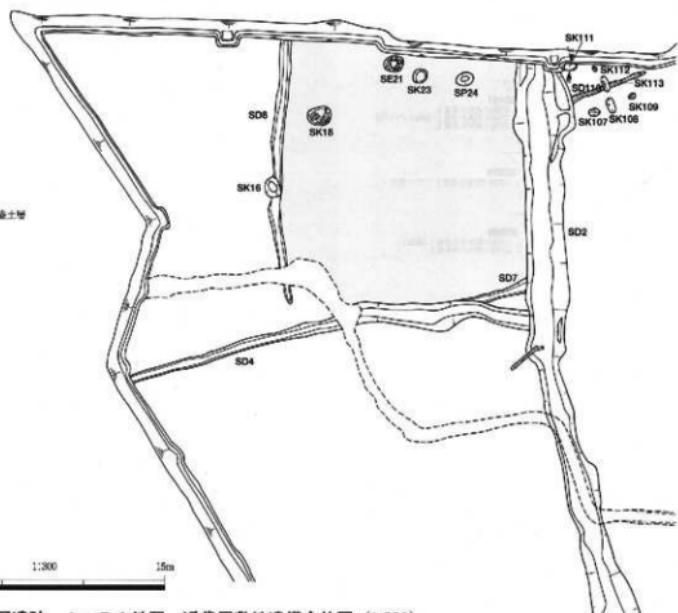
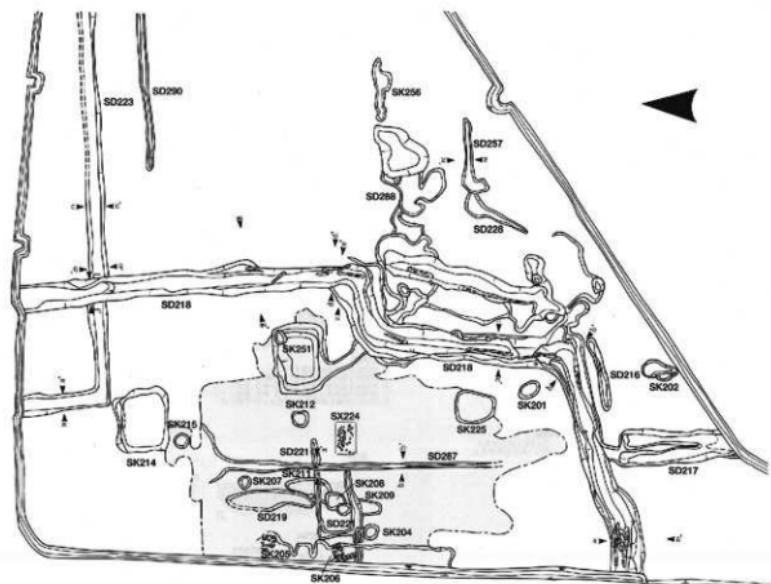
1. SK234
2. SK245
3. SK250
4. SK253
5. SP267
6. SK268
7. SK270
8. SP271
9. SK275 · SD474
10. SK278
11. SK276
12. SX460
13. SX462
14. SX461 · SX463

0 1:40 2m

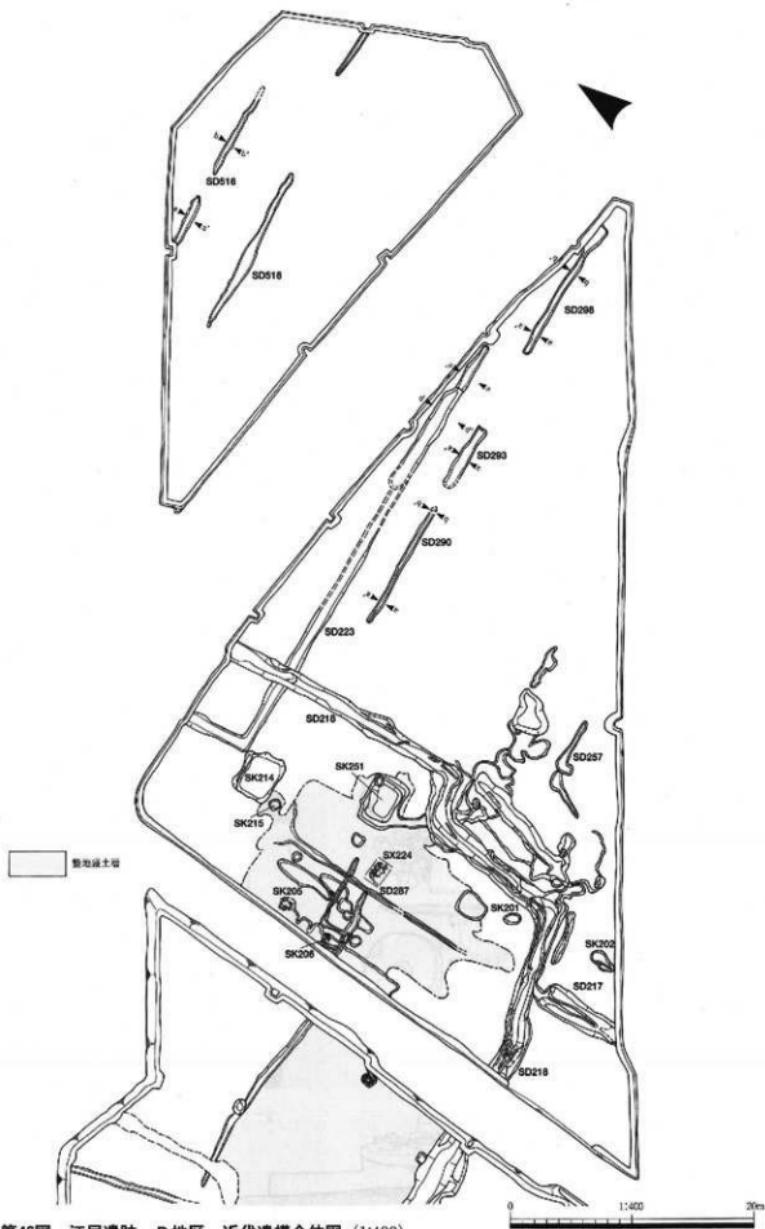


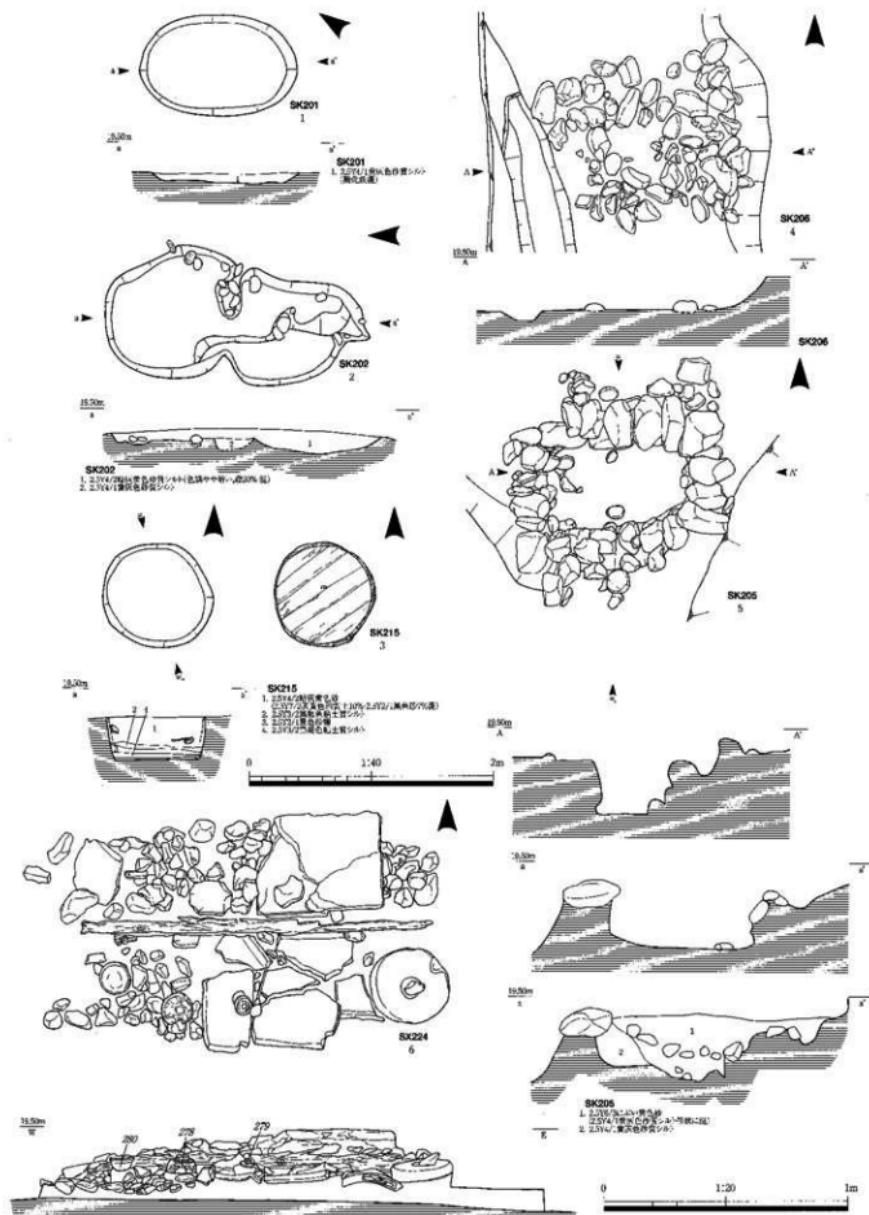
第44図 江戻遺跡 B1地区 近世遺構実測図 (1:40)

- SD222 · SD286
- SK282 · SD287
- SD287 5~8, SD288 9, SD257 10~13, SD289 14~15, SD290 16~18, SD291 19~20, SD292 21~24, SD293 · SD294 25~26, SD297 27, SD295 28, SD299 29
- SD298



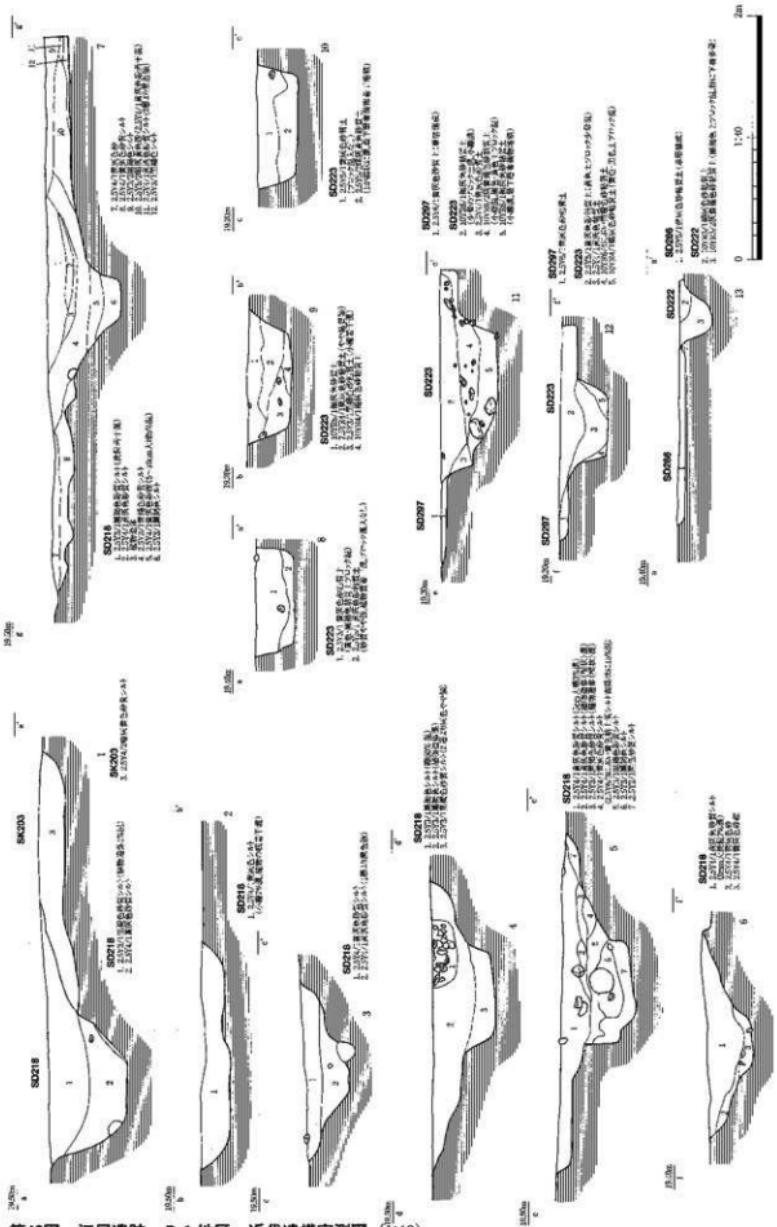
第45図 江尻遺跡 A・B1地区 近代屋敷地遺構全体図 (1:300)





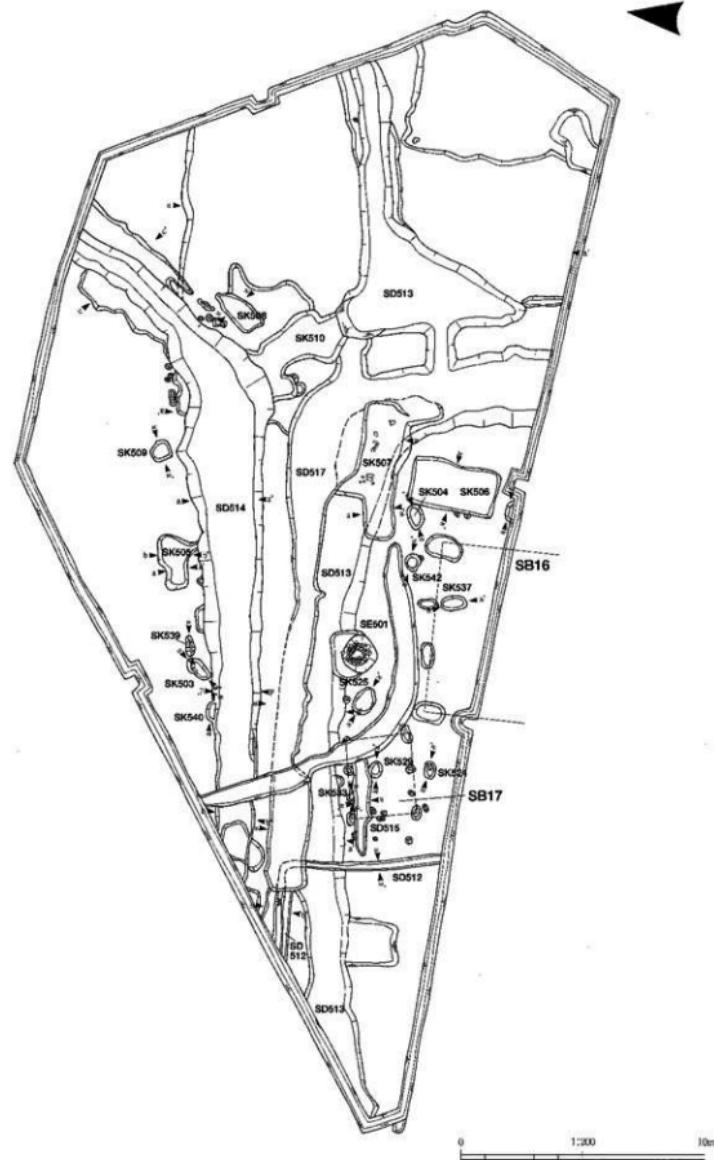
第47図 江尻遺跡 B1地区 近代遺構実測図 (1~3(1:40), 4~6(1:20))

1. SK201 2. SK202 3. SK215 4. SK206 5. SK205 6. SX224

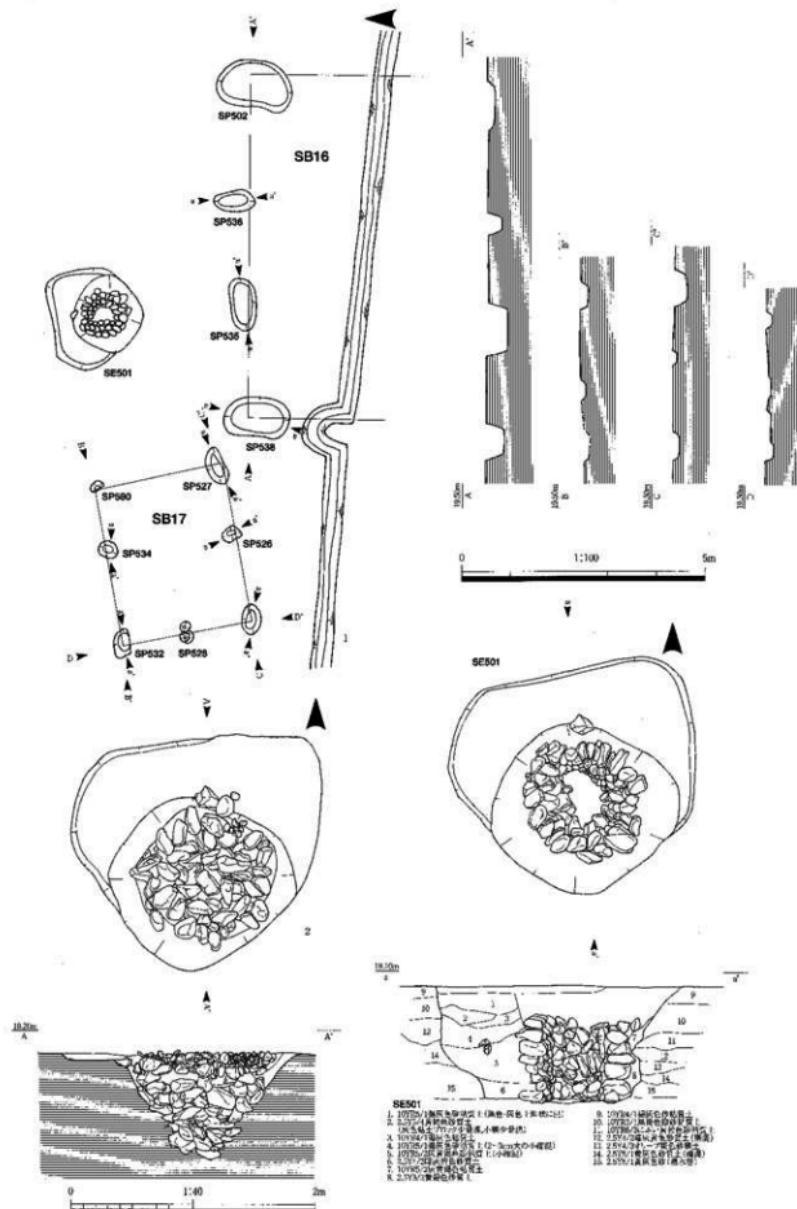


第48図 江尻遺跡 B1地区 近代遺構実測図 (1:40)

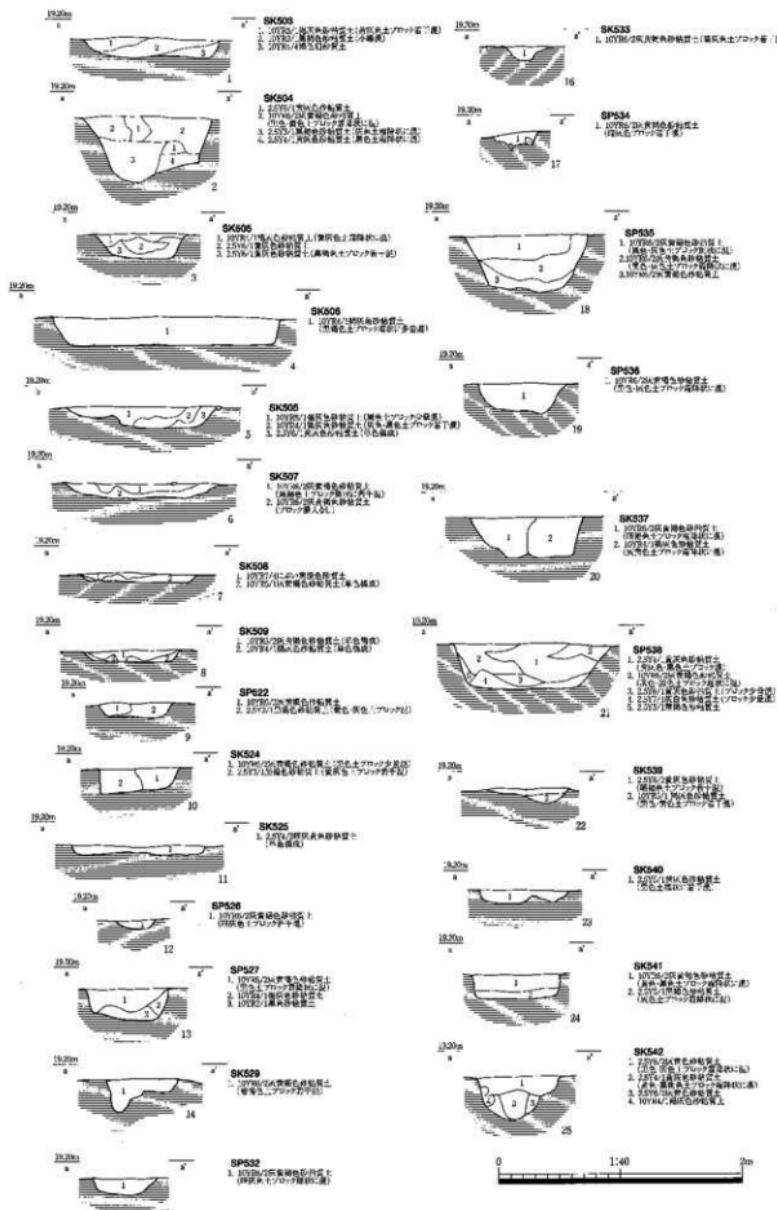
1. SD218 - SK203 2-7. SD218 8-12. SD223 13. SD286 - SD222



第49図 江尻遺跡 B 2 地区 近世遺構全体図 (1:200)

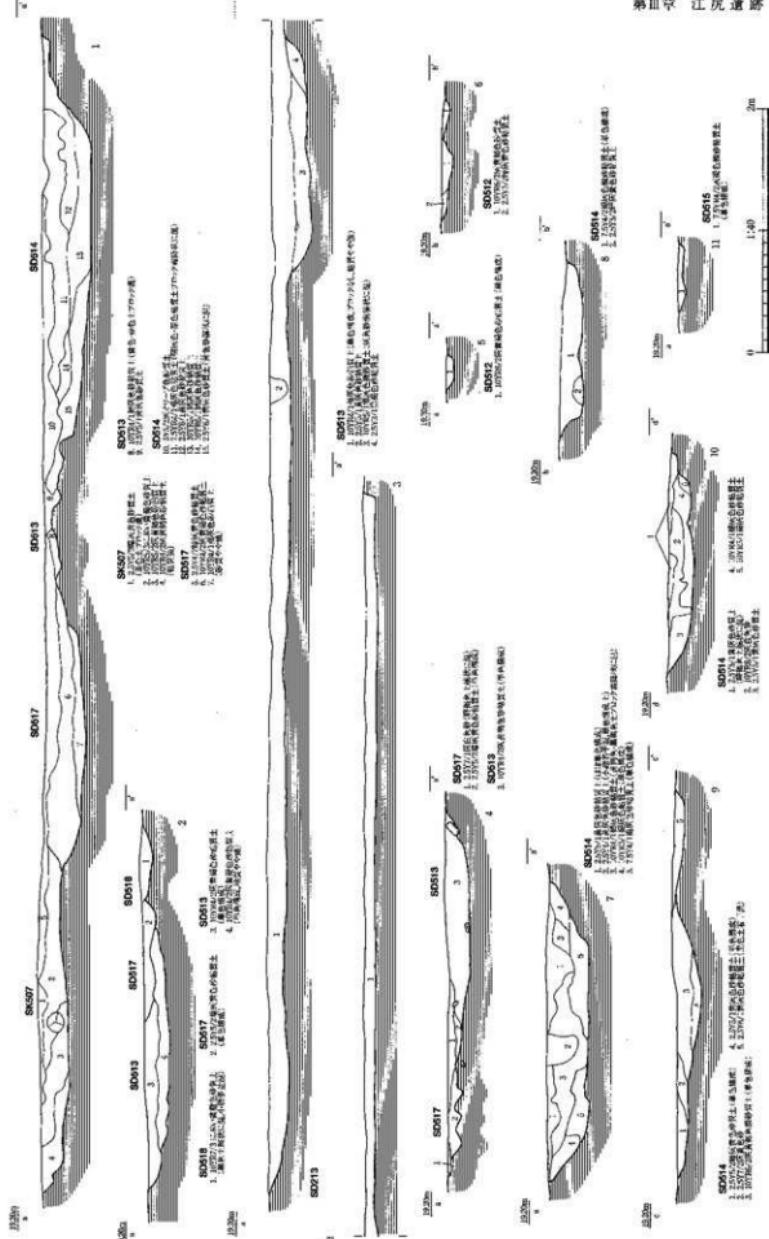


第50図 江尻遺跡 B 2 地区 近世遺構実測図 (1:100), 2 (1:40)
1. SB16・SB17 2. SE501



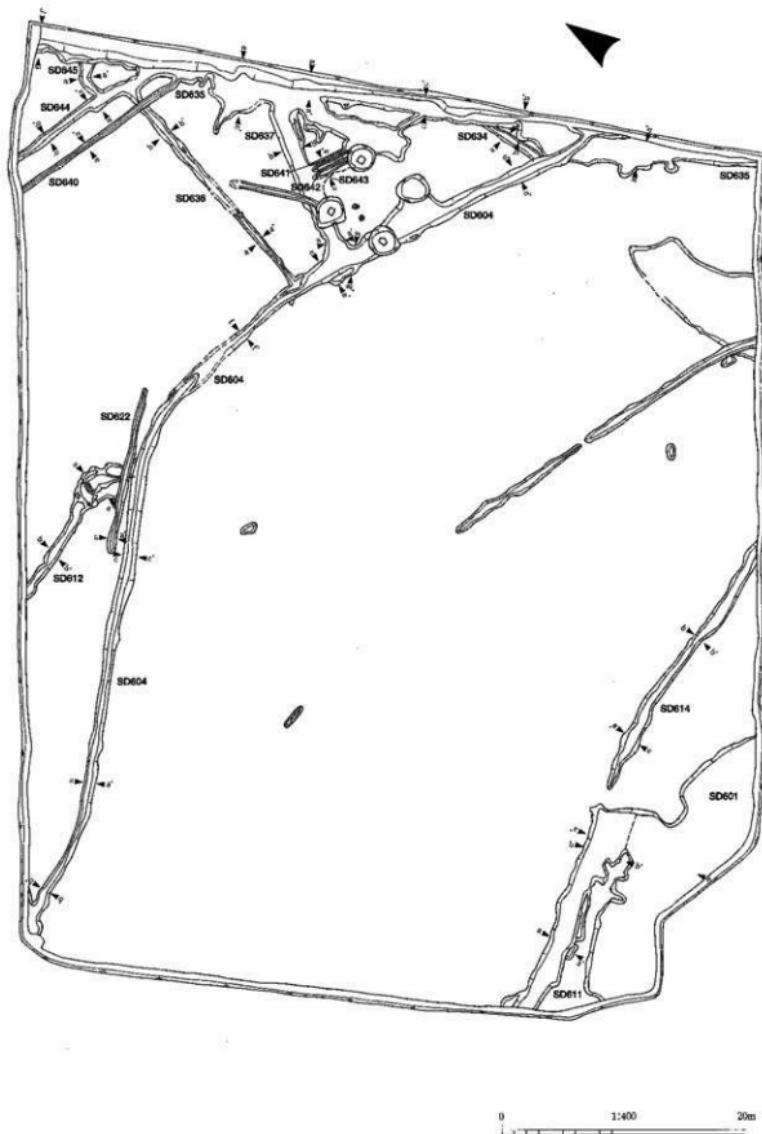
第51図 江尻遺跡 B 2 地区 近世造構実測図 (1:40)

1. SK503
2. SK504
3. 5. SK505
4. SK506
6. SK507
7. SK508
8. SK509
9. SP522
10. SK524
11. SK525
12. SP526
13. SP527
14. SK529
15. SP532
16. SK533
17. SP534
18. SP535
19. SP536
20. SK537
21. SP538
22. SK539
23. SK540
24. SK541
25. SK542

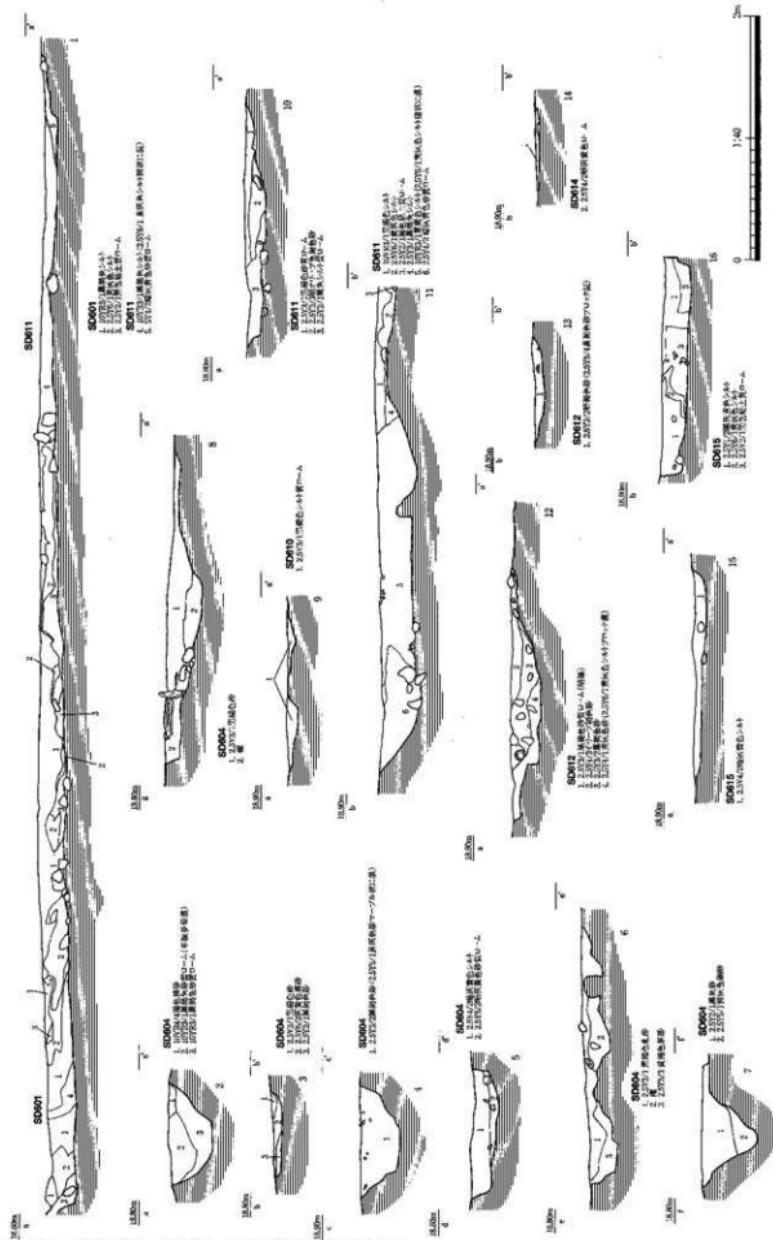


第52図 江尻遺跡 B2地区 近世遺構実測図 (1:140)

- SD507 · SD513 · SD514 · SD517
 - SD513 · SD517 · SD518
 - SD513
 - SD513 · SD517
 - SD512
 - SD512
 - SD512
 - SD512
 - SD512
 - SD515
1. 灰褐色の砂質土(中等強度)
2. SD513
3. 灰褐色の砂質土(中等強度)
4. 黄褐色の砂質土(中等強度)
5. SD513
6. SD512
7. SD512
8. SD512
9. SD512
10. SD512
11. SD515

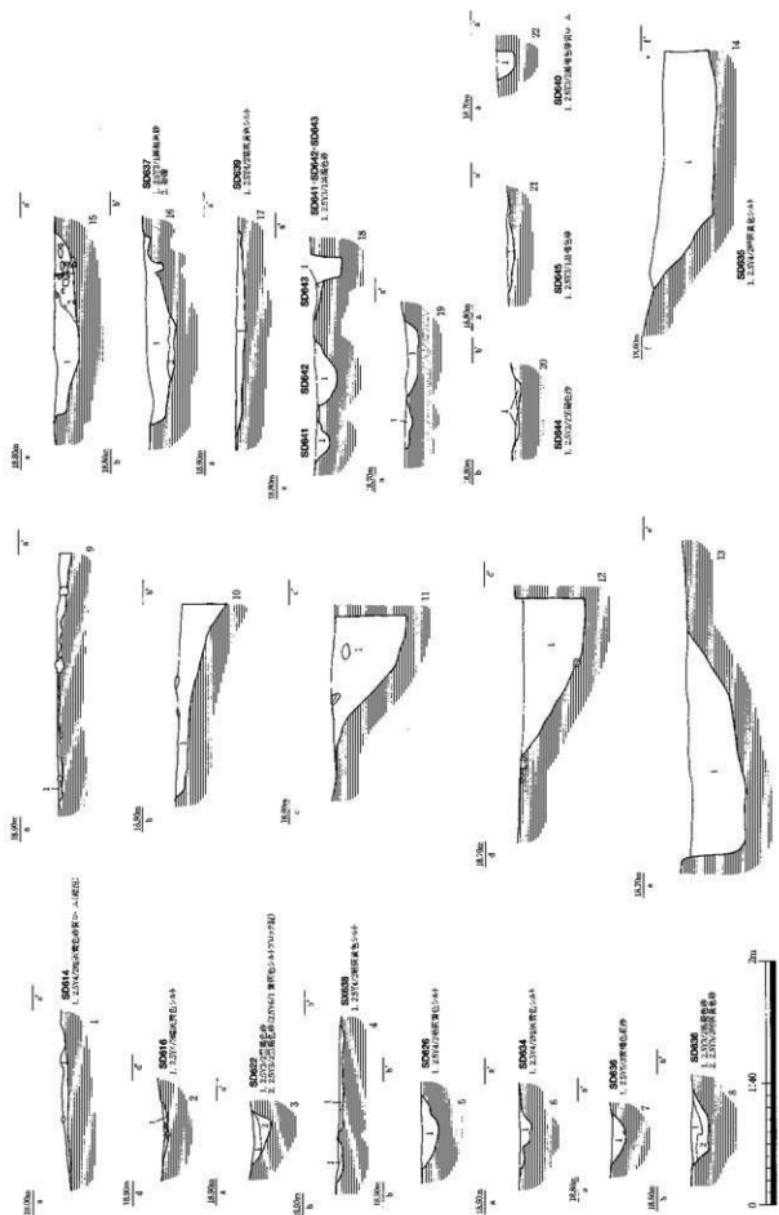


第53図 江尻遺跡 C地区 近世遺構全体図 (1:400)



第54図 江戻遺跡 C地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SD601・SD611 2~8. SD604 9. SD610 10・11. SD611 12・13. SD612 14. SD614 15・16. SD615



第55図 江尻遺跡 C地区 近世遺構実測図 (1:40)

1. SD614 2. SD616 3. SD622 4. SX638 5. SD626 6. SD634 7・8. SD636 9・14. SD633
15・16. SD637 17. SD639 18. SD642・SD643 19・20. SD644 21. SD645 22. SD640

第4表 江尻遺跡 柱穴一覧(1)

遺物番号	遺構番号	平面形	成 横(m)		出 土 遺 物	時 期	備 考	採用番号	出版番号
			長	幅					
SB 1	SP19	円	0.76	0.68	0.09	近世		20・21・25	5
	SP17	楕円	0.75	0.70	0.24			20・21・25	5
	SP80	円	0.66	0.60	0.11			20・21・25	5
	SP81	円	0.44	0.43	0.40			20・21・25	5・8
	SP125	楕円	1.13	0.46	0.35			20・21・24	5・8
	SP128	楕円	0.96	0.65	0.25			20・21・24	5・8
SB 2	SP14	楕円	0.80	0.55	0.54	柱	近世	20・21・23	5
	SP17	楕円	1.64	0.76	0.75		近世	20・21・23	5
	SP45	楕円	1.00	0.44	0.39		近世	20・21・23	5
	SP46	楕円	0.60	0.38	0.40		近世	20・21・23	5
	SP51	楕円	0.93	0.33	0.43	柱	近世	20・21・23	5
	SP54	小明	0.90	0.21	0.16		近世	20・21・23	5
	SP56	円	1.03	0.97	0.62	軸	近世	20・21・23	5
	SP64	楕丸	1.15	0.62	0.56		近世	20・21・25	5
	SP91	不規形	1.20	0.80	0.48	柱	近世	20・21・24	5
	SP96	楕円	1.10	0.63	0.52		近世	20・21・26	5
SB 3	SP105	楕円	0.95	0.50	0.35		近世	20・21・23	5
	SP125	楕円	1.08	0.51	0.20		近世	20・21・24	5
	SP143	不規形	1.18	1.17	0.60		近世	20・21・26	5
	SP24	楕円	1.07	0.85	0.77		近世	20・21・25	5
	SP29	楕円	0.77	0.38	0.32	柱	近世	20・21・23	8
SB 4	SP36	楕円	0.82	0.45	0.22		近世	20・21・25	
	SP37	楕円	0.88	0.42	0.20		近世	20・21・25	
	SP339	楕円	0.90	0.54	0.23		近世	31	
SB 5	SP340	円	0.87	0.83	0.26	轍津	近世	31	
	SP345	楕円	0.93	0.66	0.30		近世	31	
	SP376	円	0.55	0.32	0.26		近世	31	
	SP382	楕円	0.76	0.36	0.08		近世	31	
SB 6	SP415	楕円	0.79	0.65	0.37	柱	近世	31	
	SP419	方	0.68	0.45	0.32	柱	近世	31	18
	SP429	楕円	0.94	0.55	0.01		近世	31	
	SP265	不規形	0.93	0.89	0.25		近世	32	
SB 7	SP267	楕円	1.28	0.57	0.48		近世	32・43	
	SP420	不規形	0.70	0.34	0.24	柱	近世	32	
	SP423	円	0.76	0.58	0.38		近世	32	
	SP499	楕円	0.70	0.40	0.21	轍津	近世	32	
SB 8	SP579	楕円	0.75	0.42	0.30		近世	32	
	SP587	楕円	0.78	0.35	0.31	柱	近世	32・41	
	SP579	楕円	0.74	0.56	0.33		近世	32	
	SP396	楕円	0.75	0.64	0.40	東毛十郎・伊万里	近世	32	
SB 9	SP389	不規形	0.99	0.71	0.35		近世	32	
	SP591	円	0.72	0.48	0.22		近世	32	
	SP485	楕円	0.80	0.43	0.20		近世	32	
	SP486	楕円	0.60	0.50	0.40		近世	32	
	SP233	不規形	2.27	1.29	0.20	轍津	近世	20・33・38	
	SP330	方	0.74	0.38	0.15		近世	20・33	
	SP325	楕円	0.68	0.39	0.10		近世	20・33	
	SP390	楕円	1.34	0.77	0.39		近世	20・33	
	SP400	不規形	1.10	0.30	0.10	越中瀬戸・伊万里	近世	20・33	
SB 10	SP441	楕円	1.03	0.67	0.22	柱	近世	20・33	
	SP443	楕円	1.07	0.49	0.14		近世	20・33	
	SP445	円	0.65	0.40	0.19		近世	20・33	
	SP457	不規形	1.00	0.75	0.10		近世	20・33	
	SP458	不規形	0.80	0.65	0.10		近世	20・33	
	SP231	方	3.07	2.17	0.20	轍津	近世	20・33・38	
	SP232	方	0.78	0.48	0.16		近世	20・33	
	SP301	楕円	1.07	0.44	0.23	越中丸山・柱	近世	20・33・40	17
	SP302	楕円	1.45	0.62	0.35	柱	近世	20・33	
SB 11	SP304	楕円	1.29	0.72	0.32		近世	20・33	
	SP307	楕円	1.02	0.61	0.44		近世	20・33	
	SP333	楕円	1.32	0.62	0.34		近世	20・33・40	
	SP440	楕円	1.82	1.15	0.33		近世	20・33	
	SP444	楕円	1.00	0.65	0.32		近世	20・33	
	SP446	円	1.29	0.76	0.22		近世	20・33	
	SP465	楕円	0.53	0.46	0.45	越中瀬戸	近世	20・33	
	SP490	楕円	1.65	0.80	0.20		近世	20・33	
	SP491	楕円	0.85	0.50	0.30		近世	20・33	
	SP492	楕円	1.10	0.55	0.10		近世	20・33	
SB 12	SP493	楕円	0.45	0.30	0.10		近世	20・33	
	SP494	楕円	0.90	0.55	0.50		近世	20・33	
SB 13	SP495	円	0.55	0.50	0.20		近世	20・33	

第4表 江尻遺跡 柱穴一覧(2)

建物番号	遺構番号	平面形	規 格(m)			出 上 遺 物	時 期	便 考	辨認番号	回収番号
			長さ	幅	深さ					
SB11	SP264	方	1.64	0.80	0.24	漆生上器	近世		32	
	SP266	横円	1.05	1.02	0.36		近世		32	
	SP271	不整形	0.80	0.38	0.17		近世		32・43	
	SP272	不整形	2.01	1.38	0.57	漆生上器、越中漆戸	近世		32・37	
	SP283	方	0.77	0.77	0.21	伊万里	近世		32	
	SP332	横円	0.88	0.45	0.22		近世		32	
	SP417	横円	1.70	1.00	0.55		近世		32	18
	SP425	横円	1.50	0.67	0.57	柱	近世		32・42	
	SP427	横円	2.03	0.93	0.64	施小漆戸・柱	近世		32・42	18
	SP428	横円	2.04	0.70	0.34	乳牛十輪・柱・板戸	近世		32	
	SP433	横円	0.93	0.51	0.16		近世		32	18
SB12	SP273	方	1.30	0.71	0.12	光秀土器、漆戸	近世		34	14
	SP337	横円	0.73	0.37	0.11	光秀土器・柱	近世		34	14
	SP338	横円	1.03	0.51	0.27		近世		34	14
	SP341	不整形	1.02	0.52	0.25	光秀土器	近世		34	14
	SP443	扇丸	1.00	0.82	0.32		近世		34	14
	SP444	横円	1.03	0.48	0.60	漆床・柱	近世		34・40	14・17
	SP448	横円	0.70	0.40	0.23	乳牛十輪	近世		34	14
	SP452	横円	1.02	0.68	0.23	漆生上器・柱	近世		34・40	14
	SP453	横円	1.22	0.57	0.53	漆生上器・基中漆戸・漆	近世		34	14
	SP456	横円	0.67	0.36	0.29		近世		34	14
	SP457	横円	0.67	0.40	0.29		近世		34	14
	SP465	横円	0.93	0.45	0.23		近世		34・40	14
	SP474	不整形	0.75	0.50	0.05	漆戸	近世		34	14
	SP475	横円	1.04	0.48	0.30	光秀土器	近世		34・41	14
	SP490	横円	1.04	0.72	0.25	柱	近世		34・41	14
	SP493	横円	0.71	0.50	0.33		近世		34	14
	SP496	横円	0.58	0.42	0.28	張先十器	近世		34	14
	SP498	不整形	0.58	0.64	0.19	肩轍	近世		34	14
	SP499	不整形	0.75	0.65	0.25		近世		34	14
SD13	SP291	横円	1.03	0.56	0.36		近世		34	14
	SP292	横円	0.88	0.45	0.22		近世		34	14
	SP293	横円	1.07	0.55	0.25		近世		34・40	14
	SP296	横円	1.17	0.47	0.21	漆生上器・柱	近世		34・40	14
	SP570	横円	0.55	0.39	0.10		近世		34	14
	SP571	横円	0.60	0.40	0.10		近世		34	14
	SP572	横円	0.78	0.48	0.16		近世		20・35	14
	SP573	不整形	0.93	0.79	0.11	伊万里・酒	近世		20・35	14
	SP579	方	0.88	0.70	0.15		近世		20・35	14
	SP602	横円	1.45	0.62	0.35	柱	近世		20・35・40	14
	SP610	横円	0.43	0.35	0.09		近世		20・35	14
	SP719	円	0.42	0.31	0.11		近世		20・35・41	14
	SP409	横円	1.58	0.53	0.07	漆塗・瓶中丸油・海苔	近世		20・35	14
	SP722	横円	1.05	0.75	0.15		近世		20・35	14
	SP573	横円	0.80	0.50	0.10		近世		20・35	14
	SP574	横円	0.65	0.50	0.10		近世		20・35	14
	SP575	横円	0.50	0.30	0.07		近世		20・35	14
	SP576	横円	0.65	0.50	0.11		近世		20・35	14
	SP577	横円	1.10	0.65	0.15		近世		20・35	14
	SP578	横円	0.90	0.56	0.30		近世		20・35	14
SB14	SP241	方	1.37	0.87	0.11	陶器	近世		20・35	14
	SP243	不整形	1.36	0.92	0.14	越中漆戸	近世		20・35	14
	SP312	円	0.54	0.36	0.20		近世		20・35	14
	SP313	横円	0.94	0.72	0.15		近世		20・35	14
	SP322	扇丸	0.83	0.58	0.17		近世		20・35	14
	SP323	横円	1.37	0.54	0.38	越中漆戸	近世		20・35	14
SB15	SP502	横円	1.54	0.97	0.14		近世		50	22・23
	SP535	横円	1.05	0.53	0.46		近世		50・51	22・23
	SP536	横円	0.82	0.41	0.24		近世		50・51	22・23
	SP538	横円	1.34	0.77	0.35	漆生上器・越中漆戸・伊万里	近世		50・51	22・23
SB16	SP522	円	0.59	0.37	0.12		近世		50	22
	SP526	円	0.30	0.28	0.07		近世		50・51	22
	SP527	横円	0.72	0.36	0.25		近世		50・51	22
	SP528	横円	1.40	0.39	0.13		近世		50	22
	SP532	横円	0.33	0.33	0.14		近世		50・51	22
	SP534	横円	0.40	0.32	0.10		近世		50・51	22
	SP580	不整形	0.30	0.20	0.15		近世		50	22
SB17	SP522	円	0.59	0.37	0.12		近世		50・51	22
	SP526	円	0.30	0.28	0.07		近世		50・51	22
	SP527	横円	0.72	0.36	0.25		近世		50・51	22
	SP528	横円	1.40	0.39	0.13		近世		50	22
	SP532	横円	0.33	0.33	0.14		近世		50・51	22
	SP534	横円	0.40	0.32	0.10		近世		50・51	22
	SP580	不整形	0.30	0.20	0.15		近世		50	22

第5表 江尻遺跡 井戸一覧

遺構番号	平面形	規 格(m)	出 土 遺 物	時 期	便 考	辨認番号
SP21	円	1.20	0.95	1.56	越中漆戸・木臼・加工棒・竹製品	近世～近代
SE30	円	1.45	1.32	0.86		近世～豆代
SE102	円	1.50	1.50	1.30	伊万里・磁器、滑石、下駄、襷、鉢、盆、加工板	近世～豆代 SE102>SD56
SE456	円	1.21	1.09	1.01	越中漆戸・木臼	近世
SE501	円	1.85	1.94	0.61	越中漆戸・右白	古世

第6表 江戸遺跡 土坑その他一覧(1)

遺構番号	平図面	測量(m)			出土遺物	時期	参考	関連 番号
		長さ	幅	深さ				
SK11	円	0.44	0.40	0.17		古代		25
SK12	椭円	1.47	0.48	0.74		近代		25
SK13	椭円	1.07	0.62	0.63		近代	SK13>SP14・SK15・SD8	22
SK15	円	0.68	0.58	0.14		近代	SK15>SP14・SK13	25
SK16	椭円	1.25	0.87	0.55	陶器	近代～近代	SK16>SP17・SD6	22
SK18	隅丸	1.42	1.12	0.25	船形埴輪・東洋・向軒・土器・下駄	近代～近代		22, 6
SK19	隅丸	1.30	0.83	0.08		近代～近代		25
SK20	円	0.86	0.86	0.09	伊万里	近代～近代	SK20>SD44	22
SK22	椭円	1.04	0.66	0.50		近代～近代	SK22>SD43	25
SK23	椭円	0.90	0.78	0.12		近代～近代	SK23>SP36	25
SK31	不整形	0.85	0.70	0.29		近代～近代	SK31<SD2	25
SK32	椭円	0.37	0.30	0.28		近代～近代		25
SK34	椭円	0.76	0.68	0.20	錐状石製品	近代～近代	SK34>SP24	22
SK35	椭円	0.57	0.48	0.15	唐津・越中丸山	近代～近代		22
SK38	椭円	0.78	0.46	0.13		近代～近代		25
SK39	椭円	1.50	0.67	0.65		近代～近代	SK39>SK40	26
SK40	椭円	0.72	0.33	0.35	柱	近代～近代	SK40<SK39	23, 7
SK41	椭円	0.45	0.27	0.19		近世		25
SK48	円	0.83	0.80	0.06		近世		23, 7
SK50	椭円	0.50	0.24	0.32		近世～近代		25
SK52	椭円	0.54	0.26	0.23		近世～近代		25
SK53	椭円	0.52	0.29	0.35		近世～近代		25
SK57	円	0.64	0.63	0.40		近世～近代		25
SK58	不整形	1.45	1.18	0.10		近世～近代	SK58<SD8	25
SK60	椭円	1.78	0.57	0.40		近世～近代		25
SK62	椭円	0.95	0.36	0.10		近世～近代		25
SK63	椭円	1.45	0.58	0.58		近世～近代		23, 7
SK65	椭円	0.50	0.25	0.26		近世～近代		25
SK66	椭円	0.90	0.56	0.53	陶器	近世～近代	SK66>SP105	23
SK69	椭円	0.90	0.69	0.20		近世～近代		25, 7
SK70	円	0.40	0.32	0.16		古墳～近代		25
SK71	椭円	1.32	0.67	0.60		近世～近代		26
SK73	椭円	0.62	0.50	0.31		近世～近代	SK73<SK74・SK99	25
SK74	椭円	1.23	0.80	0.54		近世～近代	SK74>SK73	26
SK75	円	0.36	0.34	0.18	施工箇所	近世～近代		23
SK77	不整形	0.76	0.54	0.40		近世～近代		25
SK79	椭円	0.70	0.45	0.39		近世～近代		26
SK82	椭円	1.17	0.69	0.72		近世～近代	SK82<SP784	26
SK83	不整形	1.40	0.72	0.18	伊万里	近世～近代	SK83>SD85	23
SK87	椭円	0.70	0.53	0.75		近世～近代	SK87<SD83	26
SK89	椭円	0.50	0.36	0.25		近世～近代		26
SK90	不整形	1.35	1.15	0.60		近世～近代	SK90<SP91	24
SK93	不整形	2.60	1.82	0.30	伊万里・施工・施工・施工・施工	近世～近代	SK93>SD36	23
SK94	円	0.55	0.26	0.25		近世～近代	SK94>SD36	23
SK95	円	0.33	0.28	0.31		近世～近代	SK95>SD36	23
SK97	不整形	0.75	0.53	0.28		近世～近代	SK97>SP96・SR102	26
SK98	椭円	0.67	0.53	0.22	施工土器	近世～近代	SK98>SD36・SD101	23
SK107	椭円	0.65	0.43	0.31		近世～近代		26
SK108	椭円	0.88	0.42	0.30		近世～近代		26
SK111	方?	0.81	0.47	0.44		近世～近代		26
SK113	椭円	1.00	0.37	0.30		近世～近代	SK113>SD110	26
SK114	円	0.92	0.85	0.44	施工	近世～近代	SK114>SP73	21
SK115	椭円	1.53	1.65	0.28	伊万里・施工・施工・施工	近世～近代	SK115>SD3・SD104	24
SK116	椭円	0.85	0.69	0.45	施工	近世～近代	SK116>SP73	21
SK117	椭円	1.07	0.64	0.10		近世～近代		26
SK119	円	0.62	0.53	0.14		近世～近代	SK119>SD28	26
SK120	不整形	3.62	1.95	0.30	追跡・伊万里・施工・施工・施工	近世～近代	SK120>SD28	24
SK121	不整形	3.27	1.05	0.14		近世～近代		26
SK123	円	0.40	0.38	0.06		近世～近代		26
SK129	椭円	1.45	0.63	0.43		近世～近代		24
SK130	椭円	0.82	0.20	0.16		近世～近代		24
SK138	椭円	1.50	0.97	0.28		不明		26
SK139	椭円	0.97	0.52	0.65		近世～近代	SK139>SP91	24
SK140	不整形	0.80	0.75	0.26		近世～近代		26
SK142	椭円	1.55	1.04	0.61	瓦・施工・加工板	近世	SK142>SP55	23, 7
SK144	方?	1.40	1.20	0.17		不明		26
SK201	椭円	1.27	0.82	0.09	瓦	近代		47
SK202	不整形	2.10	0.93	0.19	施工	近代		47
SK203	方?	2.73	1.81	0.22		近代		48
SK204	円	0.90	0.82	0.09		近代		29
SK205	円	1.02	0.92	0.28		近代		47, 20
SK206	椭円	0.95	0.75	0.28		近代		47
SK215	椭円	0.86	0.88	0.34	格	近代		47, 20
SK220	不整形	1.37	2.36	0.15	施工跡	近世		38, 14
SK224	方?	2.47	1.38	0.26		近世		38
SK235	方?	3.43	1.76	0.33	寺道・施工跡・伊万里・施工・加工板	SK231<SK230	43	
SK236	方?	1.95	1.48	0.12	施工・柱	近世		38, 15
SK245	不整形	2.79	2.03	0.06		近世		43
SK246	方?	3.56	2.54	0.14	施工	近世		38
SK247	方?	3.80	2.00	0.30		近世		38

第6表 江尻遺跡 土坑その他一覧(2)

遺構番号	平面形	概 体(m)			出 土 遺 物	時 期	備 考	井岡 四原 番号 番号		
		長さ	幅	深さ						
SK250	円	4.08	1.37	0.48		近世	SK250 < SD14	43	-	
SK251	方	4.33	3.06	0.34	白磁・瀬戸美濃・伊万里・南丹・唐津	近世		39	-	
SK252	方	2.43	0.26	0.14		近世		43	-	
SK254	方	3.75	2.17	0.27	赤生土器・越中高岡・瀬戸	近世		39	-	
SK258	カ	1.51	1.26	0.33	十輪器・越中高岡・伊万里・唐津	近世		39	-	
SK259	方	2.84	1.78	0.34	珠子・越中高岡・唐津	近世		39	16	
SK261	カ	4.14	1.36	0.35	赤生土器・越中高岡・唐津	近世	SK261 > SK262	37	-	
SK262	円	2.44	2.28	0.28	赤生土器・越中高岡・伊万里・瓦	近世	SK262 < SK261	37	17	
SK263	カ	2.11	1.16	0.39	赤生土器・越中高岡・唐津	近世		39	-	
SK268	方	0.85	0.68	0.06		近世		43	-	
SK269	方	1.96	1.11	0.24	赤生土器・伊万里・猪	近世		39	17	
SK270	方	1.92	1.22	0.12		近世		43	-	
SK274	カ	7.30	1.21	0.07	赤生土器・吉津	近世		36	37	
SK275	圓	1.50	0.57	0.24		近世		43	-	
SK276	方	2.06	1.97	0.33	赤生土器	近世		43	-	
SK278	円	1.27	1.06	0.37		近世		43	-	
SK281	方	2.32	2.00	0.36	越中高岡・伊万里・唐津・加工物	近世		39	15	
SK282	方	2.70	2.02	0.05		近世		44	-	
SK313	円	0.55	0.45	0.09	土師器	近世		-	-	
SK318	椭円	0.82	0.44	0.22		近世		41	-	
SK321	楕円	1.05	0.47	0.15	越中高岡	近世		-	-	
SK326	椭円	0.87	0.63	0.32		近世		40	-	
SK328	椭円	1.09	0.40	0.09	越中高岡	近世		-	-	
SK346	椭円	0.82	0.45	0.25	赤生土器・十輪器・柱	近世		40	-	
SK353	椭円	0.84	0.33	0.31	赤生土器・越中高岡	近世		-	-	
SK366	円	0.67	0.65	0.26	柱	近世		40	-	
SK367	円	0.62	0.57	0.22		近世		41	18	
SK381	椭円	1.43	0.58	0.45	柱	近世		41	-	
SK384	椭円	0.93	0.54	0.28	柱	近世		41	-	
SK385	円	0.67	0.62	0.15	越中高岡	近世		-	-	
SK388	椭円	1.06	0.53	0.36	赤生土器・吉津・上製品・柱	近世		41	-	
SK392	椭円	0.68	0.25	0.14	柱	近世		41	-	
SK395	椭円	1.28	0.72	0.50	赤生土器・柱	近世		41	18	
SK413	椭円	0.42	0.25	0.30	柱	近世		-	-	
SK426	椭円	1.89	1.67	0.46	赤生土器・吉津・柱	近世		42	18	
SK436	椭円	0.64	0.43	0.19	赤生土器・越中高岡	近世		-	-	
SK438	椭円	0.62	0.45	0.45	赤生土器・越中高岡・伊万里	近世		-	-	
SK454	方	0.30	0.29		越中高岡	近世		-	-	
SK503	丸	1.10	0.60	0.15		近世		51	-	
SK504	円	1.06	0.58	0.52		近世		51	-	
SK505	椭円	2.20	1.30	0.18		近世		51	-	
SK506	丸	1.52	1.85	0.22	赤生土器・中国灰陶器・珠陶・瀬戸・美濃	中世		51	-	
SK507	土枕	3.73	2.42	0.40		近世	SD513 < SK507 < SD517	51	52	22
SK508	椭円	2.05	0.93	0.07		近世		51	-	
SK509	丸	0.82	0.73	0.08		近世		51	-	
SK510	不整形	3.65	1.87	0.12	赤生土器・珠陶・瀬戸・延喜	中世		-	-	
SK521	椭円	0.63	0.37	0.20		近世		51	-	
SK525	円	1.09	0.82	0.07		近世		51	-	
SK529	椭円	0.66	0.53	0.25		近世		51	-	
SK533	椭円	0.30	0.32	0.11		近世		51	-	
SK537	椭円	1.09	0.59	0.32		近世		51	-	
SK539	椭円	0.81	0.28	0.11		近世		51	-	
SK540	椭円	0.76	0.30	0.11	赤生土器	近世	SK540 < SD514	51	-	
SK541	椭円	0.79	0.23	0.20		近世		51	-	
SK542	椭円	0.63	0.59	0.35		近世		51	-	
SK551	円	1.43	0.50	0.63		中世		16	-	
SK555	丸	1.34	1.14	0.26		中世		16	-	
SK561	椭円	0.97	0.84	0.15		中世	SK561 > SD560	16	-	
SK563	不整形	3.37	0.70	0.22		中世	SK563 < SD554 - SD558	13	-	
SK224	方形	1.70			赤生土器・南砺・越窑・瓦	古代		47	20	
SK457	不整形	3.61	2.29	0.24	赤生土器・伊万里	近世		37	-	
SK458	小鉢形	4.03	2.62	0.07	赤生土器	近世		37	-	
SK459	不整形	2.90	1.51	0.18	赤生土器・伊万里	近世		-	-	
SK460	小鉢形	1.82	1.46	0.19		近世		43	-	
SK461	不整形	3.37	1.82	0.14	伊万里	近世		43	-	
SK462	小鉢形	1.43	1.25	0.15	赤生土器	近世	SX462 < SX461	43	-	
SK463	不整形	4.85	3.10	0.27	赤生土器・越中高岡・唐津	近世		43	-	
SK468	小鉢形	5.95	4.96	0.11		赤生		13	-	
SK477	不整形	7.62	6.10	0.13	瓦	近世		13	-	
SK479	小鉢形	12.5	4.85	0.22	中野上輪製・近世胸器	中世・近世		-	-	
SK480	不整形	4.00	0.10		赤生		13 - 35	-	-	
SK484	小鉢形	2.56	1.74	0.11		中世・近世		16	-	

第7表 江尻遺跡 溝一覧(1)

遺構番号	横幅(m)	深さ	出土文物	時期	備考	埠頭番号	国版番号
SD1	3.80	0.52	地中廻戸・伊万里・唐津・鍋戸・陶器・磁器・加工板・釘	近世	SD1>SD2	27	8
SD2	2.40	0.84	珠洲・地中廻戸・伊万里・唐津・鍋戸・陶器・木箱・漆・加工板	近世	SD2<SD1	27	8
SD3	1.60	0.56	瓦質土器・地中廻戸・唐津・陶器・磁器	近世	SD3<SD2・SD4・SD5	27	8
SD4	1.80	0.28	伊万里・唐津・鍋戸	近世～近代	SD4<SD1	27	8
SD5	0.60	0.15	馬鹿・木製品	近世～近代	SD3・SD6・SD8・SD18<SD5<SD4	27	
SD6	0.80	0.07		近世～近代	SD18<SD6<SD2・SD5	27	
SD7	0.40	0.11		近世～近代	SD8<SD7<SD2・SD4	27	
SD8	0.60	0.24		近世～近代	SK98<SD8<SK13・SK16・SP17	27	
SD9	1.30	0.43	漆	近世～近代	SD9<SD4・SD27・SD161	27	
SD10	1.00	0.50	陶器・伊万里・唐津・陶器・加工板・磁石	近世～近代	SD10>SD2・SD118	28	
SD25	0.36	0.08		近世～近代	SD25<SD9	28	
SD26	0.40	0.08		近世～近代		28	
SD27	0.33	0.40	漆器	近世～近代	SD9<SD27<SD3・SD4	28	
SD28	1.30	0.57	馬鹿・美濃・珠洲・地中廻戸・伊万里・唐津・陶器・若・漆器・加工板・鏡	近世～近代	SD28<SD5・SD118・SK106・SK119・SK120	28	
SD43	0.60	0.10	唐津・打曳石斧・鐵子	近世～近代	SD43<SD4・SK2	28	
SD44	1.20	0.18		近世～近代	SD44<SD4・SK20	28	
SD56	1.20	0.17	地中廻戸・伊万里・唐津・銀器・陶器・金属製品	近世～近代	SK94・SK95<SK116<SK93・SK98・SD101・SK102	28	
SD64	0.32	0.49		近世～近代	SD64>SK92	28	
SD86	0.22	0.05		近世～近代	SD86>SK88・SK87・SD100	28	
SD100	0.22	0.13		近世～近代	SD100<SD165	28	
SD101	0.44	0.15		近世～近代	SD4・SD1・SD56<SD101<SK98	28	
SD104	0.40	0.08		近世～近代	SD9<SD104<SK115	28	
SD110	0.40	0.06		近世～近代	SD110<SD1・SK113	28	
SD118	2.65	0.50	地中廻戸・伊万里・唐津・陶器	近世～近代	SD28<SD118<SD2・SD6・SD10	28	
SD122	0.47	0.29		近世～近代		28	
SD131	30.60	0.32	調文十器・弥生土器・打曳石斧	縄文～弥生		9	2
SD218	2.50	0.70	赤生土器・珠洲・美濃・丸窓・瓦質十器・地中廻戸・伊万里・越中丸山・國西・油工板	近世		48	20
SD222	0.38	0.15		近世	SD222>SD226	44	48
SD223	1.73	0.46	赤生土器・十器移・珠洲・地中廻戸・伊万里・唐津・陶器	近世	SD223<SD218	48	14
SD257	0.44	0.20	珠洲十器	近世		44	
SD264	1.40	0.06	伊万里	近世	SD286<SD222	44	48
SD287	0.90	0.10	地中廻戸・伊万里・唐津	近世		44	
SD288	0.80	0.20	赤生土器・地中廻戸・伊万里・唐津・地中廻戸・陶器	近世		44	
SD289	1.60	0.10	赤生土器・上部器・地中廻戸	近世		44	
SD290	0.38	0.15	赤生土器・陶器	近世		44	
SD291	0.80	0.12	赤生土器・珠洲・瀬戸美濃・地中廻戸・伊万里・唐津・越中丸山・國西	近世	SD291>SE256	44	14・17
SD292	2.90	0.48	赤生土器・中國製銀器・瀬戸美濃・越中廻戸・伊万里・唐津・越中丸山・國西	近世		44	
SD293	0.75	0.07	赤生土器・越中廻戸・唐津	近世	SD293>SD294	44	
SD294	0.18	0.07		近世	SD294<SD293	44	14
SD295	0.40	0.06	伊万里	近世	SD295>SB11・SK351・SK363	44	
SD297	0.70	0.06	珠洲・地中廻戸・唐津	近世		44	
SD298	0.62	0.10	赤生土器・地中廻戸・伊万里・唐津・鐵石・釘	近世	SD206>SD295	44	14
SD299	0.69	0.14	赤生土器	近世		44	
SD347	0.35	0.18	赤生土器	中世		16	
SD471			唐津・瀬戸	近世			
SD472	0.79	0.14	陶器・弥生土器	赤生		11	
SD473	1.30	0.16	赤生土器	赤生		11	
SD474	1.06	0.06	赤生土器	赤生		11・43	
SD475	1.56	0.17		赤生	S I 201漆溝	10	
SD476	0.33	0.12		赤生	S I 201漆水溝	10	
SD477	1.30	0.17	赤生土器・伊万里・唐津	赤生		11	4
SD481	6.00	0.24	赤生土器	縄文・弥生		9	
SD512	0.40	0.08		近世	SD513<SD512<SD217	52	
SD513	3.31	0.20	赤生土器・上部器・中国製陶器・珠洲・地中廻戸	中葉～近世	SD513<SD512<SD517	16・52	22
SD514	3.35	0.33	地中廻戸・赤生土器・珠洲・銀器・銅錢	近世		52	23
SD515	0.60	0.06		近世	SD513>SR17	52	
SD516	0.55	0.07	陶器	近世		16	
SD517	2.50	0.34	古代金器	近世	SD517>SD512>SD513	52	22
SD518	0.65	0.09	中世・唐津	近世		52	
SD554	1.24	0.20		赤生		12	
SD565	0.89	0.28	赤生土器	赤生		12・13	
SD566	0.70	0.27	赤生土器	赤生		12	
SD567	0.72	0.29	赤生土器	赤生		12	

第7表 江尻遺跡 清一覧(2)

遺物 番号	規 模(m)			出 土 物	時 期	備 考	確認番号	採取番号
	幅	深	高					
SD558	0.45	0.06		弥生土器	弥生		12	
SD559	0.92	0.12		弥生			12	
SD562	0.70	0.07		縄洲	中世			
SD601	7.00	0.25		弥生土器・中世土器・近代陶器	近世～近代		54	
SD602	0.40	0.10		弥生			12	
SD603	0.40	0.10		弥生			12	
SD604	2.95	0.30		弥生土器・中世土器・越中廻戸・伊万里・漆器・加工物・鉛玉	近世～近代		54	
SD605	2.95	0.47		弥生土器・鉛・加工物・木製品	弥生		12～14	4
SD606	0.50	0.05		弥生			12	
SD607	0.26	0.06		弥生			12	
SD608	0.36	0.07					16	
SD609	0.45	0.05					16	
SD610	0.60	0.01					16～54	
SD611	3.15	0.21					54	
SD612	2.00	0.25		越中廻戸・漆器	近世～近代		54	
SD613	3.20	0.48		弥生土器	弥生		12	
SD614	1.22	0.06		弥生土器	近世～近代		54～55	
SD615	1.75	0.21		弥生土器・越中廻戸	弥生		54	
SD616	1.70	0.20		縄洲	中世		16～55	
SD617	2.03	0.10		珠陶	中世		16	
SD620	0.49	0.09					16	
SD622	0.46	0.15					55	
SD623	0.98	0.06					12	
SD624	0.50	0.06		弥生			12	
SD626	1.20	0.17		弥生			12～55	
SD631	0.70	0.03		弥生			16	
SD632	1.35	0.05						
SD633	0.61	0.13						
SD634	0.70	0.09						
SD635	2.00	0.56		越中廻戸・唐津	近世～近代	SD634<SD635<SD604	55	
SD636	0.44	0.13		越中廻戸	近世～近代	SD634<SD635<SD604	55	
SD637	1.60	0.23		弥生土器・縄洲・瓦質土器・越中廻戸・伊万里	近世～近代	SD636<SD640	55	
SD639	2.00	0.08					55	
SD640	0.24	0.15					55	
SD641	0.38	0.12		越中廻戸	近世～近代		55	
SD642	0.57	0.17			近世～近代		55	
SD643	0.34	0.08			近世～近代		55	
SD644	1.12	0.09		越中廻戸	近世～近代		55	
SD645	0.80	0.06			近世～近代		55	
SD703	9.50	0.22		縄文土器・木製品	縄文		9	

3 遺 物

江戸遺跡からは縄文時代、弥生時代、中世、近世、近代の各時期の遺物が出土している。大半が土器・陶磁器類で、遺物収納用コンテナで概算120箱と、木製品・金属製品・石製品がある。このうち木製品には一部弥生時代のものが含まれるが、大半は近世以降の所産である。また石製品には縄文時代の打製石斧が含まれるが、数は多くない。他の木製品・石製品はやはり近世以降のものが主体を占める。以下に時期を追ってこれらの出土遺物について概述していきたい。

A 縄文時代（第56図、図版33・38）

第56図1～9は縄文土器、10～14は縄文時代の打製石斧である。縄文土器・石器自体はA～C地区の広い範囲から出土するものの、その数はきわめて少ない。これらの土器・石器は大半が縄文谷の埋土や包含層、他時期の遺構から混入として出土している。1は縄文土器の鉢と考えられる小破片で、表面が摩耗するものの、一部に条痕が残る。2は瘤状突起の周辺に沈線がある小破片である。3は体部の小破片で、外面に条痕が観察される。4・7は平底の底部破片で、4は外面に条痕がみられ、外底面に細物痕が残る。7も底部外面に瘤状の圧痕が残る。5は深鉢の口縁部破片で、口径45cm弱を数える。口縁端面に山形の突起がみられ、口縁内端に沈線が施される。内面は平滑であるが、外面には粘土の輪積みの痕が残る。6・8・9は浅鉢で法量がそれぞれ異なるが、いずれも内傾する口縁部に半球状の体部を有する。6は小型の浅鉢で口径は18cm、口縁部外面に2条の沈線を施し、体部外面はヘラミガキする。8は部分欠損するものの、口径20cm、体部最大径22～23cm、器高14～15cmの法量である。口縁外面の沈線は3条、下半はヘラケズリする。9は口径32cmの大型のもので、口縁端面に1条、外面に3条の沈線を施す。これらの縄文土器は小破片が多く時期を特定し難いものの、概ね晩期後半の範囲で捉えられる資料と考えておく。

10～14は縄文時代の打製石斧である。これらの石斧の多くはA・B地区の縄文谷の埋土中より出土している。5点の石斧のうち2点はほぼ完存するが、残りの3点には折損・欠失がみられる。形態は10・11・13が短冊形、12・14が分銅形を呈する。腹面（主要剥離面）側は全面に調整剥離が施されることが多いが、背面側には大きく自然面を残し、両側縁のみが部分的に調整剥離されている。大きさは短冊形のもので長さ13～14cm、幅7～8cm、厚さ1.6cm～3cm。分銅形のものは最大幅10～11cm、厚さ3～3.5cmである。材質は10・11・14が凝灰岩、12・13が砂岩である。

B 弥生時代

弥生時代後期から終末頃の遺物はA～Cの全地区で出土している。包含層出土のものが多いが、B1地区の堅穴住居とその周辺や、C地区の溝など遺構に伴うものも若干含まれる。なお第57図から第59図は全て土器類の実測図で、弥生時代の木製品の実測図はレイアウトの都合上後述のC中・近世（2）木製品の項に掲載した。

A地区（第57図15～56・第58図57～59・61～68・70、図版25・26・33）

A地区の遺物はいずれも包含層から出土している。このうち15～24は、有段口縁で外面に擬四線を施す壺・甕の口縁部である。17・22のように段が明確なものは少なく、むしろ段差状に緩く屈曲し、端部が直線的に外傾するか、軽く外反するものが多い。口縁内面の指頭圧痕は観察されない。口径較差からみて15～17は壺、それ以外は甕と考えておく。25・26は口縁が短く「ハ」の字状に開き、端部に面を有する甕。27は同じく端部に面を持つが、口縁部自体は外反する。28は短く内傾する受け口状の口縁を有する小型甕。体部は球形で、底部は平底。最大径は体部中位よりやや上にあり、外面には

縦に短い刻目を配す。体部外表面はハケ調整、内面には縦方向のヘラケズリが施される。口径16.4cm、体部最大径16cm、器高17cm。29は口縁部が短く「ハ」の字状に開く壺。口径は17cm、最大径は体部中位にあり、26cmの復元径となる。30は口縁部が軽く外傾しながら直線的に立ち上がるタイプの壺。器表面の摩耗が激しいが、内外面に横方向のヘラミガキが観察される。31~33は口縁部が外反して開く壺。端面を丸くおさめるもの（31・32）と、端部に面をもつもの（33）がある。39は「く」の字状口縁の壺で、体部外面にタタキ状の痕が観察される。34・35は小型の壺。34の口縁部は指押さえで凹凸をつける。36・38は中・小型の鉢。40~43は底部の破片。40~42は壺の底部、43は壺の底部で外底面に「十」字状のヘラ描きがみられる。44~49は蓋で、そのほとんどが赤彩される。丸みのある天井部の中央につまみが付く。内外面はヘラミガキされる。完存する46では口径10cm、器高3cmである。50は小型の壺の体部破片で、内外面をヘラミガキする。51は小型の有段細頸壺の頸部破片で、頸部接合部に3条の沈線が施され、上部は縦方向に緻密にヘラミガキされる。52は頸部の中位に段を有する。内外面は緻密にヘラミガキを施す。53は球形体部に短く外傾する口縁部を有する小型の壺で、内外面にヘラミガキを施す。口径10cm、体部最大径13.8cm、器高12.8cm。54は細頸壺の頸部で残存高8cmを数える。55は体部の破片で、外面を横線によって区画して文様帶を形成し、間を綾杉文で飾る。56はいわゆる器台結合壺と呼ばれるものに該当し、ちょうど体部中位の器台口縁部を表現した部位の破片である。37・57~59は高杯の杯部で、37と59は口縁部が立ち上がる屈曲部に棱を有し、さらに沈線、刻目などで飾る。57・58は脚との接合部から杯部が大きく浅く開くもので、口縁部との明瞭な境界はないものの、体部外表面の下位に棱状の段差を有する。61~68・70は脚部である。脚部上端の接合部には円盤充填ないしはその痕跡がみられるものが多い。透かしは67・70が三方、68が四方の円孔透かしとなっている。

B 地区 (第58図60・69・71~101・第59図102~129、図版25・26・34・37・38・40・41)

B地区の出土遺物はA地区同様包含層や中世以降の造構内からの混入出土もあるが、一部は竪穴住居などの造構に伴っている。71~74は有段口縁で外面に擬凹線を施す壺の口縁部で、段が明確なものではなく、かろうじて屈曲面として段が表現されている。79~83は有段口縁で無文のもの。器壁が薄く口縁端部を鋭くおさめる75~79・83と、口縁部自体が直立気味に立ち上がり、器壁が厚く端面を丸くおさめる80~82がある。83は唯一体部中位までの残存例で、口縁部外表面には形骸化した擬凹線がわずかな凹凸で表現されている。体部外表面は一面に煤が付着するが、ハケ調整の上からナデ仕上げして器表面を平滑にしている。内面は全体が横方向にヘラケズリされている。口径15.4cm、体部最大径21cmの復元値を数える。この壺はB1地区の竪穴住居区画溝S D477から出土している。84~92は口縁部が短く外反し、端部に面を有する壺である。いずれも小破片で形態・手法とも正確に窺い知ることができないが、体部の外表面はハケ調整、内面はヘラケズリされたものが多い。93~98は口縁部に段がつく壺で、口縁端部は面を持ち外反気味に開く。93は頸部以下の内外面をハケ調整する。94は屈曲部外面上に円形浮文を貼り付ける。97は同じ壺でも器壁が薄く、口縁部がわずかに内傾しながら立ち上がる。内外面を緻密にヘラミガキし、外面は赤彩される。98は台付壺の体部破片で、体部中位屈曲部の外面上に大きく2条の凹線を巡らす。99~101は底部の破片で、99が壺、100は壺、101は有孔鉢と考えられる。102~108はつまみを有する蓋で、103のみ完存する。天井部は浅く大きく開き、つまみの端面には刻目が施される。内外面は緻密にヘラミガキされ、赤彩される。104・105・107・108はつまみと天井部の境界がなく、つまみの中央部を凹ませる。109・110は鉢と考えられる小破片である。111は器台で、短く側方に開く台部と中央が穿孔される脚部を有する。器表面全面が緻密にヘラミガキ

される。60・112～117は高杯の杯部である。112はカップ形の形態で、口縁部が直角に屈曲した後、やや内傾気味に直線的に立ち上がる。外面全体を横線と絞文の組み合わせで装飾する。117は脚部接合部付近で軽く屈曲したのち、斜外方に開く杯部の形態。内外面とも上下三段にわけてヘラミガキを施す。60も高杯の可能性が高いが、外面はヘラミガキではなく、荒いハケミガキとでもいうような調整が施される。69・118～128はいずれも脚部の破片である。このうち69・123は四方の円孔透かしを有する。また120は脚部中位の外面に1条の沈線を巡らす。129は口縁部に段を有する大型の鉢である。器壁は薄く、稜線のエッジを鋭く仕上げる精製品である。外面を隈無く緻密にヘラミガキするが、赤彩は施されない。

C地区 (第59図130～144、図版25・38)

C地区からの出土遺物は量的には多くないが、溝などの造構に作うものが含まれる。130は有段口縁で外面に擬凹線を有するもの、131は擬凹線のないもの。135も後者のタイプの壺と考えられる。球形の体部の外面にはハケが、内面は成形時の分割単位（体部3分割）毎にヘラケズリの切り合いで観察できる。この壺はS D613から出土している。132～134は口縁部が短く外反し、端部に面をもつ壺。136・137は小型の有段口縁壺で、外面は無文である。138～140は底部。138・139は壺の底部で小径のもの。140は外面がヘラケズリされる。141・142は高杯の脚部である。143は幅広のつまみを有する蓋である。144は長頸壺で、体部下半を欠失する。頸部は外傾気味に斜め上方に立ち上がり、端部は上方に鋭くおさめる。外面全体はヘラミガキを施す。

C 中・近世

(1) 土器・陶磁器

江戸遺跡の出土遺物の主体をなすのが中・近世である。中でも近世の陶磁器が最も多い。これはA・B地区で検出された屋敷地造構がおよそ17世紀以降に成立し、明治中期頃まで当地で継続的に営まれていたことによる。これに対しC地区では相対的に近世の陶磁器の出土は少ない。また中世の遺構はB・C地区で若干の溝状造構が検出されたに過ぎず、このため出土遺物もそれほど多くない。出土遺物には土師器の皿類、珠洲の壺・甕・擂鉢類、瀬戸美濃の施釉陶器、中国陶磁などがある。近世およびそれ以降では越中瀬戸、越中丸山、唐津の施釉陶器や擂鉢類、伊万里（肥前系磁器）、関西系磁器、瀬戸系磁器、中国磁器（明末の染付磁器）、近代以降の銅版プリントの磁器、および土製品などがみられる。この中では越中瀬戸と唐津および肥前磁器の染付が多く目に付く。また擂鉢では唐津と越中瀬戸の二者の製品がみられる。なお実測図は、まず造構出土と包含焼出土のものに大きく二分し、次いで各地区毎のレイアウトとした。以下に出土遺物について概述する。

①造構の出土遺物

A地区

井戸

21号井戸 (S E21、第60図160～163、図版29・40)

160～162は越中瀬戸の灰釉の皿。163は伊万里の丸形の蓋付碗で、外面と内面見込みに龍をモチーフとした絵柄を描く。薄手の精製品で、18世紀代の所産。なおこの碗と同様の図柄の蓋や碗がB地区で出土する。何客かまとめてセットで入手したのだろう。

土坑

18号土坑 (S K18、第62図19I、図版39)

素焼きの土鉢。中空洋梨形の基部に紐を通す穴が穿孔され、下端は細長く長方形に切り込みを入れ

る。時期不詳。県内の中・近世の遺跡からの出土例がいくつか報告されている。

35号土坑（S K35, 第62図192, 図版39）

越中丸山の焙烙の蓋。内面は鉄軸が施釉される。外面中央のつまみはリング状のもので、この部分は施釉しない。天井部の厚みが極めて薄い点が特徴的である。

98号土坑（S K98, 第62図190, 図版39）

瓦質土器の小破片で、外面に連続する亀甲文のスタンプがみられる。器種不明。

114号土坑（S K114, 第62図189, 図版39）

端反りの磁器の碗で、外面に鉄軸の文様加飾がみられる。生産地不詳。

115号土坑（S K115, 第62図183～185, 図版39）

183は伊万里の白磁皿の破片である。184は伊万里の染付の小皿で、底部は蛇の目削り出しの高台となる。185は唐津の陶胎染付の碗。

120号土坑（S K120, 第62図186・187, 図版39）

186は唐津・内野山の銅線袖の皿。187は伊万里の染付の小皿。内面見込みの中央に手書きの五弁花纹、見込みに交叉草文を配す。B地区で類品が出上している。

75号土坑（S K75, 第62図188, 図版41）

越中瀬戸の小皿で、灰釉が漬け掛けされる。

溝

1号溝（S D 1, 第60図145～159, 図版28・29・32）

145・146は伊万里の染付の皿で、内面見込みに沿って釉が蛇の目に刺ぎ取りされている。145は中央に崩れた五弁花文のコンニャク印判がみられる。146は格子文が描かれる。ともに18世紀代の波佐見の製品と考えられる。147は磁器染付の小碗。一応伊万里と考えたいが、呉須の濃（だみ）が盛りあがっており在地産の可能性がある。148は伊万里の水滴で、体部は上面の文様部を含めて型押成形し、さらに呉須で文様の凹凸を強調する。底部は薄く型押成形され、内外面に布目痕が残る。149は伊万里の白磁の紅皿。150は伊万里の花瓶。151は外青磁の染付の鉢で、底部は蛇の目高台となる。18世紀後半から幕末にかけての時期。152・153は唐津の陶胎染付の碗。陶器の胎土に白色土を化粧掛けし、その上から山水文などを呉須で描く。154は伊万里の酒杯。帆船をあしらった京浜図が外面に描かれる。155は越中瀬戸の平高台の皿。底部は回転糸切りされ、内面は鉄釉を施す。156は削り出し輪高台の越中瀬戸の皿。明赤褐色の胎土に薄い灰釉を施す。内面見込みに釉止めの段が巡る。内面見込み部分の使用痕が著しい。157は越中瀬戸の鉄軸の壺。158は唐津の擂鉢の破片。内面に備描きで卸目を施し、口縁部の内外面のみ薄く鉄釉を施す。159は越中瀬戸の擂鉢。卸目は内面全体に隈無く施し、さらに鉄釉を全面に施す。

2号溝（S D 2, 第61図164～166, 図版32）

164は伊万里の染付の皿で、口縁部は口錆が施され、さらに体部の内外面をコンニャク印判で加飾する。体部内面は約6分の1を1単位とする帯状の印判によって施文される。この印判の模様は、中央に梅花様の一輪の花を配しその周辺を唐草文で埋めたものである。これを部分的に重なり合わせながら連続的に施文している。体部外面もコンニャク印判で、こちらは梅花様の二輪の花の両脇に唐草文を這わせている。こちらの施文は連続させず、2単位に分れる。また外底面には「大明成化年製」のうちの「製」の文字が部分的に残る。17世紀末から18世紀初頭に位置づけられるもので、このような印判手は珍しいという。165は越中瀬戸で、内面に油溜まりのカエリを有する鉄軸の灯明皿。166は

珠洲の壺で、古い時期の遺物が混入したのであろう。

3号溝 (S D 3, 第61図167~169, 図版32)

167は唐津の折縁の鉢。体部内面の横線の区画内に梅花様の二輪の花をスタンプで施文する。体部外面は灰釉、口縁部および体部内面は鉄釉を施す。168は越中瀬戸で、鉄釉が内面にも施されており、同じ袋物でも口が大きく開く。茶入れなどの可能性が高い。169は土師質の火鉢で、底部に円形で径2.5cm、高さ0.3cmの低いが安定した支脚が付く。類例からみておそらくは三脚。内外面はヘラミガキされる。内面は底部から3cm程上の部分が輪状に焼けている。

9号溝 (S D 9, 第61図170, 図版29)

伊万里の染付で、腰張形の碗。外面に銀杏の葉、竹、水仙などを描く。外底面には「大明年製」と記されているが、判読できないほど漢字が崩れている。

28号溝 (S D 28, 第61図171~177, 図版30・31・33)

171は伊万里の染付の中瓶で、ラッキョウ形徳利の体部。正面には岩座に草花文を大きく配して描く。172は唐津・内野山の銅緑釉の皿で、内面見込みは蛇の目釉刺される。高台は削り出し。173・174は唐津のいわゆる三島手の刷毛目文碗。器形は前者が腰張形の中碗、後者は瓶ないしは壺の破片で、くり底の底部を有する。175は越中瀬戸の鉄釉小皿。176・177は唐津の陶胎染付の碗。177は外面にくずれた四方擣文と山水文を描く。17世紀末から18世紀の時期。

43号溝 (S D 43, 第61図178~179, 図版33)

178は伊万里の染付で、腰張形の碗。外面には竹林文が描かれる。外底面には「大明年製」の文字の一部が観察できる。179は越中瀬戸の鉄釉火入れの底部破片。

56号溝 (S D 56, 第61図180, 図版33)

唐津・内野山の銅緑釉の小皿。内面見込みは蛇の目釉刺される。

118号溝 (S D 118, 第61図181~182, 図版31・33)

181は伊万里の白磁皿で、内面見込みは蛇の目釉刺される。182は唐津の陶胎染付の碗。外面に崩れた四方擣文と山水家屋文を描く。

B 1 地区

井戸

456号井戸 (S E 456, 第66図276~277, 図版28)

2点とも越中瀬戸で、石組井戸の底部に据えられた転用木臼の上から出土した。276は灰釉陶器の丸形小皿。277は鉄釉の向付。ともに外底面に「十」の字の墨書きがある。

土坑その他

224号建物関連遺構 (S X 224, 第65図278~280)

278は磁器染付の碗で、外面に中国の文人風の人物が描かれる。内面は口縁部が四方擣文、内底面は省略された松竹梅文がみられる。いずれも銅版プリント。279は型抜き成形の磁器盃で、口縁部の3カ所を部分的に口錫施釉する。280は磁器碗で、内外面は濃い銅緑色釉で施釉される。これら3点は明治期の建物遺構の基礎から一括して出土している。

208号土坑 (S K 208, 第65図283, 図版39)

施釉陶器の植木鉢。底部には幅広で3カ所に切り込みを入れた輪高台が付き、底部の中央に水抜きの円孔を穿つ。体部は筒形で、口縁部は側下方に屈曲させている。施釉は灰釉で、体部外面および口縁部の内外面を施釉する。近代以降の製品。

230号土坑（S K230、第65図281・282、図版28）

2点とも越中瀬戸の皿で、281は体部中位で軽く「く」の字状に屈曲、282はさらに口縁端部を内側に短く折り曲げている。281は灰釉、282は鉄釉の施釉である。

233号柱穴（S P233、第66図290、図版39）

唐津の陶胎染付で、外面に山水文を描く。全体に貫入が著しい。18世紀前半頃の製品と考えられる。

235号土坑（S K235、第65図284・285、図版31・39）

284は中国陶磁で、龍泉窯系青磁の碗。外面にヘラ描きの連弁文がみえる。285は越中瀬戸の壺で、高台の寸胴の体部に短い口縁が付く。口径12cm弱、器高10cm前後。

243号柱穴（S P243、第66図291、図版39）

越中瀬戸の鉄釉擂鉢の底部。

246号土坑（S K246、第66図292、図版39）

唐津の陶胎染付で、体部外面に山水文を描く。

251号土坑（S K251、第66図287～289）

287は瀬戸の炻器染付の筒形湯飲み。外面には菊花文を散らし、内面の中央に点描化した五弁花文を描く。288は伊万里の染付で丸形の中皿。内面見込みの中央に筆描きの五弁花文を、外縁に唐草文を配する。口縁部は口鎗が施される。内面見込みにはハリ跡と銘の一部（「明」か？）が残る。289も伊万里の染付の皿。破片のため文様構成が判然としないが、内面見込みの中央には筆描きの五弁花文が、外底面には「渦福」の銘の一部がみえる。

254号土坑（S K254、第66図293、図版39）

越中瀬戸の灰釉向付の口縁部破片。

258号土坑（S K258、第66図294～296、図版31・39）

294は唐津のいわゆる三島手の刷毛目碗。外面は刷毛で波状文を描く。内面は幅広の刷毛を圓線状に一筆描きする。18世紀前半頃の製品である。295は越中瀬戸の鉄釉無高台皿。底部は回転糸切りされ、そのまま平高台とする。296は唐津の擂鉢で、平高台に玉縁状に肥厚させた口縁部を有する。胎土は茶褐色のざらついたもので、口縁部の内外面のみ鉄釉で薄く施釉する。卸目は櫛描きで幅が細く9条を1単位とする。

263号土坑（S K263、第66図297～301、図版40）

全て越中瀬戸の皿。丸形の小皿が多く、301のみ口縁部端反りの形態である。施釉は297・298が灰釉、299～301が鉄釉である。301はかなりの高温で二次被熱したらしく、釉が沸騰して一部がガラス化している。

272号柱穴（S P272、第67図307・308、図版40）

ともに越中瀬戸で鉄釉の小皿である。

281号土坑（S K281、第66図302～306、図版29・31・40）

302は伊万里の染付の丸形小皿。内面見込みの中央に手描きの五弁花文を、さらに外縁を交文草文で飾る。同様のモチーフの皿はA地区でも出土しており（第62図187）、セットで入手されたと考えられる。303は伊万里の染付の丸形蓋付碗。内面は口縁部を四方櫛文、見込みに松竹梅文を配す。体部外面は腰部から下半を蓮弁文で、それ以外は精緻な筆運びで唐草文を描く。304も伊万里の染付で、丸形碗の口縁部破片。口縁内面には四方櫛文を、外面には飛鳥文を描く。305は鉄釉秉燭（ひょうそく）の破片。306は灯明皿で、ロクロ成形の素焼きの素地に、口縁部と内面のみ透明釉で薄く施釉す

る。口縁部内面には4条の囲線が巡る。口縁端部の1カ所、灯明の芯受け部分に薄く粘土を「ハ」の字状に貼り付け、端面を肥厚させる。

315号土坑（S K315, 第67図317, 図版41）

中世の土師器小皿で、口縁部を横ナデし外反させている。

321号土坑（S K321, 第67図309, 図版41）

越中瀬戸の鉄釉小皿の底部破片。

323号土坑（S K323, 第67図310, 図版41）

越中瀬戸の鉄釉向付。

328号土坑（S K328, 第67図323, 図版41）

唐津の鉄釉描鉢で、内面全体に描きの御目が施される。底部外面のみ露胎、他は内面を含めて施釉されている。

335号柱穴（S P353, 第67図311, 図版41）

越中瀬戸の鉄釉小皿で、体部外面は中位で稜線がみられるものの、全体に緩やかに内湾して浅く開く皿となる。また底部外面には記号状の墨書がみられる。

355号土坑（S K355, 第67図312, 図版28）

越中瀬戸の灰釉小皿で、体部内面の中位に囲線状の凹線が連続して巡る。

388号土坑（S K388, 第67図316, 図版41）

人形の土製品で頭部を欠失するが、天神の座像と考えられる。

395号土坑（S K395, 第67図320, 図版41）

唐津の陶胎染付の椀底部破片。

400号柱穴（S P400, 第67図322, 図版41）

伊万里の青磁染付の大中鉢。腰張形の器形で、口縁端部が輪花を表現するために切り込みされる。体部内面は青磁釉が施され、口縁部には梅花をあしらった波濤文を描く。

406号柱穴（S P406, 第67図313, 図版41）

越中瀬戸の鉄釉丸形小皿。

409号柱穴（S P409, 第67図315, 図版31）

越中丸山の施釉陶器碗で、下膨れの体部に短く内湾する口縁部が付く。体部はロクロ成形されたあと型当てされている。下方からみると体部の形状は円形ではなく、膨れた四角形で、辺の四隅に輪花状の凹みを縦方向に入れている。施釉は白色の長石釉で、口縁部外面のみ鉄釉で丸文を点描する。外底面に墨書がみられるが、意味は判然としない。

427号柱穴（S P427, 第67図314, 図版29）

越中瀬戸の灰釉小皿で、口縁部を鋭くおさめる。外底面の中央に「十」の墨書がある。

434号土坑（S K434, 第67図321, 図版41）

伊万里の染付の大皿破片で、釉は生掛けされる。いわゆる初期伊万里に該当する製品で、17世紀前葉に位置づけられる。

448号土坑（S K448, 第67図318, 図版41）

越中瀬戸の鉄釉小皿の破片。

454号土坑（S K454, 第67図319, 図版28）

越中瀬戸の鉄釉向付で、口縁部が短く直立する。

溝

131号溝（S D131, 第67図324）

中世の土師器小皿で、底端部から口縁が屈曲外反する。

218号溝（S D218, 第62図193～204・第63図205～228・第70図405, 図版30・31・33～35・45）

単独遺構からの出土遺物量としては、このS D218がもっとも多い。出土遺物の内容も多彩であるが、一部に近代のものも含まれる。193は伊万里のそば猪口で、外面向に草文を配す。呉須の発色が悪く濃緑灰色を呈する。194は瀬戸の磁器染付の蓋付碗。明治以降の製品で、絵柄は銅版プリントされ、染付は人工コバルトと考えられる。195も瀬戸の磁器染付で、高台が高く体部が直線的に開く広東碗の型式である。幕末頃の製品と考えられる。196は端反り形の磁器染付の小碗。やはり瀬戸の製品。絵柄は手描きだが、染付は人工コバルトである。明治以降のもの。197はA地区 S D 1出土の147と同種の小碗である。198は筒丸形の磁器染付の小碗で伊万里と考えられるが、呉須の発色が悪く薄くぼけている。199は型抜き成形の磁器染付の小皿。口縁部が大きく側方に端反るもの。内面に擬人化した獅子を銅版スタンプする。明治以降の製品。200・201は施釉陶器の鉢で、波状の口縁を有す。200は鉄釉、灰釉、長石釉などを厚めに重ね掛けする。201は鉄釉のみの厚掛けで、胎土は越中丸山に類似する。いずれも近代以降の製品である。202～204は擂鉢。全て有高台で、鉄釉を部分施釉する。内面の御目は全面に施される。赤茶褐色の胎土が特徴的。いずれも唐津で、19世紀以降の製品と考えられる。205～221は磁器染付で、211・221以外は伊万里の製品と考えられる。205は口縁部を玉縁にする小皿。内面には簡素な松葉折れ文ないしは草文が描かれる。18世紀末から幕末の製品。206は端反り口縁の小皿で、内面全体に仙芝祝寿文を描く。207・208は磁器染付の蓋と碗で、つくりや絵柄、釉調が同じでセットと考えられる。同様の蓋付碗はA地区 S E 102（第60図163）でも出土している。209は端反りの蓋付碗で、外面に山水文が描かれる。18世紀末から幕末頃の製品。210は初期伊万里の碗で、外面には網目文と丸窓文を描く。1630～1640年代に比定できる。211は磁器染付の碗で、釉調や文様は第60図147や第62図197と共通する。瀬戸ないしは在地産と考えられる。212は伊万里で半球形の丸形湯飲みである。内面見込みの中央に崩した五弁花文を描く。213～219は伊万里の染付の皿類。213は丸形の小皿で、体部内面に二段の雷文を描く。214・215も丸形の皿で、やや器高を増し全体に厚手である。波佐見の製品であろう。216は型打ち輪家の鉢で、内面に花唐草文を描く。やや上手の製品で肥前有田の製品か。217は丸形の中皿で、体部内面は薄青色を背景色に、これに濃紺の蜻唐草文を墨彈きで描く。218も丸形の中皿で、内面見込みには山水家屋図を、体部内面には花唐草文を配す。外底面には「大明成化年製」銘の「化」の部分が残る。219は丸形の大皿で、内面は見込みの二重圓線を跨いで大きな円窓文を描き、その内部を花唐草文で飾る。220は伊萬單の染付のそば猪口。桶形で底端部の低い高台が巡る腰輪高台のもの。口縁部内面には四方捲文、外面には水仙文を描く。221は壺蓋で、受け部のみ露胎となる。外面の天井部は雷文と蓮弁文で飾る。19世紀初頭から幕末に位置づけられる。伊万里か、関西系の可能性もある製品。222は伊万里の染付の小瓶か徳利の類の口縁部破片であろう。223は伊万里の青磁香炉。底部の三足鼎は裝飾で、底部中央の凹高台で器を保持する。釉調は淡緑青色を呈する。224も伊万里の青磁香炉で、こちらはやや大型のもの。底部は蛇の目高台で接地面が露胎となる。内面も残存部は露胎で内底面は焼成時に開口していたせいか、他製品の残欠や砂粒が崩落してこの部分に触着している。225・226は唐津・内野山の銅錆釉の皿。227は唐津の椀で、鉄釉が施釉される。228は瓦質土器の破片である。器種は判然としないが、外面に綾杉様のスタンプがみられる。硬質の焼成で黒銀色を呈している。405は鉄釉擂鉢で、口縁部を欠失

する。輪高台を有する底部の外面を含めた全面に、茶褐色の鉄釉を施釉する。体部外面には成形時の叩目が残る。内面は櫛描きの卸目を全面に施すが、やや角度を変えて何回も櫛描きし、卸目の機能的効果を高めている。

223号溝 (S D223, 第64図229~250, 図版28・35・36)

229~244は越中瀬戸。229~237は体部が浅く開く小皿で、体部が直線的なもの (229~231・236) と、中位で軽く屈曲するもの (232~235), 屈曲したち口縁部が端反りするもの (237) がある。高台はいずれも削り出しの輪高台。施釉は濁け掛けで、内面見込みは釉拭いされ、施釉されない。230・231・236が灰釉、残りは鉄釉。229・230は内面見込みの中心部に菊花のスタンプを押す。また229は外側の2カ所に墨書きが、236は外底面に「十」の字の墨書きを施す。238~241は向付の器形で、体部中位が強く屈曲し、口縁部はほぼ直立して立ち上がる。底部の高台は削り出しされるが、断面が三角形の低いものとなる。施釉は238と239が灰釉、240・241が鉄釉。灰釉の2点については釉止めの段が巡る。242は越中瀬戸の火入れ。削り出し輪高台の底部に筒形の体部を有する。施釉は鉄釉だが、底部の内外面は施釉されず露胎となる。底部外面には煤が付着している。243・244は越中瀬戸の底部で、小皿と考えられる。いずれも鉄釉が施される。245は内面に灰釉を施釉する小皿。内面に焼成時に融着を防ぐためのハリ跡が2カ所残る。246は中世の土師器小皿で、混入であろう。247は伊万里の磁器染付の蓋物蓋で、口縁内端に短いカエリと天井部に小さなつまみを有する。17世紀代の製品と考えられる。248・249は伊万里の青磁香炉の破片である。248は底部の蛇の目高台の一部、249は口縁部の破片で、端部は平坦で内側に肥厚する。250は関西系の鉄釉描鉢。玉環状の口縁を有し、内面は口縁直下3cm程のところを圓線で区画し、以下の部分に櫛描きの卸目を入れる。施釉はこの圓線より上の口縁部および外面全体に施す。

263号溝 (S D263, 第64図251, 図版36)

越中瀬戸のひだ皿で、鉄釉が施される。

287号溝 (S D287, 第64図252~256, 図版36)

252は伊万里の染付の猪口で、筒状の体部に幅広の安定した輪高台の底部が付く。253は越中瀬戸の火入れで、筒形の体部に輪高台の底部が付く。施釉は体部外面のみで、内面残存部および底部の内外面は露胎。施釉は灰釉である。254・255は越中瀬戸の小皿で、前者は灰釉、後者は鉄釉が施釉される。254は内面見込みの中央に菊花のスタンプを押す。256は唐津の描鉢。体部内面は全面に櫛描きの卸目がつき、外面を薄く鉄釉で施釉する。

288号溝 (S D288, 第64図257・258, 図版36)

257は越中瀬戸の火入れで、筒形体部に輪高台の底部がつく。施釉は灰釉。258も越中瀬戸で、鉄釉の皿。内面見込みの中央には菊花のスタンプが押される。

289号溝 (S D289, 第64図259・260, 図版36)

ともに越中瀬戸で、259は鉄釉の茶入れ。底部平高台で回転糸切り痕がそのまま残る。260は鉄釉の皿で、体部中位で屈曲し口縁部が軽く外反する。

291号溝 (S D291, 第65図261~263, 図版30・37)

261は越中瀬戸の鉄釉の小皿で、口縁部は連続した圓線を巡らす。262は越中丸山の丸茶碗で、底部の厚みが極めて薄いことが特徴的。内面全体および口縁端部の内外面は、化粧掛けされたのち透明釉を施す。外面はほぼ露胎のままであるが、部分的に鉄釉を櫛掛けしている。露胎部は口縁部は横ナデ、体部下半は回転ヘラ削りする。底地は薄茶色を呈する。263は関西系の施釉陶器の丸茶碗である。

薄い緑茶色の灰釉の上から、白色の長石釉で細い螺旋を描く。底部には細身の輪高台が付く。外底面のみ露胎となる。

292号溝 (S D292, 第65図264~267, 図版37)

すべて越中瀬戸の小皿である。口縁部を丸くおさめるもの (264・266) と、口縁端部を鋸く端反りにするもの (265・267) がある。施釉は264・267が鉄釉、265・266が灰釉である。また265の底部外面には「十」の文字が、267では記号状の墨書きがみられる他、266では内面見込みの中央に菊花文をスタンプしている。

293号溝 (S D293, 第65図268~270, 図版37)

268・269は越中瀬戸の向付で、低い三角高台と、体部中位から屈曲して立ち上がる口縁部を有する。いずれも釉止めの段がみられる。施釉は268が灰釉、269が鉄釉。270は唐津の陶胎染付の椀である。外面には山水文を描いている。底部には小さめの輪高台が付く。

295号溝 (S D295, 第65図271, 図版37)

伊万里の染付の小瓶と考えられる。輪高台を有する底部から体部が球形に膨らんでいる。とくに折損箇所となる体部中位付近は極めて薄く、器壁は数ミリ程度しかない。外面の染付文様は窺い知れないと、呉須の濃(だみ)が1カ所認められる。

298号溝 (S D298, 第65図272~275, 図版30・37)

4点とも伊万里の染付。272は五寸皿に相当する丸形皿。内面見込みに沿って幅1cmほどの囲区を描き、その上から濃い紫色の呉須で雪の輪文を配す。273は丸形の湯飲みで、外面には矢羽根文、内面見込みには崩した「寿」の字を描く。素地があまりよくなく、呉須の発色は濃緑色を呈す。18世紀後半から19世紀前半頃の製品。274は筒形湯飲みで、体部外面は大型の菊花文を散らし、口縁内面には四方擗文を施すが、呉須が全体ににじんでいる。275は染付の中鉢。底部は蛇の目凹高台、体部は丸く口縁部が屈曲した後内済して開く。口縁の内面は薄い呉須で帯状の囲区とし、その上から省略した唐草文を墨書きで描く。内面見込みには大きく山水文を描く。

467号溝 (S D467, 第66図286, 図版37)

伊万里の染付の小瓶である。器形は端反りのラッキョウ形で、体部外面に笠の葉文を描く。

B 2 地区

井戸

501号井戸 (S E501, 第67図328・329, 図版40)

ともに越中瀬戸の鉄釉描鉢で底部を欠失するが、残存部位は茶褐色の鉄釉で薄く施釉する。内面の御印は焼抜きで、10条1単位で間隔を空けて施す。

土坑

510号土坑 (S K510, 第67図330, 図版40)

珠洲の壺の口縁部破片である。

513号溝 (S D513, 第67図325・326, 図版38)

ともに越中瀬戸の底部で、325は外底面のみ露胎で他は黒色の鉄釉が、326は内外面とも体部の上半部のみが茶褐色の鉄釉で施釉される。

514号溝 (S D514, 第67図327, 図版38)

越中瀬戸の底部破片で、内面は茶褐色の鉄釉に黒色の鉄釉を掛け回し、二彩表現とする。外底面は露胎である。

562号溝 (S D 562, 第67図331, 図版38)

珠洲の捏鉢の口縁部破片である。

C地区

溝

601号溝 (S D 601, 第73図513・第74図526, 図版38)

513は唐津の底部破片で、体部があまり深くないやや小振りの椀と考えられる。施釉はいわゆる薬灰釉で、内底面に砂目積みの痕を残す。526は非ロクロの京都系土師器の小皿で、口縁部を短く外反させる。

604号溝 (S D 604, 第73図496, 図版38)

越中瀬戸の鉄釉丸椀。釉調は漆黒色、素地は明灰褐色を呈する。

635号溝 (S D 635, 第73図498, 図版38)

唐津・内野山の小皿で、内面は銅線釉を施し、蛇の目釉刺する。

636号溝 (S D 636, 第73図493, 図版38)

越中瀬戸の底部破片で、小皿か向付か判別できない。施釉は灰釉で、内面中央から放射線状に微細な磨きがみられる。同様の事例がB地区包含層出土品にも存在する。

その他の遺構

629号土坑 (S X 629, 第74図541, 図版40)

中世の土師器の皿で、非ロクロの京都系の土師器皿。口縁部は軽く内湾するものの、斜外方に開く形態である。

②包含層の出土遺物

包含層では各地区毎に概ね焼物の種別に応じた記述とする。

A地区

越中瀬戸 (第68図332~338, 図版28・43)

有高台の小皿である。底部に削り出し輪高台を有し、体部は浅く直線的に開くものが多い。内面の釉止めの段は全くないものが多い。333は、口縁端部内面から見込みの外縁までを段々状に凹線を巡らす。336は内面見込みの中央にかなり形骸化した菊花のスタンプがみられる。施釉については332・333が鉄釉、残りが灰釉となる。340~343は無高台の小皿で、底部はいずれも回転糸切りされた後、そのままの切り高台(平高台)となる。343のみ口縁端部まで残存する。施釉はいずれも鉄釉である。344は越中瀬戸の鉄釉丸椀で、体部は半球形で底部には削り出しの撥高台が付く。底部外面のみ露胎とし、他は全面施釉する。釉はやや明るい茶褐色を呈する。345・346は筒状の体部を有する底部。345は壺や建水の、346は丼鉢の底部と考えられる。底部は回転糸切りされたままの切り高台となる。ともに鉄釉で、345は体部内面のみが、346は内外面とも施釉される。第69図399も在地産の鉄釉鉢で、口縁直下の1カ所に円孔がみられる。

土師質土器 (第68図339, 図版44)

たんころ形の秉燭(ひょうそく)。底部は平底、体部は丸形で芯立には縦方向の溝状の切り込みを入れる。土師質の焼成。芯立の端部外面がわずかに焼けている。

伊万單 (第68図347~351・353~358・第69図362, 図版30・41・42・44)

358のみ青磁、他は全て染付である。347~349は丸形の小皿で、内面見込みは蛇の目釉刺される。347・348は内面に格子文が描かれる。以上3点は波佐見の製品であろう。350・351は丸形小皿。350

は内面に波頭文を、351には扇子文がみられる。後者はさらに内面見込みの中央に五弁花文を施し、外底面の中央には渦福文の一部が残る。やはり波佐見の製品であろう。353は筒形湯飲みの体部破片で、体部外面は青磁釉で施釉されるいわゆる外青磁である。口縁端部内面には四方博文を配する。354はそば猪口の器形で、底部は蛇の目円高台。内底面に松竹梅文、外底面には「富貴長春」の銘が入る。355は腰張形の碗で、外底面に「大明年製」の字の一部がみえる。本米は蓋がつく器形であろう。356は丸形碗で、内面見込みの中央に五弁花文が、体部外面には水仙が描かれる。357は薄手の酒杯と考えられる破片。体部外面に箕文、内面見込みの中央に太陽文を描く。358は青磁香炉の口縁部破片で、平坦な端面の内側が側方に突出する。第69図362は白磁紅皿の破片で、体部は型抜き成形、外面は口縁端部以外は露胎となる。

瀬戸 (第68図352・359・第69図360・361・400、図版29・42・44)

磁器染付と炻器染付がある。352は水滴の破片。359は磁器染付の徳利で、筒口形のいわゆる燭徳利である。型抜き成形で薄手に仕上げられている。体部外面の中央にやや崩した菊文が大きく描かれる。口頭部は文様化した捻花文で飾る。360は磁器染付の丸形碗。第60図147、第63図211と同じ製品で、応瀬戸と考えたが在地産の可能性もある。361は瀬戸の炻器染付の筒形湯飲みで、内面見込みの中央に五弁花文を省略した点描文が、体部外面には菊花散らし文が描かれる。400は灰釉が施された口縁部の破片である。

唐津 (第69図363・364～369、図版44・45)

361・365は陶胎染付の椀で、厚手の器壁を有する腰張形の椀。体部外面には崩した唐草文が描かれる。363・366は体部内面に波状の刷毛目文を施す、いわゆる三鳥手のもので、363が椀、366が鉢の器形である。367・368は内面見込みを蛇の目釉刻し、銅綠釉を施す唐津・内野山の小皿。369も内外面に銅綠釉を施す鉢で、唐津・内野山の製品と考えられる。

土師器皿 (第69図371～396)

非ロクロで、手捏ね成形の中世の上部器皿。小皿と大(中)皿がある。371～388は平坦ないしはやや丸みを帯びた底部から、口縁部を強く屈曲させ鏡く邊反りに仕上げる形態。389～392は底部と口縁部の境界がなく、軽く内湾しながら開く形態のもの。393・394の大皿もこの形態であるが、395・396は口縁端部のみを短く上方に屈曲させたものとなっている。

瓦質土器 (第69図398・第70図411～415)

398はスタンプ文が貼り付けられるが、小破片であり器種が判然としない。411は香炉の破片で、口縁部の直下に径2cm弱の円孔を等間隔に開ける。体部外面のみ瓦質化する。ヘラミガキも同様で、幅の広い荒いミガキが横方向になされる。412は鉢の類で、口縁部は受け口状になっている。413～415はいずれも小破片であるが、火鉢の類であろう。

中国陶磁 (第69図370・401～404、図版26)

370は磁器染付のいわゆる青花の碗の小破片である。401～404は龍泉窯系青磁で、401～403が碗、404が鉢の口縁部破片である。402・403の外面にはヘラ彫りの蓮弁文がみられる。また404の体部内面には模描き文がみえる。

珠洲 (第70図406～410・417～422、図版27・29)

壺・壺・擂鉢がある。擂鉢の口縁形態には端部を端反り気味にして丸くおさめるもの(406・417)と、端部に広い面を有するもの(409・418～421)がある。417・418・420の3点の口縁端面には波状文が模描きされる。408は壺の口縁部破片。410は小型の壺で、球形の体部に平底の底部を有する。底

部は静止系切り痕が残る。422は壺で底部を欠失する。口縁部は直立気味に外傾して開き、端部は玉縁状に肥厚させている。体部は幅の割に高さがあり、最大径が体部の中位よりやや上方にある。体部の外面全面に、綾杉状の叩目が残るが、内面の当具痕は明瞭でない。焼成はやや甘く、色調は明灰褐色を呈する。

施釉陶器（第70図416、図版39）

楕木鉢の器形である。口縁部は側方に突出しており、体部は筒状を呈する。体部外面および口縁部の内外面を灰釉陶器で施釉する。越中丸山など在地産の製品であろう。

瀬戸美濃（第70図423）

中世の瀬戸美濃の施釉陶器である。同一個体の破片が数点みられるだけだが、三筋壺と考えられる。底部は平底で、体部外面には淡黄緑色の灰釉が施釉されている。

B 地区

越中瀬戸（第71図424～442・第72図485、図版31・43・45）

424～427は削り出し輪高台を有する小皿で、体部が浅い角度で直線的に開く形態。424のみ鉄釉、他は灰釉。施釉は体部の内外面に漬け掛けされ、内面見込みは重ね焼き時の融着を防ぐため、釉拭いされる。外面は体部中位以下が露胎となる。424の内面見込みの中央には菊花のスタンプ文が、427の外底面には墨書きがみられる。428・429は口縁部に短く内傾する立ち上がりを有する皿。いわゆる灯明皿の器形。底部は平高台で、回転系切り痕が残る。施釉は鉄釉で、体部外面の下半以下は露胎となる。430～437は向付の器形。低い三角高台の底部と、強く屈曲・直立し、口縁端部が軽く外反する体部を有する。灰釉（431・435・437）と、鉄釉（430～433・436）とがある。小皿と同様に内面見込みは釉拭いされ、外面は体部中位以下が露胎となる。432と435は、内外面を微細な沈線で中心から放射状に刻む。438は鉄釉の建水、439は無釉の壺の口縁部破片である。440は削り出し輪高台を有する鉄釉の椀で、天目茶碗の可能性が高い。体部外面下半および底部外面は露胎となる。441は乗焼（ひょうそく）で、完存する。形態はいわゆる台付たんころ形で、切り離し平高台の中心に輪孔を有する。扁平な球形体部で口縁部が内側に強く内湾する。芯立は直立した円筒状の一面が綫に溝状に切りこまれている。施釉は鉄釉で、外面の脚部以下底部は露胎とする。442はミニチュアの鉢。底部は回転系切りの平高台。内面及び体部外面は鉄釉が施釉されている。485は鉄釉擂鉢の破片で、高台を含め全面施釉する。

伊万里（第71図443～456、図版41・42）

443～446は染付の皿。443は格子文を有する丸形の小皿で、内面見込みは蛇の目釉刺される。18世紀後半頃と考えられる。444は輪高台を有する皿。内面見込みの中央にコンニャク印判で五弁花文を施す。18世紀前半から中頃のもの。445は丸形の小皿で、内面見込みは蛇の目釉刺され、体部外面中位以下も露胎となる。内面に一部文様がみられる。17世紀後半から18世紀前半頃。446も内面見込みに蛇の目釉刺がみられる小皿の底部。以上4点は、いずれも波佐見の製品と考えられる。447は蓋付碗の蓋で、天井部外面に文様化した「渦福」の銘がみられる。448・449は合子の身である。448はやや大振りで全面施釉。外面に呉須で織の文様を描く。449は平底で白磁釉が施されるが、合せ口となる口縁部と外底面は露胎とする。また底部外面は墨書きされるが、意味は判然としない。450～452は染付の碗。体部は半球形で、口縁部がわずかに内傾する。外面の文様は450が菖蒲様、451が花牡丹あたりか。451の方が古く、17世紀後半にまで遡る。452は口縁部内面に四方櫻文、見込み中央に筆書きのやや崩れた五弁花文を描く。外面は高台の外周に沿って蓮弁文を配し、その上に岩座と需持ちの草

を描く。18世紀後半から19世紀初頭頃の製品と考えられる。453・454は磁器染付の筒形湯飲み。453は外面に輪宝繁文を描く。454は内面見込みの中央に筆書きの五弁花文を、外面は高台外縁に沿って省略した蓮弁文を、体部には梵字文を描く。455は青磁の香炉の口縁部破片である。456は口縁部が短く折れ縁になる大鉢の破片。体部外面には唐草文、内面には松竹梅文と蛸唐草文が交互に描かれる。18世紀中葉から末頃の製品と考えられる。

瀬戸（第71図457、図版44）

瀬戸の炻器染付である。広東椀の形で、内面見込み中央には星状に崩れた五弁花文がみられる。458・459は磁器染付の碗。458は銅版プリントの文様を持つもので、明治以降の製品。459は赤・青・緑の一色で波と魚を描いた色絵の碗。瀬戸以外の産地の可能性もある。

関西（第71図460、図版44）

肥前や瀬戸ではなく、関西系と考えられる磁器染付。瓶のようだが内面も施釉されており、花生けの類か。外面には大きく全面に草花文が描かれる。

土師質土器（第71図461、図版44）

口縁部のみの残存で、秉燭（ひょうそく）と考えられる。

唐津（第72図462～471・483・484、図版44・45）

462・463は、内面見込みを蛇の目釉刺し銅線釉を施した、いわゆる唐津・内野山の皿である。461も割り出し輪高台を有する小皿で、やはり内面に蛇の目釉刺しがみられる。黄茶褐色の素地に白色の化粧土を荒く掛け回し、そのうえから灰釉を漬け掛けする。18世紀前半から中葉に位置づけられる。465は唐津のいわゆる三島手の刷毛目椀。466は丸形碗で、淡灰茶褐色の素地に化粧土を白掛けして、そのうえから施釉する。17世紀前半に創る古手のものである。467～470は陶胎染付の碗である。471の碗はいわゆる呉碗手と呼ばれるもの。素地は淡黄褐色でこれに透明釉を掛けて黄緑色に発色させる。銅緑色釉とあわせて二彩とする。483・484は唐津の福鉢。口縁部は短く外反し、体部内面は櫛描きの卸目を施す。内外面とも鉄釉の施釉。

土製品（第72図472～475・488）

472～475は素焼きの土製品で、全て型抜き成形である。472は箱庭道具の灯籠の破片で、前後二分割で型合せする。柱状の底部は六角ナット状で、上下の中心軸に穿孔がある。473は人形で頭部を欠失するが、衣服の意匠からみて福嫁子か。472と同様に前後形合せの成形である。底部は幅広がり仕上げ、さらに人物の中軸線上に穿孔する。474・475は形合せの裏面がなく平坦に仕上げられており、泥面の芥子面に該当する。474は天神像、475は頭部を欠失しておりモチーフが判然としない。いずれも合せ型の正面側を使って型抜き成形する。488は土製の人面では原寸大であるが、やはり型抜き成形される。基本的に素焼き焼成であるが、正面側は肌色、黒色、茶褐色など彩色されている。裏面は一面に成形時の指頭圧痕が残る。

土師器皿（第72図476～479）

いずれも非ロクロ成形。口縁部は一段ナデ手法で、口縁端部は端反り気味に外反している。

中国陶磁（第72図480、図版26）

龍泉窯系青磁の碗の破片。釉調は淡緑色を呈し、高台内面のみ露胎となる。

瀬戸美濃（第72図481、図版44）

器形的にみて鉄釉の天目茶碗と考えられるが、釉調は淡緑色を呈する。二次被熱のための変化と考えられ、釉の表面が沸騰したようになり、多数の細かな空気穴があいている。

珠洲（第72図486・487、図版27）

珠洲の底部破片。486は壺、487は擂鉢の破片と考えられる。

C地区

越中瀬戸（第73図489～492・494～497、図版38・43）

小皿（489～492・494）、向付（495）、匣鉢の底部（497）がある。小皿は492のみ鉄釉、他は灰釉の施釉である。489は内面見込みに菊花文をスタンプするが、花弁の先端が型くずれて消失する。491はさらにくずれて、スタンプは単に放射状文となっている。490・494の底部外面上には墨書きがあるが、破片であり判読できない。497は匣鉢で、回転糸切りをそのまま残す平高台に、筒形に直立する体部を有する。体部の内外面はロクロ目が顯著で、胎土は砂粒が混じる荒いものとなっている。釉が拭われている外底面を除き全面に鉄釉が施釉される。

唐津（第73図500・501・514、図版44・45）

500は唐津・内野山の小皿で、銅綠釉の施釉に内面見込みは蛇の目釉刺となる。外底面に墨書きがみられるが、意味不明。501はいわゆる薬灰釉が施釉されており、皿の形態である。内面の見込みには砂目積みの痕が4カ所残る。514は大振りの鉢と考えられる器形。削り出しで幅のある断面逆台形の輪高台が底部に付く。内面は見込みの外縁を圓線で区画し、その外側の体部は直線と波線を組み合せた象嵌文様を施す。内面見込みに砂目積みの痕が残る。

伊万里（第73図499・502～504、図版30・41・42・44）

499は青磁の皿で、内面見込みは蛇の目釉刺となる。502は型抜き成形の白磁の紅皿。外面には細かな貝殻状文が入るが、口縁直下から下半は露胎となる。503・504は染付の丸形小皿で、ともに内面見込みは蛇の目釉刺される。見込みの外縁に沿って二重の圓線を引き、その外側に交叉草文を描く。雜器上体の18世紀代の波佐見の製品と考えられる。

中国陶磁（第73図505～512、図版26）

すべて青磁で、いわゆる広義の龍泉窯系青磁であるが、製品の焼造年代には幅がみられる。505は底部の破片で摩滅のため釉が光沢を失っている。506は小杯の破片で、内外面に繪描き文がみられる。507～509は体部外面にヘラ描きの蓮弁を施す。510は内外面とも無文で、口縁端部を玉縁状に肥厚させ短く外反させる。破口には漆緋ぎの痕がみえる。511は内面にヘラ描きの草文がみられるもので、古手の龍泉窯系青磁碗である。512は内湾しながら立ち上がる体部を有し、外面の口縁直下に1条の沈線を巡らす。

瀬戸美濃（第73図515～517・第74図517、図版41）

515は削り出し平高台を有する天日茶碗の破片で、内面には濃い茶褐色の鉄釉を施釉す。体部外面および高台外面は露胎。以前一度破損しており、漆緋ぎの痕が観察される。516は口縁部が大きく端反りとなる小皿。517は口縁部が折れ縁となりさらに口縁端部を玉縁風に肥厚させた鉢である。この2点についてはいずれも灰釉が施される。547は薄く淡い灰釉が施釉される皿で、細かな貫入が著しい。内面見込みに圓線が1条巡る。

上器皿（第74図518～525・527～540・542～546）

非ロクロ成形の土器器皿である。まず小皿だが、518は口縁部の横ナブが弱く、体部との境界が明確でない形態である。これに対し521～525・528～531は、底部が平坦で器壁が厚く、口縁部を短く屈曲させ端反りに仕上げる形態である。また519・520・527・532～541のように、底部から口縁部が屈曲するものの、端反りが顯著でなく外傾し端部を丸くおさめる皿も比較的多く認められる。542は口

径は小皿相当だが、体部は杯のように深いものとなる。大皿では体部から口縁部が浅く開き、口縁端部のみ軽く外反させるもの（543・546）と、口縁部が直線的で端部を丸くおさめるもの（544・545）がある。

瓦質土器（第74図548・549）

瓦質土器の擂鉢である。548は口縁部の破片で、直線的に外傾し口縁端部は単に丸くおさめている。549は無高台の平底の底部と考えられる。2点とも内面に櫛描きの卸目を施す。カーボンのかかりは浅く、軟質焼成となっている。

珠洲（第74図550～555、図版27）

550は擂鉢の底部破片。551は口縁部を直角に屈曲させ「L」字状口縁としたもの。552～554は擂鉢の口縁部破片である。端部を端反りにし、内傾する端面に波状文を配し、卸目も櫛描きが著しいもの（552・553）と、口縁部を正縁状に肥厚させ、卸目の櫛描きに間隔のあるもの（554）がある。555は壺の口縁部破片で、頸部は短く立ち上がり、口縁部は側方に短く屈曲して端部は丸くおさめる。体部の外面に格子状の印目が残る。

越前（第74図556）

越前の壺の口縁部破片で、外傾気味に立ち上がり端部は平坦に仕上げる。

（2）木製品

出土した木製品には、漆器、箸、しゃもじなどの食具・食器類、曲物、折敷、桶などの容器類、下駄などの服飾具類、加工木、柱、杭など各種の建築用部材、舟河舟に転用された木臼、農具である鋤先、「戸長役場」と墨書きされた明治初期の木札などがある。以下に各地区毎に概述する。

A地区

下駄（第75図601～605、図版46）

601は台と歯を別個に作り向者を接合した差歎下駄で、いわゆる「露刃下駄（ろぼうげた）」と呼ばれるものに該当する。台裏に溝を切り、その溝中に台表に貫通する納孔を穿ち、そこに差歎の枘を差しこみ固定したもの。枘孔は一般に多い4孔でなく、2孔である。台の平面形は長方形だが横断面・横断面の形状は台形で、舟底状を呈する。差歎の形状も裾広がりの台形で、前歎のみが残存する。横緒穴は後歎の後方にあり、前歎を含めて3穴とも傾斜して台に穿孔している。前歎の両側に足指による使用痕が観察される。台の幅は7.8cm、長さ22.3cm、厚さ4.3cm。前歎は接地面となる歎裏の幅が15.7cm、高さ12.5cm、厚さ1.6cm。台の木取りは原木二分割と考えられる。台、歎ともに樹種はホオノキである。602は台と歯を別々に製作せず原材から直接切（削）りだす、いわゆる連歎下駄に相当する。台の形状は平面が小判形、断面は厚みがない台形である。幅9cm、長さ24cm、厚さ1.9cm。前歎は前歎の前方に、横緒穴は後歎の後方に垂直に穿孔する。歎は前後とも残存しており、概ね4～5cmの高さ。歎裏の幅は12～13cm、厚さ3～4cmである。台の木取りは原木二分割と考えられる。樹種はホオノキとされる。603は小型の連歎下駄で、歎は両方とも残存するが、台の前後を欠失している。台の幅4.2cm、残存長8.5cm。前歎は残存するが、横緒穴は消失する。歎は台形で、歎裏の幅6cm前後、高さ4cm、厚さ2.1cmとなる。大きさから見てもあまり実用的とは思えない。604・605は一応差歎式の下駄の歎と考えておく。

加工棒（第75図606・607）

606は中央に節が残るようにして竹を縦に裁断し、両端を尖らせたもの。幅0.8cm、長さ31.7cm、厚さ0.4cmである。607は断面が長方形を呈する角材の残欠。7～8cm間隔で3カ所表裏に貫通する穿孔

を施している。

栓（第75図608）

桶などの栓である。円筒状の素材の下端側がすぼまるように削っている。上端径2.9cm、下端径1.9cm、長さ6cm。

底板（第75図609・第77図618）

609は結桶の底板の端の部分で、側板に固定するための穿孔がみられる。618は一枚板の底板で、曲物桶の底板と考えられる。復元径16cm前後、厚さ0.7cm。

蓋（第76図616・617・第77図619、図版47）

桶・樽などの蓋である。616は一枚板のもので、中心より縦側に偏って注口が穿たれ、そこに栓がついたまま出土している。蓋の径は14.7cm、厚さ1.2cm。栓は上端径2.6cm、下端径2cm、長さ5.4cmで、形状は第75図608とはほぼ同じである。注口の存在より樽の蓋とわかる。樹種は蓋、栓ともにスギである。617は616に比べやや径が大きく、三枚板を組み合わせて一枚物とする。桶の蓋であり、栓や注口は見られない。「大」の字の焼き印が押される。復元径18cm、厚さ1.3cm。樹種はスギである。619は桶蓋の取手部分。蓋の板材に角材を5本の木釘で留めている。板材の方も5カ所に釘穴を穿孔するが、取手の角材までは貫通しておらず、木釘も残存しない。角材は幅1.8cm、厚さ1.5cm、長さ34.5cmで、中央付近で横方向に「コ」の字形の抉り孔を入れる。

桶（第76図615・第77図620・623・第78図624、図版46・47）

結構ないしはそれを構成する部材である。615はSE102の井筒に転用された結桶で、底板を欠失する。側板は22枚で構成され、これを上中下三段のタガで結束する。桶本体の径67cm、高さ92.4cm、側板の厚さ1cm。620も615と同一遺構の出土だが、こちらは下半のみが残存する。側板は20枚で構成される。径63.2cm、残存高42.4cm、側板の厚さは2.2cm。ヒノキ科に属する樹種である。624はSK142に転用された結桶で、上半部と底板部分を欠失する。側板は大小とりあわせて25枚で構成される。桶本体の径65.2cm、残存高50cm弱、側板の厚さ1.5cm前後。623は結桶の側板のみの出土。上辺の幅5.6cmに対し、下辺3.5cmと、やや裾すぼまりとなる。長さ31.7cm、厚さ0.7cm。中央上辺寄りの位置に長方形の差込孔があげられる。

漆塗り製品（第76図610～614、図版46・47）

610は脚の一部にみえるが、本体構造は判然としない。頭部と側面に、組み付けるための枘穴がみられる。ヒノキ科に属する樹種。612も脚部の残存と考えられる。この2点は全面黒色漆。611は赤色漆の箸の残存である。613・614は漆器の椀。613は球形の体部に低い輪高台がつく。外面は黒色漆、内面は赤色漆、文様は描かれていない。樹種はトチノキである。614は613よりやや薄手で腰が張る体部を有し、底部には輪高台がつく。内外面とも黒色漆が塗られるが、文様は描かれていない。内面見込みに付着物がみられる。樹種は613と同様トチノキである。

木箱（第77図621・622）

組み合せ式の木箱の側板。ともに幅6～7cm、長さ24cm、厚さ0.8cmで、板の三方に固定用の大小の枘穴を穿孔する。出土遺構も同じで、同一個体と考えられる。

柱・杭（第78図625・626・第79図627～631、図版49）

建築材と考えられる柱・杭である。これらの殆どは柱穴と考えられる穴の中に残存する形で出土している。625は一方の端部付近に方形の枘穴があることから、據立式の柱根などではなく、建築用の構造材の一種と考えられる。原木四分割の木取りで、芯持ち材ではない。626は杭で、下端を手斧で

面取りしながら先細折りに削る。芯持ち材で、残存部の長さ29.1cm、直径6cm前後を測る。627・631は柱で、下端を一部手斧で加工したもの（628・629）と、切断されたそのままのもの（627・630・631）がある。いずれも芯持ち材で、上端は腐食して先細りとなっている。樹種は625・628・629・631がクリ、627がコナラ節、630がシオジとされる。

木臼（第80図632～634、図版48）

井戸に転用された木臼で、3点とも同一造構の出土。初摺り用の木摺臼である。木摺臼は石臼とよく似た構造の回転式のもので、上臼と下臼を組み合わせて使う。ともに円筒形で、芯持ち材を輪切りにして細部を削りだし成形する。下臼は独楽を逆さにしたような形状で、中心に上臼を受ける芯棒を通す。上臼は内部を漏斗を逆さにしたように削り抜き、天井部の中心に下臼の芯棒を受ける軸受板がつく。632は下臼と考えられるが、転用の過程で受け部がきれいに削り抜かれ円筒状となっている。このため天地は確認できない。633・634は上臼で、井戸に転用される過程で、やはり底抜け（天井抜け）をしている。臼の側面には縄掛け用の横に長い窓が対向して二面作り出される。この手の木摺臼の場合、摺る行為は回転運動ではなく、半回転ずつ交互に逆回転させて使うといい、この窓の部分に縄を引っかけて回転させたものと考えられる。摺目は633の場合、時計回りの放射状となっている。樹種は632・633・634ともにブナである。なお実測図は井戸内での正立状態のもので、本来の臼としての使用状態はこの図の上下逆となる。

B地区

漆塗り製品（第81図635～641・647、図版50）

635～639は漆器の椀。639がやや小振りで浅い形態、他は半球形の体部である。底部は低い輪高台（636・637）と高脚のもの（638）がある。635・638は内外面とも黒色漆で、635は外面に赤色漆による文様を描く。638も内面見込みにわずかに赤色漆の文様の痕が残る。636・637・639は外面が黒色漆、内面が赤色漆となる。636は体部外面に赤色漆で家紋状の文様を描く。640・641は椀の蓋で、天井部に低いリング紐を有する。640の天井部が丸みを帯びるのに対し、641は天井部が平坦で、口縁部が屈曲する。640は外向が黒色漆、内面が赤色漆で、さらに口縁部外面3カ所および天井部中央に三つ葉文を金色漆で描く。641は無文で内外面とも黒色漆。647は板状の漆製品で、二側面に柄穴が残る。組み合せ式の箱のような製品と考えられる。外面は赤色漆、内面は黒色漆。樹種は636・637・640がブナ、641がケヤキである。

筒状容器（第81図642、図版51）

直径10cm、高さ10.8cmの筒状容器。削りだし成形で、底部は中央がやや上げ底となる。内底面から外面に抜ける円孔が1カ所みられる。樹種はエゴノキである。

栓（第81図643・644）

樽などの栓である。据すぼまりの円筒形で、側面の面取り整形は643が荒く、644は丁寧である。

木札（第81図645、図版51）

墨書きがみられる木札。形状は長方形で、幅1.9cm、長さ16.3cm、厚さ0.9cm。表側では、まず上段に「戸長」と墨書きし、さらに中段に「小矢部村」と「小神村」の二つの村名を並記し、下段に「役場」と続けて墨書きする。裏面は上段に「役場」と墨書き、次いで漢字が一文字書きされるが、この部分はよく判読出来ない。この木札にみられる「戸長役場」とは明治の廃藩置県により設置され、以後明治22年の市制・町村制がしかれるまで地方に置かれた役所のことである。従ってこの木札も明治前期の所産とみなすことができる。樹種はスギである。

ヘラ状用具（第81図646）

頭を幅広にした「T」字状の木製品である。形状はヘラに似るが、頭の先端は薄く仕上げておらず、柄と同じ厚みのままである。用途などは不明である。

匙（第81図648、図版49）

長く薄い長方形の取手の先端に小さな身がつくもので、この部分が僅かではあるが内湾して受け皿状になっているため匙とした。長さ32.3cm、柄は幅2.2cm、厚さ1cm。受け皿は一端を欠損するが幅6.5cm、長さ6.5cmの隅丸方形状を呈する。樹種はブナである。

曲物桶（第81図649）

曲物の側板の残欠である。

底板（第81図650～652・第84図674～679、図版49・50）

曲物桶や結桶の底板。全て薄い円盤状を呈す。650～652は径7～10cmの底板で、半裁残存のものも含めて1枚板つくりである。651には下端に縫じ付け用の溝孔がみられる。674～676は直径15～20cmの底板で、半裁残存する674には、中央の裁断面に2カ所の枘穴がみられ、半円の板2枚を組み合わせて1枚の底板にしたことがわかる。675・676についても674と同様と推定される。678・679は底板のなかでも大型のもの。678は直径80cm弱、厚さ2.7cm。8枚の板を木釘と枘で組み継いで1枚の底板とする。679もほぼ678と同様のつくりで、直径75cm、厚さ3cm。6枚の板をやはり木釘で組み継いで1枚の底板とする。木釘は接合面1枚につき2カ所、さらに1カ所につき2本を並列して打ち込み、打ち込み場所が上から見るとちょうど直径20cm強の円を描いている。677は折敷の底板で、3分の1程欠失している。長さ19.5cm、厚さ0.5cm。底板の縁に沿って連続して側板との接合用の穿孔が並ぶ。樹種はヒノキである。

下駄（第81図653～655、図版49・52）

差歛下駄と述歛下駄がある。653・654は差歛下駄の台で、いずれも歯は残存しない。653は台の前後を欠失している。台は逆台形の舟底形。枘孔は2孔と考えられるが、明確ではない。654は部分欠失しするものの、台はほぼ完存する。平面の形状は小判形。台の幅7.5cm、長さ22cm、厚さ2cm。前壺は前歯の前方、横締穴は後歯の後方に2穴、いずれもやや傾斜して斜めに穿孔される。樹種はホオノキである。655は台と歯を1枚から切（削）りだす述歛下駄。台の形状は平面が小判形、断面は厚みがなくほぼ平坦形である。中央から左半分を欠失する。長さ23.8cm、厚さ1.9cm。前壺は前歯の前方に、横締穴は後歯の後方に垂直に穿孔する。歯は低いが前後とも残存している。2cm弱の高さで、厚さは2～3cm。樹種はスギである。

木臼（第84図680、図版51）

井戸に転用された木臼。A地区出土の木臼と同じ粗摺り用の木摺臼で、本例は上臼に該当する。やはり井戸に転用される過程で、軸受板や受部を除去し底抜け（大井抜け）にしている。臼の側面には縦掛け用の横に長い窓が対向して二面作り出される。摺臼は逆時計回りの放射状で二段分が残存する。樹種はA地区出土品と同じブナである。なお実測図は倒立状態。

部材（第82図656～665、図版50）

建築材や家具、道具などの材の一部、ないしは構成部品と考えられるが、目的製品が判別できず、かつ柱、杭を除く扁平な板状のものを部材として括した。殆どが長方形の板材であるが、正方形や台形の形状のものもある。このうち表面に結束痕が残る656・664・665は結桶の側板の可能性が高い。657～662・657～659は概ね長方形ないしは矩形の板で、657～659を除く他は、いずれも組み合わせた

り打ち付けた跡をしめす釘穴などが隨所に残る。663は表面に手斧痕を残すもので、平面は長方形で、断面は下端が先細る形状。用途は不明。

柱・杭 (第83図670~673・第85図681~684・第86図685~689・第87図690~694・第88図695~698, 図版48・51)

建築部材等の用途が想定され、かつ円筒状の形状をしたものを、柱・杭とした。大半が柱で、下端が削り出されて杭と考えられるのは672・673のみである。673は縦縫ぐための長方形の枘穴が1カ所ある。残りの柱類のうち682・691にも枘穴がみられる。698は下端に抉りが2カ所ある。材は殆どが芯持材であるが、682のみ原木半裁ないしは3分割と考えられる。樹種は682・684・694~696がクリ、670がスギ、681がヤマウルシ、671がモクセイ科に属する樹木、693がコナラ節に属する樹種、687が広葉樹の一種とされる。

C 地区

漆塗り製品 (第89図699~703, 図版52)

699~702は漆器の椀。699は半球形の体部に背の高い輪高台が付く。内外面とも赤色漆で、高台の内側のみ黒色漆で、その上から赤色漆で一文字書き込む。700は高台を欠失する。内外面とも黒色漆で、内面はさらに赤色漆で連続するV字文を点描風に描く。701は高台裏面全体が剥脱している。内外面とも黒色漆。702は足高高台の椀の底部で、外面は黒色漆、内面は赤色漆。これらの漆器椀の樹種は、いずれもブナである。703は漆塗りのしゃもじで、細長い長方形の柄に梢円形の身がつく。先端は欠失する。身の横断面は中央がやや窪む形状。身の内面は赤色漆。他は黒色漆だが、剥脱が著しい。柄は長さ11.6cm、幅1.7cm、厚さ1cm、身の幅約7cm、厚さ1cm。柄の根本に焦げ跡がみえる。樹種はホオノキである。

底板 (第89図704・第90図711)

曲物などの底板である。704は円盤状の底板の側縁である。折損したようにみえるが、断面から窺える木取りはこれだけで完結しているようにみえる。ただ厚さが1.9cmあり、桶の底板としては疑問も残る。711は小型の円盤状底板で、木取りは一枚板である。

下駄 (第89図705・706)

2点とも連歯下駄である。705はいくつかの破片から復元した。歯は比較的の残りが良いが、台はかなりの部分が欠損する。歯裏はかなり磨り減っているが、前後とも2~3cmの高さが残存する。706はちょうど下駄の中軸線に沿って半裁したように割れている。台の形状は小判形で、長さ20.8cm、厚さ1.3cmの数値を測る。前査は前歯の前方、横緒穴も後歯の前方に穿たれている。穿孔はほぼ直角になされている。歯は低く現状ではほとんど高さがない。樹種はスギとされる。

加工棒 (第89図707・709, 図版52)

707は長さ17.6cm、直径1.3cm。一端に円孔が穿たれている。709は長さ101cm、直径1.1cmの細長い形状で、下端を尖らせさらに円孔を穿つ。樹種はスギである。この加工棒は弥生時代の溝から出土している。

部材 (第89図708・第90図712, 図版52)

B地区と同様の定義のもの。708は形状は板で厚みがある。幅7.4cm、長さ47.8cm、厚さ2.4cm。712は長方形で、幅8.3cm、長さ16.4cm、厚さ4.1cm。中央に方形の枘穴が穿孔されている。樹種はスギである。

紡錘車状木製品（第90図710）

紡錘車状の小型円盤で、中央に小孔が穿孔されている。直径4.6cm、厚さ1.6cm。樹種は当遺跡ではめずらしいヒノキである。

栓状木製品（第90図713）

一見「T」字形のボルトのような形状。中心軸に沿って半裁折損した可能性もある。長さ8.4cm、頭部の幅2.5cm、柄の幅1.5cm、厚さ1cm。樹種はスギである。

鍬（第90図714、図版52）

弥生時代の曲柄鍬で、柄を装着する軸部側の半分が残存する。軸部には北陸地方で特徴的な長方形の枘孔を有するが、ナスピ形を呈する笠部が破損しているため、形状が突起をなすかどうか判然としない。刃部は大半が破損しているため、平鍬となるか又鍬となるか判断できない。が、刃部の両端が平行して長くのびるようにみうけられ、平鍬の可能性の方が高く思える。いずれにせよ今回の調査で弥生時代の木製農具の明確な出土は本例だけである。なおこの鍬はコナラ節に属する樹種で、具体的にはカシワ、ミズナラ、コナラなどの原本が考えられる。

杭（第90図715～717）

下端が先細りに手斧等で削り出されているため、杭とした。いずれも芯持ち材が使われている。715・717については節目が顯著にみられる。

(3) 金属製品

金属製品で最も多いのが釘・鎚の類で、他にキセルの柄管、箸、蹄鉄、鉛玉、鉄滓などの出土がみられる。以下に簡単に概説しておく。

釘（第91図801・802・805～807）

801・802が丸釘、805～807が角釘である。丸釘のうち801は断面が角釘と同じ方形を呈し、頭のみが丸頭となる。頭にさらに飾金具等が付けられたのである。805～807は頭が「L」字に折り曲げられて作られた角釘、いわゆる和釘である。このうち806は釘を打ち付けた対象の木質部が残存する。また807は先端が内側に折れ曲がっている。

鎚（第91図803・804・808）

803・804は両端を「コ」の字状に折り曲げた鎚である。鎚は鉄製木工具の一つで、木材と木材を緊着させるためのもの。803・804はその形状が鎚に一致するが、808は一端が他端に対して90度横方向に捻れており、鎚としては特殊な形状である。

箸（第91図809）

鉄製の箸である。金属製の箸は調理用の真魚箸などに使われるが、本例の場合は最近あまり見かけなくなったが火箸の類であろう。

鉛玉（第91図810）

球形の鉛の玉で、火縄銃用のものと考えられる。

煙管（第91図811）

キセルの首部である。板を折り曲げて径1cmの円筒をつくり、先端を90度上向きに屈曲させる。但し火皿の部分は残存しない。

蹄鉄（第91図812）

馬のひづめを保護するための蹄鉄である。本来は馬蹄形を呈するが、鉄頭と鉄側の片方側を欠失する。平面の形状が円形に近いことから前肢用と推定される。蹄鉄を装着するための釘穴が5個穿たれ

ている。日本の伝統的な装飾は馬鹿が主流で、本格的な洋式踏鉄の普及は明治以降の陸軍においてのことである。本例についても近代以降の踏鉄と考えることができる。

環状鉄製品（第91図813）

「C」字状に折り曲げられた、扁平な環状の鉄製品。把手の類とも考えられる。断面の形状は長方形を呈する。

鉄滓（第91図814）

製鉄に伴うスラグが出土している。814は大型のいわゆる槌形滓。但し本遺跡においては製鉄関連の遺構は検出されておらず、この槌形滓の帰属時期もはっきりとしない。

(4) 石製品

本遺跡出土の石製品としては硯・砥石・右臼・石鉢・加工痕のある石材などがある。

硯（第91図901～905）

いずれも長方硯の形態である。完存するものではなく、すべて損壊・破棄されたものである。形状をある程度窺える903～905は、いずれも裏面は平坦で削り出しを施さず、側面は垂直に立ち上がる。このうち硯頭側が残る904では、やや幅のある硯頭部の縁帯から海を直角に削り出している。硯尻側が残存する903・905については、陸の中央部分が稍円形に窪み、使用痕を残す。材質は901・903が凝灰質泥岩、902が凝灰岩、904・905が粘板岩である。

砥石（第91図906～910・第92図915、図版53）

幅3～4cm、長さ10cm内外まで、厚さ1～3cmの中・小型のものが多い。形状は台形ないしは長方形基調である。石材は909が凝灰質砂岩、他は凝灰岩である。用途は不明だが、凝灰岩が多く仕上げ砥石の類が多いものと考えられる。

右臼（第92図911～914、図版53）

主として粉挽きに用いるいわゆる粉挽き臼である。完存するのはSE30から出土した911のみで、これは上臼（雌臼）である。直径32cmの車輪形を呈す。最大厚12cm、最小厚7cmを測り、度重なる使用により明らかに片減りしている。それでも摺り合わせ部の溝が明確に残存することから、目立てしながら大事に使用されたと考えられる。上臼の上面は一段窪んでおり、中軸よりややはざれた位置に「ものいれ」と呼ばれる円孔（供給口）が穿たれる。側面には挽き木を打ち込むための長方形の孔が穿たれており、いわゆる横打ち込み式の石臼と知れる。この手の石臼は近畿圏に多いというが、その他の地域にも広く分布する。本例には2孔の打ち込み孔がみられる。手まわしの場合本来孔は1カ所でいいはずである。2孔のうちの1孔は片減りして薄くなつた側に窪みとして残されているだけで、明らかに使用することができない。従って当初1孔であったのが使用不能になって、新たに反対側に1孔あけた結果、2孔となったものと解釈できる。摺り合わせ側の中心軸の芯棒受けは、直径3.5cm、深さ2cmが残存する。臼目のパターンはやや均等に欠くものの、基本的に上溝8本の八分画で標準型、剛溝は5～7本で、目の切り合いから逆まわし臼と考えられる。摺り合わせ面には普通貫通した「ものいれ」から続く「ものくばり」が回転方向とは逆方向にみられるが、本例の場合は磨り減って凹弧を描くかすれた跡となっている。材質は凝灰岩。912～914も右臼（雄臼）と考えられる。残存する日は、かなりすれている。913は全体が著しく摩滅している。両例とも破棄時に魂ぬきしたためか、中央から半裁したような削れ方をしている。材質は912が不明、913は凝灰角砾岩。914は小破片だが、上臼の口縁部と考えられる。石材は凝灰岩。

その他の石製品（第92図916～922、図版53）

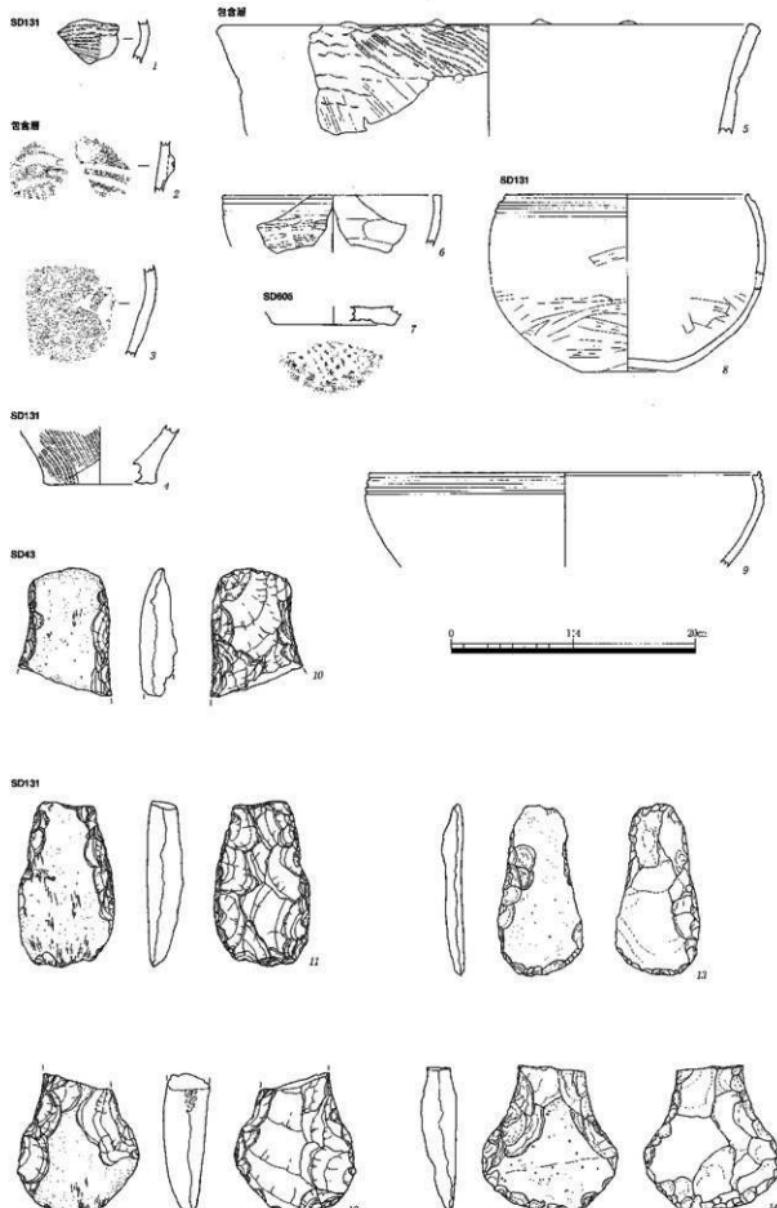
916は箱状を呈するもので、底部の四辺（残存しているのは二辺分）に低い脚部が削り出されている。側面は逆台形状で、上辺が13.5cm、脚の付く下辺が12cm、高さ6.2cm、厚さ1.8cm。石材は濃飛流紋岩である。917は石鉢の底部破片。円形鍋底状の形態で、おそらく口縁部に片口が付く。石材は千枚岩。918～922は加工痕のある石材で、いずれも破片のため用途を推定し得ない。石材は920が凝灰質砂岩、他は凝灰岩である。

(森 隆)

参考文献

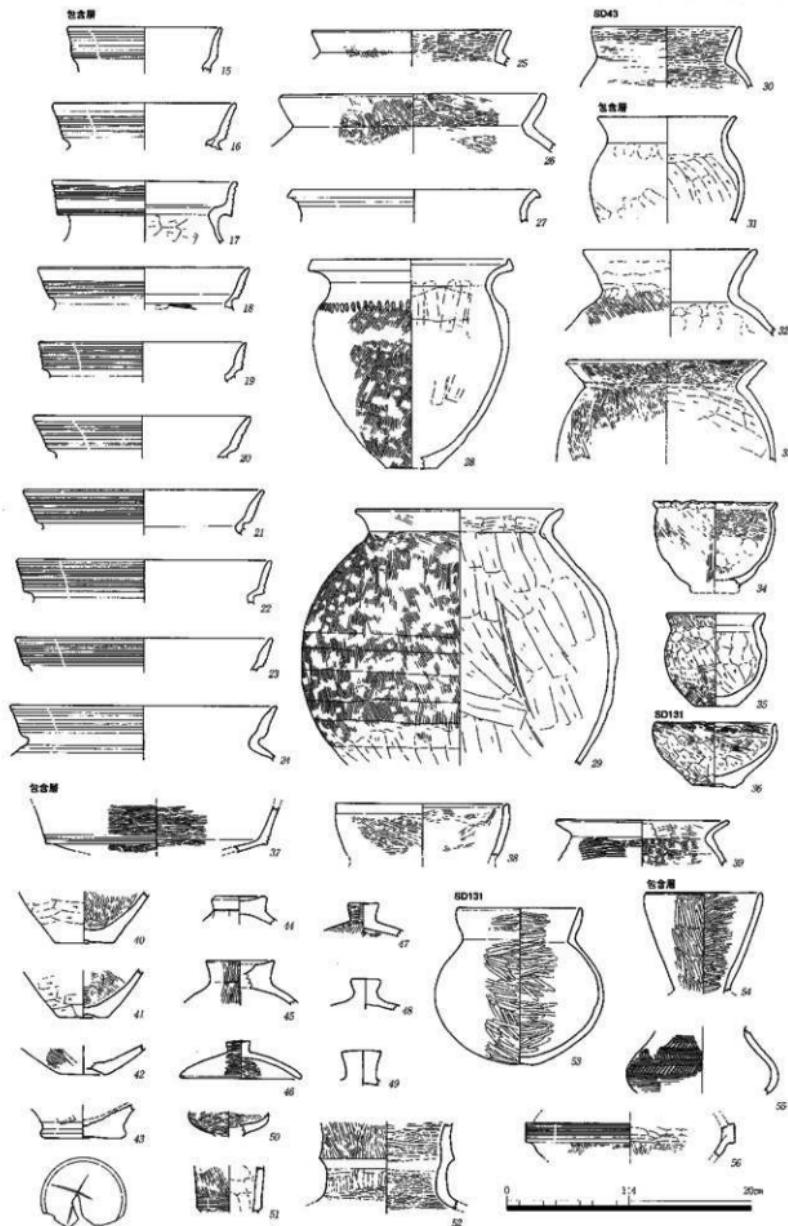
- 市川秀之 1987 「西ノ辻跡出土の中世木器」「神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要・IV」 大阪府教育委員会
 一色八郎 1990 「箸の文化史」 お茶の水書房
 井上義久男 1992 「延暦陶磁」 ニュー・サイエンス社
 岩田隆 1985 「中世遺跡出土の下駄」「羽倉氏遺跡資料集紀要」
 大橋康二・西田宏子監修 1988 「別冊太陽 古伊万里」 63 平凡社
 大崎康二 1989 「肥前陶磁」 ニュー・サイエンス社
 小川啓司 1974 「そば猪口駄病事典」 光雲出版
 北九州市教育委員会 1993 「京町遺跡 北九州市文化財調査報告書」 第59集
 九州近世陶磁学会編 2000 「九州陶磁の編年」
 財團法人富山県文化振興財團 1996 「柳原胡摩立遺跡発掘調査報告（遺物編）」
 清田鉄雄 1973 「ものと人間の文化史 はきもの」 8 法政大学出版会
 鈴木康之 2002 「日本中世における桶・樽の展開—納物の出現と拡散を中心に—」『考古学研究』第48巻第1号
 高橋幹夫 1994 「江戸の暮らし図鑑」 美容書房出版
 多治見市教育委員会 1993 「美濃窯の焼物」「多治見の古窯」第3号
 東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会 1992 「東京都新宿区・内藤町遺跡（第II分冊遺物編）」
 奈良国立文化財研究所 1985 「木器集成図録—近畿・古代篇—」
 水野和雄 1985 「日本模考—出土品を中心として—」『考古学雑誌』第70巻第4号
 宮山進・1998 「越中瀬戸の成立と展開」「情報と物流の日本史」 地方史研究協議会編 雄山閣
 三輪茂雄 1978 「ものと人間の文化史 白」 25 法政大学出版会
 向井由紀子・鈴木慶子 2001 「ものと人間の文化史 箱」 102 法政大学出版会
 濑畠西 1999 「北陸の木製農耕具集成(1)」「富山考古学研究」紀要第2号 財團法人富山県文化振興財團
 古泉弘 1979 「江戸の出土下駄」「物質文化」32
 北陸中世土器研究会編 1997 「考古学が語る社会史—中・近世の北陸—」 佐古書房
 吉岡康裕 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館

3 遺 物



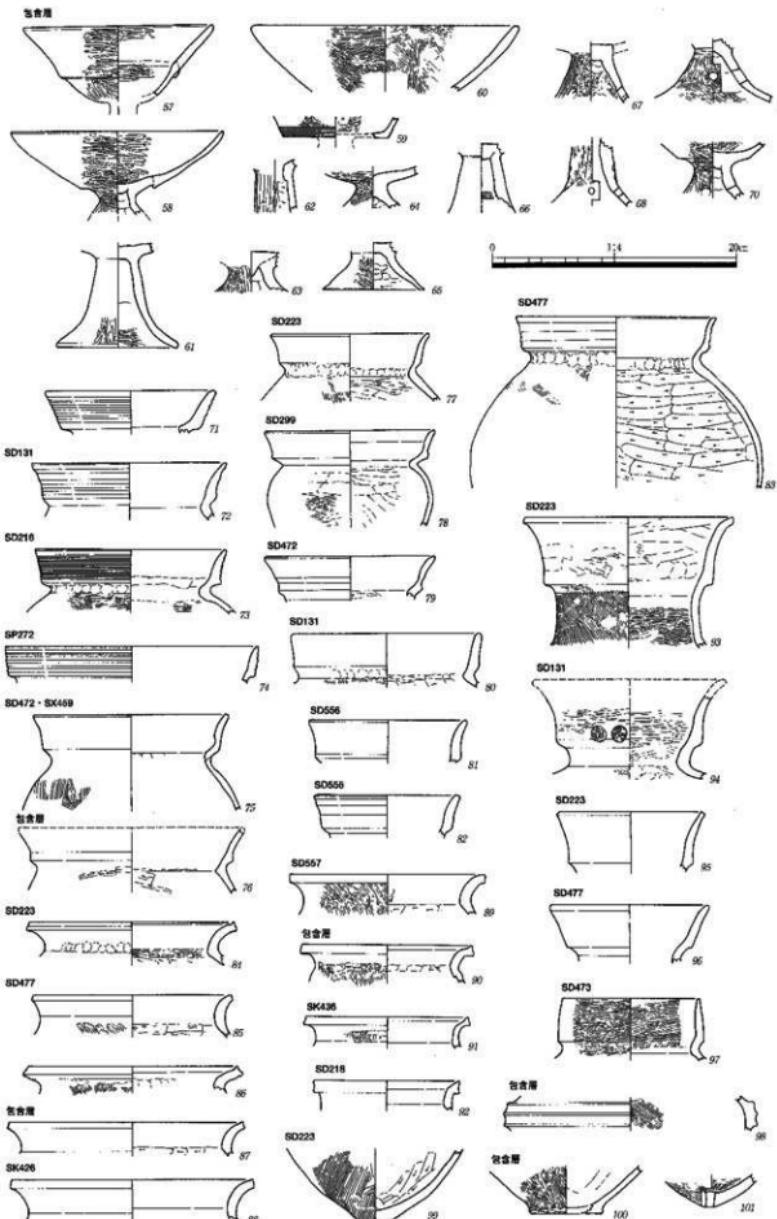
第56図 江尻遺跡 A~C 地区 遺物実測図 (1/4)

SD43(10) SD131(1・4・8・9・11~14) SD605(?) 包含層(2・3・5・6)



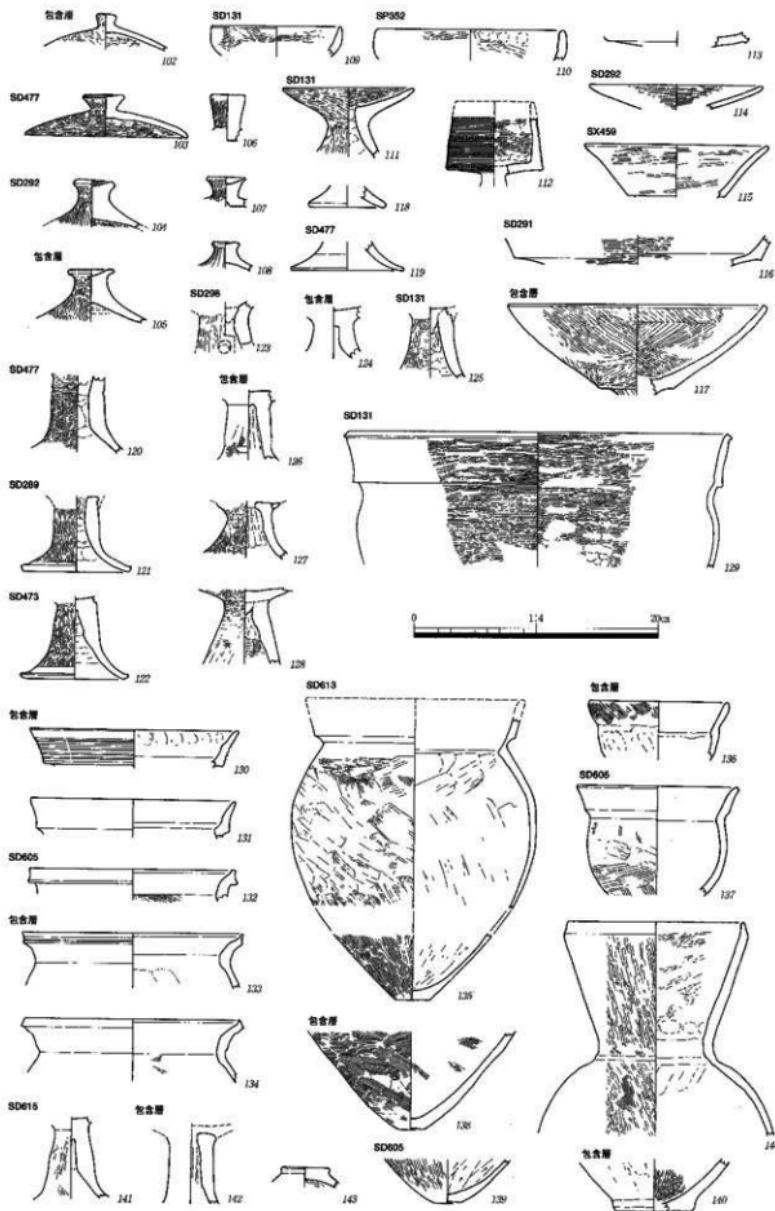
第57図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/4)

SD43(30) SD131(36・53) 包含層(15~29・31~35・37~52・54~56)



第58図 江尻遺跡 A・B地区 遺物実測図 (1/4)

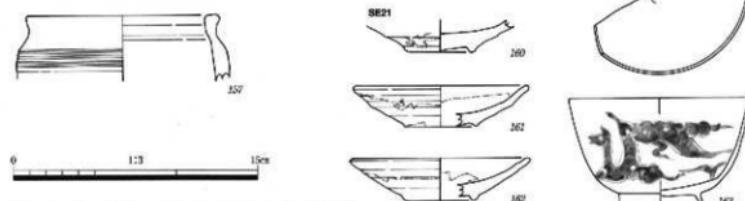
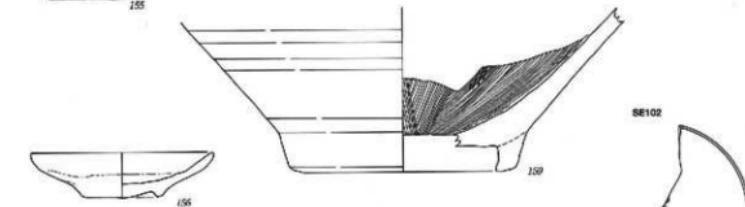
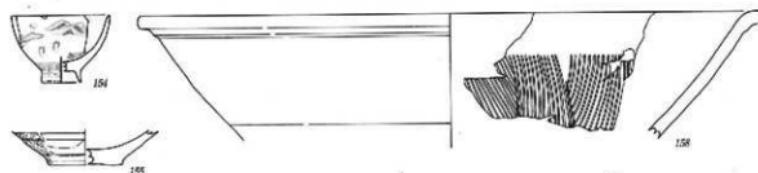
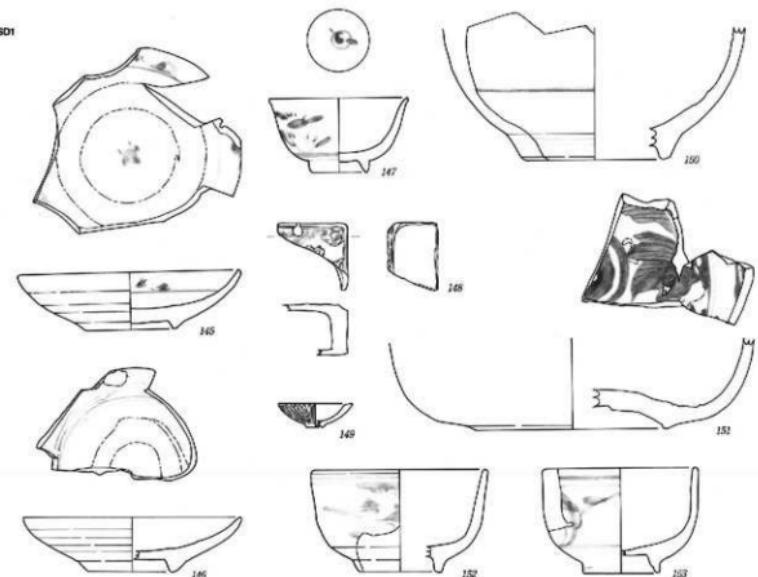
SP272(74) SK426(88) SK436(91) SD131(72・80・94) SD218(73・92) SD223(77・84・93・95・99) SD299(78)
SD472(79) SD472・SX459(75) SD473(97) SD477(83・85・86・96) SD555(82) SD556(81) SD557(89) 包含層
(57~71・76・87・90・98・100・101)



第59図 江尻遺跡 B・C地区 遺物実測図 (1/4)

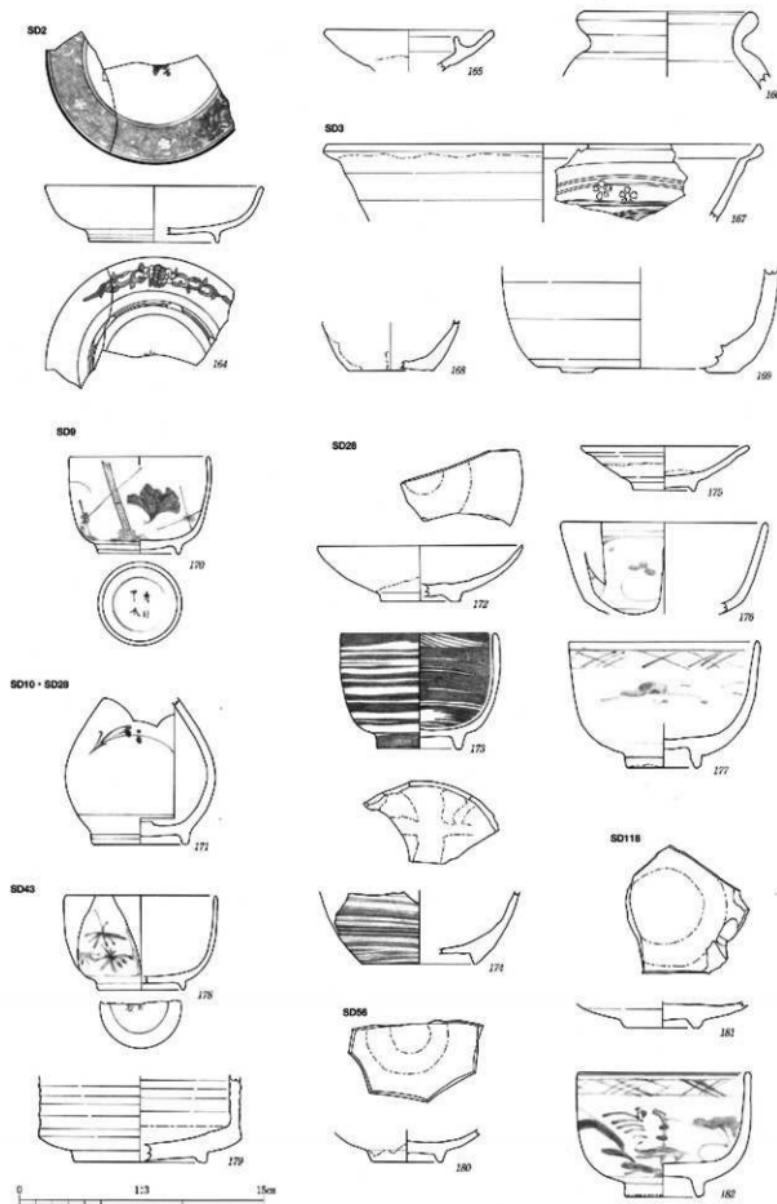
SP352(110) SD131(109·111~113·125·129) SD289(121) SD291(121) SD292(104·114) SD296(123)
SD473(122) SD477(103·119·120) SD605(132·137·139) SD613(135) SD615(141) SX459(115)
包含層(102·105~108·117·118·124·126~128·130·131·133·134·136·138·140·142~144)

SD1



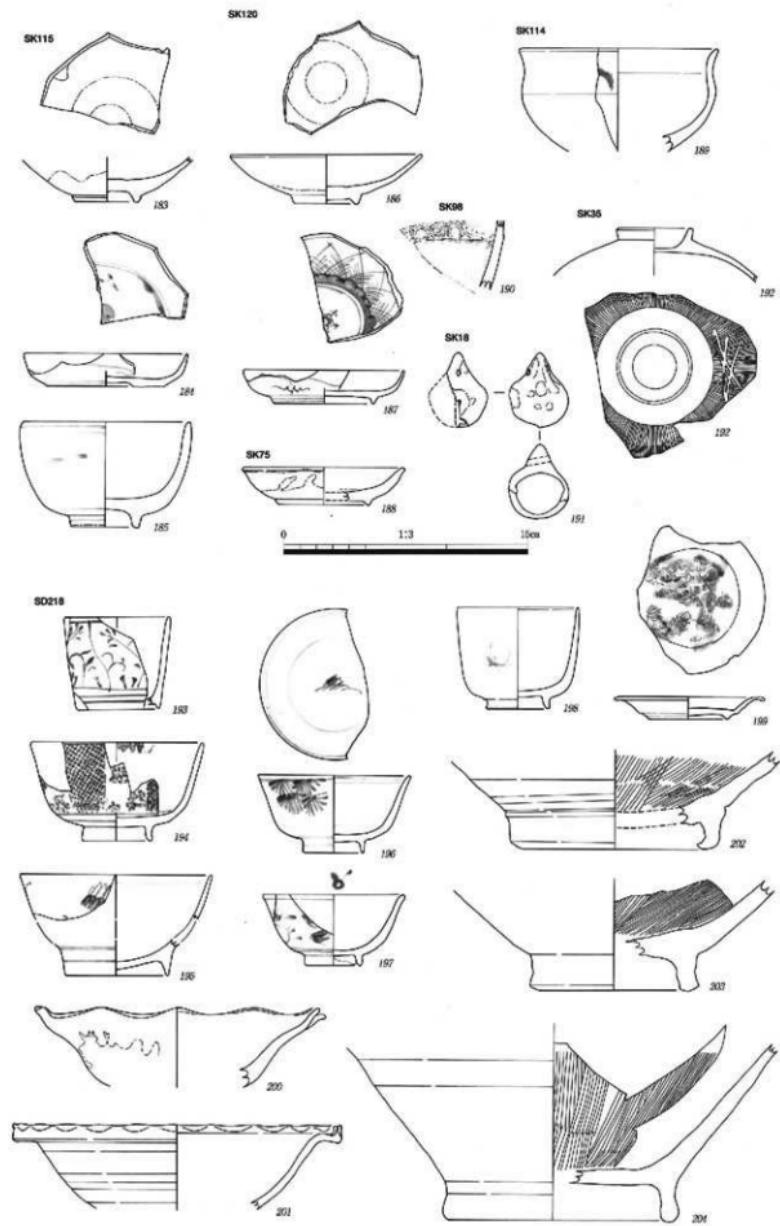
第60図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/3)

SE21(160~162) SE102(163) SD1(145~159)



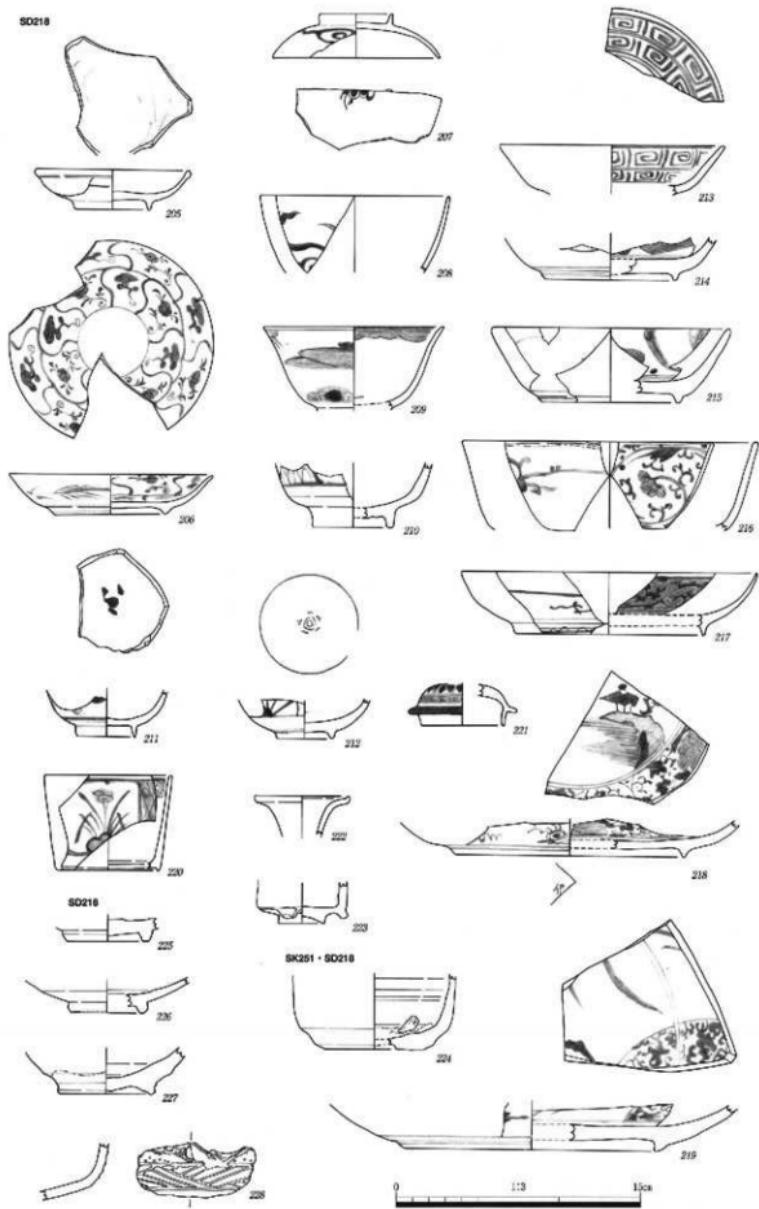
第61図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/3)

SD2(164~166) SD3(167~169) SD9(170) SD10・SD28(171) SD28(172~177) SD43(178・179) SD36(180)
SD118(181・182)

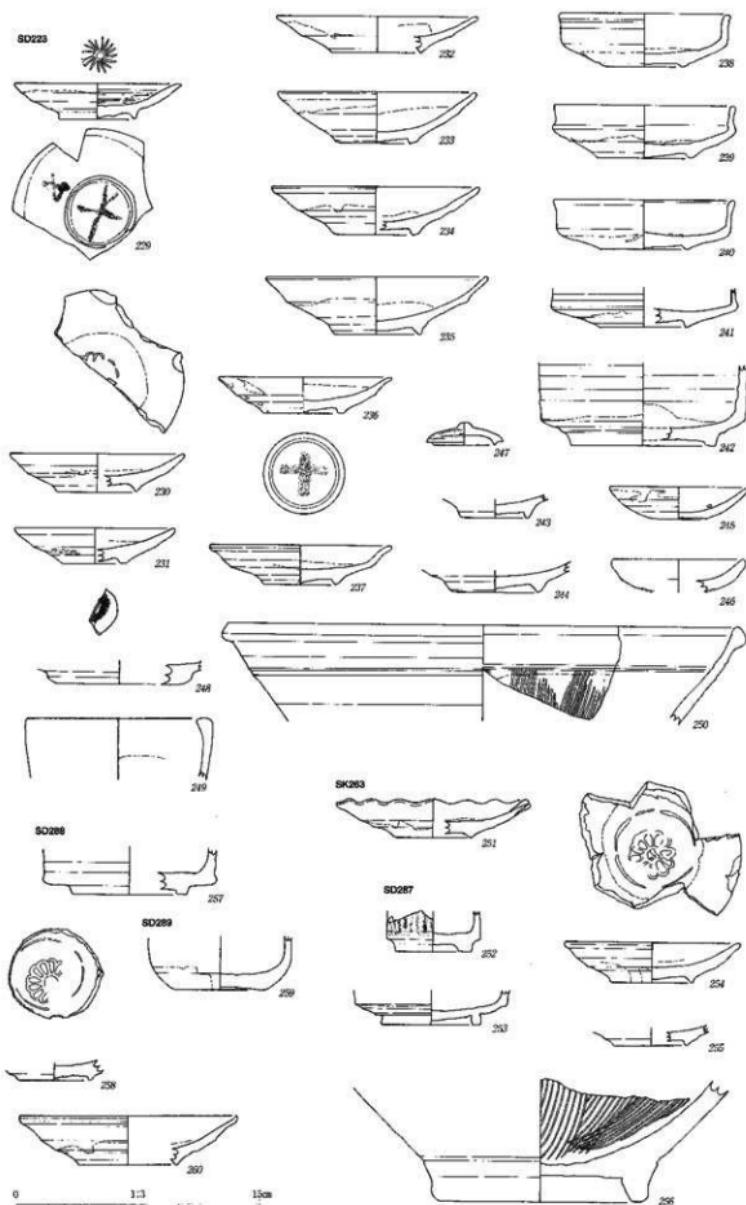


第62図 江戸遺跡 A・B 1地区 遺物実測図 (1/3)

SK18(191) SK35(192) SK75(188) SK98(190) SK114(189) SK115(183~185)
SK120(186·187) SD218(193~204)

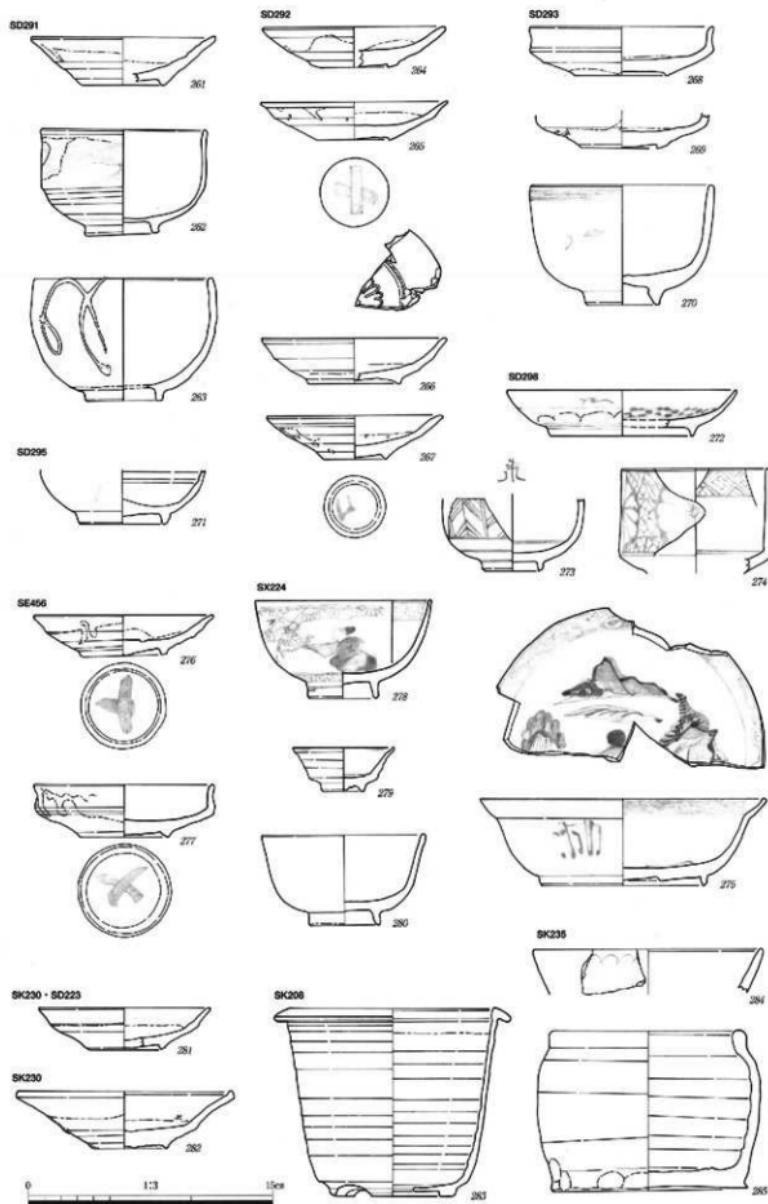


第63図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 (1/3)
SK251・SD218(224) SD218(205~223・225~228)



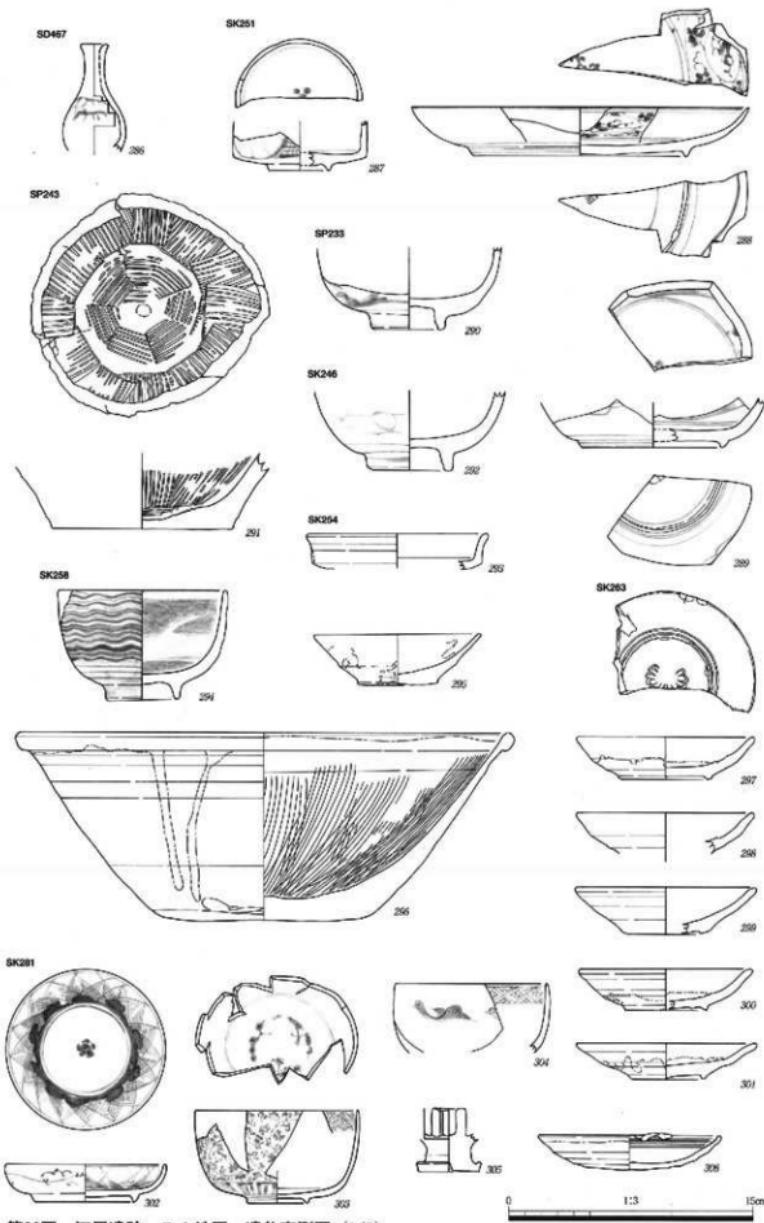
第64図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 (1/3)

SK263(251) SD223(229~250) SD287(252~256) SD288(257~258) SD289(259·260)



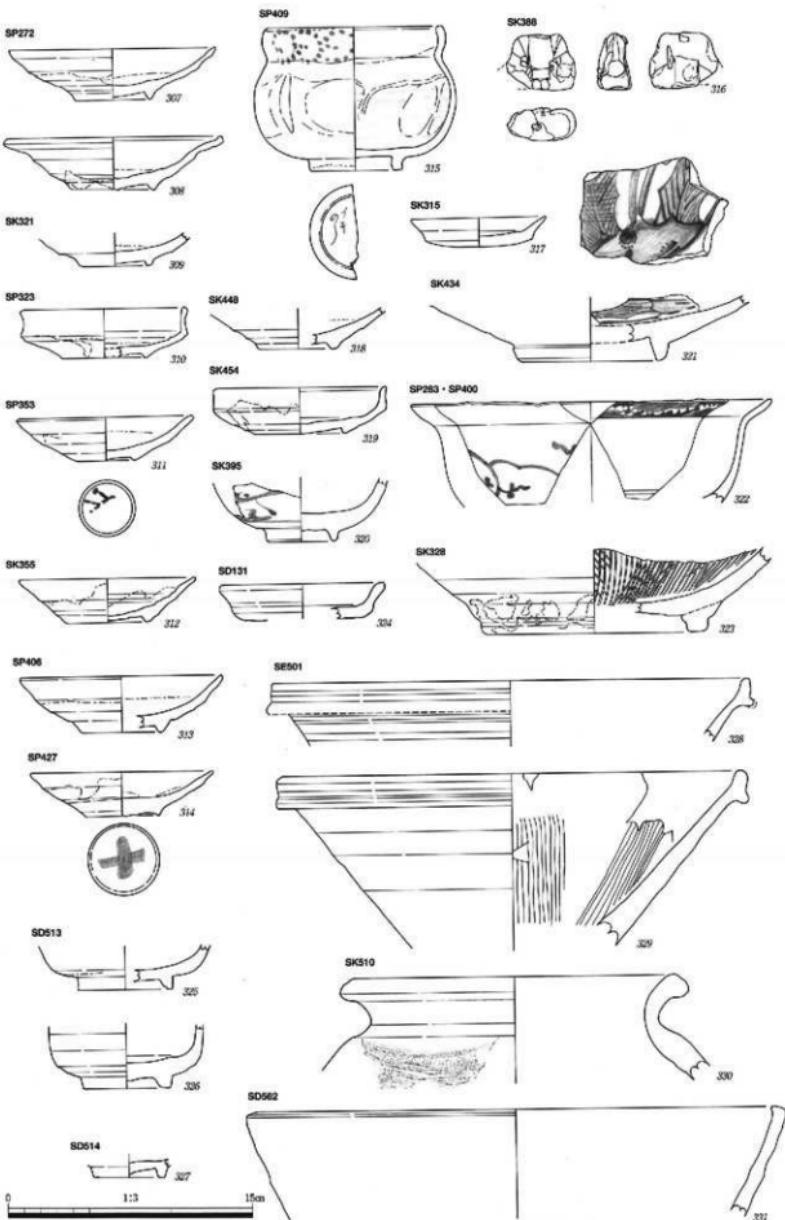
第65図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 (1/3)

SE456(276・277) SK208(283) SK230・SD223(281) SK230(282) SK235(284・285) SD291(261～263)
SD292(264～267) SD293(268～270) SD295(271) SD296(272～275) SX224(278～280)



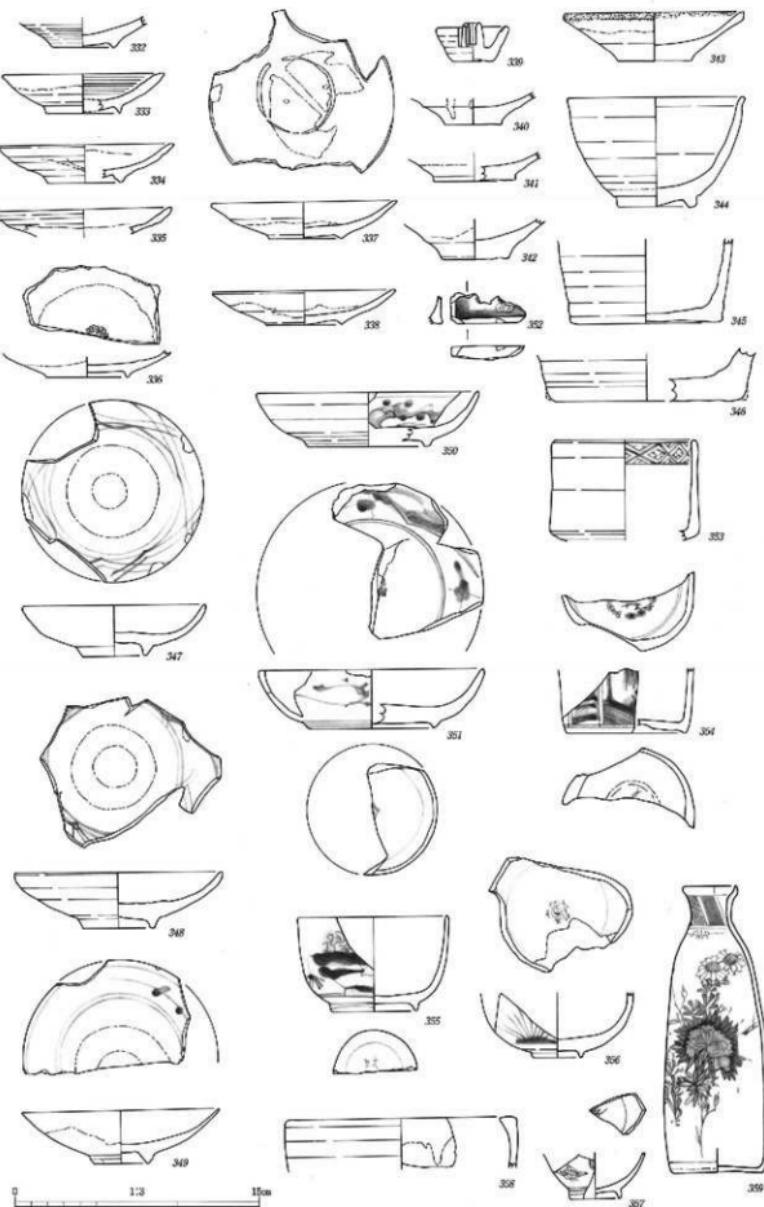
第66図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 (1/3)

SP233(290) SP243(291) SK246(292) SK251(287~289) SK254(293) SK258(294~296)
SK263(297~301) SK281(302~306) SD467(286)

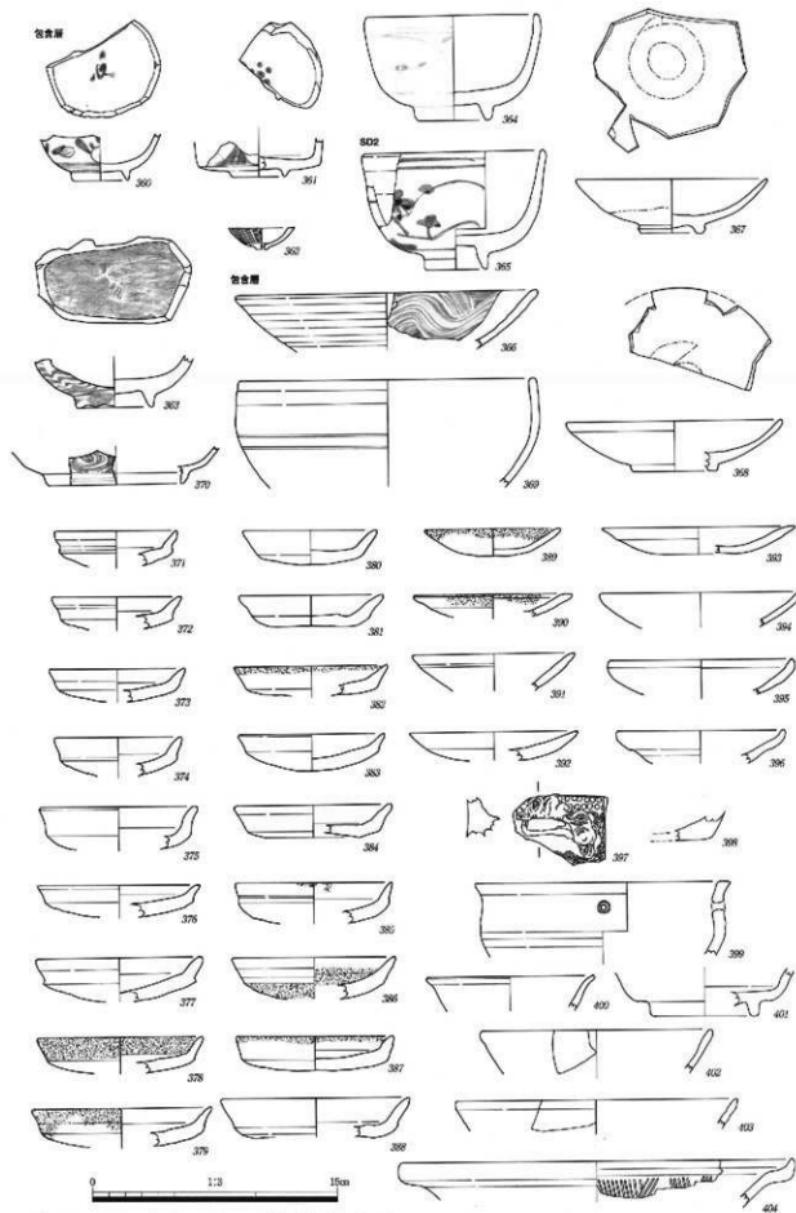


第67図 江尻遺跡 B地区 遺物実測図 (1/3)

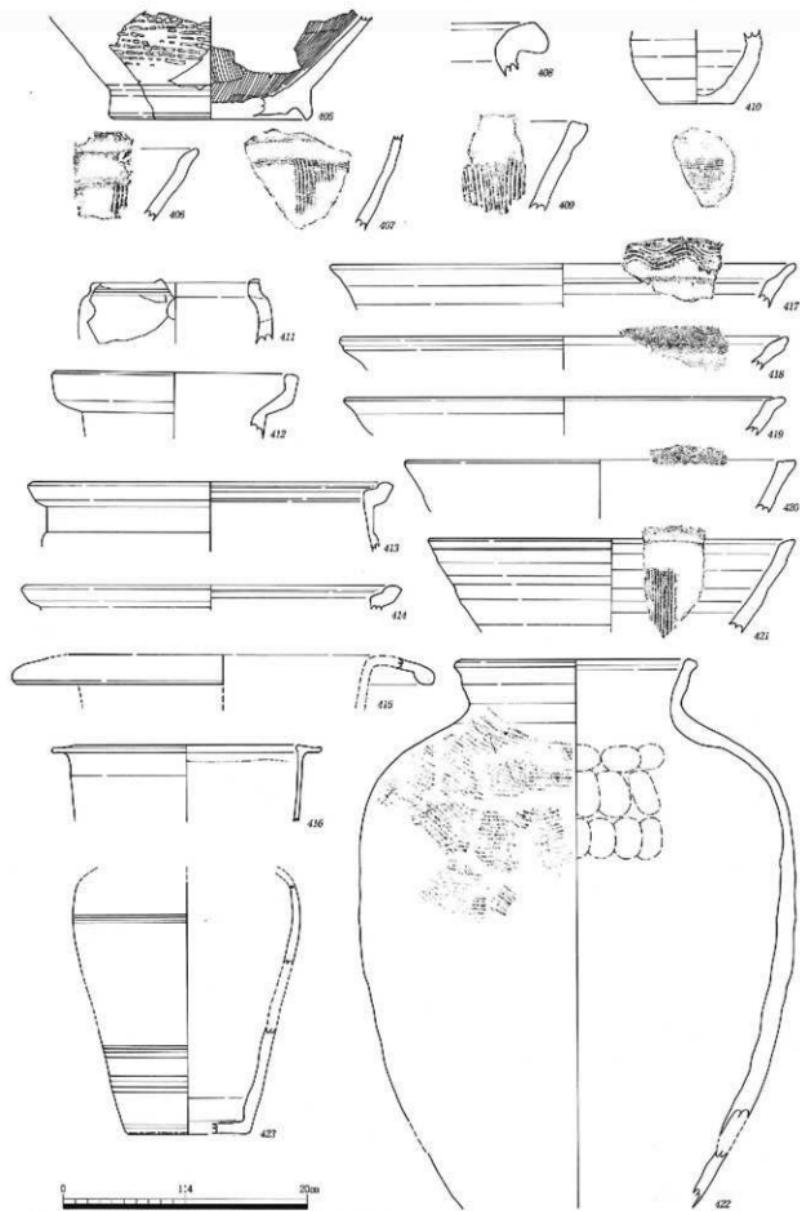
SE501(328・329) SP272(307・308) SP283・SP400(322) SP223(310) SP353(311)
 SP406(313) SP409(315) SP427(314) SK315(317) SK321(309) SK328(327)
 SK355(312) SK388(316) SK395(320) SK434(321) SK448(318) SK454(319)
 SK510(330) SD131(324) SD513(325・326) SD514(327) SD562(331)



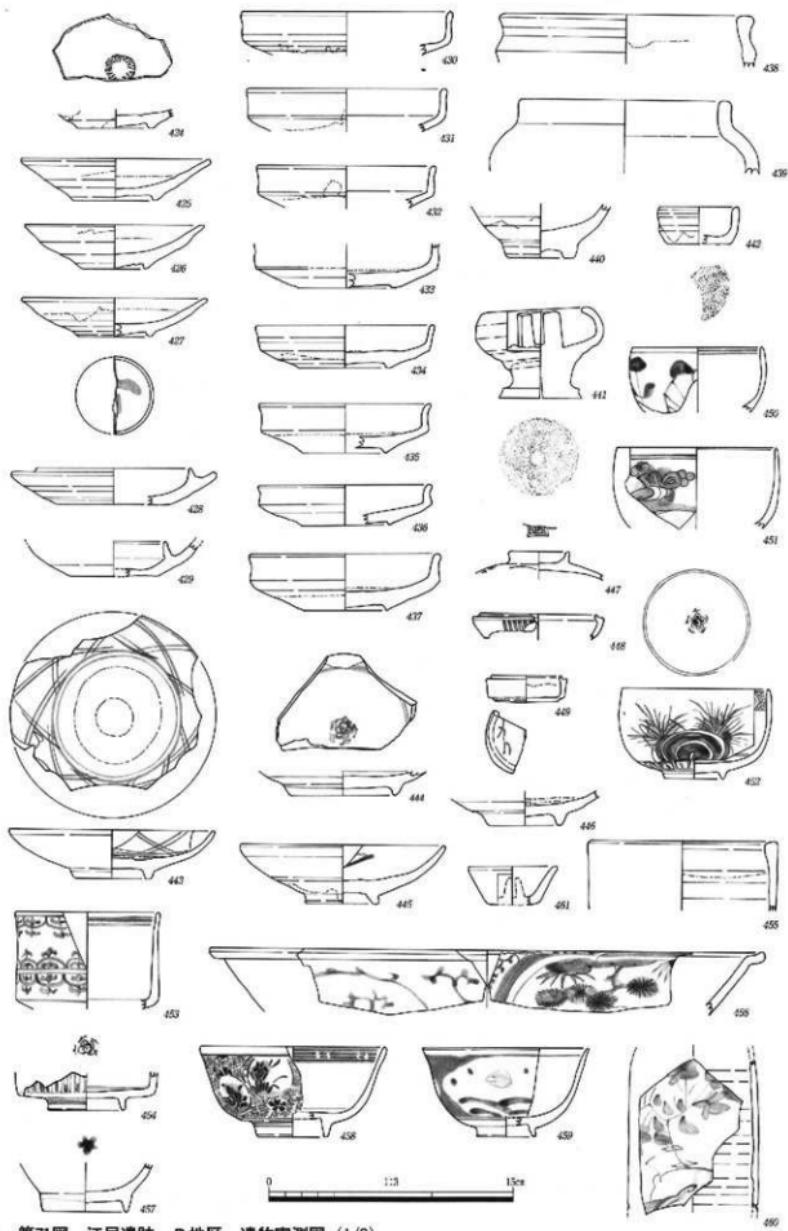
第68図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/3)
包含層



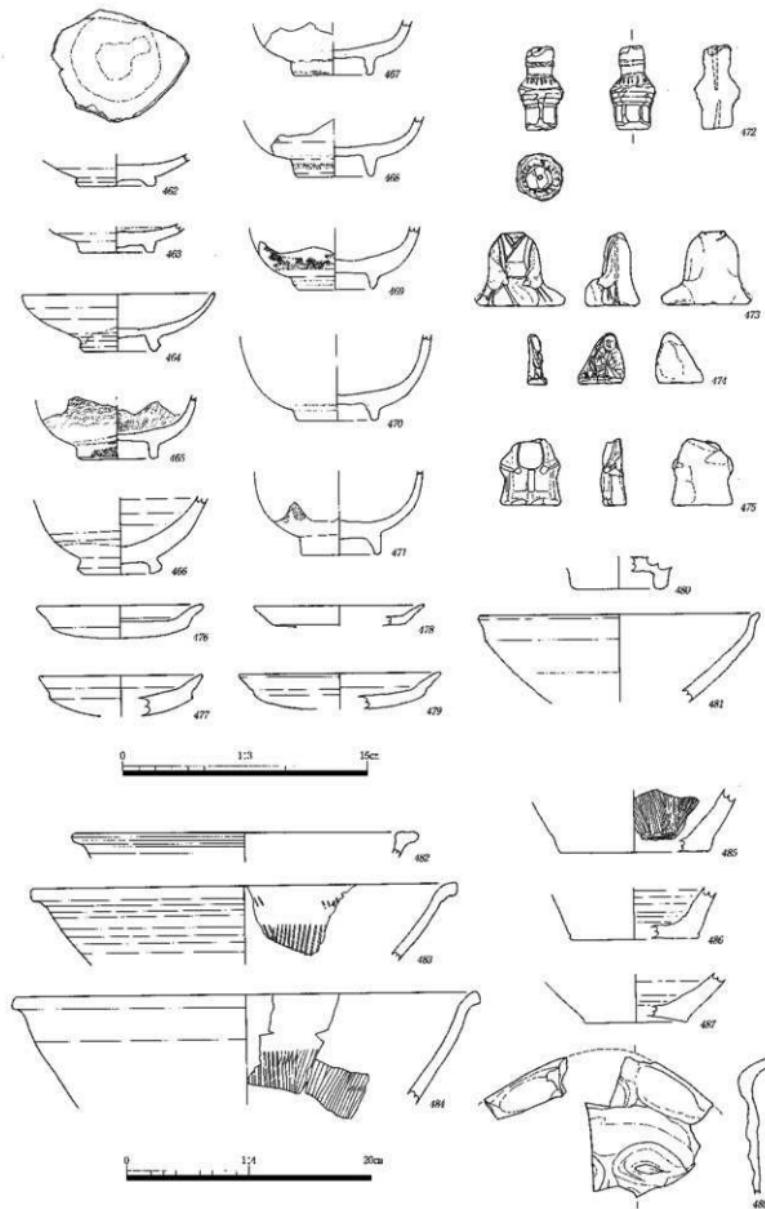
第69図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/3)
SD 2 (365) 包含層 (360~364・366~404)



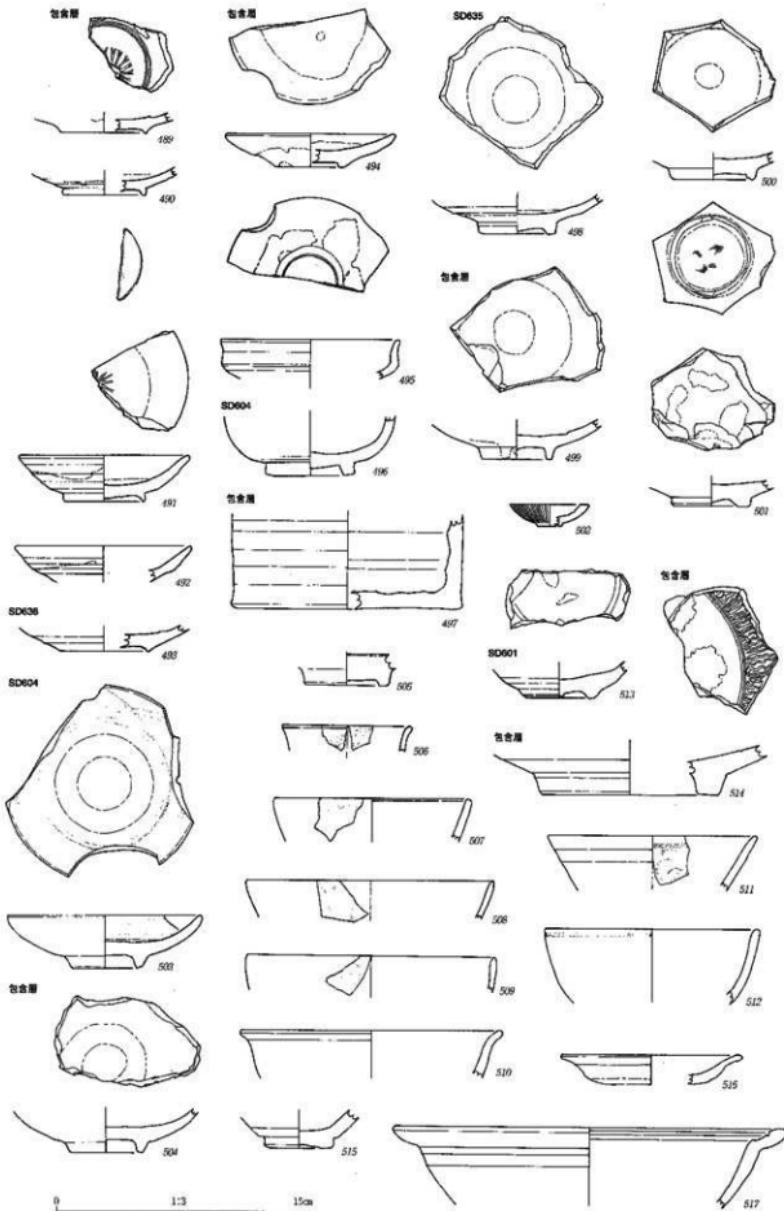
第70図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 (1/4)
包含層



第71図 江尻遺跡 B地区 遺物実測図 (1/3)
包含層

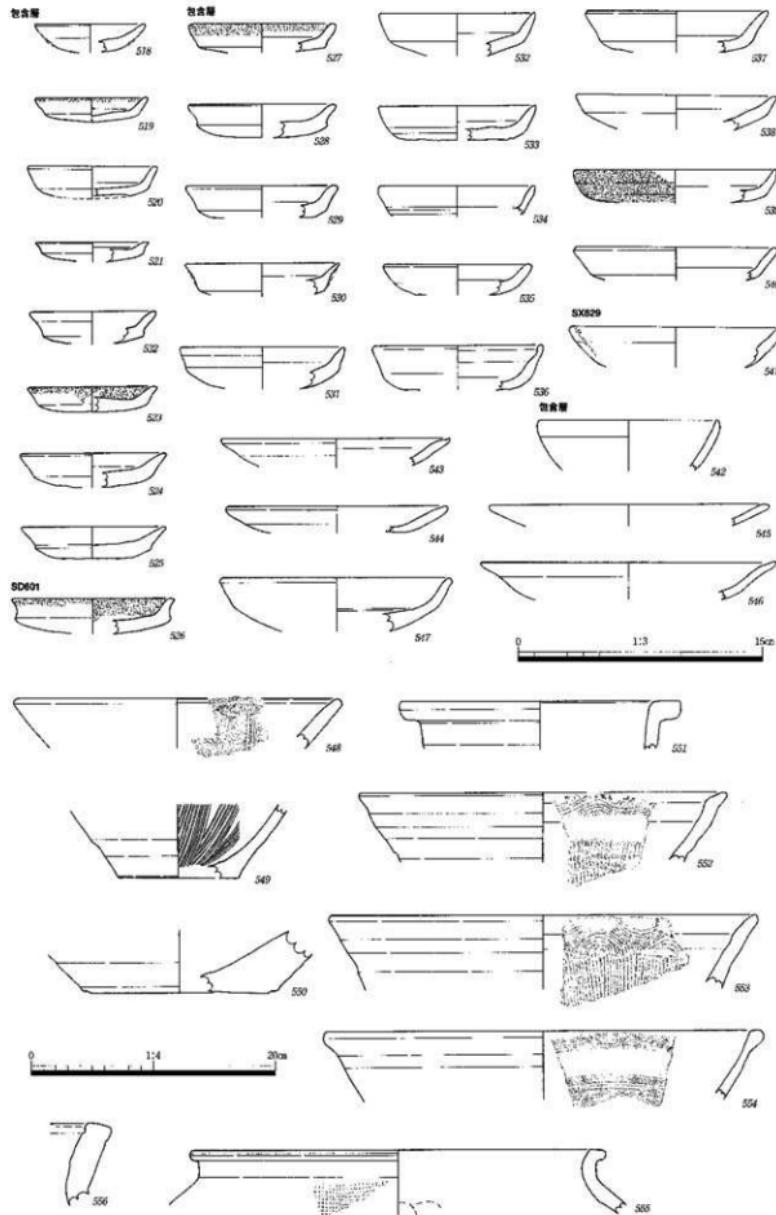


第72図 江尻遺跡 B地区 遺物実測図 (462~481 1/3, 482~488 1/4)
包含層

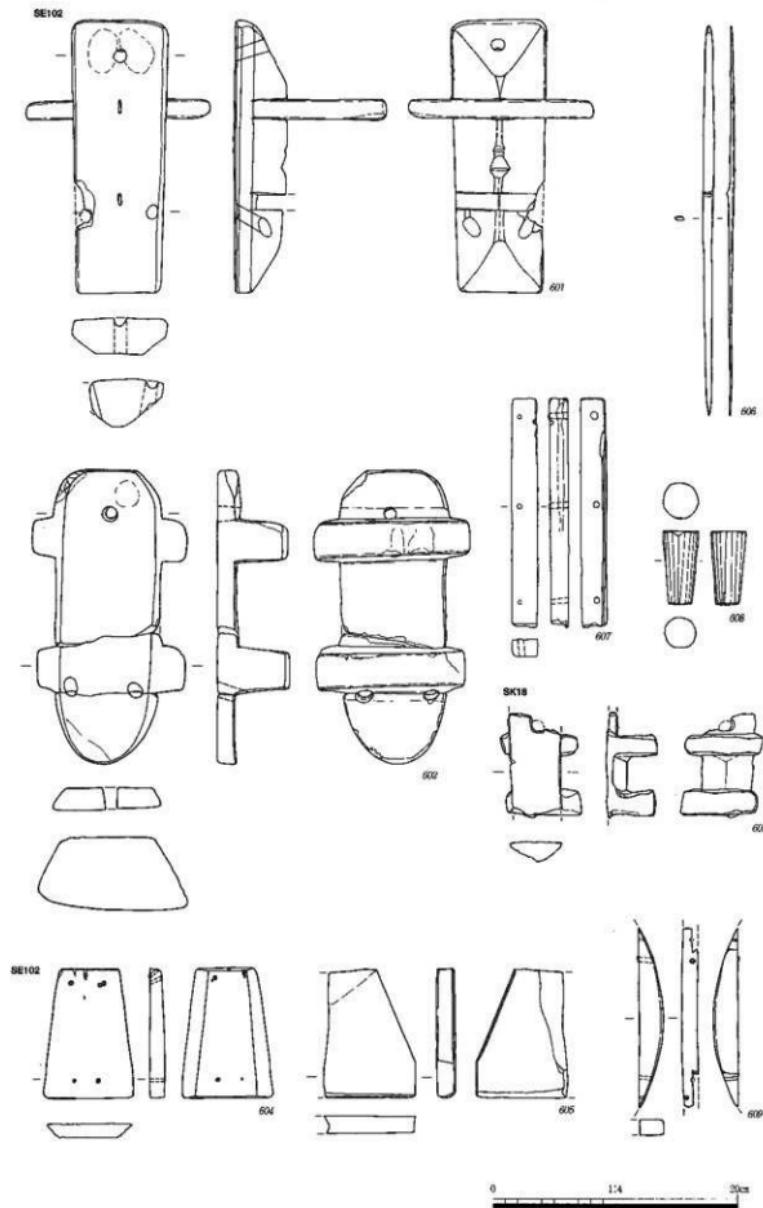


第73図 江尻遺跡 C地区 遺物実測図 (1/3)

SD601(513) SD604(496・503) SD635(498) SD636(493) 包含縫(489～492・494・495・497・499～502・504～512・514～517)



第74図 江尻遺跡 C地区 遺物実測図 (518~547 1/3, 548~556 1/4)
SD601(526) SX629(541) 包含層(518~525・527~540・542~556)



第75図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (1/4)
SE102(601・602・604~609) SK18(603)

3 遺 物

SE102



SD28

611

612

SE102

613

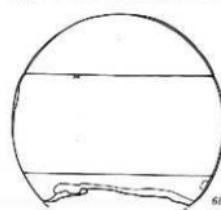
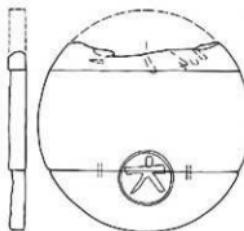
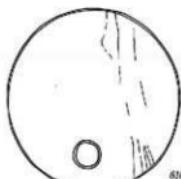
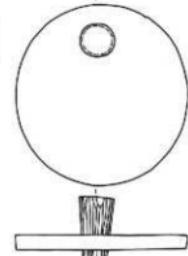
SE102

614

SD27

613

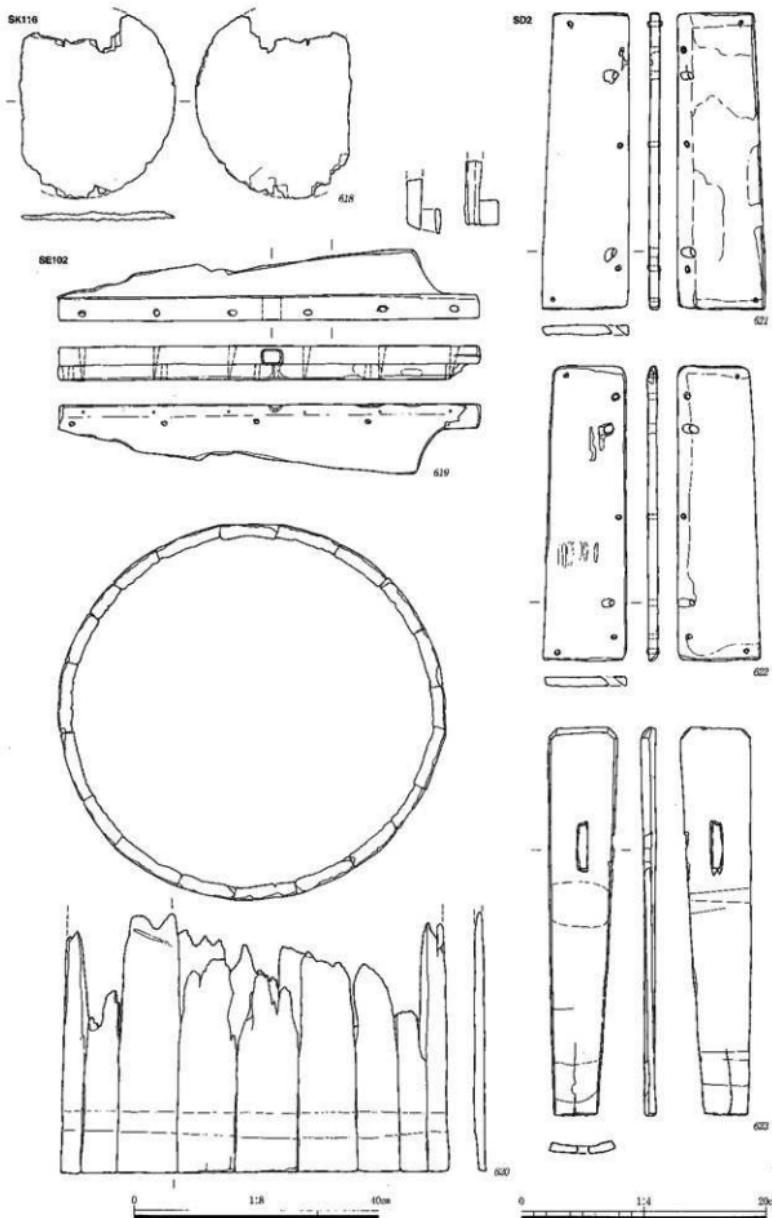
614



0 1/8 1/2 cm

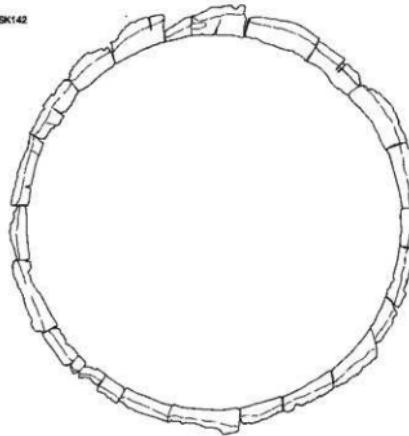
0 1/4 1/2 cm

第76図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (610~614・616~617 1/4, 615 1/8)
SE102(610・612・614~617) SD27(613) SD28(611)

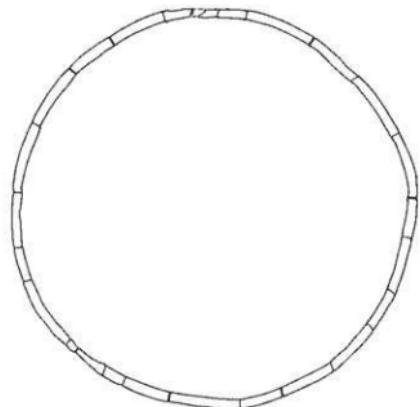
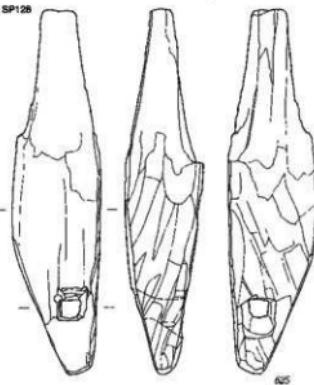


第77図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (618・619・621~623 1/4, 620 1/8)
SE102(619・620) SK116(618) SD2(621~623)

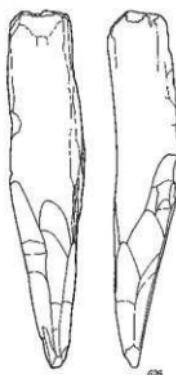
SK142



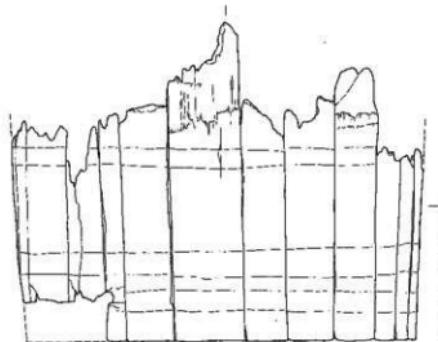
SP128



SP55



624

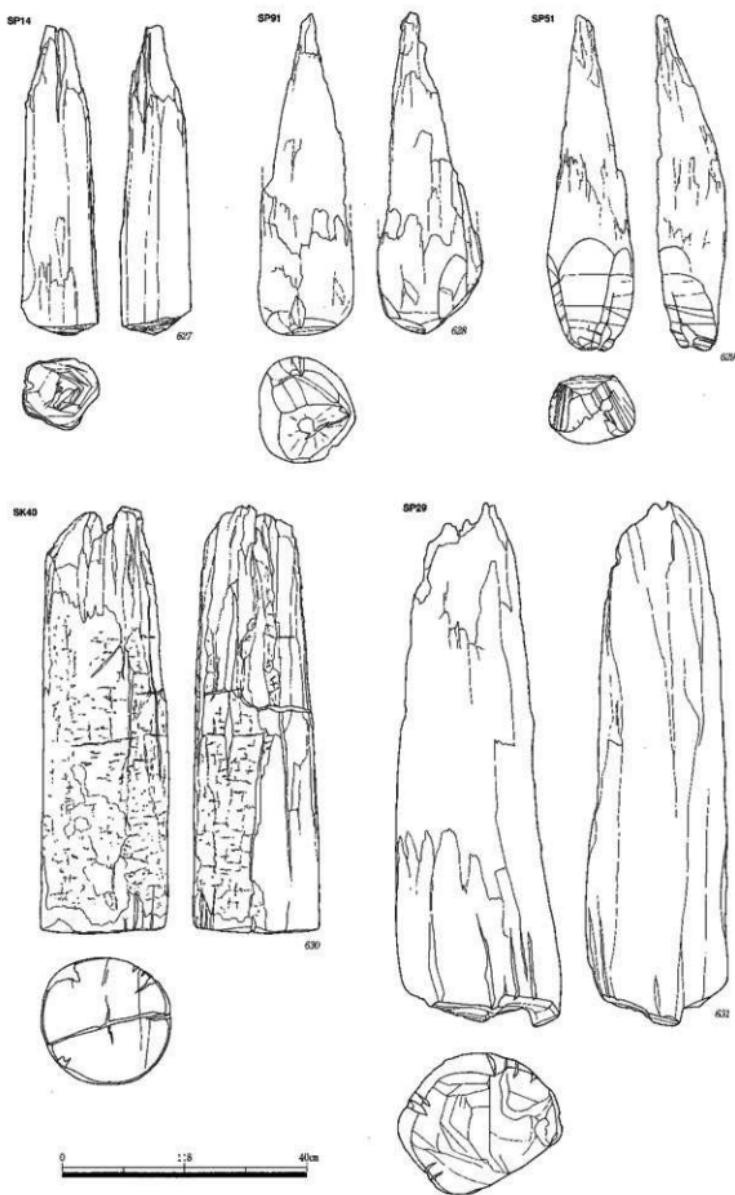


0 1:4 20cm

0 1:8 40cm

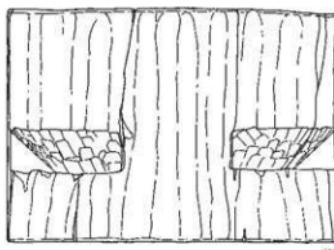
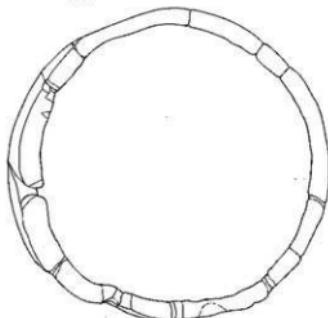


第78図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (625・626 1/4, 624 1/8)
SP55(626) SP128(625) SK142(624)

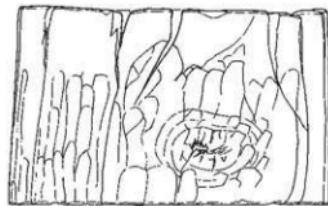


第79図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SP14(627) SP29(631) SP51(629) SP91(628) SK40(630)

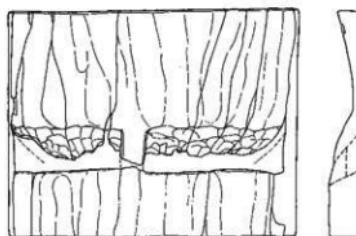
SE21



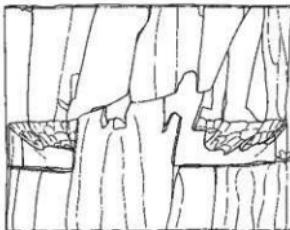
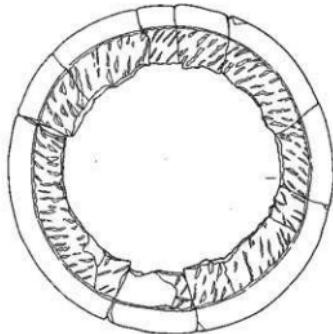
631



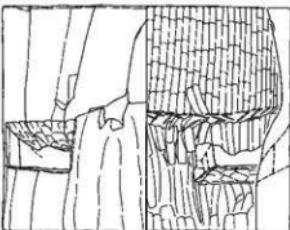
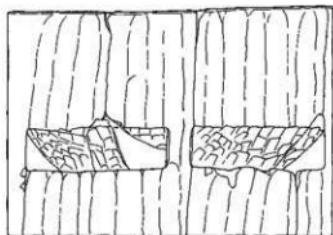
632



633



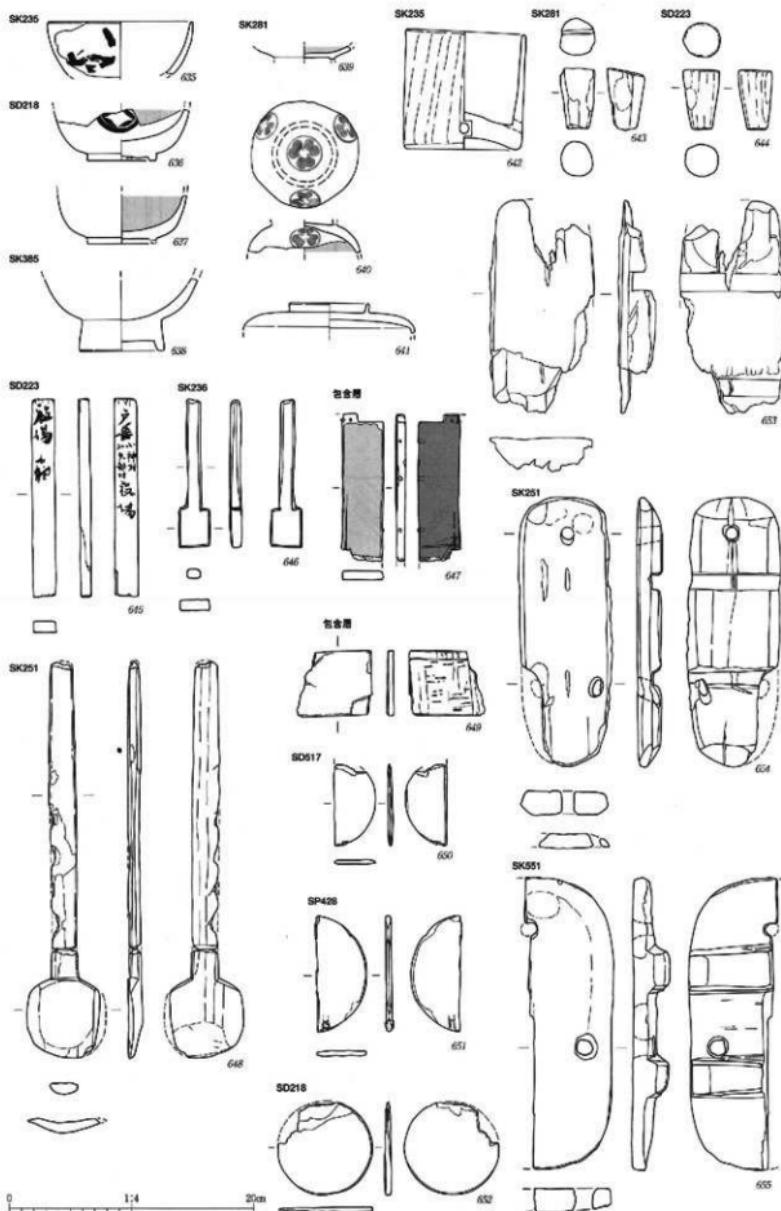
635



638

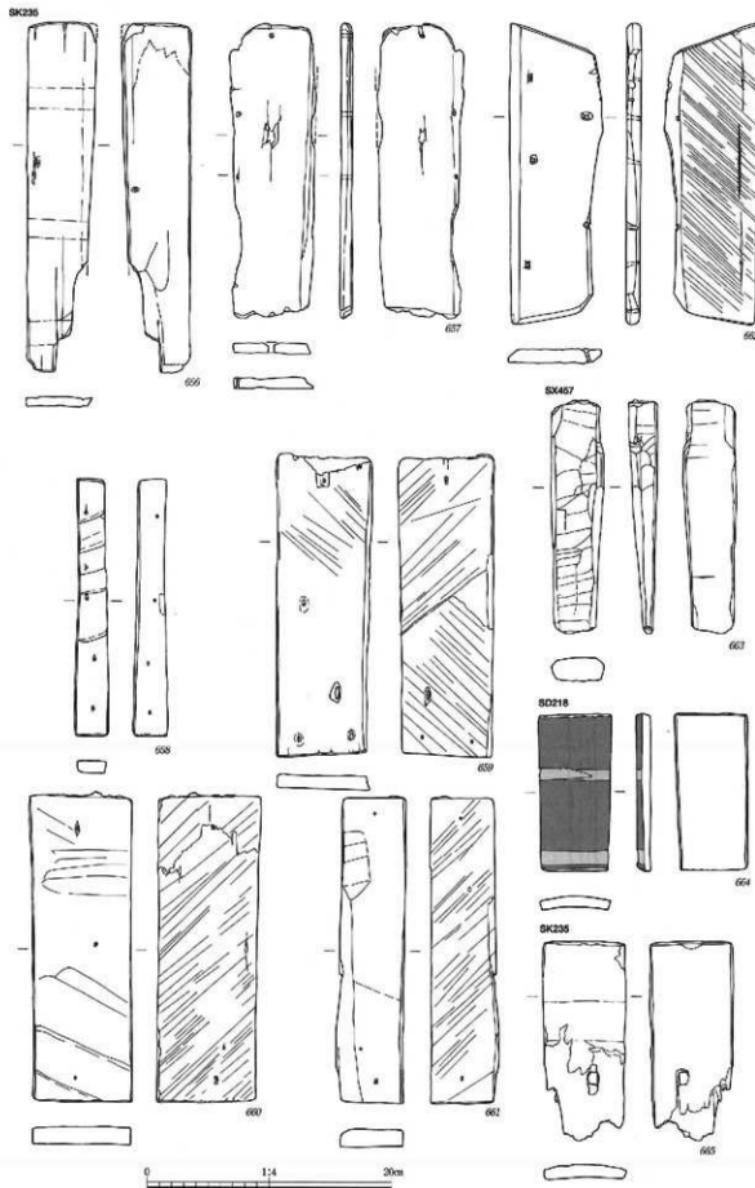
0 1/8 40cm

第80図 江尻遺跡 A地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SE21

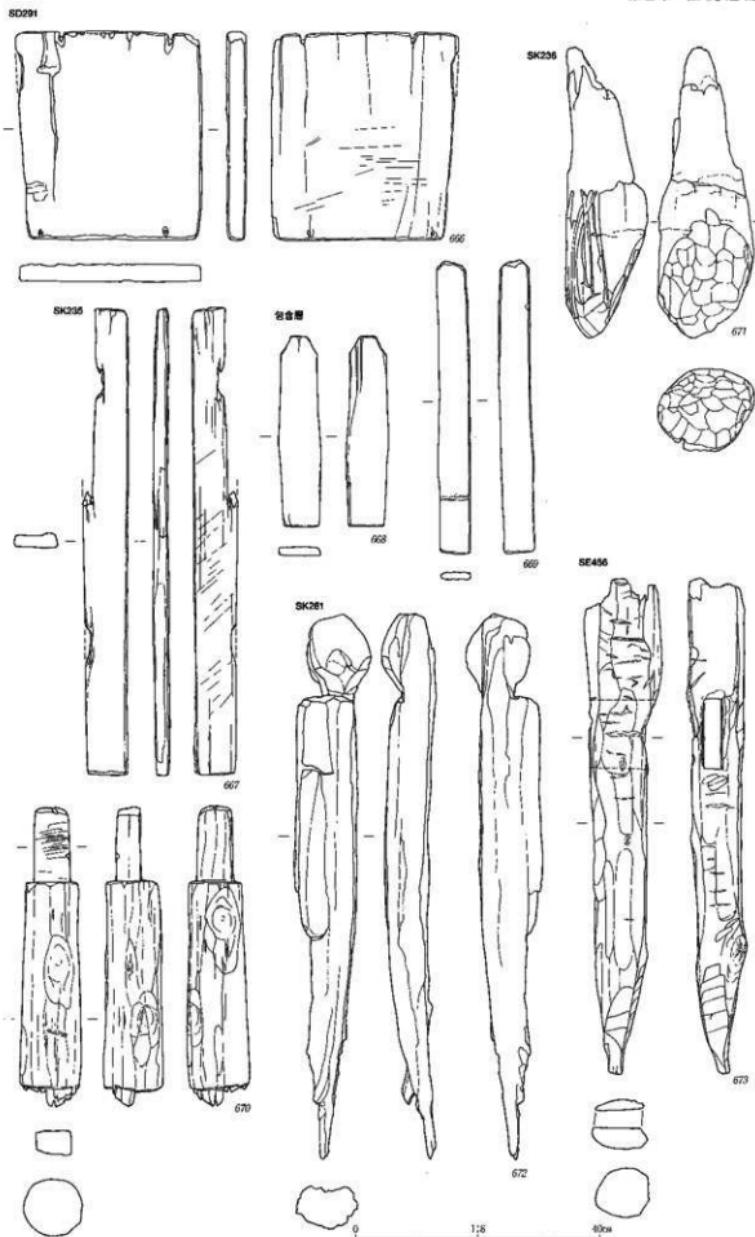


第81図 江戻遺跡 B地区 遺物実測図 木製品(1/4)

SP428(651) SK235(635・642) SK236(646) SK251(648・654) SK281(639・643) SK385(638) SK551(655)
SD218(636・637・640・641・652・653) SD223(644・645) SD517(650) 包含層(647・649)



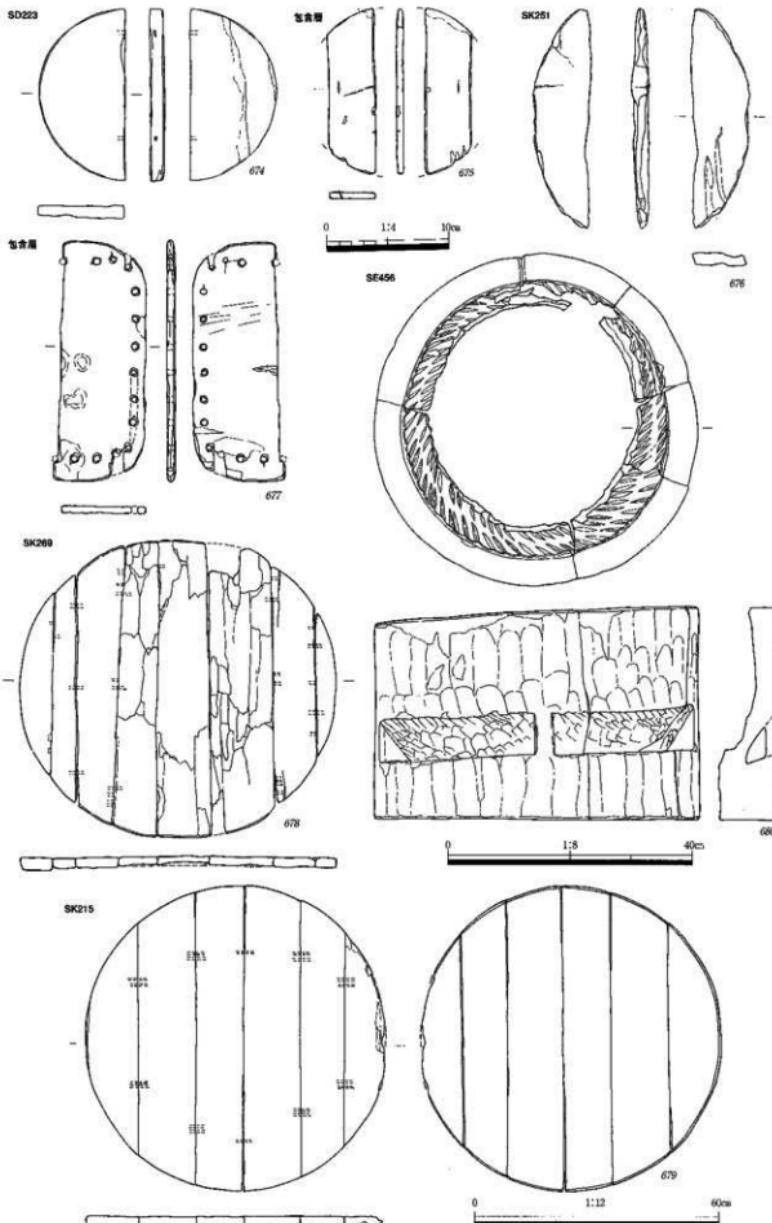
第32図 江戻遺跡 B1地区 遺物実測図 木製品 (1/4)
SK235(656~662・665) SD218(664) SX457(663)

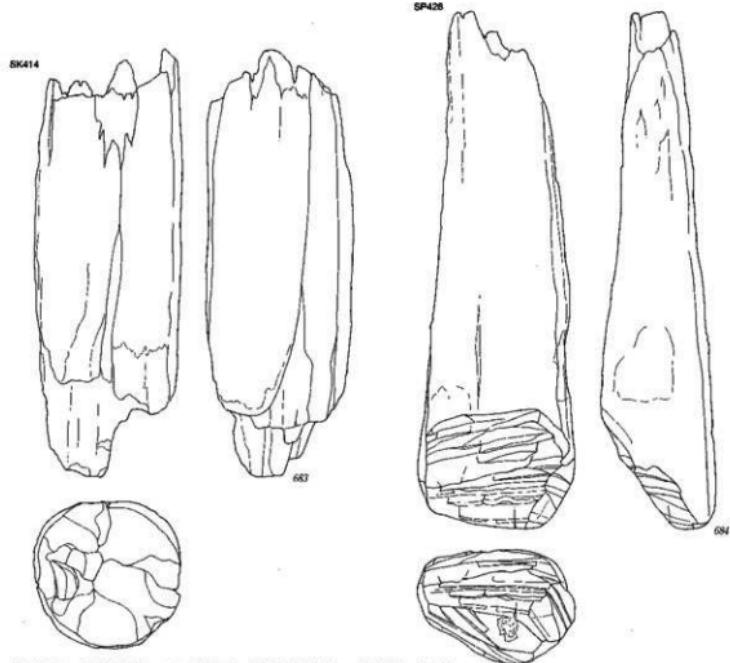
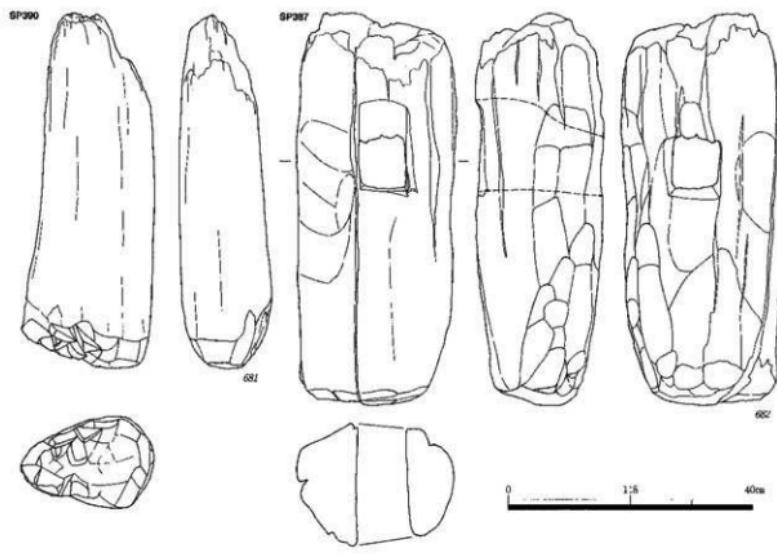


第83図 江尻遺跡 B地区 遺物実測図 木製品 (1/8)

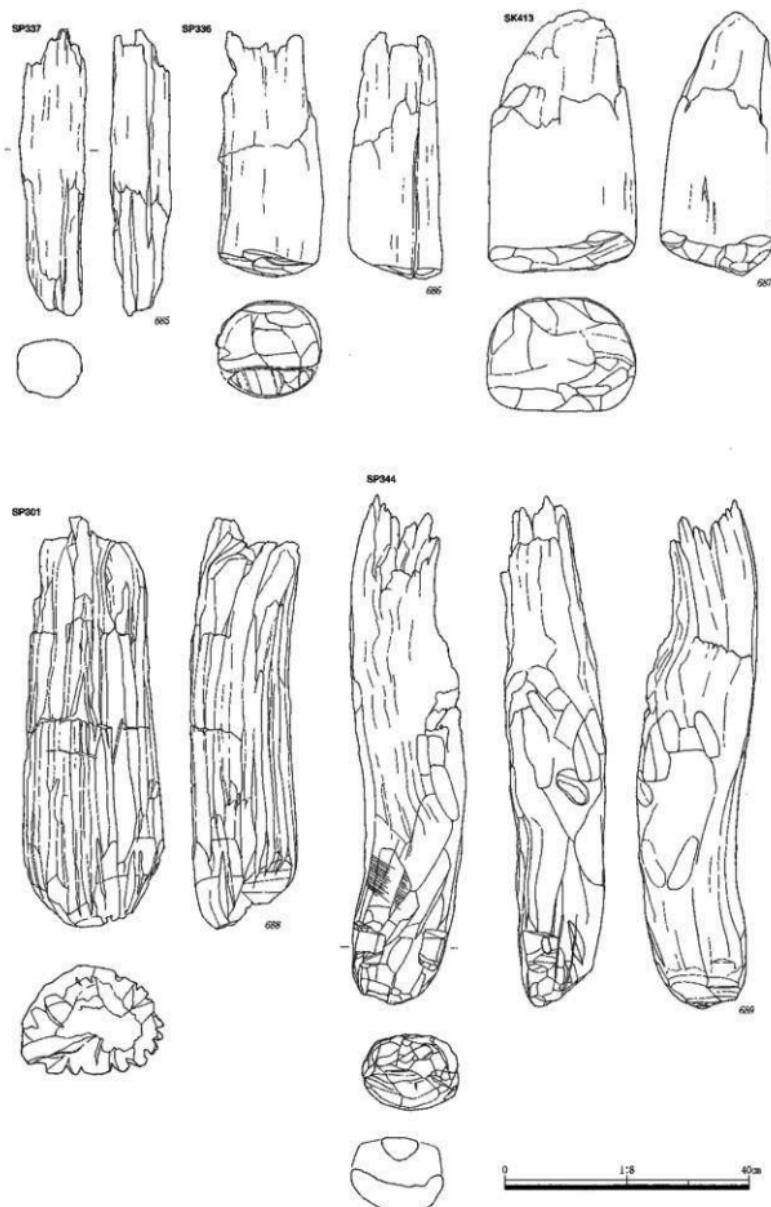
SE456(673) SK235(667・669・670) SK236(671) SK261(672) SD291(666) 包含層(668)

3 遺 物

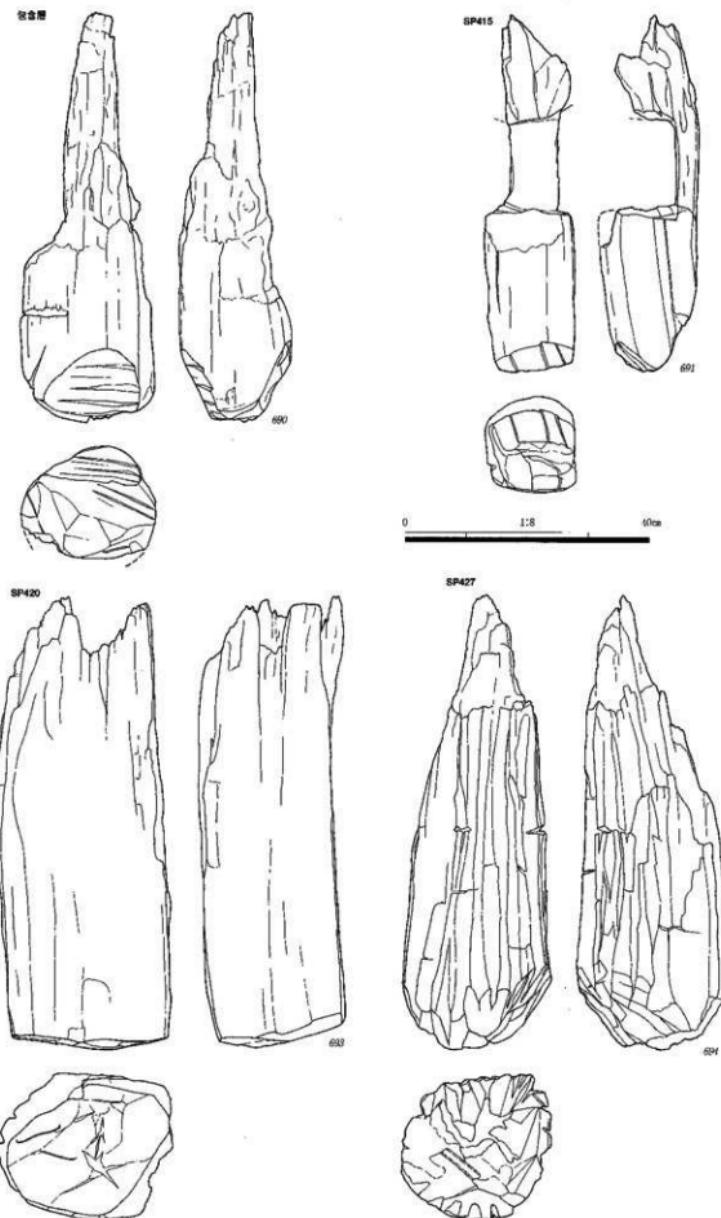




第85図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SP387(682) SP390(681) SP428(684) SK414(683)

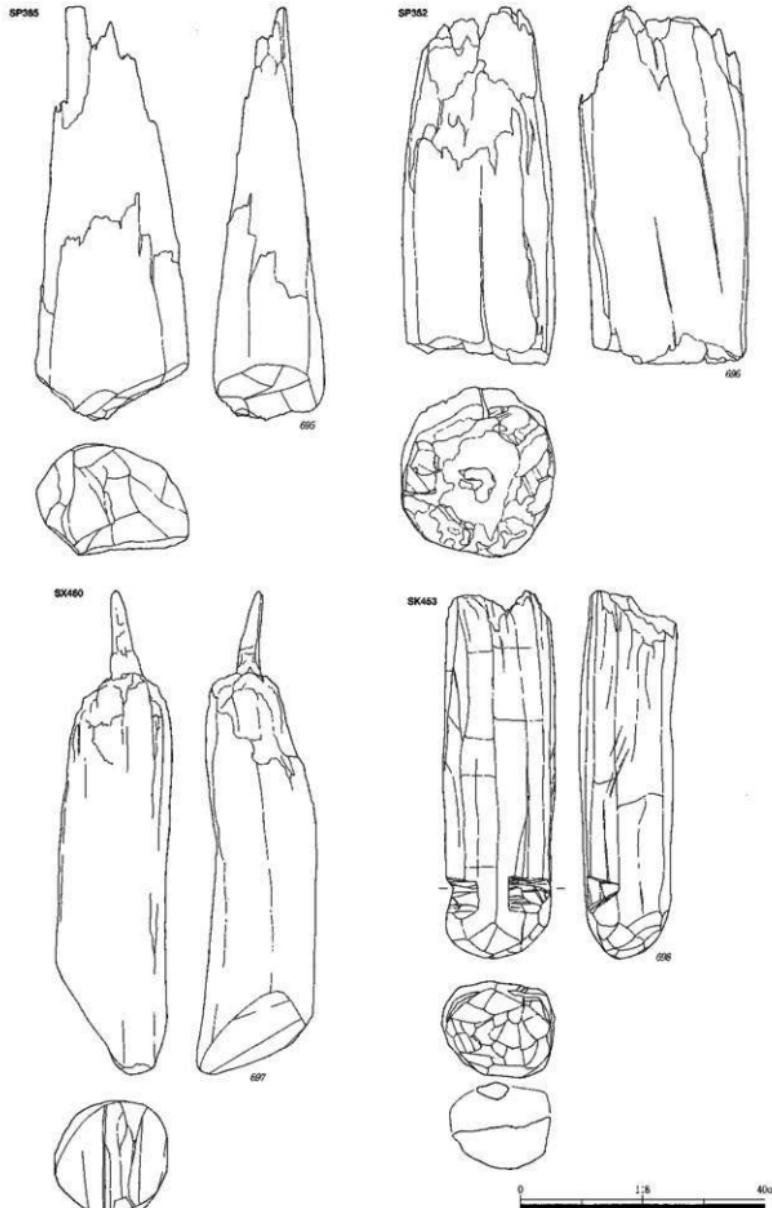


第86図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SP301(688) SP336(686) SP337(685) SP344(689) SK413(687)

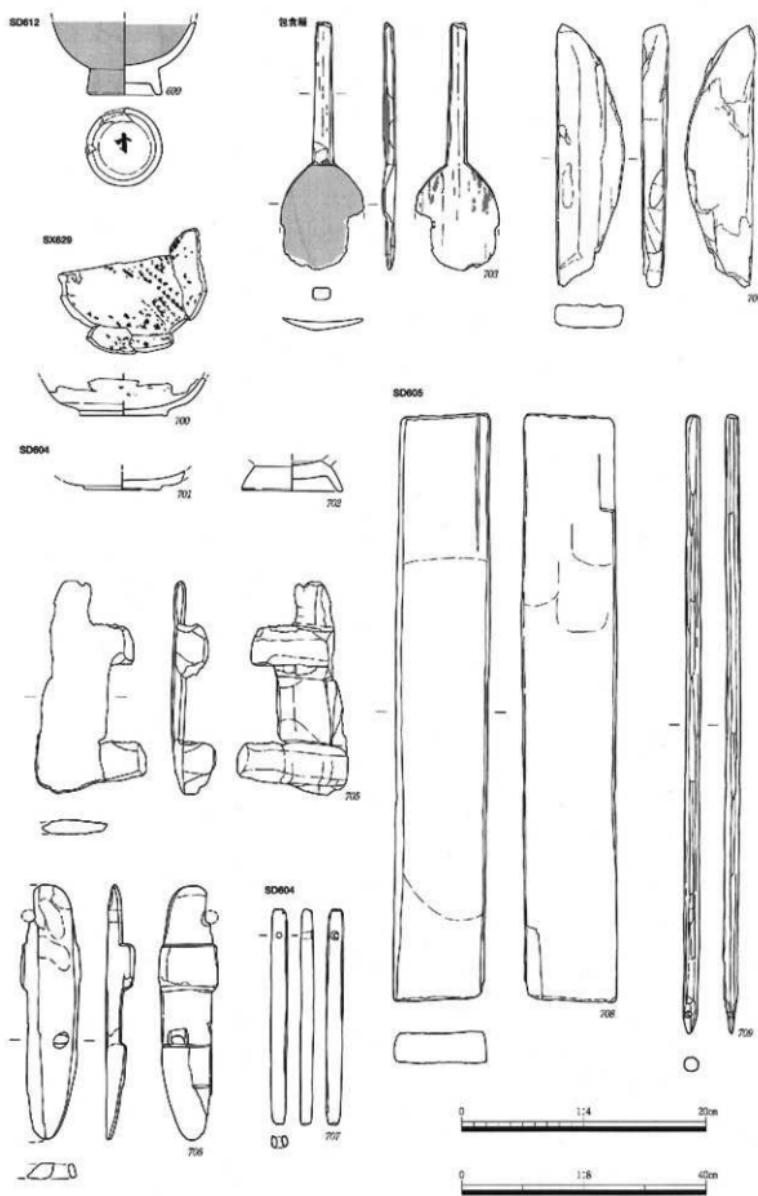


第87図 江尻遺跡 B1地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SP415(691) SP420(693) SP427(694) 包含層(690)

3 遺 物

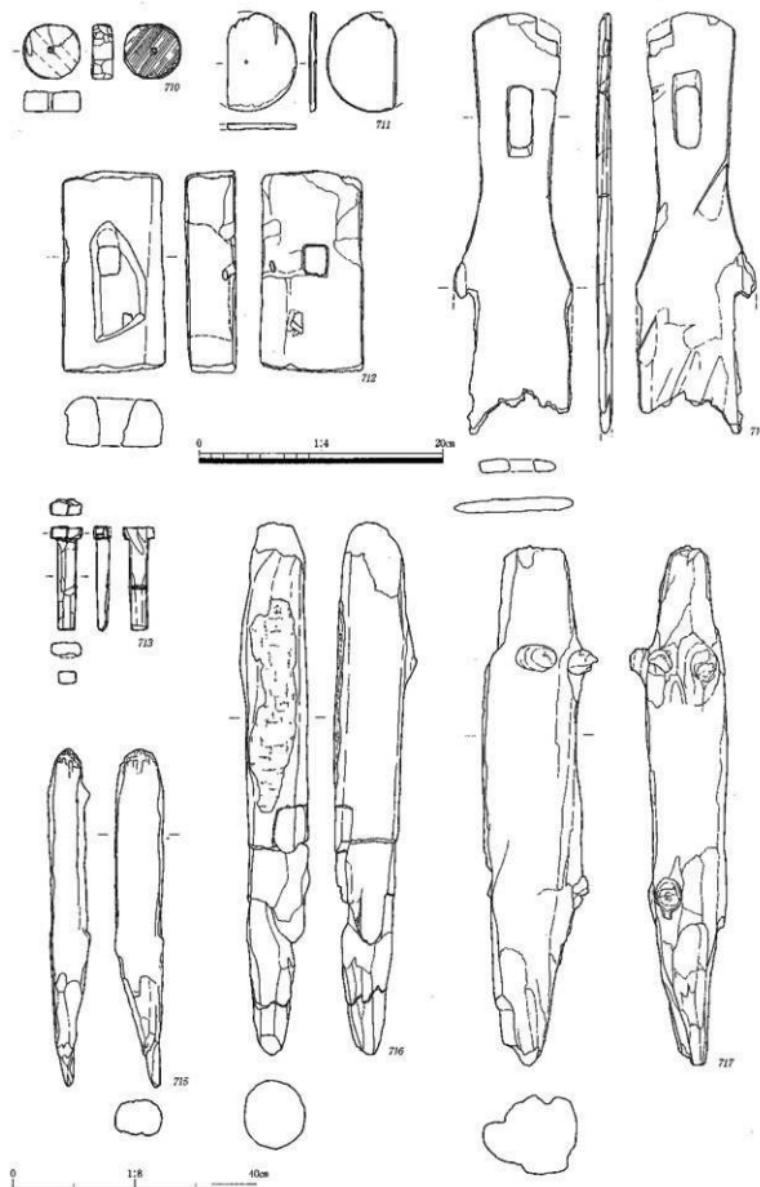


第88図 江戻遺跡 B1地区 遺物実測図 木製品 (1/8)
SP352(696) SP365(695) SK453(698) SX460(697)

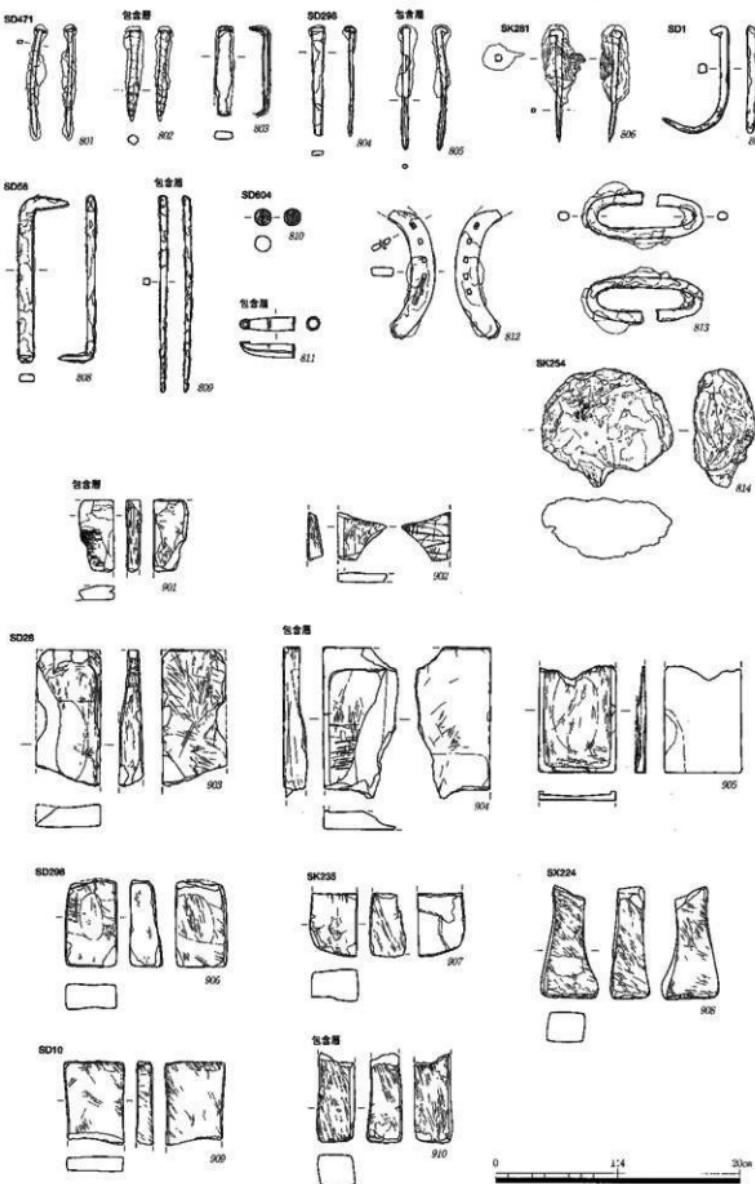


第89図 江尻遺跡 C地区 遺物実測図 木製品 (699~708 1/4, 709 1/8)

SD604(701・702) SD605(708・709) SD612(699) SX629(700) 包含層(702~706)

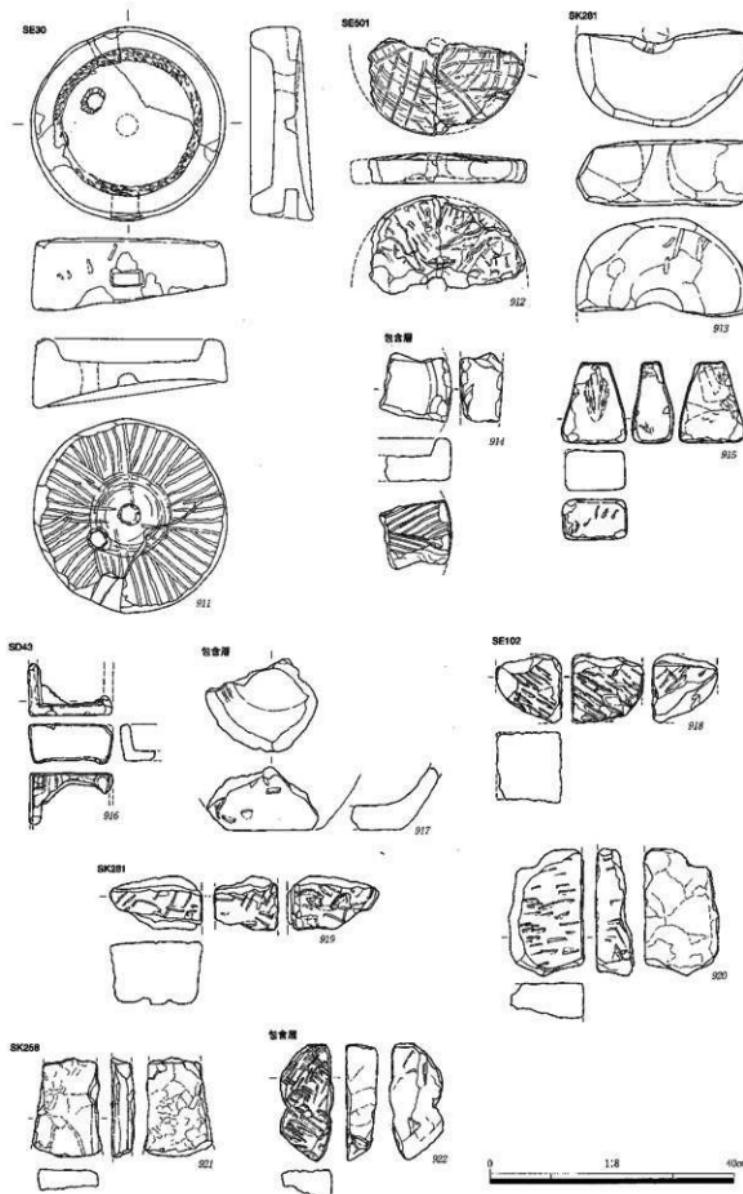


第90図 江尻遺跡 C地区 遺物実測図 木製品 (710~714・716・717 1/4, 715 1/8)
包含層



第91図 江尻遺跡 A～C地区 遺物実測図 金属製品・石製品 (1/4)

SK235(907) SK254(814) SK281(806) SD1(807) SD10(909) SD28(903) SD56(808) SD28(804-906)
SD471(801) SD604(810) SX224(908) 包含層(802-803-805-809-811-813-901-902-904-905-910)



第92図 江尻遺跡 A～C地区 遺物実測図 石製品 (1/8)

SE30(911) SE102(918) SE501(912) SK258(921) SK281(913・919・920) SD43(916)
包含層(914・915・917・922)

第 8 美 江尻遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(1)

学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点		備考	特記事項
												正解	不正解		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												10YR/1	10YR/1		
												10YR/4	10YR/4		
												10YR/3	10YR/3		
												5Y/4/1	5Y/4/1		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												8/1	8/1		
												2,577/2	2,577/2		
												10YR/2	10YR/2		
												9/4	9/4		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												7/6	7/6		
												10YR/3	10YR/3		
												10YR/3	10YR/3		
												10YR/3	10YR/3		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												12.5	12.5		
												14.8	14.8		
												2,576/2	2,576/2		
												17.0	17.0		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												16.0	16.0		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												17.5	17.5		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												19.8	19.8		
												2,576/2	2,576/2		
												10YR/4	10YR/4		
												10YR/4	10YR/4		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												19.5	19.5		
												10YR/4	10YR/4		
												10YR/4	10YR/4		
												10YR/4	10YR/4		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												2,576/2	2,576/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												12.5	12.5		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												14.8	14.8		
												2,576/2	2,576/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
学区	学年	科目	題番号	題名	所	類	級	題番	問題	出題範囲	解説	得点	備考	備考	特記事項
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		
												10YR/2	10YR/2		

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(2)

器物名	番号	通鑑番号	出 所	形	質	色	斑	法	法(単)	施上色調	施色調	施 材	施 層	特記事項
漆器・漆物	58	A-57	26	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.3	高砂	7.5/16.4	にぶい黒色	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	58	A-58	26	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	17.3	高砂	8.1	2.5/7.3	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	60	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	21.6	高砂	2.5/7.3	にぶい黒色	漆器	内外面全着	直径3cm以下の漆器底 外側面漆、芯は漆	
	61	26	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	9.8	10/7.3	にぶい黒色	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	62	... -	1A	A	XG0578漆器 No.1+2	漆生十瓣 盆	10/7.3	にぶい黒色	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	63	... -	1A	A	XG0578漆器 No.1+2	漆生十瓣 盆	2.5/7.4	漆器	2.5/7.4	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	64	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	8.3	10/7.4	にぶい黒色	漆器	内外面全着	直径3cm以上の漆器底 外側面漆、芯は漆		
	65	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.4	漆器	10/7.4	にぶい黒色	漆器	内外面全着	直径3cm以上の漆器底 外側面漆、芯は漆	
	66	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.6	漆器	10/7.6	にぶい黒色	漆器	内外面全着	外側面漆、芯は漆	
	67	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.8	漆器	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	外側面漆、芯は漆	
	68	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.8	漆器	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	外側面漆、芯は漆	
	69	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.8	漆器	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	外側面漆、芯は漆	
	70	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.8	漆器	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	外側面漆、芯は漆	
	71	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	13.6	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	72	... -	1A	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	73	SU031	31	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	13.5	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	73	... -	31	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	20.0	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	74	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.3	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	75	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.8	高砂	7.5/16.6	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	76	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.7	漆器	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	77	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.7	漆器	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	78	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	10/7.7	漆器	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	79	... -	40	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.4	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	80	SU031	31	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.0	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着		
	81	... -	38	A	SU026	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	82	... -	38	A	SU026	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.3	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	83	... -	38	A	SU026	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.4	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	84	... -	38	A	SU026	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	16.5	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	85	... -	38	A	SU026	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	16.2	高砂	5/17.6	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	86	... -	38	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.8	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	87	... -	38	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	17.2	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	88	41	41	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	20.0	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	89	41	41	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	19.7	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	90	41	41	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	91	41	41	A	SU027	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.3	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	92	34	34	A	SU028	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	93	25	SU023	... -	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	16.9	高砂	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	94	25	SU023	... -	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	15.6	高砂	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	95	25	SU023	... -	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.7	高砂	7.5/16.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	96	25	SU023	... -	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.6	高砂	7.5/16.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	97	... -	SU047	No.7	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.1	高砂	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	98	... -	SU047	No.11	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	12.8	高砂	7.5/16.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	99	... -	SU023	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	100	... -	SU023	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	101	... -	SU023	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.9	高砂	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	102	25	SU023	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	11.7	高砂	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着			
	103	26	SU027	No.2	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	13.2	3.4	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	104	26	SU027	No.10	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	2.8	... -	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	105	26	SU027	No.10	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	... -	... -	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	106	26	SU027	No.11	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	... -	... -	10/7.8	にぶい黒色	漆器	内外面全着	
	107	41	SU029	No.9	A	XG0578漆器	漆生十瓣 盆	... -	... -	10/7.7	にぶい黒色	漆器	内外面全着	

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(3)

番号	遺跡名	層位	層号	層名	断面	断面	高さ(cm)	基部	地上色調	地色調	釉	時期	特記事項	
106	ST131	X79/108	X74	生土層	生土層	生土層	10.6	10/108/3	淡青色	青白	-	-	外國製陶器	外國製陶器
110	41	SPE52	S72/110	生土層	生土層	生土層	15.0	12/210/2	灰褐色	青白	-	-	外國製陶器	外國製陶器
111	X75/108	生土層	生土層	生土層	生土層	生土層	10.7	10/108/3	灰褐色	青白	-	-	外國製陶器	外國製陶器
112	SD131	X72/107	生土層	生土層	生土層	生土層	10.7	10/108/4	灰褐色	青白	-	-	外國製陶器	外國製陶器
113	X74/108	生土層	生土層	生土層	生土層	生土層	11.6	10/108/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
114	37	SL042	生土層	生土層	生土層	生土層	14.0	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
115	40	SZ5/69	X76/121	層	生土層	生土層	14.7	7/212/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
116	37	SZ5/112	X79/26	層	生土層	生土層	20.7	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
117	31	X73/105	X79/107	層	生土層	生土層	6.0	2/210/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
118	31	X74	層	生土層	生土層	生土層	9.2	10/108/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
119	26	SL47	X72/107	層	生土層	生土層	8.5	10/108/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
120	26	SL029	X72/107	層	生土層	生土層	3.4	8.5	10/108/3	灰褐色	青白	-	内外国製陶器	内外国製陶器
121	26	SL017	X76/117	層	生土層	生土層	8.0	10/108/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
122	26	SL026	X78/117	層	生土層	生土層	10.6	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
123	19	SL020	X65/109	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
124	15	SL031	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
125	15	SL019	X73/108	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
126	15	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
127	15	SL019	X66/109	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
128	26	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	20.6	10/106/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
129	26	SL017	X76/117	層	生土層	生土層	16.8	10/106/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
130	26	SL017	X76/117	層	生土層	生土層	16.6	10/106/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
131	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/106/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
132	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
133	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
134	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
135	25	SL017	X73/108	層	生土層	生土層	17.5	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
136	25	SL017	X73/108	層	生土層	生土層	17.4	2/316/4	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
137	25	SL017	X73/108	層	生土層	生土層	2.8	2/316/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
138	25	SL017	X73/108	層	生土層	生土層	11.1	10/107/4	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
139	25	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	13.0	10/106/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
140	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	2.0	2/316/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
141	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	2.2	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
142	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	6.0	10/107/2	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
143	38	SL026	X72/107	層	生土層	生土層	10.6	10/107/3	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
144	32	SD1	X59/148	層	生土層	生土層	14.4	10/106/4	灰褐色	青白	-	-	内外国製陶器	内外国製陶器
145	32	SD1	X59/151	層	生土層	生土層	13.3	5.5	5.5	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
146	32	SD1	X59/147	層	生土層	生土層	12.6	4.4	3.2	3.8	3.8	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
147	29	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	8.3	4.4	3.2	3.8	3.8	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
148	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	14.4	3.4	1.9	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
149	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	11.1	3.4	1.9	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
150	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	11.1	3.4	1.9	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
151	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	11.1	3.4	1.9	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
152	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	10.4	5.0	5.5	5.5	5.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
153	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	9.0	6.4	4.6	7.5	7.5	ISCR7/1	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
154	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	6.0	4.1	2.3	10/8/4	淡青色	-	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
155	32	SD1	X59/142	層	生土層	生土層	4.4	7.5	7.5	7.5	7.5	ISCR7/2	淡青色の直線模様	淡青色の直線模様
156	29	SD1	X59/187	層	中空部	中空部	11.0	2.7	4.1	2.5	2.5	ISCR7/3	淡青色	淡青色
157	32	SD1	X59/181	層	中空部	中空部	11.7	10/78/4	淡青色	淡青色	5YR3/2	-	淡青色	淡青色
158	32	SD1	X59/71/75	層	中空部	中空部	37.9	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	ISCR7/2	淡青色

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(4)

3 遺 考 審

種類	器物	番号	通路	遺物番号	通路	口径	底径	壁厚	形状	胎	表面	底	頭	特記事項		
盆	圓形	160	40	SZ1	X65788	1.75	... 鍋山口 直口	12.2	5.7	5786/6	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		161	40	SZ2	X65788	1.75	鍋山口 直口	10.4	2.5	4.1	5734/7/3	灰褐色	灰褐色	...		
		162	40	SZ2	X65788	1.75	鍋山口 直口	10.7	2.6	4.0	1057/7/4	灰褐色	灰褐色	...		
		163	20	SZ2	X65788	1.75	少子口 直口	11.0	4.5	4.9	N8/3	灰白色	灰白色	...		
61	164	32	SZ2	X65773	1.75	伊万里 直口	13.2	3.4	7.9	5787/1	灰白色	灰白色	灰白色	...		
		165	32	SZ2	X65773	1.75	鍋山口 直口	10.1	2.5	7.7	5787/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		166	32	SZ2	X65773	1.75	伊万里 直口	10.0	2.5	7.7	5787/3	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		167	32	SZ2	X65773	1.75	伊万里 直口	26.2	4.8	1052/7/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		168	32	SZ3	X65778	1.75	鍋山口 直口	10.1	2.5	7.7	5787/3	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		169	32	SZ3	X49777	1.75	少子口 直口	12.0	5.4	5.0	5787/4	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		170	29	SZ3	X71728	1.75	伊万里 直口	8.4	5.9	5.0	5787/5	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		171	32	SZ3	X65748	1.75	伊万里 直口	8.4	5.9	5.0	5787/6	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		172	33	SZ3	X65748	1.75	伊万里 直口	12.5	3.4	4.8	5738/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		173	36	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	9.4	7.9	6.8	5738/3	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		174	33	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	10.1	2.5	3.8	5787/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		175	33	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	12.0	5.4	5.0	5787/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		176	33	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	11.5	7.7	4.1	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		177	31	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	8.6	5.6	5.1	118/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		178	33	SZ3	X65784	1.75	伊万里 直口	8.0	5.6	5.0	105/2/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		179	33	SZ3	X65786	1.75	鍋山口 直口	8.0	4.2	2577/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		180	33	SZ3	X65786	1.75	伊万里 直口	8.0	4.2	2578/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		181	33	SZ3	X65786	1.75	伊万里 直口	8.0	4.2	2578/3	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		182	31	SZ3	X65771	1.75	伊万里 直口	10.4	7.6	4.6	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		183	31	SZ3	X65771	1.75	伊万里 直口	10.0	7.0	4.6	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		184	30	SZ3	X65771	1.75	伊万里 直口	10.6	2.0	3.9	5278/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		185	38	SZ3	X65771	1.75	伊万里 直口	10.1	6.4	4.2	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		186	38	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	11.7	3.0	3.9	2577/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		187	39	SZ3	X65775	1.75	伊万里 直口	9.7	2.1	3.0	2577/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		188	41	SZ3	X72735/83	1.75	鍋山口 直口	9.8	2.3	3.5	5786/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		189	30	SZ3	X65774	1.75	伊万里 直口	11.5	2.5	3.0	2577/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		190	39	SZ3	X72774	1.75	伊万里 直口	10.5	4.5	1057/7/4	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		191	39	SZ3	X65774	1.75	伊万里 直口	10.5	4.5	1057/7/3	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		192	38	SZ3	X65774	1.75	伊万里 直口	10.5	5.0	5787/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		193	35	SZ3	X65774	1.75	伊万里 直口	10.5	5.0	5787/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...		
		194	35	SZ3	X65774	1.75	伊万里 直口	10.5	6.0	4.1	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		195	35	SZ3	X65778	1.75	伊万里 直口	11.7	6.2	6.2	115/0	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		196	31	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	9.2	5.0	3.6	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		197	35	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	9.2	4.3	3.3	5787/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		198	36	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	7.3	6.2	3.8	5787/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		199	34	SZ3	X747100	1.75	伊万里 直口	1.25	4.6	3.8	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		200	34	SZ3	X747100	1.75	伊万里 直口	17.4	—	—	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		201	34	SZ3	X747100	1.75	伊万里 直口	20.0	—	—	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		202	34	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	10.7	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		203	34	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	9.0	2578/6	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		204	33	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	13.5	5174/2	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...	
		205	33	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	12.4	4.6	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...
		206	33	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	2.4	6.5	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...
		207	34	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	4.4	2.7	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...
		208	34	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	11.4	—	1057/1	灰褐色	灰褐色	灰褐色	...
		209	34	SZ3	X65798	1.75	伊万里 直口	—	—	—	—	—	—	—	...	

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(5)

部類	物語	遺跡	遺物番号	性別	器種	器形	口径	底径	高さ(厘米)	胎土色調	釉色調	釉	焼	時間
骨器	210	34	SUE18	X70100	伊万里	筒	14.5	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	211	34	SUE18	X70100	伊万里	筒	3.4	7.578/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	212	34	SUE18	X73799	伊万里	筒	3.3	5.758/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	213	34	SUE18	X73799	伊万里	筒	3.0	N/T/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	214	34	SUE18	X73799	伊万里	筒	7.8	N/T/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	215	34	SUE18	X68775/2-75/98	伊万里	筒	8.1	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	216	34	SUE18	X70100	伊万里	筒	11.3	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	217	34	SUE18	X70100	伊万里	筒	13.9	10.78/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	218	34	SUE18	X70100	伊万里	筒	13.9	13.8/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	219	34	SUE18	X66797	伊万里	大桶	14.5	5.758/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	220	34	SUE18	X66797	伊万里	大桶	6.1	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	221	34	SUE18	X74100	伊万里	筒	2.5	5.758/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	222	34	SUE18	X74100	伊万里	筒	5.6	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	223	34	SUE18	X65198	少方原	筒	2.8	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	224	34	SUE18	X69727-72/98	少方原	筒	6.0	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	225	34	SUE18	X59195	少方原	筒	5.0	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	226	34	SUE18	X70100	少方原	筒	4.4	10.27/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	227	34	SUE18	X73799	少方原	筒	5.6	5.758/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	228	34	SUE18	X66797	少方原	筒	10.1	2.2	4.5	10.27/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	229	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	10.6	2.3	4.5	5.758/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	230	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	6.7	2.2	3.3	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	231	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	12.2	5.4	10.27/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	232	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	10.0	3.1	10.18/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	233	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	12.6	5.0	10.27/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	234	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	12.6	4.6	10.27/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	235	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	13.5	3.5	5.1	10.18/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	236	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	10.6	2.1	1.9	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	237	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	11.0	2.1	4.2	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	238	34	SUE18	X79112	鍋山原	筒	13.0	4.7	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	239	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	11.9	3.2	5.7	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	240	34	SUE18	X79112	鍋山原	筒	10.8	2.0	5.2	10.27/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	241	34	SUE18	X79112	鍋山原	筒	5.3	10.18/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	242	34	SUE18	X79112	鍋山原	筒	8.6	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	243	34	SUE18	X79112-113	鍋山原	筒	4.2	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	244	34	SUE18	X79113	鍋山原	筒	5.2	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	245	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	8.2	1.9	3.4	2.578/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	246	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	7.7	1.9	2.578/2	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	247	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	6.5	1.4	3.8	5.78/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	248	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	7.4	N/T/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	249	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	3.0	...	N/T/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	250	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	11.6	2.3	4.5	7.578/3	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	251	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	4.5	N/S/0	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	252	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	10.6	6.0	10.18/2	灰白色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	253	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	4.8	10.18/2	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	254	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	10.6	2.5	4.5	7.578/1	灰白色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	255	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	12.4	10.25/6	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	256	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	7.0	2.578/6	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	257	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	4.6	10.25/6	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	258	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	1.0	1630-1640
骨器	259	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	4.6	10.25/6	灰白色	褐色	褐色	褐色	褐色	1630-1640
骨器	260	34	SUE18	X77194	鍋山原	筒	1.0	1630-1640

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(6)

番号	遺跡名	出土地	地質	出土位置	地色	調	地質	地色	調	地質	地色	調	
65	豊原	S1291 X77113	中層	中層口 直	11.2	4.9	5.2	51.065/6	灰色	555/1/1	中層口	灰色	555/2/1
267	37	S1291 X75112	中層	中層口 直	10.0	5.1	4.3	575/7/4	灰色	575/2/2	サリーブ直	灰色	575/2/2
269	30	S1291 X79112	中層	中層口 直	10.9	7.4	4.0	575/7/4	灰色	575/2/2	サリーブ直	灰色	575/2/2
254	37	S1292 X79110	中層	中層口 直	11.6	2.4	5.0	575/7/4	灰色	517/2/1	黑色	517/2/1	
265	37	S1292 X79109	中層	中層口 直	11.3	2.3	4.2	575/6/2	灰色	517/2/2	黑色	517/2/2	
266	37	S1292 X79108	中層	中層口 直	11.2	2.8	5.4	107/27/4	灰色	539/2/2	灰色	539/2/2	
267	37	S1292 X7179Y109/10	中層	中層口 直	10.6	2.6	3.7	237/6/4	灰色	757/3/4	黑色	757/3/4	
268	37	S1293 X78110	中層	中層口 直	11.2	3.0	5.6	107/26/1	灰色	757/4/4	黑色	757/4/4	
269	37	S1293 X78111	中層	中層口 直	10.9	2.7	4.8	7.57/8/3	灰色	576/3	サリーブ直	灰色	576/3
270	37	S1293 X78112	中層	中層口 直	10.9	7.3	4.3	7.57/7/4	灰色	576/3	サリーブ直	灰色	576/3
271	37	S1295 X787117	中層	中層口 直	13.9	2.8	8.5	180/0	灰色	575/2/1	黑色	575/2/1	
272	37	S1296 X787117	中層	中層口 直	13.9	2.8	8.5	180/0	灰色	575/2/1	黑色	575/2/1	
273	37	S1296 X787119	中層	中層口 直	12.4	2.6	8.5	180/0	灰色	575/2/1	黑色	575/2/1	
274	37	S1296 X787117	中層	中層口 直	12.3	2.6	8.5	180/0	灰色	575/2/1	黑色	575/2/1	
275	30	S1296 X78119	中層	中層口 直	17.2	3.3	8.0	所白色	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
276	35	S1296 X78116	中層	中層口 直	10.9	2.5	4.8	107/24/2	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
277	28	S1296 X78116	中層	中層口 直	13.6	3.2	5.2	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
278	—	S1296 X78116	中層	中層口 直	10.7	6.0	4.1	180/0	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
279	—	S1296 X78116	中層	中層口 直	10.7	6.0	4.1	180/0	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
280	—	S1296 X78116	中層	中層口 直	9.7	5.5	4.1	180/0	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
281	26	S1296 X78116	中層	中層口 直	10.4	3.6	4.4	107/26/4	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
282	26	S1296 X78116	中層	中層口 直	13.1	3.5	4.4	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
283	26	S1296 X78116	中層	中層口 直	12.1	1.5	2.2	237/6/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
284	26	S1296 X78116	中層	中層口 直	13.6	3.5	4.4	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
285	31	S1296 X78116	中層	中層口 直	11.0	9.8	11.8	107/26/4	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
286	31	S1296 X78116	中層	中層口 直	1.5	—	—	—	—	575/2/1	黑色	575/2/1	
287	37	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
288	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
289	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
290	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
291	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
292	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
293	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
294	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
295	39	S1297 X70796	中層	中層口 直	20.6	3.0	3.7	237/6/1	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
296	31	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
297	29	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
298	—	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
299	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
300	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
301	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.8	2.5	5.5	107/26/3	所白色	575/2/1	黑色	575/2/1	
302	29	S1297 X70796	中層	中層口 直	11.0	2.2	4.5	107/26/4	所白色	107/2/3	黑色	107/2/3	
303	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	9.8	2.3	6.2	107/26/1	所白色	107/2/3	黑色	107/2/3	
304	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	9.8	2.3	6.2	107/26/1	所白色	107/2/3	黑色	107/2/3	
305	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	9.8	2.3	6.2	107/26/1	所白色	107/2/3	黑色	107/2/3	
306	31	S1297 X70796	中層	中層口 直	11.0	2.1	—	—	—	575/2/1	黑色	575/2/1	
67	307	40	X70796 X707114	中層	中層口 直	13.0	3.2	4.8	237/6/4	所白色	757/2/3	黑色	757/2/3
308	40	S1297 X70796	中層	中層口 直	11.0	2.2	4.5	107/27/1	所白色	915/2/2	黑色	915/2/2	
309	41	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.9	3.0	3.8	107/26/4	所白色	257/2/2	黑色	257/2/2	
310	41	S1297 X70796	中層	中層口 直	10.7	2.7	3.3	107/26/4	所白色	215/3/4	黑色	215/3/4	
311	41	S1297 X70796	中層	中層口 直	—	—	—	—	—	—	—	—	

江尻遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(7)

第8表 江尻遺跡・土器・陶磁器・土製品一覧(8)

第8表 江戸遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(9)

所蔵 番号	種類 分類	基準 番号	通巻 番号	基 底	底 面	側 面	頂 面	底 高	底 径	柿子色調		柿色調	柿 底	柿 側	柿 頂	柿 底	柿 側	柿 頂
										通巻 番号	基 底							
414	土器	A	X58765/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	30.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
415	土器	A	X59778/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	34.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
416	39	A	X58778/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	35.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
417	27	A	X58780/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	37.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
418	27	A	X58777/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	43.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
419	27	A	X54777/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	35.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
420	27	A	X58781/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	31.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
421	27	A	X58784/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	29.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
422	27	A	X58785/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	18.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
423	27	A	X58786/14	丸	火鉢	火鉢	火鉢	9.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
71	424	32	X59717/17	筒	火鉢	火鉢	火鉢	4.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
425	43	B1	X56794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	11.2	4.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
426	43	B1	X73795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.6	2.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
427	43	B1	X72786/27	筒	火鉢	火鉢	火鉢	2.4	4.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
428	43	B1	X56794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
429	43	B1	X777407	筒	火鉢	火鉢	火鉢	6.3	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
430	43	B1	X58788	筒	火鉢	火鉢	火鉢	12.4	3.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
431	43	B1	X73795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	11.6	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
432	43	B1	X56798	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.6	2.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
433	43	B1	X74797	筒	火鉢	火鉢	火鉢	5.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
434	43	B1	X76794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.4	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
435	43	B1	X807108/2	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.4	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
436	43	B2	X597117	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.5	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
437	43	B1	X617101	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.6	3.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
438	43	B1	X58794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	12.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
439	43	B1	X58795/14	筒	火鉢	火鉢	火鉢	12.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
440	43	B1	X58797	筒	火鉢	火鉢	火鉢	4.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
441	31	B1	X77795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	5.7	3.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
442	43	B1	X58796/14	筒	火鉢	火鉢	火鉢	5.8	2.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
443	43	B1	X73795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	12.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
444	43	B1	X58799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	12.5	3.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
445	43	B1	X58799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	4.3	10.8	4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
446	43	B1	X58799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	3.8	8.0	4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
447	43	B1	X58799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	7.0	4.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
448	43	B1	X58794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	4.2	1.6	3.8	10.7	1.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
449	43	B1	X58791	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.0	3.0	3.8	10.7	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
450	43	B1	X58798	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.7	3.6	3.8	10.7	3.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
451	43	B1	X76794	筒	火鉢	火鉢	火鉢	8.9	5.8	3.6	3.8	3.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
452	43	B1	X58791	筒	火鉢	火鉢	火鉢	8.9	5.8	3.6	3.8	3.8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
453	43	B1	X58798	筒	火鉢	火鉢	火鉢	11.0	4.5	10.7	11.0	4.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
454	43	B1	X58799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.9	4.1	10.7	10.9	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
455	43	B1	X58795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.7	4.1	10.7	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
456	43	B1	X58796	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.5	4.1	10.5	10.5	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
457	43	B1	X58790	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.3	4.1	10.3	10.3	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
458	43	B1	X587103	筒	火鉢	火鉢	火鉢	10.1	5.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
459	43	B1	X65795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.9	5.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
460	43	B1	X70795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.7	5.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
461	43	B1	X587114	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.5	5.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
462	43	B1	X63799	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.3	4.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
463	43	B1	X77795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	9.1	4.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
464	43	B1	X70795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	8.9	4.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
72	44	B1	X58792	筒	火鉢	火鉢	火鉢	5.4	4.4	3.4	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
465	43	B1	X77795	筒	火鉢	火鉢	火鉢	5.2	3.5	4.5	10.7	4.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

第8表 江戻遺跡 土器・陶磁器・土製品一覧(1)

第8表 江戸遺跡・土器・陶磁器・土製品一覧(1)

件名	遺物名	分類	直通番号	底	唇	腹	蓋	縁	生量(g)	直通番号	底十色調	底白色	底	縁十色調	縁白色	縁	特記事項	
516 517	金 金	C	X16711985	直	直	直	直	直	20.4	22.4	こぶい白色	ホワイト	直	516/2	516/3	ホワイト	火鉢	
517 518	金 金	C	X561132	直	直	直	直	直	6.6	5.5	107864	ホワイト	直	517/2	517/3	ホワイト	火鉢	
519 520	金 金	C	X561140	直	直	直	直	直	6.8	5.5	107864	ホワイト	直	519/2	519/3	ホワイト	火鉢	
521 522	金 金	C	X571126	直	直	直	直	直	7.6	7.6	107847	ホワイト	直	521/2	521/3	ホワイト	火鉢	
523 524	金 金	C	X571130	直	直	直	直	直	6.9	7.6	737865	ホワイト	直	523/2	523/3	ホワイト	火鉢	
525 526	金 金	C	X167134	直	直	直	直	直	7.3	7.3	25763	ホワイト	直	525/2	525/3	ホワイト	火鉢	
527 528	金 金	C	X561132	直	直	直	直	直	7.8	1.5	107852	ホワイト	直	527/2	527/3	ホワイト	火鉢	
529 530	金 金	C	X167134	直	直	直	直	直	7.8	1.5	107852	ホワイト	直	529/2	529/3	ホワイト	火鉢	
531 532	金 金	C	X167132	直	直	直	直	直	8.8	2.0	107852	ホワイト	直	531/2	531/3	ホワイト	火鉢	
533 534	金 金	C	X167132	直	直	直	直	直	8.8	1.9	107852	ホワイト	直	533/2	533/3	ホワイト	火鉢	
535 536	金 金	C	X561140	直	直	直	直	直	9.8	2.1	107852	ホワイト	直	535/2	535/3	ホワイト	火鉢	
537 538	金 金	C	X167130	直	直	直	直	直	8.8	2.0	107852	ホワイト	直	537/2	537/3	ホワイト	火鉢	
539 540	金 金	C	X167134	直	直	直	直	直	8.5	2.0	107852	ホワイト	直	539/2	539/3	ホワイト	火鉢	
541 542	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	9.2	2.0	107852	ホワイト	直	541/2	541/3	ホワイト	火鉢	
543 544	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	10.0	2.0	107852	ホワイト	直	543/2	543/3	ホワイト	火鉢	
545 546	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	9.4	2.0	107852	ホワイト	直	545/2	545/3	ホワイト	火鉢	
547 548	金 金	C	X167133	直	直	直	直	直	9.4	2.0	737876	銀色	直	547/2	547/3	銀色	火鉢	
549 550	金 金	C	X561136	直	直	直	直	直	9.4	2.1	517/1	ホワイト	直	549/1	549/2	ホワイト	火鉢	
551 552	金 金	C	X167142	直	直	直	直	直	10.2	2.0	107874	ホワイト	直	551/2	551/3	ホワイト	火鉢	
553 554	金 金	C	X167131	直	直	直	直	直	12.1	2.0	107874	ホワイト	直	553/2	553/3	ホワイト	火鉢	
555 556	金 金	C	X167131	直	直	直	直	直	12.1	2.0	107852	ホワイト	直	555/2	555/3	ホワイト	火鉢	
557 558	金 金	C	X167140	直	直	直	直	直	12.0	2.0	107852	ホワイト	直	557/2	557/3	ホワイト	火鉢	
559 560	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	12.5	2.0	107852	ホワイト	直	559/2	559/3	ホワイト	火鉢	
561 562	金 金	C	X167139	直	直	直	直	直	12.5	2.0	107852	ホワイト	直	561/2	561/3	ホワイト	火鉢	
563 564	金 金	C	X167142	直	直	直	直	直	10.8	2.0	107874	ホワイト	直	563/2	563/3	ホワイト	火鉢	
565 566	金 金	C	X167131	直	直	直	直	直	13.8	2.0	737865	銀色	直	565/2	565/3	銀色	火鉢	
567 568	金 金	C	X167141	直	直	直	直	直	13.2	1.6	2377/2	ホワイト	直	567/2	567/3	ホワイト	火鉢	
569 570	金 金	C	X167145	直	直	直	直	直	16.5	1.6	107873	ホワイト	直	569/2	569/3	ホワイト	火鉢	
571 572	金 金	C	X167145	直	直	直	直	直	17.8	1.6	107864	ホワイト	直	571/2	571/3	ホワイト	火鉢	
573 574	金 金	C	X167139	直	直	直	直	直	13.4	2.0	107872	ホワイト	直	573/2	573/3	ホワイト	火鉢	
575 576	金 金	C	X167145	直	直	直	直	直	26.0	2.0	9.8	2377/2	ホワイト	直	575/2	575/3	ホワイト	火鉢
577 578	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	14.5	NF/0	ホワイト	直	577/2	577/3	ホワイト	火鉢
579 580	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	517/1	ホワイト	直	579/2	579/3	ホワイト	火鉢	
581 582	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107874	ホワイト	直	581/2	581/3	ホワイト	火鉢	
583 584	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	2377/6	ホワイト	直	583/2	583/3	ホワイト	火鉢	
585 586	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	2377/6	ホワイト	直	585/2	585/3	ホワイト	火鉢	
587 588	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	587/2	587/3	ホワイト	火鉢	
589 590	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	589/2	589/3	ホワイト	火鉢	
591 592	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	591/2	591/3	ホワイト	火鉢	
593 594	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	593/2	593/3	ホワイト	火鉢	
595 596	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	595/2	595/3	ホワイト	火鉢	
597 598	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	597/2	597/3	ホワイト	火鉢	
599 600	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	599/2	599/3	ホワイト	火鉢	
601 602	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	601/2	601/3	ホワイト	火鉢	
603 604	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	603/2	603/3	ホワイト	火鉢	
605 606	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	605/2	605/3	ホワイト	火鉢	
607 608	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	607/2	607/3	ホワイト	火鉢	
609 610	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	609/2	609/3	ホワイト	火鉢	
611 612	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	611/2	611/3	ホワイト	火鉢	
613 614	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	613/2	613/3	ホワイト	火鉢	
615 616	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	615/2	615/3	ホワイト	火鉢	
617 618	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	617/2	617/3	ホワイト	火鉢	
619 620	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	619/2	619/3	ホワイト	火鉢	
621 622	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	621/2	621/3	ホワイト	火鉢	
623 624	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	623/2	623/3	ホワイト	火鉢	
625 626	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	625/2	625/3	ホワイト	火鉢	
627 628	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	627/2	627/3	ホワイト	火鉢	
629 630	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	629/2	629/3	ホワイト	火鉢	
631 632	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	631/2	631/3	ホワイト	火鉢	
633 634	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	633/2	633/3	ホワイト	火鉢	
635 636	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	635/2	635/3	ホワイト	火鉢	
637 638	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	637/2	637/3	ホワイト	火鉢	
639 640	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	639/2	639/3	ホワイト	火鉢	
641 642	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	641/2	641/3	ホワイト	火鉢	
643 644	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	643/2	643/3	ホワイト	火鉢	
645 646	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	645/2	645/3	ホワイト	火鉢	
647 648	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	647/2	647/3	ホワイト	火鉢	
649 650	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	649/2	649/3	ホワイト	火鉢	
651 652	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	651/2	651/3	ホワイト	火鉢	
653 654	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	653/2	653/3	ホワイト	火鉢	
655 656	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	655/2	655/3	ホワイト	火鉢	
657 658	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	657/2	657/3	ホワイト	火鉢	
659 660	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	659/2	659/3	ホワイト	火鉢	
661 662	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	661/2	661/3	ホワイト	火鉢	
663 664	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0	2.0	107872	ホワイト	直	663/2	663/3	ホワイト	火鉢	
665 666	金 金	C	X167146	直	直	直	直	直	26.0</									

第9表 江戸遺跡 木製品一覧(1)

特回 番号	遺物 番号	通標番号	出 標	種 類	法 量(cm)			材 質	備 考
					長さ	幅	厚さ		
75	601	46	SE102	下板(本体)	22.3	7.8	4.3	ホゾノキ	
				下板(裏)	12.5	15.7	1.6	ホゾノキ	
	602	46	SE102	下板(本体)	24.0	9.0	1.8	ホゾノキ	
	603	SK18		下板(底)	4.0~5.0	12.0~13.0	3.0~4.0		
	604	SE102		下板の面	10.6	7.4	1.2		
	605	SE102		下板の縫	10.4	7.5	1.5		
	606	SE102		加工棒	31.7	0.8	0.4		
	607	SE102		加工棒	18.7	2.1	1.5		
	608	SE102		栓	6.0	2.9	1.9		
	609	SH102		船底板	(14.6)	(2.0)	1.3		
76	610	46	SE102	漆器板状	7.0	10.7	1.0	ヒノキ科	黒色漆
	611	SD28	X64Y78	箸	(7.6)	0.6	0.4		赤色漆
	612	SE102		漆器脚部	(5.2)	1.9	0.5		黒色漆
	613	SD27	X65Y90	漆器底		5.7	(4.4)	トチノキ	外腹黒色漆,内腹赤色漆
	614	47	SE102	漆器底		5.8	(3.7)	トチノキ	外腹黒色漆,内腹付着物
	615	46	SE102	柄	92.4	67.0	1.0		
	616	47	SE102	漆蓋(本体)	14.7	14.0	1.2	スギ	
				漆蓋(後)	5.4	2.6	2.0	スギ	
	617	47	SE102	漆蓋	(18.0)	17.2	1.3	スギ	「人」の幾字印
77	618	SK116	X71Y76	他底板	(13.0)	(12.6)	0.7		
	619	SE102		板	34.5	1.8	1.5		
	620	47	SE102	板	(42.4)	63.2	2.3	ヒノキ科	
	621	SD2	X66Y72	木筋	24.2	2.0	0.8		
	622	SD2	X66Y72	木筋	24.2	7.0	0.8		
	623	SD2	X65Y72	側倒板	31.7	5.6	0.7		
78	624	47	SK142	堆	(52.0)	65.2	1.5	スギ	
	625	49	SP128	柱	59.6	14.2	12.8	クリ	
	626	SP56		柱	26.1	6.0	5.1		
	627	SP14	X66Y83	柱	30.6	12.6	11.4	コナラ	
	628	49	SP91	X71Y80	柱	33.4	15.6	17.2	クリ
79	629	SP51	X72Y80	柱	(54.4)	(14.2)		クリ	
	630	SK10		柱	35.0	10.3	10.3	シラジ	
	631	SP29		柱	42.9	13.0	11.4	クリ	
	632	46	SE21	木臼	32.0	51.0	1.0	アツ	下口
	633	46	SE21	木臼	37.0	53.5	1.0	アツ	上口
80	634	SE21		木臼	37.2	47.0	5.5	アツ	上口
	635	SK235		漆器端	11.8		(4.4)		外腹黒色漆,外腹文様赤色漆
	636	SD218		漆器端		5.6	(4.2)		外腹黒色漆,内腹赤色漆,外腹文様赤色漆
	637	50	SD218	漆器端		3.1	(4.0)	アツ	外腹黒色漆,内腹赤色漆
	638	SK385	X78Y112	漆器端		6.8	(6.0)		内外黒色漆,内腹赤色漆
	639	SK281		漆器端			(0.9)		外腹黒色漆,内腹赤色漆
	640	50	SD218	漆器端			(2.4)	アツ	外腹黒色漆,内腹赤色漆,外腹文様金色漆
	641	50	SD218	漆器端	6.4		(2.4)	ケヤキ	外腹黒色漆
	642	51	SK235	鳥状芯	10.8	16.0	エゴノキ		
	643	SK281		栓	4.9	2.7			
81	644	SD223		栓	4.8	3.0			
	645	51	SD223	木札	16.3	1.9	0.9	スギ	墨書
	646	SK236		ヘラ状用具	12.1	2.5	0.9		
	647	B2	X92Y117	仙人板状	(12.0)	(3.3)	0.7		外面赤色漆,内腹黑色漆
	648	49	SK251	靴	32.3	6.5	1.0	アツ	
	649	B1	X67Y102	鹿物場	(6.1)	5.2	0.4		側板
	650	SD517		向物底板	(6.7)	(3.4)	0.4		
	651	SP426		曲管底板	9.4	(4.0)	0.5		
	652	SD218		曲管底板		7.7	0.5		
	653	SD218		下版		(17.4)	8.5	3.0	
82	654	49	SK251	下版	22.0	7.5	2.0	ホゾノキ	
	655	52	SK561	下版	23.8	(6.9)	1.9	スギ	
	656	SK235		部材	28.5	5.4	0.7		
	657	SK235		部材	24.1	6.8	0.9		
	658	SK235		部材	21.1	2.8	0.1		
	659	SK235		部材	24.6	7.9	1.2		
	660	SN233		部材	20.4	8.5	1.5		
	661	SK235		部材	23.2	3.4	1.5		
	662	50	SK235	加工板	24.5	7.6	1.2	ヒノキ科	
	663	SK457		加工板	19.1	4.3	2.0		
83	664	SD218		薄板	12.8	6.0	0.9		
	665	SK235		部材	(16.3)	6.8	1.0		

第9表 江戸遺跡 木製品一覧(2)

件番 番号	遺物 番号	遺物番号	種類	種類	法身(cm)			材質	備考
					長さ	幅	厚さ		
83	666	SD291	木材	木材	17.0	14.9	1.4		
	667	SK205	木材	木材	38.1	3.6	1.3		
	668	B1 X04Y116	木材	木材	15.5	3.5	0.7		
	669	SK225	加工板	木材	23.8	2.6	0.6		
	670 48	SK235	柱	柱	24.5	5.0	4.8	スギ	
	671	SK236	柱	柱	(47.6)	16.0		モクセイ科	
	672	SK261	杭	杭	44.7	5.2	4.3		
	673	SB456	杭	杭	(81.2)	12.6			
84	674	SD223	曲物底板	曲物底板	(14.0)	(7.1)	1.1		
	675	B1 X06Y116	曲物底板	曲物底板	(13.5)	(3.7)	0.5		
	676	SK251	曲物底板	曲物底板	17.9	(4.6)	1.0		
	677 49	B1 X06Y91	舟板	舟板	19.5	(6.9)	0.5	ヒノキ	
	678 50	SK269	舟底板	舟底板	78.0	72.9	2.7		
	679	SK215	舟底板	舟底板		75.0	3.0		
	680 51	SE456	木口	木口	34.8	54.6	9.6	ブナ	トロ
85	681	SP390	柱	柱	(57.6)	(19.8)		ヤマウルシ?	
	682 48	SP287	柱	柱	32.1	12.2	10.5	タリ	
	683	SK414	柱	柱	35.1	11.9	11.9		
	684	SP428	柱	柱	(42.0)	(13.0)		タリ	
	685	SP337	柱	柱	46.8	10.6	9.8		
86	686	SP236	柱	柱	20.1	8.3	7.6		
	687	SK413	柱	柱	21.5	12.1	9.3	広葉樹根孔材(フジキ?)	
	688	SP301	柱	柱	(33.6)	(11.5)			
	689	SP244	柱	柱	82.0	16.2			
87	690	B1	柱	柱	(66.4)	22.0			
	691	SI415	柱	柱	28.1	7.3	7.9		
	693 46	SP120	柱	柱	37.0	13.7	11.3	コナラ筋	
	694	SP427	柱	柱	(37.0)	12.2		タリ	
88	695	SP105	柱	柱	33.8	12.5	8.0	タリ	
	696	SP362	柱	柱	(28.2)	13.7		タリ	
	697	SX460	柱	柱	39.2	9.0	9.0		
	698 51	SK453	柱	柱	(60.0)	18.6		コナラ筋	
89	699	SD112 X115Y134	漆器底	漆器底		5.6	(6.0)	ブナ	内外面文様赤色漆,高台内黒色漆
	700	X06Y116	漆器底	漆器底		7.0	(3.2)	ブナ	内外面黒色漆,文様赤色漆
	701	SD604 X114Y150	漆器底	漆器底		6.0	(1.6)	ブナ	内外面黒色漆
	702	C X108Y136	漆器底	漆器底		8.2	(2.5)	ブナ	外側黒色漆,内面赤色漆
	703 52	C X111Y127	漆器しきじ	漆器しきじ	20.1	6.6	0.6	ホオノキ	身円曲赤色漆,他黒色漆
	704	C X116Y149	底板	底板	(21.4)	(5.6)	1.9		
	705	C X115Y137	下駄(本体)	下駄(本体)	17.5	9.0	1.1		
			下駄(底)	下駄(底)		9.0	3.4		
	706	C X116Y138	下駄	下駄	20.8	(4.8)	1.3	スギ	
	707	SD604 X113Y135	加工材	加工材	17.6	1.3	1.0		
	708	SD605	木材	木材	47.8	7.4	2.4		
	709 52	SD605	加工材	加工材	101.0	1.1		スギ	
90	710 52	C X108Y149	防蟲草状	防蟲草状		4.6	1.6	ヒノキ	
	711	C X112Y136	底板	底板	(8.0)	(3.6)	0.4		
	712 52	SD604 X113Y150	木材	木材	16.4	8.3	4.1	スギ	
	713 52	C X108Y143	桿状	桿状	8.4	2.5	1.0	スギ	
	714 52	C X108Y128	陳	陳	(32.1)	(9.7)	1.0	コナラ筋	
	715	C X06Y133-134	杭	杭	(55.2)	7.6			
	716	C X06Y133-134	杭	杭	43.5	4.9			
	717	C X06Y133-134	杭	杭	42.4	8.0			

第10表 江尻遺跡 金属製品一覧

辨認番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	法量(cm・g)				特記事項
						長さ	幅	厚さ	重さ	
91	801	SD471	X78Y118	剣		9.4	1.6	1.2	13.06	
	802	A	X63Y85	鉤		7.5	1.6	1.4	23.66	
	803	B2	X89Y119	鍔		7.3	1.6	0.6	18.50	
	804	SD298	X78Y117	鏡		9.1	1.3	1.1	13.17	
	805	A	X60Y77	鉤		10.2	1.3	1.4	22.90	
	806	SK281		鉤		9.5	3.5	2.3	29.11	木質部残存
	807	SD1		鉤		8.8	0.7	0.8	25.51	
	808	SD66		劍		13.8		1.4	72.70	
	809	A	X71Y81	鍔		16.1	0.7	0.6	32.64	
	810	SD604	X113Y131	劍茎		1.3			13.23	
	811	A	X45Y80	鍔管		4.5	1.1	1.1	9.06	
	812	C	X120Y147	鍔底		10.5	2.3	2.3	77.24	
	813	A		鍔状		9.9	1.7	1.7	128.54	
	814	SK254		鏡形薄		10.7	9.6	5.0	670.00	

第11表 江尻遺跡 石製品一覧

辨認番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	法量(cm・g)				材質	特記事項
						長さ	幅	厚さ	重さ		
96	10	SD43	X65Y86	打製石斧	(10.3)	7.4	3.0	276.76	凝灰岩		
	11	SD131	X64Y31	打製石斧	13.4	7.6	3.0	386.54	凝灰岩		
	12	SD131	X67Y112	打製石斧	(11.7)	9.7	3.5	430.00	砂岩		
	13	SD131		打製石斧	14.0	6.8	1.4	200.00	砂岩		
	14	SD131	X62Y119	打製石斧	11.5	11.0	2.7	385.00	凝灰岩		
91	901	A	X36Y71	硯	(5.6)	(2.6)	1.2	26.66	凝灰質泥岩		
	902	B1	X75Y102	硯	(3.6)	(4.0)	1.2	130.00	凝灰岩		
	903	SD28	X67Y77	硯	(11.1)	5.3	1.9	144.47	凝灰質泥岩		
	904	A	X65Y75	硯	(12.3)	(6.1)	1.8	172.71	粘板岩		
	905	B1	X64Y99	硯	(8.6)	6.3	0.8	600.00	粘板岩		
	906	SD298	X78Y119	砾石	(7.0)	4.1	2.6	1270.00	凝灰岩		
	907	SK235		砾石	(5.1)	3.8	(2.9)	95.00	凝灰岩		
	908	SK224	X78Y95	砾石	(9.0)	4.6	3.1	150.00	凝灰岩		
	909	SD10	X65Y76	砾石	(6.7)	4.9	1.2	77.16	凝灰岩		
	910	C	X100Y133	砾石	(7.3)	3.1	2.8	105.00	凝灰岩		
92	911	53	SE30	X62Y87	石臼	31.6	32.0	11.6	7250.00	凝灰岩	
	912		SE301		石臼	15.0	14.3	4.0	1180.00		
	913		SK281		石臼	10.6	29.6	10.7	2500.00	凝灰角砾岩	
	914		X72Y98	石臼	10.8	15.0	6.9	1000.00	凝灰岩		
	915	53	C	X69Y152	砾石	13.2	10.4	6.5	1095.00	凝灰質砂岩	
	916	53	SD43	X66Y87	研状	13.5	8.5	6.2	304.65	凝灰岩	
	917		X75Y115	石斧	(18.0)	(10.2)	4.0	1300.00	丁枚岩		
	918		SE102		加工石	11.0	10.6	11.6	1385.00	凝灰岩	
	919		SK281		加工石	14.9	8.5	10.3	1300.00	凝灰岩	
	920		SK281		加工石	(20.8)	12.0	5.9	1600.00	凝灰質砂岩	
	921		SK258		加工石	16.2	11.4	3.4	700.00	凝灰	
	922		A	X60Y85	加工石	18.9	8.2	5.0	732.00	砂質凝灰岩	